

ネパール国
地方行政強化を通じた流域管理向上
プロジェクト
終了時評価報告書

平成28年4月
(2016年)

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)

ネパ事
J R
16-001

ネパール国
地方行政強化を通じた流域管理向上
プロジェクト
終了時評価報告書

平成28年4月
(2016年)

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)

序 文

ネパールの森林・土壌保全分野に日本が本格的な支援を開始したのは、1991 年が始まりでした。ネパールでは長年、住民による森林の共同管理が行われてきましたが、1950 年代から森林が国有化されたことによって伝統的な体制が崩れ、ネパールの森林の荒廃が大きく進みました。1990 年代に入り、再度政策の見直しが行われ、森林の管理権は住民の手に戻りましたが、既に失われた資源管理の体制を再生させるにあたっては、政府と住民による取り組みが必要となりました。

ネパール政府からの要請を受けて、JICA は 1991 年よりネパールの森林分野に対する支援を開始しましたが、ニーズ調査を進めるうちに判明したことは、狭義の森林保全は住民の関心を得ることができず、広い村落開発の中に自然資源の保全を位置づける必要があるということでした。そして、村落開発・村落資源の保全が、長期的には森林の育成に必要な環境の創出につながる、というストーリーが見えてきたのです。

そこで、1994 年以降、JICA は自然資源の保全に資する村落開発モデルの形成にネパール政府と共に取り組んできました。2009 年に開始した本プロジェクト「地方行政強化を通じた流域管理向上プロジェクト」では、PDCA サイクルに基づく公平かつ透明性の高い村落開発モデルの定着に対象 8 郡で取り組むとともに、自然資源を糧に生活しながら、公の協議の場から遠い存在にあった女性たちのグループを各集落で形成し、彼女たちが経済的に強化される機会を設けることによって、女性たちの地域社会における活性化を促しました。

2014 年 4 月、プロジェクト終了を 3 カ月後に控え、JICA はプロジェクトの成果と目標達成度を確認するために終了時評価調査を実施しました。本報告書は、同調査の結果をとりまとめたものであり、終了後の更なる成果発現に向けた提言を含むものでもあります。

ここに、本調査にご協力を頂いた内外関係者の方々に謝意を表します。

平成 28 年 4 月 7 日

独立行政法人国際協力機構
ネパール事務所 佐久間 潤

目 次

目次	
地図（プロジェクト位置図）	
写真	
略語表	
要約表（和文・英文）	
第1章 終了時評価の概要.....	1
1-1 協力の背景.....	1
1-2 プロジェクトの概要.....	1
1-3 調査団構成.....	4
1-3-1 日本側合同評価メンバー.....	4
1-3-2 ネパール側合同評価メンバー.....	4
1-4 調査日程.....	5
1-5 主要面会者.....	7
1-6 評価上の留意点.....	7
第2章 終了時評価の方法.....	10
2-1 評価手順.....	10
2-1-1 資料レビュー、評価グリッドの作成.....	10
2-1-2 プロジェクト関係者との面談、インタビュー.....	11
2-1-3 合同調整委員会への報告.....	11
2-2 評価5項目.....	11
第3章 プロジェクトの実績.....	13
3-1 投入実績.....	13
3-1-1 日本側.....	13
3-1-2 ネパール側.....	14
3-2 活動の達成状況.....	14
3-3 アウトプットの達成状況.....	19
3-4 プロジェクト目標の達成状況.....	23
3-5 上位目標の達成状況.....	23
3-6-1 プロジェクトのモニタリングシステム.....	24
3-6-2 PDM の改訂.....	26
3-6-3 プロジェクトのアプローチ/技術移転.....	26
第4章 評価結果（5項目ごとのレビュー結果）.....	27

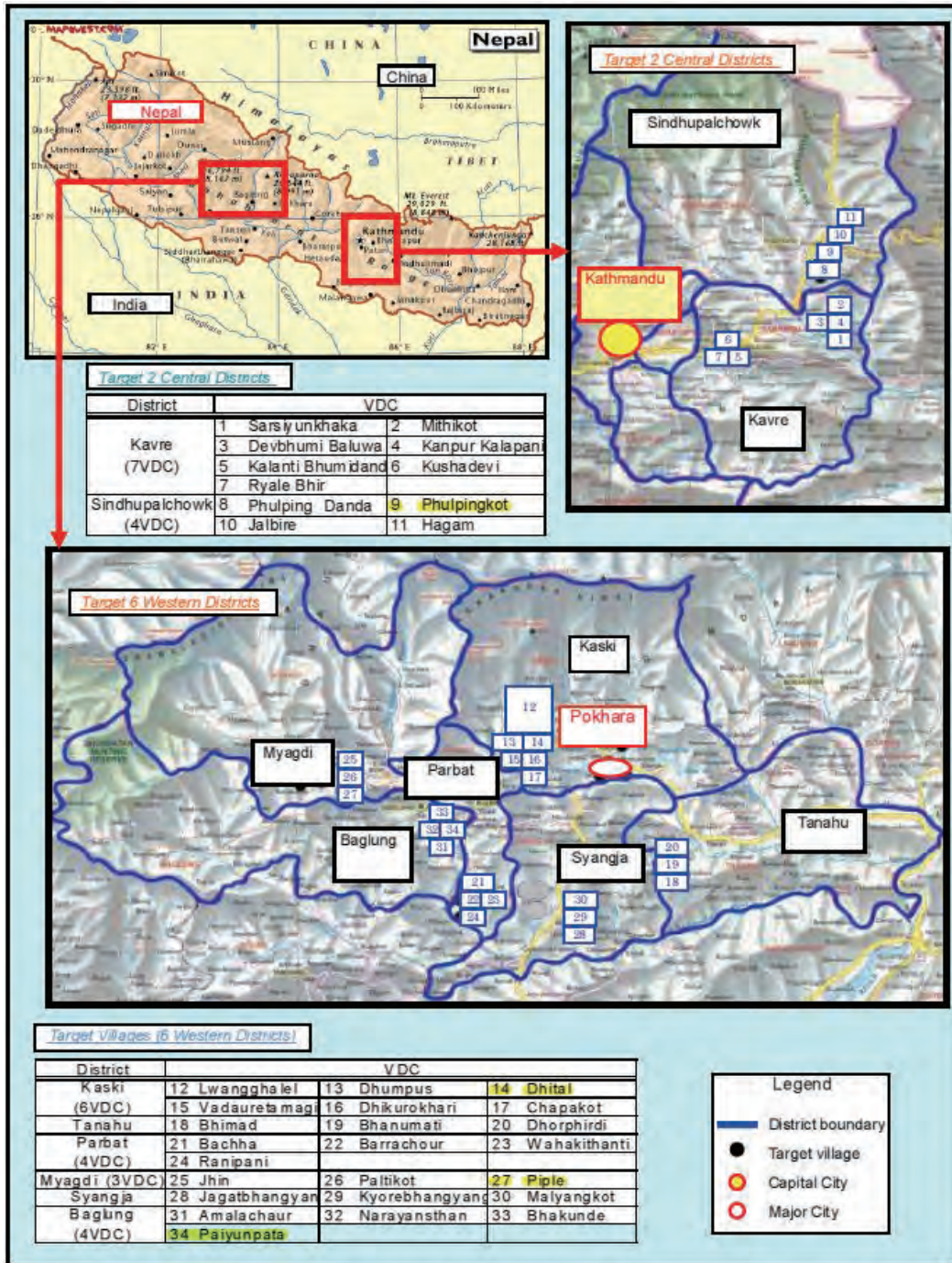
4-1	妥当性	27
4-2	有効性	36
4-3	効率性	42
4-4	インパクト	43
4-5	持続性	47
4-6	結論	49
第5章	提言と教訓	50
5-1	提言	50
5-2	教訓	51

付属資料

1. 面談者リスト
2. 中間レビュー提言事項
3. 終了時評価グリッド（和・英）
4. ミニッツ（M/M）〔合同評価調査報告書（英文）を含む〕
5. プロジェクト内部レビュー報告書

地図（プロジェクト位置図）

- 1) DDC (District Development Committee : 郡) : 全 8 カ所 (カブレ郡、シンドウパルチョーク郡、カスキ郡、タナフ郡、パルバット郡、ミヤグディ郡、シャンジャ郡、バグルン郡)
- 2) VDC (Village Development Committee : 村落開発委員会) : 全 34 カ所
- 3) WCC (Ward Coordination Committee : 集落調整委員会) : 全 306 カ所



※終了時評価で訪問したのはハイライトされた4VDC及びネパール政府による複製サイトであるカスキ郡のKahumVDC

写 真



カスキ郡土壤保全事務所 (DSCO) オフィス
(DSCO、DSCO 技術者、モチベーター)



カスキ郡開発委員会 (DDC)
地方開発官 (LDO) 面談



集落調整委員会 (WCC) からのヒアリング
(カスキ郡 Dhital 村落開発委員会 (VDC))



POWER Group からのヒアリング
(カスキ郡 Dhital VDC)



水源整備サブ・プロジェクト
(カスキ郡 Dhital VDC)



複製 VDC における水路整備サブ・プロジェクト
(バグルン郡 Kahun VDC)

略 語 表

略語	英文	和文
AAP	Annual Action Plan	年間活動計画
CBRMP	Community Based Resource Management Prospect	コミュニティベース資源管理展望(長期計画案)
C/P	Counterpart Personnel	カウンターパート
CRMP	Community Resource Management Plan	地域資源管理計画
DADO	District Agriculture Development Office/Officer	郡農業開発事務所・農業開発官
DDC	District Development Committee	郡開発委員会
DSCO	District Soil Conservation Office/Officer	郡土壌保全事務所/土壌保全官
DSCO-tech	DSCO technical officer	DSCO 技術者
DSCWM	Department of Soil Conservation and Watershed Management	土壌保全・流域管理局
DWC	District Working Committee	郡作業委員会
ESWG	Exit Strategy Working Group	出口戦略ワーキンググループ
GIS	Geographic Information System	地理情報システム
GoJ	The Government of Japan	日本国政府
GoN	Government of Nepal	ネパール政府
IGA	Income Generation Activity	収入向上活動
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人 国際協力機構
JOCV	Japan Overseas Cooperation Volunteers	青年海外協力隊
JPY	Japanese Yen	日本円
LDO	Local Development Officer	地方開発官
LGCDP	Local Governance and Community Development Programme	地方行政・コミュニティ開発プログラム
LSGA	Local Self Governance Act, 1999	1999年地方自治法
LSGR	Local Self Governance Regulations, 1999	1999年地方自治細則
MoFALD	Ministry of Federal Affairs and Local Development	連邦・地方開発省
MoFSC	Ministry of Forests and Soil Conservation	森林土壌保全省
M/M	Minutes of Meeting	協議議事録
NGO	Non Governmental Organizations	非政府組織

Nrs.	Nepali Rupees	ネパール・ルピー（現地通貨の単位）
ODA	Official Development Assistance	政府開発援助
OG	Operational Guideline	運用ガイドライン
OJT	On the Job Training	実地訓練/オン・ザ・ジョブ・トレーニング
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PO	Plan of Operations	活動実施計画
POWER	Poor people, Occupational caste and Women's Empowerment for Resource management	貧困、職業カースト、女性の資源管理向上（女性や社会的弱者などをターゲットとしたグループ活動の略称、POWER グループ）
PWMLGP	Participatory Watershed Management and Local Governance Project	地方行政強化を通じた流域管理向上プロジェクト
R/D	Record of Discussion	討議議事録
RECOFTC	Center for People and Forests (Previously Regional Community Forestry Training Center for Asia)	人々と森林センター
SABIHAA	Samudaayik Bikaas tathaa Hariyaalii Aayojanaa	サビハ（ネパール語で村落振興・森林保全を意味する。サビハ・モデルと呼称）
SCWMP	Soil Conservation and Watershed Management Program	土壌保全流域管理プログラム
SI	Social Inclusion	社会的包摂
SP	Sub-project	サブ・プロジェクト
UG	Users' Group	利用者グループ
VDC	Village Development Committee	村落開発委員会
Ward		区（ワード）（最小地方自単位）
WCC	Ward Coordination Committee	区（ワード）調整委員会
WCF	Ward Citizen Forum	区（ワード）住民フォーラム
WCO	Women and Children Office/Officer	女性・子供開発事務所/女性・子供開発官

*その他：植栽による土壌保全工法（ネパール英語では **Bio-engineering** と表現される）

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：ネパール連邦民主共和国	案件名：地方行政強化を通じた流域管理向上プロジェクト
分野：自然環境保全－持続的自然資源利用、ガバナンス	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：ネパール事務所	協力金額（評価時点）：約 5.4 億円
協力期間 2009 年 8 月～2014 年 7 月 (5 年間)	先方関係機関：森林土壌保全省 (MoFSC)、土壌保全流域管理局 (DSCWM)、連邦・地方開発省 (MoFALD)、対象 8 郡土壌保全事務所 (DSCO)
	日本側協力機関：なし
<p>1-1 協力の背景と概要</p> <p>ネパール連邦民主共和国（以下、「ネパール」と記す）の人口の約半数が居住する丘陵地帯では、急峻な地形による農地の土壌流出や斜面崩壊による生産性の低下、インフラの未整備から、住民の多くは貧困層であるとされる。貧困を背景にした森林の無計画な伐採も土壌流出の原因となっており、住民の生計向上と緑化、森林保全を含む土壌保全・流域管理の取り組みは、貧困対策、社会的弱者対策の面からも今後一層推進する必要性が高い。</p> <p>このような背景から、独立行政法人国際協力機構（JICA）は 1994 年から 2005 年にかけて「村落振興・森林保全計画プロジェクト」（フェーズ 1、2）を実施し、プロジェクト実施機関の郡土壌保全事務所（DSCO）の事業実施管理能力の強化とともに、区（ワード、Ward）レベルにおける住民参加型自然資源管理モデル（ネパール語で村落振興・森林保全を意味する Samudayik Bikas Tatha Hariyali Ayojana：SABIHAA、以下「サビハ・モデル」と呼称）をプロジェクト実施機関における標準的なアプローチとして定着させるに至った。しかしながら、プロジェクト終了後も DSCO が普及・展開事業を実施しているものの、事後モニタリングの結果、村レベルの行政単位を越えるような広域の流域を単位とした事業計画が実施されない、また、DSCO の対応可能な範囲を超えた多様な村落開発ニーズ（歩道・車道の開設・修繕、学校の修繕、識字学級の開催等）に応えられていない等の新たな課題が明らかにされた。</p> <p>このことから、ネパール森林土壌保全省土壌保全・流域管理局（DSCWM）は、地方自治強化の流れを念頭に置きつつ、住民参加型の流域管理事業の実施体制の向上と改善された事業実施体制の下で事業を実施していくプロセスを通じ、村落開発委員会（VDC）及び郡開発委員会（DDC）等の地方行政機関との相互協力・連携を視野に入れた広域流域管理と総合的村落開発を実現することを重視し、ネパール政府から我が国政府に対し技術協力の要請がなされた。</p> <p>これを受け JICA は、DSCWM をカウンターパート（C/P）機関として、「地方行政強化を通じた流域管理向上プロジェクト」（以下、「本プロジェクト」と記す）を 2009 年 8 月から 2014 年 7 月までの 5 年間の予定で実施している。現在、6 名の長期専門家（総括/流域管理、副総括/住民参加、地方行政/複製活動支援、組織強化 A、組織強化 B、及び POWER グループ主流化）</p>	

を派遣中である。

本プロジェクトを通じ、ネパールにおける地方分権化の流れの中で、「サビハ・モデル」の実践・普及を通じて、住民組織、VDC 及び DDC 等の地方開発行政ライン及び DSCO、DSCWM のセクター省庁行政ライン間の調整を図り、これにより、地方行政ラインの強化と財源の活用を促進しつつ、中長期的にみて必要性が高い流域管理事業の計画・実施能力の向上を目指している。

今回実施する終了時評価調査は、2014 年 7 月のプロジェクト終了を控え、プロジェクト活動の実績・成果等の評価・確認するとともに、今後のプロジェクト活動に対する提言及び今後の類似事業の実施にあたっての教訓を導くことを目的とする。

1-2 協力内容

(1) 上位目標：MoFSC と MoFALD のイニシアティブにより、プロジェクト対象以外の郡において DSCO と DDC/VDC の協調による参加型流域管理事業が実施される。

(2) プロジェクト目標：プロジェクト対象郡において、DDC/VDC と DSCO との協調による参加型流域管理事業が実施される。

(3) 成果

1. 対象地域の DSCO 職員の参加型流域管理に関する能力が向上する。
2. 対象郡の住民の参加型流域管理と地方行政に関する能力が強化される。
3. 参加型流域管理における地方行政のコンセプトが理解される。
4. サビハ・モデルの内在化が促進される。

(4) 投入

1) 日本国側：

専門家派遣：シャトル型専門家派遣：6 分野のシャトル型専門家累計 7 名派遣。

機材供与：約 462 万円

ローカルコスト負担：約 3.8 億ネパール・ルピー（一般業務費、ローカルスタッフ備上費、工事費等）

研修員派遣（第三国研修）：58 名（その他、国際会議や JICA 研修で計 11 名参加）

2) ネパール側：

主な C/P 人材の配置：13 名（MoFSC 次官補：プロジェクトダイレクター、DSCWM 局長：プロジェクトマネジャー、MoFALD 課長 1 名、DSCWM 職員 2 名、対象 8 郡 DSCO 所長 8 名）

土地・施設提供（専門家、プロジェクトスタッフ事務所他）。なお DSCO 技術者は合計 39 名、モチベーターは合計 34 名（2 年次以降）配置。

プロジェクト運営費：約 2.65 億ネパール・ルピー（2009/2010 年度以降、プロジェクトの対象郡、並びに独自で展開している郡でのサビハ・モデル複製事業費、モチベーター雇用費、C/P の旅費、会議費、車両用燃料一部負担）

2. 評価調査団の概要			
調査者	担当分野	氏名	所属
(日本側)	団長/総括	藤井 智	JICA ネパール事務所次長
	評価企画	北松 祐香	JICA ネパール事務所所員
	評価・コーディネート	Mr.Nama Raj Adhikari	JICA ネパール事務所所員
	評価分析	松本 彰	A&M コンサルタント(有) 代表取締役

なお、ネパール側も、Mr. Chhabiraman Bhattarai (MoFALD 外国援助調整局 担当官) 並びに、Ms. Uma Paudel (MoFSC モニタリング局 副担当官) の計 2 名を配置。

調査期間	2014.4.3～2014.4.21	調査種類：終了時評価
------	--------------------	------------

本終了時評価調査は、プロジェクト終了直前となったことから、ネパール国側と合同で協力開始から現在までの実績、プロジェクト目標と成果の達成度をプロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) に基づき確認した。具体的には、以下の点を目的として実施した。

- ①技術協力の開始から終了(調査時点)までの実績確認(活動、投入)、実施プロセスの検証。
- ②プロジェクト目標と成果の達成状況、貢献要因・阻害要因の分析。
- ③上記を踏まえて、評価 5 項目(妥当性、有効性、効率性、インパクト及び持続性)の観点から総合的に評価。
- ④プロジェクト終了時までに行うべきこと、並びにプロジェクト終了後に上位目標達成に向け先方政府が行うべきことについて提言、並びに類似プロジェクトのための教訓抽出。

3. 評価結果の概要

3-1 成果の達成状況

成果 1 対象郡の DSCO 職員の参加型流域管理事業の実施能力が向上する。
<p>指標 1-1：参加型流域管理研修、ワークショップに参加した DSCO と DSCO 技術者の数。</p> <p>指標 1-2：研修に参加した 80% の DSCO 職員が改良した参加型流域管理に関し理解する。</p> <p>指標 1-3：306 (100%) の WCC で改良した参加型流域管理が行われる。</p>
<p>成果 1 達成レベル&状況：「達成された」</p> <p>これまでに、参加型流域管理研修、ワークショップは計 15 回開催し(第三国研修 1 回を含む)、同研修に参加したのは、DSCO 48 名と DSCO 技術者 256 名(同一人物のカウント含む)。対象 8 郡の職員数が平均で合計 5 名程度であるのに対し、異動等を踏まえても、対象郡の DSCO 及び DSCO 技術者に対する研修機会は十分に確保された。また研修のうち 6 つの研修において、プロジェクトは研修前後にテストを実施したところ、正答率が 45.7% から 76% に上昇した。このことから、プロジェクトは指標 1-2 で示した目標をほぼ達成したといえる。</p> <p>また 2010 年 11 月からサブ・プロジェクトを開始し、これまで 3 連続年が完了し、合計 612 のサブ・プロジェクトと POWER 活動が 306 すべての区(ワード)調整員会(WCC)によ</p>

り実施されている。したがって、指標 1-3 は既に達成された。
成果 2 対象地域住民の参加型土壌保全と地方行政に関わる能力が強化される。
指標 2-1 : 50%の WCC が参加型流域管理と地方行政の概念を理解する。 指標 2-2 : 75%の WCC が自らの組織能力を向上させる。 指標 2-3 : 少なくとも 1,500 件のサブ・プロジェクトが 3 年間で実施される (プロジェクト支援と VDC/DDC 協調を含む)。
成果 2 達成レベル&状況 : 「達成された」 指標 2-1 に関し、WCC による自己評価では、1) グループ管理、2) 地域資源管理、3) 調整と連携、4) 地方行政、5) 能力開発、の 5 つの指標が定められている (Spider-web 手法という住民自身が参加型評価するもの)。これまでの 3 年間の評価結果で、指標 2-1 の達成目標を 60 点 (上記 5 つの指標で取得できる最高点) 中、40 点以上を得た WCC の割合を以って判断することとした。その結果、全 WCC が 1 事業サイクルを終了した 1 年次末時点における自己評価では、306 WCC のうち 107 の WCC (35%) が 60 点満点中、40 点以上を獲得した。その後、2 年次時点では 251 の WCC (82%)、3 年次時点では 260 の WCC (85%) と年を追うごとに高くなっており、目標指標の 50%を大きく超えていることから、WCC が参加型流域管理と地方行政の概念を理解したと判断される。 1~3 年次の 306 WCC による自己評価結果で平均を見ると (1 年次と 3 年次を比較)、1) グループ管理 : 7.4 → 9.6 点、2) 地域資源管理 : 8.9 → 9.7 点、3) 調整と連携 : 5.1 → 7.3 点、4) 地方行政 : 8.4 → 9.9 点、5) 能力開発 : 7.4 → 9.2 点であった (各 12 点満点)。本調査では同 5 つの指標のうち、特に 1)、3)、5) を組織能力の向上に関するベースラインと捉えており、自己評価の結果、平均的な自己評価が (100%を最高として) 70%を大きく超えている。さらに、1 年次と 3 年次の結果を比べると、1)、3)、5) それぞれ、15~18%と向上しており、かなり評価が高くなっている。また、VDC 単位では、34 VDC のうち、32 VDC が過去 3 回の評価の中で自己評価スコアを向上させていることから、これらの条件を踏まえ、指標 2-2 は達成されたものと判断した。 指標 2-3 に関し、2010 年 11 月からサブ・プロジェクト事業が開始され、水源保全、灌漑施設改修、歩道整備、地滑り管理など、さまざまな事業支援が行われてきた。1 年次は 42 件、2 年次以降これまで各年 300 件近くのサブ・プロジェクト支援を実施した (4 年間で計 980 件)。一方、POWER 活動も 2 年次以降、ヤギ飼育をはじめ、ショウガ、ジャガイモの栽培など生計向上活動を毎年 300 件以上、支援が行われ、計 1,040 件が実施されており、総計 2,020 件のサブ・プロジェクト及び POWER 活動が実施されており、同指標は達成されている。
成果 3 地方行政ラインに基づき、参加型流域管理事業の実施体制 (VDC、DDC、WCC 等の連携) が強化される。
指標 3-1 : 75%の研修参加者が参加型流域管理における地方行政の概念を理解する。 指標 3-2 : 80%の WCC が公聴会を行う。 指標 3-3 : 少なくとも年 1 回は郡の作業委員会、ワークショップが開かれる。

成果 3 達成レベル&状況：「達成された」

「地方行政」に関する研修は、対象 8 郡の DSCO、モチベーター、VDC 事務長等向けに幾度も実施され、同研修で実施した事前・事後のテスト結果はどの研修も著しくスコアを上げている。また、上記 2-1 及び 2-2 での Spider-web 手法活用の自己評価中、4) 地方行政の指標でも、1 年次は 8.4 点（12 点満点に対する 70.0%）から、2 年次 9.5 点（同 79.2%）、3 年次 9.9 点（同 82.5%）とスコアが年々改善しており、少なくとも研修受講生並びに WCC メンバーの地方行政の概念の理解は深まっており、指標 3-1 は達成されている。

指標 3-2 に関し、すべての WCC が公聴会を既に実施しており、数値目標は達成した。また、プロジェクトでは全対象 8 郡に対し、毎年、郡作業委員会（DWC）開催を定期的に支援（2 年次以降）し、2 年次以降、プロジェクト活動に関する情報の共有のみならず、現場レベルの地方組織の情報をシェアし、将来に向けての具体的な連携に関する協議、調整の場とするため、年 2 回開催されており、指標 3-3 は達成した。

成果 4 サビハ・モデルの内在化が促進される。

指標 4-1：土壤保全・流域管理局が改訂版サビハ・モデル・運用ガイドライン（OG）を承認する。

指標 4-2：地方行政強化を通じた流域管理に向けたサビハ・モデルの組織化に関する合同文書が交わされる。

指標 4-3：DSCO 所長の 75%がサビハ・モデルのコンセプトを理解する。

成果 4 達成レベル&状況：「ほぼ達成された」

指標 4-1 に関し、8 郡の DSCO 所長からのコメントを基に、OG は既に改訂し、最終的に DSCWM に引き渡す計画（既に DSCWM 長官が Preface を書き、部内では承認されており、今後、印刷作業の後、関係者に配布予定）である。

指標 4-2 に関し、4 年次に、MoFSC/DSCWM と MoFALD の両者は WCC/POWER と区（ワード）住民委員会（WCF）/CAC（Citizens Awareness Center）が協働でさまざまな活動を行うべく連携を進めていくことで合同のメモランダムを作成し、両者で調印を行った（2012 年 12 月 26 日署名）。なお、この合意書の写しはサビハ活動を実施中の、プロジェクト対象外で複製活動を実施中の 3 郡を含む、11 郡の地方開発官（LDO）と DSCO に発出されている。

指標 4-3 に関し、サビハ・モデルの基本概念は何度も DSCO に対し、4、5 年次とさまざまな機会で行ってきている。また視聴覚 DVD として、広報ビデオ、OG、リソースブック、プロジェクト紹介ブックレット等をすべての DSCO に対して 2014 年 2 月の会合で配布した。さらに、今年 4 月下旬頃には、これまでサビハ・モデルに関連する活動従事者の経験がない、ないし研修受講歴のない DSCO 所長 30 名を主対象として、サビハ研修も実施予定（ネパール側の要望により、その他着任間もない DSCO をはじめ、参加者は更に増える計画）である。以上のことから、対象 8 郡において本プロジェクトに関与した DSCO 所長に加え（異動等により、計 24 名）、更に 30 名に対するサビハ研修が実施されたことから、全国 61 カ所に配置されている DSCO 所長のサビハ・モデルの理解は浸透しつつあると判断される。

3-2 プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標：プロジェクト対象 8 郡において、暫定地方自治体と DSCO の協働による参加型流域管理事業が実施される。

指標 1：地域資源管理計画で示されたサブ・プロジェクトのうち少なくとも 5%が地域組織や他機関との協調融資・連携で実施される。

指標 2：全 8 郡の DSCO と DDC により合同モニタリング評価が実施される。

達成レベル&状況：「達成見込み」

WCC は VDC あるいは他の関係機関からも予算獲得を模索し、3 連続年中、3 年次、4 年次では、各年 100 カ所以上の WCC（全体数の 30%以上）で財政支援を受け取っている（協調融資等の資金のみならず、研修や資材での支援も含む）。このように、既にサブ・プロジェクトが DDC/VDC の協調融資/連携により実施されており、プロジェクト目標の指標 1 は達成されたと判断した。

また指標 2 に関し、プロジェクトでは、DDC の会合等を利用し、対象 8 カ所すべての対象郡で合同モニタリング評価を DSCO と DDC により実施済みである。なお、サブ・プロジェクトの進捗や成果は「活動プロファイル」として集約され、記録として残されている。

3-3 上位目標の達成状況

上位目標：MoFSC と MoFALD のイニシアティブにより、プロジェクト対象以外の郡において暫定地方自治体と DSCO の協働による参加型流域管理事業が適用される。

指標：改良された参加型流域管理事業が土壌保全流域管理プログラムに適用される。

達成レベル&状況：

プロジェクトでは、OG の改訂版を用いて、DSCWM 内にサビハ・モデルを主流化させる戦略策定に着手しており、自分たちの手でサビハ・モデルを主体とした活動を継続のみならず、展開してきている。同改訂 OG が DSCWM によって最終的に承認され、またサビハ・モデル推進の予算が確保されることで、プロジェクトの上位目標が達成されることが期待できる。

なお、DSCWM はサビハ・モデルの実践に係り、本プロジェクトの対象 8 郡中、プロジェクトでカバーされていない地域、更にはプロジェクト対象地域外の郡にも予算を配分し、サビハ・モデル複製事業を実施している（DSCWM 独自の予算及び実施体制による）。

3-4 評価結果の要約

3-4-1 妥当性

本プロジェクトの開始以降、ネパール側の政策及び日本側の援助方針において、土壌保全・流域管理をはじめ、自然環境保全を包括するコミュニティ開発、並びにガバナンス（地方行政）にかかる支援政策、計画に大きな変更はなく、本プロジェクトの妥当性は維持されている。さらに受益者のニーズも高く、受益者のニーズに的確に応えるためにも、地方行政

強化にかかるネパール関係機関者の能力強化の重要性は高い。

3-4-2 有効性

本プロジェクトでは、4つの各成果（対象郡の DSCO 職員並びに対象地域住民の能力強化、参加型流域管理における地方行政の概念理解の浸透、サビハ・モデルの内在化の促進）が著しく高い結果を生み出している。こうした成果の達成により、プロジェクト目標である「プロジェクト対象郡において、DDC/VDC と DSCO との協調による参加型流域管理事業が実施される」は、プロジェクト終了時まで達成されると考えられ、有効性は高い。

3-4-3 効率性

本プロジェクトに対する日・ネパール側の投入は、ネパール側人材の異動の点を除けば、サビハ活動のための予算を含め計画通りに執行されるなど、その量、質、タイミング的にもおおむね適正である。すべての投入は実施に係り十分に活用され、これまでに投入された資源は、投入量に見合う成果を有していると思われる。

3-4-4 インパクト

(1) 上位目標への貢献

本プロジェクトの上位目標「MoFSC と、MoFALD のイニシアティブにより、プロジェクト対象以外の郡において、DSCO と DDC/VDC の協調による参加型流域管理事業が実施される」については、ネパール側が、サビハ・モデルの実践に係り、本プロジェクトの対象郡中、プロジェクトでカバーされていない郡、更らにはプロジェクト対象地域外の郡にも予算を配分し、サビハ・モデル複製事業を実施している。また同複製事業でも「運用ガイドライン」が活用されており、同改訂ガイドラインがネパール側によって最終的に承認され、またサビハ・モデル推進の予算がこれまで通り確保されることで、プロジェクトの上位目標が達成されることが期待できる。

(2) 波及効果

- ①地域住民のエンパワーメント
- ②サブ・プロジェクト実施を通しての地域住民の生計向上や雇用機会
- ③住民の生活の安全、安定化
- ④環境並びに土壌保全への貢献
- ⑤さまざまなグループや組織間の組織連携強化

3-4-5 自立発展性

(1) 財政・組織的持続性

①DSCWM/MoFSC

ネパール政府は、土壌保全流域管理にかかる政策及び戦略を策定し、全域でそのサービスが拡大し、内包化するよう推進してきている。こうした政策の下、2011年度以降、地域開発森林/流域保全プロジェクト（サビハ・モデル複製事業）の予算が計上され、事業が実施されており、今後も継続して予算配布が期待できる。

②その他の予算源

プロジェクトでは、WCCが自分たちで策定した中期計画及び年間計画案を基にVDCに働きかけ、事業実施への財政的支援を受けてきていることから、協調財政支援の可能性は今後も期待される。なお他の地方組織（郡農業開発事務所（DADO）、女性子供事務所（WCO）、NGO等）による協調融資・連携の事例も散見されており、こうした他の機関からの資金リソースは重要であり、引き続き継続、強化が期待される。

③MoFALDラインとの協調

中央レベルでもサビハ・モデルに対する理解は進んできてはいるものの、関係機関同士の情報共有や更なる連携が必要と評価調査団は判断した。地方レベルでは、郡によって、その認識、連携協調の度合いはまちまちである。プロジェクトの関係したWCCは、VDCや地方行政・コミュニティ開発プログラム（LGCDP）のソーシャル・モビライザーと連携を取り、協力がある程度進んできている。このような状況から、今後も引き続き、MoFALDラインとの継続、強化が期待される。

④サブ・プロジェクト事業やPOWER活動の財政面での持続性

一方、サブ・プロジェクト事業やPOWER活動の持続性については、あくまで地域住民あるいはグループの意思、継続的なモチベーションによるものであり、住民ないしグループがどう事業や活動を継続ないし維持発展するかにある。プロジェクトを通して、多々事業を達成し経験してきたことで主体性や自信が生まれており、何らかの形で住民ないしグループは自力で、あるいは引き続き関係者からの協力を得つつ、活動を継続していくことが期待される。一方、WCCやモチベーターの支援を現在のように受けられなくなることで、関心や協力が薄れ、なくなる可能性もあるので、引き続き、モニタリングをはじめ、留意が必要である。

なお、POWERグループの中には事業の継続発展のため、自分たちで融資スキームを作り、低い金利でメンバーに貸し出すなどの協同活動を開始している事例もあるなど、持続性の可能性の一端は伺える。

(2) 政策及び制度的持続性

現在、DSCWMは11の郡でサビハ・モデルを実施してきており（複製事業含む）、更に同モデルを活用し、他の地域でも拡大展開する意向を持っていることから、サビハ・モデルの浸透、波及が、より期待される。DSCWMは、サビハ・モデルを有効な流域管理を実現するための国家モデルと捉えており、同モデルは徐々に土壤保全・流域管理局内で内包化され、更なる拡大、発展が期待される。

(3) 技術的・人的資源の持続性

これまでの日本支援による長い協力を通じ、MoFSC職員をはじめ、DSCO長/職員/技術者、WCC/VDCメンバー、モチベーター、さらにPOWERグループなどの地域住民など関係者それぞれが、土壤保全・流域管理に関する技術や知識のみならず、調整・マネージメント能力を研修や現場でのOJTを通じて習得していると判断され、今後も関係者の能力は向上し、持続性が保たれるであろうと判断される。

3-5 効果発現に貢献した要因

本プロジェクトの効果発現に貢献した要因として、①DSCO所長/技術者、VDC/WCC代表、モチベーターの積極的な働き・役割、②事業実施プロセスの確立地域資源管理計画（CRMP）及び年間計画案策定/公聴会/WCC自己評価/サブ・プロジェクト事業プロファイル/運用ガイドライン等）が挙げられる。

3-6 問題点及び問題を惹起した要因

地方議員の不在や政治的混乱・不安定の悪影響があった。

3-7 結論

本終了時評価では、現地調査並びに関係者との協議及び5項目基準に拠る調査を実施した。その結果、PDMの各成果の達成が認められ、またプロジェクト目標についてもプロジェクト終了時までの達成が見込まれると判断された。加えて、評価5項目に関しても、いずれも高い評価が認められたことから、本プロジェクトは当初計画通り終了するものとする。

3-8 提言及び教訓

3-8-1 提言

(1) 中央から地方部の各行政レベルにおけるMoFSCとMoFALDの協働促進

MoFSCとMoFALDは、DDC（郡）、VDC（村）、Ward（区（ワード））の各レベルにおいて両省の協働体制が持続するよう尽力することが望ましい。協働体制の維持にあたっては、特に以下の点が保証されることが重要であるため、レター等によりこれらの点を関係機関に周知することが望ましい。

- ①VDC は、WCC と WCF¹の協働により作成された CRMP を VDC の計画策定に反映し、また VDC は CRMP で提示された住民ニーズに対し対応を行う。
- ②プロジェクト期間中に、DSCO は DDC と協力して VDC 事務所長、ソーシャル・モビライザー、モチベーターを対象とした引渡しにかかる会議を開催し、サビハ・モデル及び WCC・POWER グループに関する説明を行う。また同会議の内容としてこれまで蓄積された知見と活動内容の紹介を行い、本プロジェクト終了後（プロジェクトによるモチベーターが活動を終了するとともに、DSCO の活動対象地も遷移した後の状態）も、VDC による WCC・POWER グループへの支援及びモニタリングが続く仕組みづくりを目指す。
- ③DDC と DSCO は、郡レベルにおける情報共有体制を維持するため、本プロジェクトで構築された DWC を継続実施することを検討する。この情報共有体制を維持することにより、両機関の傘下にある VDC、WCF、WCC、ソーシャル・モビライザーの関係構築に資する。

(2) 区（ワード）レベルの組織間の協働体制の維持/構築

本プロジェクトでは、区（ワード）レベルの住民組織として WCC を構築した。一方、近年では MoFALD のドナー協調枠組みである「LGCDP（Local Governance and Community Development Program）」が設置した住民組織である WCF が区（ワード）の代表組織及び VDC への直接のつなぎ役として存在感を増してきた状況にある。WCF の能力については地域毎に大きな差があることや、WCF が 2007 年から不在となっている地方議員の代替機関として設置された過渡的な組織であることから、本プロジェクトの活動を区（ワード）で一手に引き受ける担い手としては適切ではない。よって、本プロジェクトが進めてきた、「各区（ワード）で WCC を設置し、彼らを直接の支援対象とするも、WCF とも協働体制を築き、CRMP の策定及び VDC への働きかけを共に行う」という選択肢は適切であったと思われる。今後の DSCO によるサビハ・モデルの複製においても、この WCC と WCF の協働体制は確保されることが望ましい。また、政府の方針では今年中に地方選挙が行われる可能性もあることから、DSCO は地方選挙後の地方行政の動向も注視し、その時々最適な協力体制（住民組織）の選択に努める必要がある。

(3) サビハ・モデルの MoFSC への内包化

本プロジェクトでは出口戦略（内包化）文書が策定されており、同文書は現在、MoFSC 大臣による最終承認段階にある。同出口戦略文書では、サビハ・モデルの今後の複製活動について「2014 年以降、平均で 3 郡ずつ複製し、2020 年までに 25 郡への複製を目指す」と記載されており、およその複製規模に関し省内の合意（予定）が見られる。一方、確実な複製活動を保証する観点からは、同記述より一步踏み込んだ複製計画の策定が望ましく、既に緩やかな合意が関係者間にあると言われている対象地、期間、予算額等の情報が文書でまとめら

¹ Ward Citizen Forum。MoFALD が主導してドナーと共に行う地方開発プログラム LGCDP(Local Governance and Community Development Program)により国内の全ての区（ワード）に設置された住民組織

れることが望ましい。

(4) サビハ・モデルの積極的広報

サビハ・モデルは長い協力の歴史により、ネパール側政府への浸透が進み、また継続的なサビハ・モデルの改善努力により事業そのものが非常に効果的・効率的に実施できる構造が構築されている。サビハ・モデルは、住民発意の流域保全活動のモデルとして強みを持つのみならず、本フェーズにおける行政ラインの巻き込みにより、流域保全に限らない、地方開発モデルとしての潜在的な可能性も持ち合わせているといえる。これらの点につき、現状では関係者以外にサビハ・モデルが持つ価値の広報が進んでいないことから、今後はより積極的に MoFSC 及び MoFALD から関係行政機関や他の開発パートナーに対し広報されることが望ましい。また、JICA ネパール事務所は、プロジェクト専門家の協力も得つつ、LGCDP に対しサビハ・モデルの広報を進め、地方開発手法に関するインプットを行うことが望ましい。

3-8-2 教訓

本評価の教訓として、主に本プロジェクトの功績に光を当てつつ、今後も JICA がこのような効果的な案件形成・実施を行うために参考・教訓となる「成功のポイント」を以下にまとめることとしたい。

(1) 徹底された「モデルの理念」の追求

本プロジェクトは、「サビハ・モデル」を構築・完成させ、またプロジェクト期間中にネパール政府によるモデルの複製を促進した点で、非常に大きな功績を残した。

本プロジェクトが対象とするテーマは「土壌保全・流域管理」であり、ともすれば村落レベルでの開発計画では後回しにされがちな分野である。しかし、このような分野であるからこそ、プロジェクト形成の段階から実施にいたるまで、いかに「住民の関心と主体性を引き出すか」という点が一貫して重視されている。この主体性とは、彼らが望むことを、彼らが適切と思うタイミングで、彼らの意志に沿って行うことで、初めて確保されるものである。ここに押し付けではなく、住民の主体性を重視した、揺るがないサビハ・モデルの理念がある。

理念の反映にあたり、本プロジェクトに特徴的だった点がいくつかある。一つは、プロジェクト専門家が黒子のように政府関係者や住民の側に立ち、彼らに対し決して大げさではない、さりげないサポートを提供したことである。これによって、ネパール側関係者は早い段階から、自身が主体となってプロジェクトを進めている感覚を得ることができ、またその中で成功体験を得ることができた。専門家とは、カリスマのように先頭でプロジェクトを引っ張ることもできるが、本プロジェクトでは、このように「黒子型」の支え方に徹したことが非常に功を奏した。

二つ目は、主体性を維持するために重要となる、プロジェクトの透明性の確保である。本

プロジェクトは、住民が策定した計画に基づきサブ・プロジェクトの資金が使用されるという点で既に透明性が高いが、それに加えて、各 WCC では、サブ・プロジェクト実施後に必ず公聴会を実施し、細かな資金用途の報告が行われた。また、WCC 要員の選定やモチベーターの採用にあたっては、ネパールに広く見られる政党の偏りが努めて排除され、WCC の協議の場においても、政治的主張や介入が一切禁止されたことにより、健全な事業実施に貢献した。

(2) 脱・セクター主義 —地域住民の多様なニーズに応えるには！—

開発機関が実施するプロジェクトとは、ほとんどの場合、対象のセクターが決まっていて、そのセクターに当てはまるものが支援対象とされる。よって、住民が「少しこれも関心があるのだけど・・・」と持ち寄る多様なニーズは、プロジェクトの対象外という理由で跳ね返されることが多い。住民側にしてみれば、すべてのニーズはそれぞれに連結しており、セクター毎に切り分けられても違和感が残るところである。そして、次第にプロジェクトの関心と住民の関心が噛みあわなくなり、プロジェクト実施の要である住民の主体性はどこかに消えてしまう。本プロジェクトは、過去に長い協力の歴史を持つが、今次フェーズにおいて大きな変化を経験した。それは、プロジェクトの担当省庁に、既存の MoFSC に加えて MoFALD が加わった点である。最上流の本省レベルでの連携がどれほど実現したかは心もとない面も残るが、少なくとも現場レベルにおいては、「WCC-VDC/DDC」ラインの連携が図られ、地域住民の多様な開発ニーズに応える「地方（コミュニティ）行政」の強化が行われた。具体的には、WCC が包括的な区（ワード）の資源計画である CRMP と、優先プロジェクトのリストを策定し、その中で MoFSC 関連のものはプロジェクトが支援、MoFSC 以外のは VDC に持っていく、というマルチセクター（包括的）な枠組みが現場で構築された。プロジェクトの組み方によっては、CRMP の対象テーマを土壌保全と流域管理に限ることもできたが、そうした場合にどれほどの住民が関心を示しただろうか。一見、マルチセクターになることで遠回りをしているように見えるプロジェクトの構造だが、結果的に本プロジェクトの WCC は、住民が日ごろのニーズを訴えていく場として、住民の意見を集約することに成功している。

(3) 高度なプロジェクトは絵に描いた餅へ・・・「手頃感」の重要性

本プロジェクトは、その内容が WCC、POWER グループ、DSCO 等あらゆるステークホルダーにとって、理解しやすく、手の届く範囲の内容であったことが特徴的である。もちろん、各サブ・プロジェクトに関しては住民のニーズに沿ったものであったからこそ協力が得られた面もあるが、何より、「手頃」であるという点が重要であった。「手頃」とは、WCC に託されたサブ・プロジェクトの予算規模がそれ程大きくなく、何とか自分たちのリソース（資材・労力他）を使い、また自分たちで実施、運営可能であったことを意味する。また、もう一つの特徴は、各サブ・プロジェクトの資金が 6 万 4 千ルピー（日本円でもほぼ同値）と、

高くはないが、無視するにはもったいないほどの絶妙な金額であった点である。サブ・プロジェクトを実施するには少ないので、WCCは自然とVDC等の関係機関に追加予算の申請を行い、これが結果的に「WCC-VDC/DDC」の関係構築につながった。すなわち、各WCCは、本プロジェクト終了後の持続性を担保するための特訓（VDCから予算を得るために、どう計画を作るか、どう交渉するか）に、プロジェクト開始早々から取り組んだのである。

(4) 技術系省庁の強みを生かす

協力対象のMoFSC、その中でもDSCWMは、ネパールの省庁の中で人数的にも、予算的にも比較的小規模な局である。加えて、DSCWMが扱う「土壌保全・流域管理」のテーマは、直接収入向上等のメリットにつながりにくいことから、上述の通り地域住民の関心を得られにくいテーマである。このような背景もあり、逆境を跳ね返すべく、DSCWMは日ごろから住民の声によく耳を傾けることをモットーとしており、フットワークが軽く、現場では理念的だけでなく技術的な助言も行える素質を備え、また政治色も薄いとの評価を住民から受けている。このような強みを既にもつDSCWM下のDSCO及びDSCO技術者らに対し、本プロジェクトでは更に社会的包摂等の概念を共有したことにより、調整能力、コミュニケーション技能の向上が図られ、彼らに技術+ α （社会的概念）の強みをもたらすことができた。サビハ・モデルの成功の裏には、この省庁的特徴・素質も影響していることに留意する必要がある。

Summary of Terminal Evaluation

I. Outline of the Project	
Country: Federal Democratic Republic of Nepal	Project title: Participatory Watershed Management and Local Governance Project (PWMLGP)
Issue/Sector : Nature Conservation (Sustainable Use of Natural Resources) /Local Governance	Cooperation Scheme: Technical Cooperation Project
Division in charge: JICA Nepal	Total cost (estimated at evaluation): Approximately 540 Million Yen
Period of Cooperation: From August, 2009 to July, 2014 (Five years)	Partner Country's Implementing Organization: Ministry of Forests and Soil Conservation (MoFSC), Department of Soil Conservation and Watershed Management (DSCWM), Ministry of Federal Affairs and Local Development (MoFALD), District Soil Conservation Office (DSCO) and District Development Committee (DDC) in the target areas
	Supporting Organization in Japan: Nil
1. Background of the Project	
<p>From 1994 to 2005, the Government of Nepal (GoN) and Japan International Cooperation Agency (JICA) jointly implemented a project “The Community Development and Forest/Watershed Conservation Project” -so called “SABIHAA (Samudayik Bikas Tatha Hariyali Ayojana)”. As an output of this project, “SABIHAA model”: a mechanism to mobilize local people to participate at all stages of watershed management practice which begins with planning and ends with evaluation of the activities was developed. Even after the termination of the project, the Department of Soil Conservation and Watershed Management (DSCWM) has been implementing replication of SABIHAA model on their own capacity expanding the coverage area from 2 districts to 8 districts.</p> <p>In 2007, GoN made an official request to the Japanese Government to support them in improving SABIHAA model so that they could scale up their watershed management activities. JICA has responded to this request and has launched Participatory Watershed Management and Local Governance Project (The Project or PWMLGP). The Record of Discussions (R/D) was signed among MoFSC, MoFALD and JICA in June 2009 for the duration of five years till July 2014. The Project is being implemented in 8 districts aiming at improved participatory watershed management having a better collaboration among local bodies within five years.</p>	

2. Project Overview

(1) Overall Goal

Improved participatory watershed management in better collaboration with DSCO and local bodies is applied in other districts by the initiative of MoFSC and MoFALD.

(2) Project Purpose

Improved participatory watershed management in better collaboration with DSCO and local bodies is implemented in the target districts.

(3) Outputs

- 1) Capacity of DSCOs on participatory watershed management in the targeted area is improved.
- 2) Capacity of community people in targeted Districts on participatory watershed management and local governance is enhanced.
- 3) Concept of local governance in participatory watershed management is promoted.
- 4) Internalization of SABIHAA model is promoted.

(4) Inputs

<Japanese side>

Long-term Japanese experts: 7 persons in 6 expertise [(Chief Advisor/Watershed Management(1), Local Governance/Replication Support(1), Social Mobilization/Co-chief(1), Institutional Development(3), In-depth Study(1), POWER Mainstream(1)]

Provision of equipment: Total amount spent was about 4.62 million JPY.

Local Cost Expenditure: 382.6 million Nrs.

Third Country Training: 58 persons, Training/Conference in Japan: 11 persons

<Nepalese side>

Counterpart: 5 persons in relevant Ministries,

DSCO counterparts; DSCO chiefs: 8 numbers in total, DSCO-techs: 39 numbers in total, Motivators: 34 (From second year) in total

Provision of Office Spaces and Facilities: Office space in Pokhara and Kathmandu, and basic expenses (such as electricity, water and telephone line) were provided.

Local Cost Expenditure; 265.6 million Nrs.

II. Terminal Evaluation Team		
Members of Evaluation Team	The Japanese Evaluation Team; 1) Mr. Satoshi FUJII (Team Leader), Senior Representative, Japan International Cooperation Agency (JICA) Nepal Office 2) Ms. Yuka KITAMATSU (Evaluation Analysis & Planning), Representative, JICA Nepal Office 3) Mr. Nama Raj ADHIKARI (Evaluation Analysis & Coordination), Senior Program Officer, JICA Nepal Office 4) Mr. Akira MATSUMOTO (Evaluation Analysis), President, A&M Consultant Co., Ltd.	
	The Nepalese Evaluation Team; 1) Mr. Chhabiraman Bhattarai, Section Officer, Foreign Aid Coordination Division, MoFALD 2) Ms. Uma Paudel, Assistant Forest Officer, M&E Division, MoFSC	
Period of Evaluation	From April 3, 2014 to April 21, 2014	Type of Evaluation: Terminal Evaluation
III. Results of Evaluation		
1. Achievement of the Project		
(1) Overall achievement and prospect for Outputs		
During the Project, all the activities have been implemented in accordance with project plan.		
1) Output 1: Capacity of DSCOs on participatory watershed management in the targeted area is improved.		
Indicators:		
1-1) Numbers of DSCOs and DSCO-techs participate in Participatory Watershed Management Training/ workshops		
1-2) 80% of targeted DSCO personnel participated in the training/workshops understand improved participatory watershed management.		
1-3) Improved participatory watershed management is practiced at 306 (100%) WCCs		
1-1/1-2) 48 DSCOs and 256 DSCO-techs participated in 14 trainings/workshops in Nepal and 1 training in a third country. As for a third country training, the Project dispatched 58 in numbers with DSCO, DSCO-techs and officer of MoFSC, DSCWM and MoFALD to Center for People and Forests (RECOFTC) in Thailand. The Project conducted pre and post tests for most of the training, and the results shows that average score of test conducted for 6 training increased from 45.7 % to 76.0 % which verifies that the Project has almost achieved is goal set in the indicator 1-2.		

1-3) 3 cycles of Sub-Project (SP) implementation have been completed within said duration.

2) Output 2: Capacity of community people in targeted districts on participatory watershed management and local governance is enhanced.

Indicators:

2-1) 50% of WCCs understand the concept of participatory watershed management and local governance.

2-2) 75% of WCC improve their institutional capacity

2-3) At least 1,500 sub-projects during 3 years (includes both project supports and VDC/DDC Collaboration)

2-1) The Project adopted spider-web tool for periodical Ward Coordination Committee (WCC) self-evaluation on status of institutional development. In the WCC self-evaluation, they are 5 categories for assessment: 1) Group Management, 2) Community Resources Management, 3) Coordination and Collaboration, 4) Local Governance, and 5) Capacity Development and Empowerment. This method is significant in terms of that community people themselves assess their own situation based on set criteria of these 5 categories. The results of self-evaluation for 3 years, by looking at the percentage of WCC which marked higher than 40 point out of 60 full points in 3 years, are the following.

In the 1st year, 34.9% out of 306 WCC marked higher than 40 points. In the 2nd year, 82.0 % and 84.9 % in the 3rd year marked higher than 40 points. Therefore, more than 50% of WCC understand the concept of participatory watershed management and local governance.

2-2) In order to verify their "improvement of institutional capacity", the score of 1), 3) and 5) are the appropriate categories to assess. Looking at the scores of these 3 categories, the average marked more than 70 %. In addition, those scores were improved some % if we compare the 1st year and the 3rd year. For example, the score of category 1) Group Management improved 18.3 %, likely 18.3 % improved in category 3), and 15.0 % improved in category 5).

2-3) 3 cycles of Sub-project (SP) implementation per WCC have been completed within said duration. In total, 2,020 SPs including POWER activities were implemented. In case of SP, there have implemented their prioritized activities such as water source protection, irrigation scheme, foot trail improvement and land slide control, etc.

Based on the number of actual activities, total numbers of SPs are 980, and the Income Generating Activities (IGAs) of POWER groups are 1,040. In case of POWER groups, there have implemented their IGAs such as goat raising, ginger farming and potato farming which are popular activities among women.

3) Output 3: Concept of local governance in participatory watershed management is promoted.

Indicators:

- 3-1) 75% of training participants understand concept of local governance in participatory watershed management.
- 3-2) 80% of WCC organize public auditing.
- 3-3) At least once a year District Working Committee (DWC) /workshop are held.

- 3-1) Local Governance was the subject taught in the training in which pre-test and post-test were conducted throughout project period. The result of these test improved in all the training. So it is confirmed the training participants improved their understanding including the concept of local governance. Like it used spider-web WCC self-evaluation results in 2-1) and 2-2) in Output 2, it can also utilize the score of category 4) Local Governance here too. In the 1st year, the average score was 8.4 that were 70%. The score improved to 9.5 (79.2 %) in the 2nd year and 9.9 (82.5 %) in the 3rd year. Therefore, Both training participants and WCC members have improved their understanding on general knowledge of local governance by training and experiencing 3 cycles of implementing SPs.
- 3-2) All WCCs (100%) have organized public auditing.
- 3-3) DWC have been organized every year, and increased twice a year since 3rd year for further promotion of coordination and collaboration.

4) Output 4: Internalization of SABIHAA model is promoted.

Indicators:

- 4-1) Revised Operational Guideline (OG) is officially approved by DSCWM.
- 4-2) Joint understanding memorandum on institutionalization of SABIHAA model for better watershed management and local governance is exchanged.
- 4-3) 75% of total DSCO Chiefs understand the concept of SABIHAA model.

- 4-1) The Project has revised OG by getting feedback from 8 DSCOs, and it handed over to DSCWM. Now the final OG is under approval process by DSCWM/MoFSC.
- 4-2) Understanding memorandum on institutionalization of SABIHAA model was exchanged in 4th year.
- 4-3) The basic concept of SABIHAA model was repeatedly provided to DSCOs in various occasions during the 4th and 5th year of the Project. DVD which contains project promotion video, OG, resource books, mid-term report is provided to all DSCOs in the regional meeting in February 2014. SABIHAA orientation will be provided to the remaining 30 DSCOs who have not worked in SABIHAA related project before or have not received any orientation training on SABIHAA model.

(2) Prospect to achieve the Project Purpose

Project Purpose: Improved participatory watershed management in better collaboration with DSCO and local bodies is implemented in the target districts.

Indicator

- 1) At least 5% of Community Resource Management Plan (CRMP) defined SPis co-funded / collaborated with local bodies or other institution.
- 2) Joint monitoring and evaluation is implemented by DSCO and DDC in all 8 districts.

- 1) WCCs have been trying to have budget from Village Development Committees (VDCs) and other related line agencies and more than 100 WCCs (more than 30%) have received financial support from VDCs until 4th year. Indicator for the Project Purpose is “at least 5 %” and it has been already achieved.
- 2) Joint monitoring and evaluation was implemented by DSCO and DDC in all 8 districts in the occasion of DWC etc.

(3) Prospect to achieve the Overall Goal

Overall Goal: Improved participatory watershed management in better collaboration with DSCO and local bodies is applied in other Districts by the initiative of MoFSC and MoFALD.

Indicator: Improved participatory watershed management is adopted in Soil Conservation and Watershed Management Programme.

The Project has been promoting DSWCM to adopt revised OG into Soil Conservation and Watershed Management Programme. As revised OG is to be approved, Overall Goal of the Project is expected to be achieved. Also, DSCWM has been disbursing budget to implement SABIHAA model in other districts.

2. Summary of Terminal Evaluation Results

(1) Relevance

The relevance of the Project was regarded very high when the Project was formulated, and continues to be high even at this terminal evaluation stage for the following reasons (relevance to the policies and the needs of target groups, and is consistence with the cooperation policy of the Japanese Government).

1) Relevance in terms of consistency with Nepalese policies and programs

The Project is consistent with the national policy and strategy of GoN as bellows.

First, under the national framework (Logframe Programme in MoFSC, 2007-2025), DSCWM has adopted the policies and strategies for Soil Conservation and Watershed Management (SCWM), such as operation of SCWM programs in line with integrated watershed management approach and

enhancement of capacity of technical manpower of DSCWM as well as community people by providing knowledge, skills, and technologies related to various aspects of SCWM through institutional development.

Second, MoFSC set the Project as first priority group (P1) and supports even SABIHAA model replication. In fact, SABIHAA model replication has been budgeted regularly in DSCWM since 2006.

Third, MoFALD has been implementing national programme called LGCDP to improve local government system for Social Inclusion (SI) and community development through DDC and VDC. Ward unit approach has been applied in the LGDCP. Also, participatory local planning which focus on transparency and accountability approach is essential to build in both LGCDP and the Project. In that sense, the Project is consistent with implementation structure of national programme.

2) Relevance to related organizations and target groups' needs

In general, community people are weak in making a community plan to identify and fulfill their needs, and in making consensus and starting discussion with local bodies, and in particular, marginalized people are vulnerable and own high risk. Within this situation, the Project seems to meet their needs and willingness. The SPs are implemented according to priority determined by community people themselves aiming at empowering them in their capacities and also self-reliance minds.

On the other hand, POWER created by the Project is recognized as SI since the 2nd phase of SABIHAA (1999 – 2004) which is subsequently applied by many Development Partners and GoN. Within the Project, POWER groups were given special consideration with women empowerment for gender balance in communities.

In additions, DSCWM and MoFALD are relevant to implement the Project as counterpart organization in order to empower community people and achieve soil conservation and watershed management.

3) Official Development Assistance (ODA) policies of the Government of Japan (GOJ)

“Country Assistance Policy for Nepal (January 2013)” prepared by Ministry of Foreign Affairs (MoFA) of the Japanese Government set areas on support for local governance (democracy process) as high priority in assistance program for Nepal that contributes to promoting the country’s social, equitable and economic development.

In the JICA Country Analytical Work (2012), public administration capacity building program is one of JICA cooperation programs in Nepal. This program also emphasizes poverty alleviation and rural development along with strengthening local administration to establish and disseminate participatory framework and models for SI and gender mainstreaming. The Project has been

formulated in line with the ODA policies of GOJ.

(2) Effectiveness

Effectiveness of the Project is high by the following factors. The result of assessment on project outputs indicates that the degree of realization of outputs is relatively high. Through the successful achievement of four (4) outputs of the Project, participatory watershed management has been remarkably implemented in the target districts in terms of co-funding/ collaboration at a VDC level. Therefore, the prospect of achieving the Project Purpose based on the levels of achievement of the defined indicators on the PDM is evaluated to be relatively high.

(3) Efficiency

The efficiency of the Project is evaluated as high. The inputs from the Japanese and Nepalese sides have been appropriate except assignment of counterpart personnel which had frequent staff changes. The input of the Project was appropriate in terms of quantity, quality, and timing at most levels. All inputs allocated have been fully utilized for project implementation. The Project is efficient in terms of input supply leading to good results.

(4) Impact

There are significant impacts emerged as follows:

1) Prospects of achieving the Overall Goal

Through the Project implementation, the Overall Goal of the Project will be accomplished, namely “Improved participatory watershed management in better collaboration with DSCO and local bodies is applied in other districts by the initiative of MoFSC and MoFALD.” The Project has been promoting DSCWM to adopt revised OG into SCWMP. As revised OG is to be approved by MoFSC, Overall Goal of the Project is expected to be achieved. Also, with proved ownership of DSCWM and DSCOs, they have simultaneously started to implement SABIHAA model replication in other districts outside project area since July 2010, DSCWM has been disbursed budget to implement SABIHAA model. The replication activity is implemented by very similar means to the Project in terms of employment of Motivator, having WCC as planning and implementing body and stipulation of budget earning not only from DSCWM budget but also financial and technical supports from other line agencies.

2) Spillover effects

Significant diversified impacts are visible through the Project intervention.

a) Empowerment of community people

- b) Livelihood improvement & employment opportunity of community people through the Project SP intervention
- c) Safety and security for the people
- d) Contribution to environmental protection and soil conservation
- e) Institutional strengthening among different group and organization

There has not been any seriously negative impact of the Project reported or observed at the time of the Terminal evaluation.

(5) Sustainability

The sustainability of this Project is high as evidenced by the following factors;

1) Budget and institutional Aspect

a) Budgetary support from DSCWM/MoFSC

DSCWM has adopted the tangible policies and strategies for SCWM with expansion and institutionalization of SCWM services in all districts of Nepal. Within this policy context, DSCWM has been implementing SABIHAA model replication not only in the target districts of the Project, but also to other districts where the DSCWM has a leading role and allocated their own budget for expand the model since 2011.

b) Other budgetary resources

Through training/ On the Job Training (OJT), the Project has encouraged WCC to access VDC for their implementation of annual plan, and it is forecasted that possibility of co-finance from VDC and DDC for ward SPs will be continuously expected. Currently, there are already co-finance/collaborations with other local bodies [District Agriculture Development Office (DADO), Women and Children Office/Officer (WCO), NGO, etc.] at a VDC level. As they are important financial supporters, further collaboration should be strengthened continuously.

c) Collaboration with MoFALD line

There is a certain understanding of SABIHAA model at a central level, however, further information sharing and collaboration with MoFALD is expected. At a DDC level, the level of recognition/collaboration varies in each DDC. At a VDC level, WCC has succeeded in certain level of collaboration with VDC and Social Mobilizer of LGCDP.

d) Financial sustainability of SPs and POWER group activities

The sustainability of the SPs and POWER group activities depend on the willingness and continuous motivation of the community people and POWER group members. The ownership and confidence of the community people achieved through the Project period will somehow continue with self-help and collaboration with surrounding stakeholders. Of course there is also possibility that they will reduce or lose their interests and cooperation without supports from

Motivators. In case of financial aspect, some POWER groups have invested money as loan to its members in lower interest rate, and some groups have developed themselves as cooperatives and are providing reports to DSCOs.

2) System and Policy Aspect

DSCWM has been implementing SABIHAA model replication in 11 Districts in total, expecting to expand the model into other districts. Through such expansion, DSCWM/MoFSC recognized the SABIHAA as a national model for a successful watershed management tool. And the model has been internalized in DSCWM. At this stage, DSCWM has formulated a soil conservation and watershed management strategy and utilized their budget for further expansion. DSCWM/MoFSC will ensure the dissemination of SABIHAA model and the continuity of SABIHAA model related activities. Therefore, the sustainability of policy aspect will be high.

Assessing comprehensively the facts and findings above, it can be concluded that the sustainability of the Project could be achieved with strong initiatives of DSCWM in facilitating the continuity of the Project outcomes.

3) Technical and Human Resource Aspect

Through the long-term cooperation under JICA support, at individual/group level, it can be observed that the core stakeholders such as DSCWM/MoFSC, DSCO chief/staff/techs, WCC/VDC members, Motivators, and community people including POWER group members have accumulated the technical knowledge and knowhow on SCWM, and also they have acquired facilitation and management skills through the training and on-site coaching. Therefore, it is certain that the capacity of stakeholders has been enhanced and will be sustainable.

Even after the Project, it is expected that stakeholders as core persons of SABIHAA model will not only contribute to human resources development in their own offices/village, but also to play important roles to facilitate community development and SCWM.

3. Contributing factors for achieving the Project Purpose

According to the individual/group interviews and questionnaire results conducted during the Evaluation, the following factors were observed as contributing factors for achieving the Project Outputs and the Project Purpose.

1) Pro-active/vital role of DSCO officers, & VDC Secretary/WCC chairpersons and Motivators

The Project has been undertaken by strong initiatives by Nepalese side, and as players of the Project, the following people are key persons for promoting, coordinating, facilitating and instructing in respective roles and multiple functions to attain the Project Purpose. All the field

work has been carried out by DSCO officers, WCC/POWER group members and Motivators, with support from VDCs. The main successful factor is pro-active role of each of them, and also good understanding among them for addressing the development issues. Without them, the present progress and successful SP results could not have been achieved, and they played a central and crucial role to coordinate with each other throughout the process of operation as a “team”.

2) Establishment of operational process [in particular on Annual Action Plan (AAP) formulation, Public auditing/WCC Self-evaluation /Activity profile/Operational Guidelines (OG)]

Within the Project operation in the process, various activities were functioned and the Project documents were well utilized in terms of the effectiveness and sustainability, particularly like CRMP/AAP formulation, Public auditing/WCC Self-evaluation /Activity profile and OG. Those activities mentioned above cover at range from good information-sharing, tangible formulation, planning, implementation and Monitoring and Evaluation (M&E) in the project operational cycle. The Project paid high consideration to promote and strengthen the key component of local governance at a community level, and the concept of transparency, accountability, participation and democratic practices in decision-making processes has been promoted through the Project operation.

4. Hindering factors to the achievement of the Project Purpose (hampering factors)

The following aspects are evaluated to be hindering factors both in terms of the effectiveness and efficiency of the Project implementation although it is seen as that they have not put critical negative impact to the achievement of the Project Purpose.

a) Absence of elected local body

Due to lack of elected local bodies, there were no existing elected representatives at a VDC and ward level, and it made it difficult to express opinions of community people and show consensus among people’s desire and needs.

In spite of that, WCC created by the Project, is said to have acted as a “temporary” committee to discuss about the development issues of each ward and is very active in budget request.

5. Conclusion

As a result of Project work in the DSCWM on community development and SCWM in the target districts of the Project since 2009 until current stage, the expected outputs have been produced. The Project has high relevance and effectiveness. The Project has achieved considerably positive results in terms of development impacts including social and environmental dimension. Also, the Project was

efficiently implemented in general. With these reasons, it is considered that the Project is well managed and has achieved its purpose.

Technical and community capacity has been gradually developed in the DSCWM and community people, while there are some issues that may need to be addressed such as further dissemination and publicity of SABIHAA model, mutual interaction between DSCO, DDC, VDC, WCC and Ward Citizen Forum of LGCDP (WCF) for community development and forest/watershed conservation and continuous motivation of the stakeholders of the Project.

The Project has successfully been implemented without any major or critical problem and will mostly achieve its outputs by the end of the Project period. Prospect of achieving the Project purpose is evaluated as high, thus, it is concluded that the Project will be terminated as stipulated in the R/D.

6. Recommendations

The Team has made the following recommendations based on the results of the Evaluation:

(1) Ensure further collaboration between MoFSC and MoFALD for effective implementation at a district / field level such as by dispatching letter to local related agencies

During the Project period, MoFSC and MoFALD will ensure further collaboration for sustainability of Project outcome at a district/field level such as by dispatching letters to local related agencies on the contents below:

- 1) VDCs will take CRMP into consideration of VDC periodic plan and give continuous support in response to community peoples' needs.
- 2) Within the pProject period, DSCOs will organize handover meetings with VDC secretaries, Social Mobilizers, and Motivators in consultation with DDCs on SABIHAA model and WCC/POWER groups. This kind of meetings shall include comprehensive information on accumulated knowledge and Project activities. The meeting is aimed to ensure the continuous support and monitoring to WCC/POWER activities from VDCs even after termination of the Project.
- 3) At a district level, DDC and DSCO should continue information sharing practices such as DWC to enable linkage between VDC, WCF, and WCC as well as Social Mobilizer and Motivator.

(2) Ensure linkage and collaboration between local level institutions

Although there is no doubt that WCC was the appropriate institution to facilitate and implement development activities during the Project period, the WCF has also emerged during the last few years as one of the key institutions at a ward level. This gradual change in ward structure has influenced the Project in the sense that the linkage between WCC and WCF has become one of the most important factors for the Project success. Thus, in future expansion of SABIHAA model, this linkage (as well as

with other institutions) should continue to be ensured at all times. Further, Wards may also face structural changes in the future, and replication activities of SABIHAA are recommended to give close observation to these structural changes at a local level.

(3) Internalization of SABIHAA model in MoFSC

Follow the contents specified in “Internalization Strategy for SABIHAA” once approved by MoFSC. Also consider expanding SABIHAA model as a DSCWM regular program, and reflect the program on policy level with a tangible plan in document including information such as time line and target area.

(4) Active promotion of SABIHAA model

During and after the Project period, MoFSC, MoFALD and JICA should disseminate SABIHAA model and good practices gained in the Project through seminars/workshop to related government offices and Development Partners as well as promoting to the public through TV and radio.

(5) Maintenance of physical infrastructure in SPs

During the Project period, it should be discussed among stakeholders especially at a community level on how SPs can be properly maintained, including fund collection and linkage with concerned line offices.

(6) Sustainability of POWER group

During the Project period, DSCO and Motivators will provide facilitation and information to POWER groups regarding the discussions and decision making for future POWER group activities. Information received by past POWER trainings and meetings (including information on cooperatives) should be once again shared with all POWER group members for their full understanding.

7. Lessons Learnt

(1) POWER should strengthen linkage with WCC to participate in conservation work

Since POWER is a group of marginalized and poor women, they are also the primary users of natural resources i.e. wood, fodder, leaves, soil, water resources etc. These primary users can contribute lots if they are aware on the conservation practices along with its benefits to their lives. Based on this learning, not only should the vulnerable be grouped, but also be linked to opportunities for discussions on environmental conservation works.

(2) Good coordination and collaboration among the stakeholders bring synergetic effects to the results

This PWMLGP Project was implemented with strong initiative from Nepalese side. The Project is

a combination of DSCO, DSCO-tech, Motivators, VDC, WCC and POWER group. All these actors played very important roles to make CRMP and implement it in a collaborative way for the watershed management through community development practices.

In the Project, MoFALD and MoFSC both contributed to good project implementation at a field level. MoFALD introduced the idea of local (community) governance in this SCWM project. MoFSC was able to support field level with active DSCO and DSCO-tech who had both technical and facilitating skills to give comprehensive support to the people. At a field level, the WCC and POWER group received these combined support along with accountable and transparent resources with which they could implement self-prioritized SPs.

(3) People are willing to contribute more for their real needs

Community people are welcome to develop their own community. Community people are ready to collect fund and even contribute their resources; cash and kind to implement the SP if it really address their needs. They also try to get fund from other institutions including VDC to fulfill their needs.

(4) Appropriate timing for the Project period

Greenery promotion is an important component of the Project for SCWM. Plantation is the major activity to be carried out for the greenery promotion which is mainly carried out during the rainy season. The rainy season start after June; however, the contract with the JICA experts for the Project implementation terminated in mid-June and started again in September. Therefore, in order to address these issues, the Project period should give consideration to seasonal aspects.

第1章 終了時評価の概要

1-1 協力の背景

ネパール連邦民主共和国（以下、「ネパール」と記す）の人口の約半数が居住する丘陵地帯では、急峻な地形による農地の土壌流出や斜面崩壊による生産性の低下、インフラの未整備から、住民の多くは貧困層であるとされる。貧困を背景にした森林の無計画な伐採も土壌流出の原因となっており、住民の生計向上と緑化、森林保全を含む土壌保全・流域管理の取り組みは、貧困対策、社会的弱者対策の面からも今後一層推進する必要性が高い。

このような背景から、独立行政法人国際協力機構（Japan International Cooperation Agency : JICA）は1994年から2005年にかけて「村落振興・森林保全計画プロジェクト」（フェーズ1、2）を実施し、プロジェクト実施機関の郡土壌保全事務所（District Soil Conservation Office : DSCO）の事業実施管理能力の強化とともに、区（ワード、Ward）レベルにおける住民参加型自然資源管理モデル（ネパール語で村落振興・森林保全を意味する Samudayik Bikas Tatha Hariyali Ayojana : SABIHAA、以下「サビハ・モデル」と呼称）をプロジェクト実施機関における標準的なアプローチとして定着させるに至った。しかしながら、プロジェクト終了後も DSCO が普及・展開事業を実施しているものの、事後モニタリングの結果、DSCO の対応可能な範囲を超えた多様な村落開発ニーズ（歩道・車道の開設・修繕、学校の修繕、識字学級の開催等）に応えきれていない等の新たな課題が明らかにされた。

このことから、ネパール森林土壌保全省（Ministry of Forests and Soil Conservation : MoFSC）土壌保全・流域管理局（Department of Soil Conservation and Watershed Management : DSCWM）は、地方自治強化の流れを念頭に置きつつ、住民参加型の流域管理事業の実施体制の向上と改善された事業実施体制の下で事業を実施していくプロセスを通じ、村落開発委員会（Village Development Committee : VDC）及び郡開発委員会（District Development Committee : DDC）等の地方行政機関との相互協力・連携を視野に入れた広域流域管理と総合的村落開発を実現することを重視し、ネパール政府からわが国政府に対し技術協力の要請がなされた。

これを受け JICA は、DSCWM をカウンターパート（Counterpart : C/P）機関として、「地方行政強化を通じた流域管理向上プロジェクト」（以下、「本プロジェクト」）を2009年8月から2014年7月までの5年間の予定で実施し、6名の長期専門家（総括/流域管理、副総括/住民参加、地方行政/複製活動支援、組織強化A、組織強化B、及びPOWERグループ主流化）を派遣した。本プロジェクトを通じ、ネパールにおける地方分権化の流れの中で、「サビハ・モデル」の実践・普及を通じて、住民組織、VDC 及び DDC 等の地方開発行政ライン及び DSCO 及び DSCWM のセクター省庁行政ライン間の調整を図り、これにより、地方行政ラインの強化と財源の活用を促進しつつ、中長期的にみて必要性が高い流域管理事業の計画・実施能力の向上を目指している。

本終了時評価調査は、2014年7月のプロジェクト終了を控え、プロジェクト活動の実績・成果等を経験・確認するとともに、今後のプロジェクト活動に対する提言及び今後の類似事業の実施にあたっての教訓を導くことを目的として実施された。

1-2 プロジェクトの概要

(1) 上位目標 : MoFSC と連邦・地方開発省 (MoFALD) のイニシアティブにより、プロジェ

クト対象以外の郡において DSCO と DDC/VDC の協調による参加型流域管理事業が実施される。

(2) **プロジェクト目標**：プロジェクト対象郡において、DDC/VDC と DSCO との協調による参加型流域管理事業が実施される。

(3) **成果**

- 1) 対象地域の DSCO 職員の参加型流域管理に関する能力が向上する。
- 2) 対象郡の住民の参加型流域管理と地方行政に関する能力が強化される。
- 3) 参加型流域管理における地方行政のコンセプトが理解される。
- 4) サビハ・モデルの内在化が促進される。

なお、具体的なサビハ・モデルの活動フローは以下のとおりである。

<参考> サビハ・モデルのプロセス概要

プロセス	概要
①対象地区の選定及び住民との連携合意取り付け	DSCWM の「流域単位への管理体制への移行」方針を受け、流域毎にVDCを選定する。できるだけ多くの住民参加を目指し、特に社会的弱者（少数民族、ジェンダー、職業カースト住民など）への配慮を行いつつ、活動への合意取り付けを行う。
②区（ワード）調整委員会（WCC）及びPOWERグループの形成	対象8郡における34 VDCの306の区（ワード）においてWCCとPOWERグループを形成する。WCCはおおむね9名で構成され、うち30%以上を女性、2名をPOWERグループとの共通メンバーとし、社会的弱者（ダリット、ジャナジャティ）も含むこととする。WCCは本プロジェクトの主たるコンポーネントである村落開発の計画策定から実施、評価までを担う。POWERグループは、最大30名の女性から構成され、社会的包摂や貧困削減を具体的に実践するための生計向上活動を実践する。
③流域管理の見通し（CBRMP ² ）の策定	各WCCは、DSCO技術者とモチベーターの支援を受けつつ村落資源マップを作成し、SWOT 分析を行い、「望ましい村のありよう」をイメージする。例えば「病気の無い健康な村」「自動車が走り、歩く苦勞のない村」「枯れない水道がある」「高校がある」など「切実ニーズと憧れニーズ」が混在したリストができ上がらないよう留意する。
④村落資源管理計画（CRMP）の策定	WCCはCBRMP のイメージを具体化し、阻害要因への対策を検討する。ただし、援助への過度な期待に注意し、自分達で何ができるかを考えることとする。広域的視点を養うため、DSCO技術者/モチベーターから、他村の事例紹介や、近隣村への視察を行う。

² コミュニティ資源管理目標（Community Based Resource Management Prospective）

	<p>その上で中期計画（3～5年）を立て、各年度に「やるべきこと」を明記する。サブ・プロジェクト³として申請する事業に限らず、住民自身でできること、すべきこと（WCCの帳簿を正確に記録する等）も含める。このCRMPはDDCやVDC、他の政府機関・NGOに広く紹介し、今後の支援につなぐ。</p>
⑤年間活動計画（AAP）の策定	<p>サブ・プロジェクトについて、時期、主体、実施方法、維持管理主体・方法等を検討する。DSCO技術者及びプロジェクトは、WCC内の合意の手順（透明性、妥当性等）、施工上の妥当性、安全性等を勘案して承認し、実際の事業を開始する。なお、本プロジェクトから各WCCに支給される予算は年間6万4千ルピーであり、これはサブ・プロジェクトの中でも土壌保全に資するものに充てることとする。一方、それ以外の分野のサブ・プロジェクトについては、村落開発全般を俯瞰するMOFALDラインのVDC事務所長らにつなぎ、資金を獲得することを側面支援する。</p> <p>【想定されるWCCのサブ・プロジェクト】：護岸工事、土壌保全工事（Bio-engineering）、灌漑用貯水池（タンク）、雨水利用技術、簡易水道（集水槽部分）など。</p>
⑥サブ・プロジェクトの実施	<p>軽インフラ整備型事業では、住民自身による計画策定、労働提供の調整、施工監理、受益者の組織化・運営など、住民自らがインフラ整備・維持管理を行えるようエンパワーメントしていく。これにより、住民の事業に対するオーナーシップの醸成を図る。サブ・プロジェクトとして現場ニーズを踏まえた研修も可とする。道路斜面の崩壊対策は他の自治体関係者との協働により実施する。</p> <p>また、POWER活動は上記のCRMPやAAPと必ずしも連動しないが、各POWERグループに提供される活動予算（年間1万6千ルピー）の使い道に関し、グループ内で検討し、生計向上活動を実施する。</p> <p>【想定されるPOWERグループのサブ・プロジェクト】：ヤギ飼育、養鶏、養豚、生姜・ジャガイモ・スパイス栽培、ロウソク・お香・石鹸づくりなど。</p>
⑦評価と反省/教訓	<p>WCCの年次活動を総括し、住民による自己評価を実施する。自己評価はワークショップ形式で実施し、結果はレーダーチャートで整理し、到達点、改善点など非識字者にも分かりやすく示す。WCCの自己評価に係る指標として、組織運営、村落資源管理、社会・ジェンダー及びソーシャル・キャピタル（連携調整、組織機能、関係者の信頼関係など）に関するものを提案する。教訓から新たな研修ニーズを導く。</p>

³ 本プロジェクトの中で各WCCのCRMP/AAPに基づき実施される開発事業を指す。

⑧モニタリングとフォローアップ	評価の後、「村のあるべき姿」に近づいたかを検証し、更なる支援が必要か、自分達でできることが発見できたかなど、住民による気づきを促す。その上で更なる支援を求めて他の政府機関やNGO への要請等のアクションを検討する。プロジェクト内では、MoFALD やDSCWM も交えて月例会議を行い、各VDC での進捗状況等を情報共有する。
⑨CRMP の年度ごとの見直しを経て⑤⑥⑦⑧を繰り返す	経験的には3 回程度のサイクルを繰り返すことで、住民の自信も確たるものとなる。同時に、政府側職員も、十分なスキルとノウハウを習得できると思われる。5 年間の協力期間を通じ、支援の比重を基礎技術の研修からソーシャル・キャピタルの形成や向上へと移していく。

出所：プロジェクトによる作成資料より抜粋・加筆

1-3 調査団構成

1-3-1 日本側合同評価メンバー

氏名	担当業務	所属	現地調査期間
藤井 智	団長/総括	JICA ネパール事務所 次長	4月3日～4月21日
松本 彰	評価・分析	A&M コンサルタント有限会社	
北松 祐香	評価・企画	JICA ネパール事務所 所員	
Nama Raj Adhikari	評価・コーディネート	JICA ネパール事務所 ナショナルスタッフ	

1-3-2 ネパール側合同評価メンバー

氏名	所属	現地調査期間
Ms. Uma Paudel	MoFSC, M&E Division, Assistant Forest Officer	4月3日～ 4月21日
Mr. Chhabiraman Bhattarai	MoFALD, Foreign Aid Coordination Division, Section Officer	

1 - 4 調査日程

Mission member from GON: Mr. Chhabiraman Bhattarai, Section Officer, Foreign Aid Coordination Division, MoFALD & Ms. Uma Paudel, Assistant Forest Officer, M & E Division, MoFSC.					
Name		Mr. Satoshi FUJII	Ms. Yuka KITAMATSU	Mr. Nama Raj ADHIKARI	Mr. Akira MATSUMOTO
Job Title		Senior Representative, JICA Nepal	Representative, JICA Nepal	Senior Program Officer, JICA Nepal	President, A&M Consultant Co., Ltd
Task		Team Leader	Evaluation Analysis & Planning	Evaluation Analysis & Coordination	Evaluation Analysis
2014/4/2	Wed	AM			Leave Haneda 10:35 - via Hong Kong & Dhaka
		PM			Arrive at Kathmandu 22:00 (KA 192/C)
2014/4/3	Thu	AM			Preparation for the mission
		PM	14:00 Meeting at JICA Nepal 15:00 Briefing to Joint Terminal Evaluation mission members on process of Joint Terminal Evaluation by Consultant @ JICA	14:00 Meeting at JICA Nepal 15:00 Briefing to Joint Terminal Evaluation mission members on process of Joint Terminal Evaluation by Consultant @ JICA	14:00 Meeting at JICA Nepal 15:00 Briefing to Joint Terminal Evaluation mission members on process of Joint Terminal Evaluation by Consultant @ JICA
2014/4/4	Fri	AM	09:30 Interview with Project staff of PWMLGP at project office 10:30 Meeting with Mr. Pem Narayan Kandel, DG DSCWM and Desk officer Dr. Prem Paudel	09:30 Interview with Project staff of PWMLGP at project office 10:30 Meeting with Mr. Pem Narayan Kandel, DG DSCWM and Desk officer Dr. Prem Paudel	09:30 Interview with Project staff of PWMLGP at project office 10:30 Meeting with Mr. Pem Narayan Kandel, DG DSCWM and Desk officer Dr. Prem Paudel
		PM	12:00 Interview/meeting with Mr. Mukunda Raj Prakash Ghimire Joint Secretary, MOFSC 14:30 Meeting/interview with Mr. Ramesh KC, US MOFALD 16:00 interview/meeting with Project Experts @ JICA	12:00 Interview/meeting with Mr. Mukunda Raj Prakash Ghimire Joint Secretary, MOFSC 14:30 Meeting/interview with Mr. Ramesh KC, US MOFALD 16:00 interview/meeting with Project Experts @ JICA	12:00 Interview/meeting with Mr. Mukunda Raj Prakash Ghimire Joint Secretary, MOFSC 14:30 Meeting/interview with Mr. Ramesh KC, US MOFALD 16:00 interview/meeting with Project Experts @ JICA
2014/4/5	Sat				Documentation
2014/4/6	Sun				10:00 meeting with Project expert
2014/4/7	Mon	AM		08:30 KTM to Pokhara 10:30 interview with DSCO, DSCO-tech and Motivators 11:30 Meeting with LDO	08:30 KTM to Pokhara 10:30 interview with DSCO, DSCO-tech and Motivators 11:30 Meeting with LDO
		PM		12:30 Lunch 13:30 PKR to Dhital VDC 14:30 Arrive at Dhital and observe Sub-projects (water source protection) at ward number 3, 4 and interact with WCC members and POWER group members 16:00 Leave for PKR 18:30 Meeting with Regional Director of Regional Forest Office, Pokhara	12:30 Lunch 13:30 PKR to Dhital VDC 14:30 Arrive at Dhital and observe Sub-projects (water source protection) at ward number 3, 4 and interact with WCC members and POWER group members 16:00 Leave for PKR 18:30 Meeting with Regional Director of Regional Forest Office, Pokhara
2014/4/8	Tue	AM	Government Holiday	Government Holiday	Government Holiday
		PM		10:20 Ktm to PKR 13:00 Departure PKR for Myagdi 16:00 Arrive Myagdi 16:00-17:30 Meeting with DSCO & DSCO-tech	13:00 Departure PKR for Myagdi 16:00 Arrive Myagdi 16:00-17:30 Meeting with DSCO & DSCO-tech
2014/4/9	Wed	AM	08:00 Departure from Myagdi to Piple VDC 09:00 Arrive Piple VDC and observe Sub-project (landslide control) and POWER activity at ward number 1 & 2, then move to ward number 8 & 9 Observe Sub-project (water source protection) and interaction with WCC and POWER group	08:00 Departure from Myagdi to Piple VDC 09:00 Arrive Piple VDC and observe Sub-project (landslide control) and POWER activity at ward number 1 & 2, then move to ward number 8 & 9 Observe Sub-project (water source protection) and interaction with WCC and POWER group	08:00 Departure from Myagdi to Piple VDC 09:00 Arrive Piple VDC and observe Sub-project (landslide control) and POWER activity at ward number 1 & 2, then move to ward number 8 & 9 Observe Sub-project (water source protection) and interaction with WCC and POWER group
		PM	12:00 Lunch 12:30 Leave for Myagdi 13:30 Arrive at Myagdi 13:30 Meeting with LDO 14:30 Leave for Baglung 15:30 Arrive at Baglung and meeting with DSCO and DSCO-tech	12:00 Lunch 12:30 Leave for Myagdi 13:30 Arrive at Myagdi 13:30 Meeting with LDO 14:30 Leave for Baglung 15:30 Arrive at Baglung and meeting with DSCO and DSCO-tech	12:00 Lunch 12:30 Leave for Myagdi 13:30 Arrive at Myagdi 13:30 Meeting with LDO 14:30 Leave for Baglung 15:30 Arrive at Baglung and meeting with DSCO and DSCO-tech

2014/4/10	Thu	AM	08:00 Departure from Baglung to Paiyupata VDC 09:00 Observation of Sub-project (Vaterumta Irrigation Maintenance) and POWER activity at ward number 9 and Sub-project (Landslide control) activity and POWER activity at ward 1 and interaction with WCC members and POWER group members. (up to around 13:00)	08:00 Departure from Baglung to Paiyupata VDC 09:00 Observation of Sub-project (Vaterumta Irrigation Maintenance) and POWER activity at ward number 9 and Sub-project (Landslide control) activity and POWER activity at ward 1 and interaction with WCC members and POWER group members. (up to around 13:00)	08:00 Departure from Baglung to Paiyupata VDC 09:00 Observation of Sub-project (Vaterumta Irrigation Maintenance) and POWER activity at ward number 9 and Sub-project (Landslide control) activity and POWER activity at ward 1 and interaction with WCC members and POWER group members. (up to around 13:00)
		PM	15:00 KTM to PKR	13:00 Lunch at Paiyunpata 13:30 Paiyunpata to Baglung 15:00 Departure to Pokhara	13:00 Lunch at Paiyunpata 13:30 Paiyunpata to Baglung 15:00 Departure to Pokhara
2014/4/11	Fri	AM	07:30 Departure for Kahun VDC (Replication VDC) 08:00 Arrive at Kahun VDC. Observe Sub-projects (water source & gully control) at ward number 2, road slope control at ward number 1 and interact with WCC and POWER. 09:30 Departure for PKR 09:30 Arrive at PKR Project office and interview with Expert 10:00 interview with project staff	07:30 Departure for Kahun VDC (Replication VDC) 08:00 Arrive at Kahun VDC. Observe Sub-projects (water source & gully control) at ward number 2, road slope control at ward number 1 and interact with WCC and POWER. 09:30 Departure for PKR 10:00 Arrive at LGCDP office at PKR office and meeting with coordinator of LGCDP Regional Cluster Unit	07:30 Departure for Kahun VDC (Replication VDC) 08:00 Arrive at Kahun VDC. Observe Sub-projects (water source & gully control) at ward number 2, road slope control at ward number 1 and interact with WCC and POWER. 09:30 Departure for PKR 10:00 Arrive at LGCDP office at PKR office and meeting with coordinator of LGCDP Regional Cluster Unit
		PM	12:00 Lunch 12:45 Wrap-up meeting among the mission members 15:00 PKR to Kathmandu	12:00 Lunch 12:45 Wrap-up meeting among the mission members 15:00 PKR to Kathmandu	12:00 Lunch 12:45 Wrap-up meeting among the mission members 15:00 PKR to Kathmandu
2014/4/12	Sat				Documentation
2014/4/13	Sun		Documentation		Documentation
2014/4/14	Mon				Documentation Drafting of M/M & Joint Terminal
2014/4/15	Tue	AM	08:00 Depart KTM for Sindhupalchowk 10:00 Rest at Balephi and meet with DSCO Sindhupalchowk staff 11:00 Observe Sub-project (landslide control) and meeting with WCC/POWER member at Fulpingdada-9	preparation of draft report in office	08:00 Depart KTM for Sindhupalchowk 10:00 Rest at Balephi and meet with DSCO Sindhupalchowk staff 11:00 Observe Sub-project (landslide control) and meeting with WCC/POWER member at Fulpingdada-9
		PM	14:00 Lunch at Balephi 15:00 Return to KTM 17:00 arrival at KTM		14:00 Lunch at Balephi 15:00 Return to KTM 17:00 arrival at KTM
2014/4/16	Wed	AM	09:00 intensive discussion on the draft of the evaluation	09:00 intensive discussion on the draft of the evaluation	09:00 intensive discussion on the draft of the evaluation
		PM	14:00 Discussions on the final draft of M/M & Joint Terminal Evaluation Report	14:00 Discussions on the final draft of M/M & Joint Terminal Evaluation Report 16:00 Visit Mr. Purushottam Nepal, NPM LGCDP II	14:00 Discussions on the final draft of M/M & Joint Terminal Evaluation Report 16:00 Visit Mr. Purushottam Nepal, NPM LGCDP II
2014/4/17	Thu	AM	Discussions on the final draft of M/M & Joint Terminal Evaluation Report	Discussions on the final draft of M/M & Joint Terminal Evaluation Report	Discussions on the final draft of M/M & Joint Terminal Evaluation Report
		PM			
2014/4/18	Fri	AM	Discussions on the final draft of M/M & Joint Terminal Evaluation Report	Discussions on the final draft of M/M & Joint Terminal Evaluation Report	Discussions on the final draft of M/M & Joint Terminal Evaluation Report
		PM	14:00 JCC 16:30 Report to JICA	14:00 JCC 16:30 Report to JICA	14:00 JCC 16:30 Report to JICA
2014/4/19	Sat				
2014/4/20	Sun				
2014/4/21	Mon	AM			
		PM	12:30 Report to EOJ	12:30 Report to EOJ	12:30 Report to EOJ
2014/4/22	Wed	AM			
		PM			08:45-13:55 Hong Kong-Haneda (CX548)

PWMLGP: Participatory Watershed Management and Local Governance Project; MoFSC: Ministry of Forest and Soil Conservation; MoFALD: Ministry of Federal Affairs and Local Development; DSCWM: Department of Soil Conservation and Watershed Management; DSCO: District Soil Conservation Office; DDC: District Development Committee; VDC: Village Development Committee, US: Under Secretary; LDO: Local Development Officer;

1-5 主要面会者

C/PであるMoFSC、MoFALDの中央及び地方機関に加え、地方行政分野のバスケットファンドである地方行政・コミュニティ開発プログラム（Local Governance and Community Development Program：LGCDP）関係者と面談を行った。詳細は付属資料1を参照のこと。

1-6 評価上の留意点

本プロジェクトは、2012年1月19日から2月9日に中間レビューを実施し、また2013年2月10日から3月10日にかけてネパール国の地方行政基礎情報収集調査の一環で、プロジェクトの方向性にかかる提言を受けている（付属資料2）。

これら2つのレビュー及び調査の提言を踏まえ、今次終了時評価においては、評価グリッド（付属資料3）及び過去の提言への対応状況に加え、以下の事項を主な重点的調査項目とする。

（1）出口戦略文書の質の確保と実現に向けた課題の確認

本プロジェクトは、現状2014年7月をもって終了する予定であるが、プロジェクトの終了に伴い、本プロジェクトの成果は今後ネパール側によって持続性・発展性が担われることとなる。プロジェクトは現在MoFSC・DSCWM及びMoFALDとともに出口戦略文書（Internalization Strategy）の策定を進めているが、今次調査では同文書内容の質の確認及び実現に向けた課題の確認を行う。なお、出口戦略文書（案）で取り上げられている主たるテーマは以下の通りである。

<参考> 出口戦略文書概要

① プロジェクト終了後のWCC及びPOWERグループの持続性を確保すること

本プロジェクトで形成されたWCCを、LGCDPで形成された区（ワード）住民委員会（WCF）の中の一セクション（working committee）として位置づけ、今後2年間にわたりDSCWM及びDSCOがWCC及びPOWERグループのモニタリングを継続する。それ以降はVDCが単独でモニタリングを実施することとする。

② ネパール政府による効果的なサビハ・モデルの複製活動を実現すること

ネパール政府によって効果的にサビハ活動が複製されるよう、プロジェクトは①複製活動実態調査及び②in-depth調査を実施した上で、複製活動のマニュアルとなるオペレーショナル・ガイドライン（OG）の改訂版（案）を策定した。同案は既にネパール語に訳され、関連8郡のDSCO所長がコメント済みであるが、今後1年以内にはDSCWMがこれを承認し、複製活動に活用することとする。

（2）省庁間連携の緩和とプロジェクトのインパクトへの影響確認

本プロジェクトは協力開始当初、協力の主たる目的の一つとして、地方開発全般の行政ライン（DDC及びVDC）と、土壌保全・流域管理にかかる行政ライン（DSCWM及びDSCO）の調整により相乗効果が発現されることが期待されていた。しかし、中央レベルでの省庁間の連携促進に関してはプロジェクト期間中に達成することが困難であることが中間レビュー、そし

てそれに続く基礎情報収集調査を通じ判明し、2013年2月時点の基礎情報収集調査では、省庁間連携促進にかかる比重を下げ、現場における確実なサビハ・モデルの形成及び複製に注力することが提言された。今次調査においては、同提言を踏まえたプロジェクト側の対応状況と、上記のような方向転換が結果的にプロジェクトのインパクトにどのような影響をもたらしたのかを検証する。

(3) MoFALD が主導してドナーと共に行う地方開発プログラム「LGCDP」との関係性検証及び今後に向けた提言

2008年から現在まで、ネパールではドナー協調型の政府プログラムとしてLGCDPが2フェーズにわたり実施中であるが（担当省庁は MoFALD）、数年の経過に伴い、同プログラムの中で構築された地方行政組織と本プロジェクトの中で構築された諸組織に重複が生じることとなった。

本来であれば、本プロジェクトで構築された組織形態が LGCDP の一部となるよう、本省レベルでの働きかけをより積極的に行う可能性もあり得たが、上記（2）の通り MoFALD と MoFSC の省庁間連携の比重が本プロジェクト内で軽減されたこともあり、現状は現場レベルでの LGCDP との連携が行われている。今次調査では、LGCDP と本プロジェクトの関係性を改めて検証した上で、対 LGCDP の観点から、本プロジェクトが残りの活動期間で取り組むべき事柄を検討する。

表1 地方開発プログラム「LGCDP」との関係性

	LGCDP	本プロジェクト
プロジェクト目標	各地域において社会包摂に配慮して優先順位が決められた公共財・サービスへのアクセスを改善する。	プロジェクト対象 8 郡において、暫定地方自治体と DSCO の協働による参加型流域管理事業が実施される。
コミュニティレベル	WCF	WCC
	CAC (Citizens Awareness Center)	POWER (Poor, Occupational caste and Women's Empowerment for Resource Management)
VDC (村) レベル	Social Mobilizer	Motivator

(2013年「ネパール国地方行政情報収集・確認調査」P.37を参考に作成)

(4) サビハ・モデルの強みから導かれる教訓抽出

本プロジェクトにおいて特筆されるべき点は、中間レビューでも指摘されている通り、現場において高い効率性、有効性が発現されている点である。具体的には、全 306 の WCC において住民が PDCA サイクルに沿った活動(居住地域の資源マップ作り、中長期的/年度の計画作り、サブ・プロジェクト実施、活動評価)に主体的に取り組んでおり、プロジェクトから提供される資金だけでなく、外部からも資金を取り込むことによって資金を増やすことに成功している。また、郡レベルにおいては、DSCWM がサビハ・モデルの複製活動に積極的に取り組んでおり、

その結果として、プロジェクト協力期間中に複製活動の内容の検証・改善まで取り組むことが可能となった。複製活動が円滑に進んでいる背景には、JICA が本分野で 20 年以上にわたり活動し、サビハ・モデルの浸透に尽力してきたことも一因といえるが、いずれにせよ本プロジェクト成果の持続性に大きく寄与するものと思われる。

JICA の技術協力プロジェクトでは、このような住民を巻き込んだ PDCA サイクルのモデル形成及び案件終了後の政府によるモデル普及が目指されることが多いが、本プロジェクトがなぜこれほどに住民を能動的・主体的に取り込むことができたのか、またなぜ政府側も複製活動に積極的であるのか、今次調査においてこれらの因果関係を検証し、今後の類似プロジェクトに向けた教訓を導くこととする。

第2章 終了時評価の方法

本評価調査は、JICA 事業評価ガイドライン（改訂版）に基づき、評価の手法としてプロジェクト・サイクル・マネジメント（Project Cycle Management : PCM）の評価手法を採用した。PCM 手法を用いた評価は、プロジェクト運営管理のための要約表である、1) プロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix : PDM）に基づいた計画達成度の把握（投入実績、活動状況、成果の達成度、プロジェクト目標の達成見込み）、2) 評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点に基づいた収集データの分析、3) 分析結果からの教訓、提言のまとめの3点で構成されている。

なお、本評価調査は、日本国側調査団及びネパール国側調査団による合同評価チームを形成して実施し、プロジェクト残りの協力期間並びに本件終了後における対応方針についても検討し、両国政府関係当局に提言した。

2-1 評価手順

2-1-1 資料レビュー、評価グリッドの作成

本評価にあたっては、プロジェクト PDM の内容を確認した上で、2014 年 3 月にネパール側と日本側で協議し合意した PDM（Version 2.0）⁴を、評価用 PDM として利用することとした。そして、それに基づいて、本調査を実施するに先立ち、評価項目に沿った評価設問を設定した。それぞれの評価設問に対して、必要な情報・データ、その情報源や収集方法について検討し、この結果を付属資料3に示した評価グリッド（和文・英文）を作成した。本調査のための情報・データの収集は、作成した評価グリッドに沿って実施した。具体的な情報・データの収集方法は、以下のとおりである。

(1) 既存資料のレビューと分析

当該事業に関する以下の資料をレビューし、分析に活用した。

- ・「地方行政強化を通じた流域管理向上プロジェクト(PWMLGP)」詳細計画策定調査及び事業事前評価表
- ・「PWMLGP プロジェクト」中間レビュー報告書
- ・プロジェクト実績表（プロジェクト投入実績表、C/P 配置表等）
- ・業務完了報告書（第1年次～第4年次）
- ・プロジェクト関連資料（討議議事録（R/D）、PDM、PO）
- ・その他プロジェクト作成資料（ベースライン調査報告書、詳細調査報告書、JCC 資料、プロジェクト冊子、オペレーショナル・ガイドライン、研修パッケージをはじめ、プロジェクトの成果品他）
- ・プロジェクトを巡る関係機関連図
- ・プロジェクトの HP
- ・プロジェクト関係者（専門家及び C/P）作成による終了時評価用準備資料

⁴ ちなみに、PDM（Version 1.8）は2011年5月12日の第2回JCCで承認されている。

- ・「対ネパール国国別援助方針」(英文)
- ・「対ネパール連邦民主共和国事業展開計画」(2013年5月)
- ・「ネパール国 地方行政情報収集・確認調査報告書」(2013年3月)
- ・「キャパシティ・ディベロップメントに関する事例分析 - ネパール森林分野協力の経験分析」(2006年3月)

(2) 事業関係者への質問票(アンケート)調査

現地調査に先立ち、評価分析を担当する団員が、C/Pに対して、プロジェクトの実績、実施プロセス、評価5項目に関する質問票を作成した(プロジェクト実施機関のマネジャークラス及びC/P=MoFSC、DSCWM、MoFALDそれにDSCO職員に対する質問票作成)。評価分析団員の派遣直前に現地に送付したこともあり、同団員の現地調査開始前に回答を得ることは難しく、訪問時に回収ないしインタビューを行った。

また日本人専門家に対しては、専門家が取りまとめた投入実績や終了時評価用資料をはじめ、プロジェクト作成資料を基に、メールを用いてプロジェクト活動内容の確認や不明な点などの質疑応答を行なった。

2-1-2 プロジェクト関係者との面談、インタビュー

現地調査中は、C/P及び日本人専門家さらにプロジェクト関係者に面会し、事前入手資料や上記質問票、メールから得られない情報の補完的な収集に努めるとともに、プロジェクトに対する意見や提案を収集した。

本プロジェクトの達成度や成果を捉える上で、プロジェクト側からプロジェクト活動進捗にかかる詳細な報告を受けるとともに、相手国関係機関、日本人専門家、その他ターゲットグループ(DSCO、LDO、VDC、WCC、モチベーター、POWERグループ、対象地域住民等)、さらにさまざまなプロジェクト関係者(LGCDPプログラムのマネジャーや担当者、現地に配置されているソーシャル・モビライザー等)に対し、インタビューを実施するとともに、プロジェクトで支援した対象地域、さらに、ネパール側主導で実施中のサビハ・モデル複製事業実施地域の現場をいくつかを訪問視察した。

2-1-3 合同調整委員会への報告

上記の調査結果を日本・ネパール国双方の合同評価チーム内で評価5項目に沿って詳細に検討し、合同評価調査報告書(Joint Evaluation Report)(英文)(付属資料4)として取りまとめた。最終的に2014年4月18日に開催された合同調整委員会に提出し、結果報告、協議を行った。

なお署名者は日本国側(JICA評価団長)、並びにネパール国側3機関(MoFSC、DSCWM、MoFALD)であったが、当日、MoFALDの代表欠席もあり、委員会参加者からのコメントを反映する意味からも、ミニッツの署名・交換は後日行った。

2-2 評価5項目

項目	定義
妥当性 (Relevance)	プロジェクトの目指している効果(事業目標や上位目標)がターゲットグループのニーズに合致しているか、問題や課題の解決策として適切か、被援助国及び日本側の政

	策との整合性はあるか、プロジェクトの戦略・アプローチは妥当か、公的資金である政府開発援助（ODA）で実施する必要があるかなどといった「援助事業の正当性・必要性」を問う視点。
有効性 (Effectiveness)	事業の実施によりターゲットグループもしくは社会への便益がもたらされているのか（あるいは、もたらされる見込み）を問う視点。事業目標は達成される見込みか、それは当該事業の成果の結果もたらされる見込みか、目標に至るまでの外部条件の影響はあるか、有効性を貢献・阻害する要因は何か等を分析する。
効 率 性 (Efficiency)	主に事業コストと効果の関係に着目し、資源が有効に活用されているか（あるいは、されるか）を問う視点。プロジェクト目標の達成度はコスト（投入）に見合うか、より低いコストで達成する代替手段はなかったか、実施プロセスの効率性を阻害・促進する要因は何か等を分析する。
インパクト (Impact)	当該事業の実施によりもたらされる、より長期的、間接的効果や波及効果（上位目標の達成度を含む）を見る視点。予期していなかった正・負の効果・影響を含む。
持続性 (Sustainability)	政策・制度面、組織・財政面、技術面、社会・文化・環境面、総合的自立発展性等において、援助が終了しても当該事業で発現した効果が持続しているか（あるいは、持続の見込みはあるか）を問う視点。

<JICA 側評価調査メンバー>

役割	氏 名	所属
団長/総括	藤井 智	JICA ネパール事務所次長
評価企画	北松 祐香	JICA ネパール事務所所員
評価・コーディネート	Mr. Nama Raj Adhikari	JICA ネパール事務所ナショナルスタッフ
評価分析	松本 彰	A&M コンサルタント有限会社 代表取締役

<ネパール側評価調査メンバー>

氏 名	所属
Mr. Chhabiraman Bhattarai	MoFALD 外国援助調整局 担当官
Ms. Uma Paudel	MoFSC モニタリング局 副担当官

第3章 プロジェクトの実績

3-1 投入実績

3-1-1 日本側

(1) 専門家派遣

本プロジェクトには次の各分野(6分野)のシャトル型専門家累計7名が派遣されている。

①総括/流域管理、②地方行政/複製支援、③住民参加/副総括、④組織強化/業務調整(累計3名)、⑤詳細調査(In-depth調査)、⑥ジェンダー主流化(POWER主流化)。

1年次から5年次合計は終了時評価時点(2014年3月末時点)では103MM(うち現地96.8MM/国内6.2MM)である。なお、本プロジェクトでは短期専門家は派遣されていない。

(2) 機材供与

本プロジェクトでは、1年次に、カトマンズ及びポカラのプロジェクト事務所にパソコン、プリンター、無停電電源装置をはじめ事務用品を購入、設置した。またDSCOの業務支援に伴うパソコン、デジタルカメラなども購入した。総額は約462万円である(付属資料4. 終了時合同評価調査報告書(英文)ANNEX 6-1を参照のこと)。

(3) ローカルコスト

ローカルコスト負担は、一般業務費、ローカルスタッフ備上費(プロジェクトスタッフ、モチベーター:第1年次のみ)、ローカルNGO契約費(研修担当)、工事費(サブ・プロジェクト費)、会議費、報告書作成費として、1年次からこれまで合計で約3.8億ネパール・ルピーを支出した(表1参照:なお下記には機材費も含まれている一方、業務契約額中の直接経費分のみを計算したもの。日本からの人件費は含まれていない)。

表2 日本側予算によるローカルコスト負担額推移(Nrs.)

年度	2009/2010	2010/2011	2011/12	2012/13	2013/14:	総額
供与額	76,250,000	77,250,000	79,000,000	73,500,000	76,585,000	382,585,000

出所: PWMLGP

(4) 研修(本邦並びに第三国)

本プロジェクトでは、本来、第三国研修として、フィリピンの農村再開発国際研究所(International Institute of Rural Reconstruction: IIRR)にC/Pを派遣する予定であったが、2010年度の予算削減で延期された。その後、3年次(2012年2月)にタイの人々と森林センター(Center for People and Forests: RECOFTC)へ、本プロジェクトで1年以上勤務経験のあるDSCO技術者30名及びDSCO職員1名(監督同行)、計31名を派遣した。また翌年(2012年10月)及び5年次にも、RECOFTCとJICA本部との業務提携による一連の活動の一環として、各12名(4年次: MoFSCとMoFALDのオフィサー)、15名(5年次)を対象に研修が実施された。

また、国際会議「水と森林」シンポジウム2名参加や、本邦(里山: "SATOYAMA")研修(当プロジェクトからは2010年に1名、2011年及び2012年に各2名、2013年4名、計9名)

派遣した（付属資料 4. 合同評価調査報告書（英文）の ANNEX 6-2 を参照のこと）。

3-1-2 ネパール側

(1) プロジェクト要員

ネパール政府は、本プロジェクトの C/P として、プロジェクトディレクターに MoFSC 次官補、プロジェクトマネージャーに DSCWM 局長のほか、DSCWM 職員 2 名、MoFALD 課長 1 名、さらに対象 8 郡 DSCO 所長 8 名の計 13 名を任命している。なお DSCO 技術者は合計 39 名、またモチベーターは合計 34 名（2 年次以降）を配置している（なお、プロジェクト期間中、人事異動による交代あり）。

(2) 施設・設備の提供

ネパール政府はカトマンズ市内の DSCWM 内、及びポカラ DSCO 敷地内のプロジェクトオフィスに専門家執務、会議等のため提供するとともに、電気、水道、電話等の設置を提供している。

(3) ローカルコスト

DSCWM は下記の表の通り、2009/2010 年度以降、毎年、プロジェクトの対象郡、並びに独自で展開している郡（サビハ・モデル複製事業）の関連費を含め、約 4,600～6,300 万円を計上し、スタッフ雇用をはじめ、モチベーター雇用費（2 年次以降）、C/P の旅費、会議費、車両用燃料の車両燃料費用の一部を配賦している。1 年次からこれまで合計で約 2.65 億ネパール・ルピーであった（表 2 参照）。またサビハ・モデルの複製にかかり、工事費（サブ・プロジェクト費）の一部も予算化している。

表 3 ネパール政府予算によるローカルコスト負担額推移 (Nrs.)

年度	2009/2010	2010/2011	2011/12	2012/13	2013/14:	総額
供与額	46,921,000	47,092,000	57,742,000	50,056,000	63,760,000	265,571,000

出所：PWMLGP

3-2 活動の達成状況

すべての活動が、ほぼ活動計画表に沿って実施されている。

成果 1（対象郡の DSCO 職員の参加型流域管理事業の実施能力向上）のための活動	
プロジェクト開始時点の活動	・関係者（DSCO 所長、DSCO 技術者、モチベーター、VDC 事務所長）のジェンダー、社会的包摂、紛争軽減に関する認識を深めるため、プロジェクトでは「ジェンダー及び社会的包摂及び紛争に配慮した開発研修」を実施した。
1-1. サビハ・モデルの複製事業活動についてレビューを行う。	・プロジェクト開始後まもなく、プロジェクトは対象 8 郡を訪問し、複製事業の現状について確認した。また、DSCWM、DSCO 所長らとともにワークショップを開催し、今後のプロジェクト計画に関する確認や、日本人専門家から活動計画（PO）案の説明を行った

	<p>(2009年8～9月)。</p> <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトではDSCWM局長(プロジェクト・マネジャー)、JICA担当者、日本人専門家、DSCO所長とともに小流域に関する現状の共有、対象VDC及び区(ワード)の検討と決定、モチベーターの雇用条件について検討した(2009年9月)。 各種報告書の最終化がDSCWM局長、DSCO所長ら関係者とともに行われ(2009年11月)、プロジェクトの概要と活動計画が策定された[2009年12月第1回合同調整委員会(JCC)で承認済み]。 プロジェクトは、カスキ並びにパルバットDSCOにより作成されたOGを見直し、プロジェクト用のOG作成に生かした。 さらにプロジェクトでは、カスケード方式でOGについて説明会を実施。DSCO技術者とモチベーターからはVDC事務所長に対する1日ワークショップを通じ、プロジェクトの目標について説明を行った。
<p>1-2. DSCWM & DSCOの参加型流域管理事業のスキル及び専門能力の現状に対するベースライン調査を行い、研修ニーズを特定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現地コンサルタントへの委託により実施した(2010年2月)。ベースライン調査の結果、DSCO所長/職員とDSCO技術者は流域アプローチや地理情報システム(GIS)等の最新技術に関し、改善の余地があると判明した。またプロジェクトでは同調査結果をDSCWMと対象8郡のDSCO所長と共有を図り、彼らのコメントも受け取った。
<p>1-3. 1-1、1-2に基づき研修パッケージを開発する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ベースライン調査結果を基に6種の研修パッケージ(計6種:DSCOのC/P向けに4種、WCC/POWERグループ向けに2種)を作成した(研修資料は下記の通り、ネパール語化し、冊子として製本配布した)。 パッケージ① C/P向け Social Inclusion and Conflict Management in Development/ネパール語 パッケージ② 住民向け Social Inclusion and Conflict Management in Development/ネパール語 パッケージ③ C/P向け Community Development and Local Governance/ネパール語 パッケージ④ 住民向け Group Management and Institutional Development/ネパール語 パッケージ⑤ C/P向け Project Management/ネパール語 パッケージ⑥ C/P向け Resource Book for Soil Conservation -Basic Guide-/英語(Climatic Change、GIS、Basin Approach、Landslide Hazard)
<p>1-4. 1-3に基づきDSCO向けに研修を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトでは研修実績表で示した通り、さまざまな研修をDSCO所長、DSCO技術者、モチベーター、VDC事務所長等に対し、カスケード方式で実施した(DSCO所長には予算計画やPDM0に関する協議をワークショップ形式で実施した。他にも「コミュニティ開発

	と地方行政」や「最新技術動向」「参加型計画と地方行政」「GIS」に関する研修を実施した)。
1-5. 対象地域で参加型流域管理活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・2010年11月からサブ・プロジェクト実施を開始した。 ・1年次はバグルン、パルバッド郡で合計42のサブ・プロジェクトを実施した。 ・2年次以降は8郡34VDCで306件のWCCサブ・プロジェクトとPOWER活動の計612件の事業を実施した。 ・活動内容では、サブ・プロジェクトでは水源保全関連が最も多く、特にPOWER活動ではヤギ飼養をはじめ畜産系が最も多くの割合を占めていた〔付属資料4. 合同評価調査報告書(英文) ANNEX 9、10参照〕。なお便益者の総計は、戸数で、29,500、人口で11万人を超えている(男女の割合はほぼ同率)。
1-6. DSCO職員に対し技術開発研修/技術移転を海外で行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトのDSCO技術者及びDSCO職員をタイのRECOFTCに派遣した〔投入実績を参照、また付属資料4. 合同評価調査報告書(英文) ANNEX 6-2〕。
1-7. 結果共有ワークショップを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の中央レベルのセミナーは2012年5月に開催し、プロジェクト活動の進捗の共有やサビハ・モデルの波及につき説明した。 ・また2013年12月には、サビハ・モデルの波及やプロジェクトで推進してきたツールにつきセミナーを開催した。最終のセミナーは2014年5月に実施予定である。
成果2(対象地域住民の参加型流域管理事業と地方行政に関わる能力強化)のための活動状況	
2-1. WCCとPOWERグループを形成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次よりDSCO技術者とモチベーターはWCCとPOWERグループ選出のための村全体によるワークショップを開始し、2年次までには、計画通り306のWCCとPOWERグループが形成された。
2-2. コミュニティ資源管理目標、地域資源管理計画、年間活動計画を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・選出されたWCCメンバーが中心となり、自分たちの資源、問題、将来あるべき姿について話し合い、コミュニティ資源管理目標としてまとめた。さらに、計画策定として、長期計画CBRMP、3カ年の中期計画としてCRMP、またAAPを策定した。 ・2年次以降、各年、CRMPの改訂・再策定、さらに新規のAAPの取りまとめを行った。
2-3. コミュニティ資源管理目標、地域資源管理計画、年間活動計画を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・AAPに基づき、WCCはサブ・プロジェクト、POWERグループ活動を実施した。
2-4. 1-3に基づき地域住民対象に研修を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・モチベーターをはじめ、対象8郡のWCC、POWERグループを対象に研修を実施した。「グループ・マネジメントと組織開発」では、研修受講者は651名に及んだ。〔付属資料4. 合同評価調査報告書(英文) ANNEX 6-2参照〕。
2-5. ワークショップ/	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ、現地視察(Exposure Visit)は4、5年次に実施し、

Exposure/ OJT を地域住民向けに行う。	<p>総数 1,069 人が参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なお、OJT はサブ・プロジェクト実施中すべてのプロセスを通じて行っている（例えば、普及チームは DSCO 所長、DSCO 職員、プロジェクトスタッフで構成され、DSCO、DSCO 技術者が行う月例会議や研修に参画した際、またサブ・プロジェクトの工事中や完工後に現地視察に訪れた際に、OJT を基本に技術指導した）。
2-6. WCC 活動に関する自己評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・WCC 向けの自己評価ワークショップは各 WCC で 3 回、実施した。5 年次の末までに 4 回目を実施予定である。
成果 3 [地方行政ラインに基づいた参加型流域管理事業の実施体制（VDC、DDC、WCC 等の連携）強化] のための活動状況	
3-1. VDC レベルのワークショップを VDC との連携で行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・1 年次には、プロジェクトは VDC 向けのワークショップを通じて、プロジェクトの目的を説明し、プロジェクト実施に関する合意の取り付けを行った。ワークショップでは、DSCO と DDC/VDC の連携に焦点を当て、プロジェクトの融資にかかる選定基準や VDC の予算配分プロセス等について討議がなされた。 ・4 年次には 8 郡すべてにおいて、VDC 間の円滑な調整並びに連携を図るため、VDC レベルの交流ワークショップを実施した。 ・5 年次にも、8 郡対象に、プロジェクトの 5 年間の活動を振り返るため、VDC レベルの連携促進ワークショップを実施予定である（2014 年 3 月から開始しており、順次各 VDC で実施中である）。
3-2. コミュニティ資源管理目標、地域資源管理計画、年間活動計画を提出する。	<ul style="list-style-type: none"> ・AAP 作成後（上記 2-2）、WCC は DSCO に土壌保全と流域管理に関する要望書を提出する一方、POWER グループは生計向上に焦点を当てている。このプロセスは 5 年次を含め計 4 サイクル反復し実施されている。
3-3. WCC、POWER グループの相互交流プログラムを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・VDC レベルの交流ワークショップは 1 年次、さらに 4 年、5 年次に実施している。
3-4. 郡の Working Committee Meeting/ワークショップを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・関係セクター省庁の地方事務所や地方組織との相互連携促進のため、プロジェクトは DWC を対象郡で定期的開催（3 年次以降、年 2 回開催）した。 ・DSCO 所長が DDC 等でプロジェクト関係情報の共有を図ったことから、更なる連携が関係機関から得られることとなった。
3-5. WCC/POWER/VDC 向けに地方自治に関する研修を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・モチベーター、VDC 事務所長、WCC、POWER グループメンバーに対して下記の研修を実施 [付属資料 4. 合同評価調査報告書（英文）ANNEX 6-2 参照]。 <p>1 年次：「ジェンダー・社会的包摂及び紛争に配慮した開発」</p> <p>2 年次：「村落開発と地方行政」（モチベーター向け）+ 「グループ・マネジメントと組織開発」（WCC、POWER グループ向け）</p> <p>3 年次：「参加型計画作りと地方行政」（モチベーター、VDC 事務所長</p>

	<p>向け)</p> <p>4年次：「地方行政」(VDC向け)</p> <p>5年次：基金運用/ 主流化研修 (POWER グループ向け)</p>
3-6. WCC の公聴会を開く。	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトは各 WCC における公聴会をこれまでに 3 回実施し、5 年次終了までに 4 回目を実施する運びである。
3-7. VDC レベルの WCC ネットワークを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> WCC ネットワークは WCC 委員長と VDC 事務長で構成され、2014 年 3 月 20 日時点で、34 の VDC 中 26 VDC において形成され、何らかの活動が行われている (この WCC ネットワークは区 (ワード) の枠を超えて、区 (ワード) 毎、区 (ワード) 別では解決できない、流域管理をはじめ横断的な課題や対処の必要性から、複数の WCC 同士で連携し、VDC レベルで行われる連携を指す)。
成果 4 (サビハ・モデルの内在化が促進される。)	
4-1. 出口戦略ワーキンググループを組織化し、土壌保全・流域管理局内にサビハ・モデルを内在化するための戦略を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトは「出口戦略ワーキンググループ (ESWG)」を組織し、DSCWM におけるサビハ・モデルの主流化に向けての開発戦略である「出口戦略」は最終化され、終了時評価調査時 (4 月 20 日) 現在、省内の承認プロセス中である。
4-2. 複製活動実態調査を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 複製活動の実態把握と DSCWM としてモデルの成果を今後どう活用していくか検討する ESWG に教訓を共有する目的で、複製活動実態把握調査をプロジェクトで実施した。
4-3. In-depth 調査を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> サビハ・モデルの歴史の整理、現行のサビハ・モデルの実施上の問題点、サビハ・モデルの哲学がどの程度現場で実施されているかを分析し、ESWG へ提案する目的で「In-depth 調査」をプロジェクトで実施した。
4-4. 複製活動地域とサビハ対象地域以外郡対象に研修を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 1 年次：「社会的包摂」研修を実施した。(複製活動を実施しているモチベーター、VDC 事務所長等も出席した。) 2 年次：「コミュニティ開発と地方行政」研修を実施した。(複製活動を実施しているモチベーターも出席した。) 3 年次：「参加型計画と地方行政」研修を実施した。(複製活動を実施しているモチベーター向けに別途実施した。) 4 年次：「地方行政」研修を実施した。(複製活動を実施しているモチベーターも参加した)。さらに新規複製活動郡である Palpa 郡、Gulmi 郡、Arghakhanchi 郡の 3 郡と、大統領チュレ保全プログラムの活動郡である 10 郡、計 13 郡の DSCO 所長を対象に「サビハ研修」(チュレ事業にサビハ・モデルを導入させる考えを共有した上で、そのニーズや可能性の議論を深める討議形式の研修) も実施した。(2013 年 1 月の 3 日間) 5 年次：「サビハ研修」を実施した (複製活動郡の新任モチベーター

	向け)。全国の全 56 DSCO 所長を対象にした「サビハ研修」を 4 月 22、23 日に実施予定である。
4-5. 土壌保全省保全・流域管理局に引き継ぐ OG を改訂する。	・ 8 郡の DSCO 所長からのコメントを基に、OG を改訂し、OG の視聴覚 DVD も作成中である（手順、技術編）。OG 最終版は DSCWM の承認を受け印刷作業中である（今後、全国セミナーでも同 OG を配布予定となっている）。

3-3 成果の達成状況

PDM 2.0 版で示された指標に基づく成果の達成状況は以下のとおりである。

<p>成果 1 :</p> <p>対象郡の DSCO 職員 の参加型流域管理事 業の実施能力が向上 する。</p> <p>「達成された」</p>	<p>指標 :</p> <p>1-1) 参加型流域管理研修、ワークショップに参加した DSCO と DSCO 技 術者の数。</p> <p>1-2) 研修に参加した 80% の DSCO 職員が改良した参加型流域管理に関 し理解する。</p>
	<p>これまでに、参加型流域管理研修、ワークショップは計 15 回開催（第 三国研修 1 回を含む）しており、同研修に参加したのは、DSCO 48 名と DSCO 技術者 256 名である〔付属資料 4. 合同評価調査報告書（英文） ANNEX 8-1 参照⁵〕。対象 8 郡の職員数が平均で合計 5 名程度であるの に対し、異動等を踏まえても、対象郡の DSCO 及び DSCO 技術者に対する 研修機会は十分に確保された。指標 1-1 で求められている研修名と参加者 人数は表 4 の通りである。</p> <p>また、上述の研修のうち 6 つの研修において、プロジェクトは研修前 後にテストを実施したところ、正答率が 45.7% から 76% に上昇した。こ のことから、プロジェクトは指標 1-2 で示した目標をほぼ達成したとい える。</p>
	<p>1-3) 306 (100%) の WCC で改良した参加型流域管理が行われる。</p>
	<p>2010 年 11 月からサブ・プロジェクトを開始し、これまで 3 連続年が 完了しており、合計 612 のサブ・プロジェクトと POWER 活動が 306 す べての WCC により実施されている。したがって、指標 1-3 は既に達成 されたといえる。</p>

⁵ 同一人物のカウント含む。

表4 これまでのDSCO/DSCO技術員向け研修実績

アウトプット1:対象地域のDSCOの参加型流域管理能力が向上する	指標 1-1		指標 1-2	
	参加型流域管理に係る研修、WSに参加したDSCOとDSCO-techの人数		参加型流域管理に係る研修/WSに参加したDSCO職員の80%が、"Improved participatory watershed management"を理解する	
	DSCO 職員	DSCO技術者	事前テスト(%)*	事後テスト(%)*
1)DSCO技術者向けOG説明会	2	27		
2) モチベーション向け「ジェンダー・社会的包摂および紛争に配慮した開発」研修	3	27	41.4	84.7
3)DSCO技術者向けコミュニティ開発と地方行政	0	13	50.2	66.2
4) プロジェクト管理研修	7	1	53.3	74.4
5) DSCO所長向けOJT研修	8	0		
6) プロジェクト管理研修	0	24		
7) 最新動向研修(GIS、流域アプローチ、気候変動)**	5	22	NA	80
8) 参加型計画と地方行政	2	30	35.4	78.9
9) GIS研修(基礎)	3	28	NA	Practiced
10) 参加型流域管理研修(タイ国)	1	30		
11) GIS研修(実践編)	0	8	NA	Practiced
12) 地方行政研修	3	27	48.4	72
13) GIS研修(実践編1)	5	6	NA	Practiced
14) GIS研修(実践編2)	4	7	NA	Practiced
15) GIS技術を活用した簡易ハザード・マップ作成(土砂崩れ危険度研修)	5	6	NA	Practiced
小計	48	256		
合計(人数)/平均点(%)		304	45.74	76.03

* 事前、事後とも、モチベーションやVDC事務長含め8郡の平均値
** GIS研修報告書を参照

<p>成果2： 対象地域住民の参加型流域管理事業と地方行政に関わる能力が強化される。</p> <p>「達成された」</p>	<p>指標：</p> <p>2-1) 50%のWCCが参加型流域管理と地方行政の概念を理解する。</p> <p>WCCによる自己評価では、1) グループ管理、2) 地域資源管理、3) 調整と連携、4) 地方行政、5) 能力開発、の5つの指標が定められている(Spider-web手法という住民自身が参加型評価するもの)。調査団は、これまでに3年間の評価結果で、指標2-1の達成を60点(上記5つの指標で取得できる最高点)中、40点以上を得たWCCの割合を以って判断することとした。</p> <p>その結果、全WCCが1事業サイクルを終了した1年次末時点における自己評価では、306WCCのうち107のWCC(35%)が60点満点中、40点以上を獲得、その後、2年次時点では251のWCC(82%)、3年次時点では260のWCC(85%)と年を追うごとに高くなっており、目標指標の50%を大きく超えていることから、調査団は、WCCが参加型流域管理と地方行政の概念を理解したと判断した。</p>
	<p>2-2) 75%のWCCが自らの組織能力を向上させる。</p>
	<p>1~3年次の306WCCによる自己評価結果の平均を見ると(1年次と3</p>

	<p>年次を比較)、1) グループ管理：7.4→ 9.6 点、2) 地域資源管理：8.9 → 9.7 点、3) 調整と連携：5.1→ 7.3 点、4) 地方行政：8.4 →9.9 点、5) 能力開発：7.4 →9.2 点であった（各 12 点満点）。</p> <p>本調査では上記 5 つの指標のうち、特に 1)、3)、5) を組織能力の向上に関するベースラインと捉えており、自己評価の結果、平均的な自己評価が（100%を最高として）70%を大きく超えている。さらに、1 年次と 3 年次の結果を比べると、1)、3)、5) それぞれ、15～18%と向上しており、かなり評価が高くなっている。また、VDC 単位では、34 VDC のうち、32 VDC が過去 3 回の評価の中で自己評価スコアを向上させていることから、これらの条件を踏まえ、同指標は達成されたものと判断した〔付属資料 4. 合同評価調査報告書（英文）別添表 8-2 参照〕。</p>
	<p>2-3) 少なくとも 1,500 件のサブ・プロジェクトが 3 年間で実施される（プロジェクト支援と VDC/DDC 協調を含む）。</p>
	<p>2010 年 11 月からサブ・プロジェクト事業が開始され、水源保全、灌漑施設改修、歩道整備、地滑り管理など、さまざまな事業支援が行われてきた。1 年次は 42 件、2 年次以降これまで各年 300 件近くのサブ・プロジェクト支援を実施した（4 年間で計 980 件）。一方、POWER 活動も 2 年次以降、ヤギ飼育をはじめ、ショウガ、ジャガイモ栽培など生計向上活動を毎年 300 件以上支援が行われており、計 1,040 件が実施されており、総計 2,020 件のサブ・プロジェクト及び POWER 活動が実施された〔付属資料 4. 合同評価調査報告書（英文）ANNEX 9、10 参照〕。</p>

<p>成果 3： 地方行政ラインに基づき、参加型流域管理事業の実施体制（VDC、DDC、WCC 等の連携）が強化される。</p> <p>「達成された」</p>	<p>指標： 3-1) 75%の研修参加者が参加型流域管理における地方行政の概念を理解する。</p>
	<p>「地方行政」に関する研修は、対象 8 郡の DSCO、モチベーター、VDC 事務所長等向けに幾度も実施され、同研修で実施した事前・事後のテスト結果はどの研修も著しくスコアを上げている。また、上記 2-1 及び 2-2 での Spider-web 手法活用の自己評価中、4) 地方行政の指標でも、1 年次は 8.4 点（12 点満点に対する 70.0%）から、2 年次 9.5 点（同 79.2%）、3 年次 9.9 点（同 82.5%）とスコアが年々改善しており、少なくとも研修受講生並びに WCC メンバーの地方行政の概念の理解は深まったと分析した。よって、調査団は、指標 3-1 は達成されたと判断する。</p>
	<p>3-2) 80%の WCC が公聴会を行う。</p>
	<p>すべての WCC が公聴会を既に実施しており、数値目標は達成した。プロジェクトは DWC 会合を対象郡で定期的開催（2 年次以降、年 2 回開催）している。</p>
	<p>3-3) 少なくとも年 1 回は郡の DWC、ワークショップが開かれる。 プロジェクトでは全対象 8 郡に対し、毎年、DWC 開催を支援し、2 年</p>

	次以降、プロジェクト活動に関する情報の共有のみならず、現場レベルの地方組織の情報をシェアし、将来に向けての具体的な連携に関する協議、調整の場とするため、年2回開催されている。
--	---

<p>成果4： サビハ・モデルの内 在化が促進される。</p> <p>「ほぼ達成された」</p>	<p>指標：</p> <p>4-1) 土壤保全・流域管理局が改訂版 OG を承認する。</p>
	<p>8 郡の DSCO 所長からのコメントを基に、OG は既に改訂し、最終的に DSCWM に引き渡す計画となっている（既に DSCWM 長官が Preface を書き、部内では承認されており、今後、印刷作業の後、関係者に配布予定である）。</p>
	<p>4-2) 地方行政強化を通じた流域管理に向けた SABIHAA モデルの組織化に関する合同文書が交わされる。</p>
	<p>4 年次（2012 年 12 月）に、MoFSC/DSCWM と MoFALD の両者は WCC/POWER と WCF/CAC が協働でさまざまな活動を行うべく連携を進めていくことで合同のメモランダムを作成し、両者で調印を行った（2012 年 12 月 26 日署名）。なお、この合意書の写しはプロジェクト対象外でサビハ・モデルの複製活動を実施中の 3 郡を含む 11 郡の LDO と DSCO に発出されている。</p>
	<p>4-3) DSCO 所長の 75%がサビハ・モデルのコンセプトを理解する。</p> <p>サビハ・モデルの基本概念は何度も DSCO に対し、4 年次、5 年次とさまざまな機会でも説明を行ってきている。また視聴覚 DVD として、広報ビデオ、OG、リソースブック、プロジェクト紹介ブックレット（Mid-term Report on Achievement and Lesson Learnt）等をすべての DSCO に対して 2014 年 2 月の会合で配布した。さらに、今年 4 月下旬頃には、これまでサビハ・モデルに関連する活動従事者の経験がない、ないし研修受講歴のない DSCO 所長 30 名を主対象として、サビハ研修も実施予定である（ネパール側の要望により、その他、着任間もない DSCO をはじめ、参加者はさらに増える計画となっている）。以上のことから、対象 8 郡において本プロジェクトに関与した DSCO 所長に加え（異動等により、計 24 名）、更に 30 名に対するサビハ研修が実施されたことから、全国 61 カ所に配置されている DSCO 所長のサビハ・モデルの理解は浸透しつつあると判断される。</p>

なお、プロジェクトによる便益（受益）者は表4の通り、計11.5万人を上回っており、対象としたVDCの総人口の約75%がプロジェクトからの何らかの便益を受けたと考えられる。またプロジェクトの受益者には、ジャナジャティ（Janajati：先住/少数民族）や、ダリット（Dalit：職業カースト）も含まれている⁶。

表5 プロジェクトによる受益者

⁶ ネパールのカースト制では、上級カーストとしてインド・アーリア系のパファン、次にチェトリ、第3位にマトワリ、そしてカースト制度の外に位置づけられた最下位層（不浄階層）として、ナチュネ（ダリット）がある。

Table: Number of Beneficiaries Population and Household in District wise										
District	No of Target VDC	Population (2008) or (2010/2011)	Beneficiaries /Population (%)	Beneficiaries Population			Beneficiaries Household			
				Male	Female	Total	Janajati	Dalit	Others	Total
Kavre	7	32,949	82.77	12,959	14,314	27,273	3,639	730	3,424	7,793
Sindhupalchowk	4	15,707	98.48	8,571	6,897	15,468	1,748	205	1,069	3,022
Kaski	6	26,460	63.58	8,504	8,319	16,823	1,075	1,365	2,680	5,120
Tanahun	3	36,433	23.33	4,121	4,377	8,498	1,958	718	1,555	4,231
Parbat	4	NA	NA	7,894	7,780	15,674	279	390	1,092	1,761
Myagdi	3	7,052	78.23	2,581	2,936	5,517	519	423	603	1,545
Syangja	3	14,067	59.66	4,071	4,321	8,392	965	312	998	2,275
Baglung	4	21,271	84.46	8,917	9,049	17,966	688	768	2,297	3,753
Total	34	153,939	75.10	57,618	57,993	115,611	10,871	4,911	13,718	29,500
							15,782			

Source: PWMLGP and VDC's Profile of Nepal, Intensive Study & Research Center, 2008, Profile of Nepal, 2010/2012, Mega Publication & Research Center

3-4 プロジェクト目標の達成状況

本プロジェクト目標は「プロジェクト対象 8 郡において、暫定地方自治体と DSCO の協働による参加型流域管理事業が実施される。」であった。いずれの指標も現時点で満たされており、プロジェクト終了までにプロジェクト目標は達成される見込みである。

指標 1) 地域資源管理計画で示されたサブ・プロジェクトのうち少なくとも 5%が地域組織や他機関との協調融資・連携で実施される。	WCC は VDC あるいは他の関係機関からも予算獲得を模索し、3 連続年中、3 年次、4 年次では、各年 100 カ所以上の WCC (全体の 30%以上) で財政支援を受け取っている (協調融資等の資金のみならず、研修や“資材”での支援も含む)。 このように、既にサブ・プロジェクトが DDC/VDC の協調融資/連携により実施されており、プロジェクト目標の指標は達成されたと判断した [付属資料 4. 合同評価調査報告書 (英文) ANNEX 11: List of Collaboration 参照]。
指標 2) 全 8 郡の DSCO と DDC により合同モニタリング評価が実施される。	プロジェクトでは、DWC の会合等を利用し、対象 8 カ所すべての対象郡で合同モニタリング評価を DSCO と DDC により実施済みである。なお、サブ・プロジェクトの進捗や成果は“活動プロファイル (Activity Profile)”として集約され、記録として残されている。

3-5 上位目標の達成状況

本プロジェクトの「上位目標」は、「MoFSC と MoFALD のイニシアティブにより、プロジェクト対象以外の郡において暫定地方自治体と DSCO の協働による参加型流域管理事業が適用される。」であった。なお、上位目標は本来、プロジェクト終了後 3 年を目処に達成が見込まれる目標であるが、以下に示すとおり、DSCWM では、上位目標の達成に向けて活動が展開されている。

指標： 改良された参加型流域管理事業が土壌保全流域管理プログラムに適用さ	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトでは、OG の改訂版を用いて、DSCWM 内にサビハ・モデルを主流化させる戦略策定に着手しており、自分たちの手でサビハ・モデルを主体とした活動を継続のみならず、展開してきている。 改訂 OG が DSCWM によって最終的に承認され、またサビハ・モデル推進の予算が確保されることで、プロジェクトの上位目標が達成されること
---	---

れる。	<p>が期待できる。</p> <p>・なお、DSCWM はサビハ・モデルの実践に係り、本プロジェクトの対象8郡中、プロジェクトでカバーされていない地域、さらにはプロジェクト対象地域外の郡にも予算を配分し、サビハ・モデル複製事業を実施している（DSCWM 独自の予算及び実施体制による）。なお現行、DSCWM 独自の予算及び実施体制の下、実施されているサビハ・モデル複製事業では、サブ・プロジェクトの予算枠やモチベーターの選定基準や配置をはじめ、予算や人材の制約で「ローカル・ルール」が適用されているものの、基本的には同じ事業を展開している。より効率的で効果的なモデルの実践のため、改良されたOGを配布し、執務参考資料としての活用を始め、関係者の理解推進による「サビハ・モデル」の波及、展開が期待される。</p>
-----	---

3-6 実施プロセス

3-6-1 プロジェクトのモニタリングシステム

プロジェクトでは、以下のとおり、実施機関の上層部から現場レベルまで系統だったモニタリングシステムを確立している。

(1) JCC (1 回/年)

プロジェクトの意思決定最高機関としてJCCは、これまで計7回（本終了時評価を踏まえて開催された会合を含む）開催されている。

回数	開催日時	主な議題や会議結果
第1回	2009年12月開催	<p>以下の点について検討、承認を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.プロジェクトの背景と概要 2.実施方法 3.MoFALD との連携 4. PDM 0 の改訂を含むプロジェクトの詳細計画内容 5.インセプション・レポートの承認
第2回	2011年5月開催	プロジェクト進捗の把握、PDM 1.8 版の承認、債務救済基金のサビハ・モデル複製事業への適用に関する検討
第3回	2012年2月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト活動の進捗報告 ・中間レビュー評価結果の発表、共有、協議
第4回	2012年9月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの進捗状況（チーフアドバイザー） ・第4年次の活動内容（C/P/デスク・オフィサー） ・出口戦略WGの進捗状況（計画課長） ・意見交換 <p>*新任のMoFSC次官のK.C. Paudel博士が議長</p>
第5回	2013年6月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・第4年次の進捗報告（計画課長） ・出口戦略WGの戦略案の説明（計画課長） ・第5年次の活動内容案説明（チーフ・アドバイザー）

		<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換 *Paudel 次官が JCC 前日に異動となり、PWMLGP の Project Director である Harihar Sigdel 氏 (MoFSC、Foreign Aid Division の Chief) が議長
第 6 回	2013 年 9 月 24 日	<ul style="list-style-type: none"> ・第 5 年次の活動内容案の説明 ・出口戦略 WG の戦略案の説明 ・意見交換 *新任次官の Ganesh Josh 博士が議長
第 7 回	2014 年 4 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト活動の進捗報告 ・終了時評価果の発表、共有、協議 *なお、PDM 改訂等については、後述するとおり、2014 年 3 月に合意ミニッツ署名済み
第 8 回	2014 年 7 月 予定 (最終)	<ul style="list-style-type: none"> (仮議題) ・プロジェクトの最終報告 ・サビハ・モデル複製事業の実施と来年度計画の発表 ・その他

(2) DWC (年 1 回、3 年次以降は 2 回/年)

DDC の LDO により取り仕切られる DWC は活動のレビューや関係機関との連携を図るため各郡に設置されている。第 1 回会合では、7 カ所の DWC でプロジェクトの実施が確認され、カブレ郡では 2012 年 1 月に同会合が実施された。また当初は郡レベルの政府機関が主な参加者だったが、3 年次から VDC 事務所長も VDC との連携促進を見込んで参加者に加えたり、2 回のうち、1 回は現場訪問を組み入れるなどしている。

(3) 月例会議 (1 回/月)

DSCO は月例会議 (DSCWM による開催) を実施し、DSCO 所長、職員、DSCO 技術者、モチベーターが一同に会し、各担当 VDC の進捗や課題について情報を共有している。プロジェクトも同会議には定期的に出席し、現場の最新情報を得るとともに、プロジェクト側からも情報を提供している。

(4) サブ・プロジェクトのモニタリングと評価

サブ・プロジェクトのモニタリングはモチベーターと DSCO 技術者により行われ、毎月の月例会議の場等を通じて DSCO 所長に対し、報告がなされている。WCC は自己評価や公聴会を DSCO 技術者とモチベーターの支援を受けつつ実施し、その経験や情報を地域住民と共有している。なお自己評価活動については、DWC でも報告がなされている。

(5) プロジェクトメンバーによる自己評価

DSCWM 職員、DSCO 職員、及び日本人専門家も自己評価を通じて、これまでのプロジェクト活動を振り返り、持続性に関する協議を行い、JCC での議論や出口戦略への反映を行っている。

3-6-2 PDM の改訂

PDM（最新版はPDM 2.0）はプロジェクト並びにネパール側 C/P により必要な改訂がなされている。これまで大きな改訂は2回あった。

(1) 第2回 JCC にて正式に承認（2011年5月）

PDM 0 から PDM 1.8 への主な変更点は以下のとおりである。

- (i) プロジェクト目標と成果がより明確に表現され、指標に目標値が設定された。
- (ii) PDM 1.8 では、住民の成果をより明確に示す成果2を新たに設置した。

(2) ネパール側と日本側で協議し合意（2014年3月）

新政府発足、森林省新大臣の着任に伴う次官の多忙等で JCC の開催及び PDM の承認はできなかったが、JCC 合意と同等のものとして、双方合意のミニッツを署名した（2014年3月：署名者は、MoFSC、DSCWM、MoFALD 及び JICA 事務所の4者）。

PDM 1.8 から PDM 2.0 への主な変更点は以下のとおりである。

- (i) 新たに成果4を追加（さらに同指標と指標の入手手段も記載）
- (ii) 活動4を追加

3-6-3 プロジェクトのアプローチ/技術移転

(1) プロセスを重視したプロジェクトのアプローチ

プロジェクトでは、すべての活動のプロセスをトレーニングとして捉え、カスケード方式を通じて DSCO 所長、職員、DSCO 技術者、モチベーターは、プロジェクトで得た新しい技術や知識を、WCC や POWER グループに OJT、ないし指導して伝えている。WCC も CRMP 策定、実施、自己評価という一連の活動を OJT として行っている。

(2) 社会的包摂の配慮

ネパール社会の多様性を考慮し、プロジェクトは社会的包摂アプローチを採用している。その結果、女性、ジャナジャティ、ダリット等、さまざまな民族グループがサブ・プロジェクトや POWER 活動に参加が可能となっている。

一方、現場での活動は DSCO をはじめネパール側を主体とし、かつプロジェクトで雇用の現地スタッフが補佐役として、調整、監督を行っていることから、プロジェクトの日本人専門家は主に、土壌保全（蛇カゴ壁の建設やガリ・コントロール等）に関する技術を普及チーム（DSCO 所長/職員、DSCO 技術者、モチベーターにより構成）に移転することや、また、プロジェクト管理、定期的な予算モニタリング、地域での会合でのファシリテーション等の管理技術を逐次移転してきている。

(3) 専門家による技術移転

日本人専門家はプロジェクト実施中、個々の専門性を活かして、さまざまな分野で各専門家が個別の技術指導を行うとともに、プロジェクトの運営管理、予算モニター、地域での会合開催にかかる仲介や調整など、必要に応じてさまざまな指導、支援を行ってきている。

第4章 評価結果（5項目ごとのレビュー結果）

4-1 妥当性

本プロジェクトの開始以降、ネパール側の政策及び日本側の援助方針において、土壌保全・流域管理をはじめ、自然環境保全を包括するコミュニティ開発、並びに地方行政にかかる支援政策、計画に大きな変更はなく、本プロジェクトの妥当性は維持されている。さらに受益者のニーズも高く、受益者のニーズに的確に応えるためにも、地方行政強化にかかるネパール関係機関/者の能力強化の重要性は高い。

（1）ネパール国家政策・事業との合致

本件は、ネパール政府の政策、戦略方針に沿ったものであることが以下の事項からも明らかである。

- ① 土壌保全流域管理国家計画（Log frame Programme, MoFSC, 2007年～2025年）のもと、流域管理プログラムを小流域アプローチにより実施するとの政策が明記されており、本件はDSCWMが優先指定する小流域において土壌保全活動を実施している点においてもDSCWMの政策方針と合致している。さらに同プログラムでは、住民をはじめ、関係者の能力開発が重要課題として掲げられている（DSCWMの通常業務活動については表6を参照）。
- ② MoFSCは、本件を国家事業（優先第1位グループ）として位置づけており、サビハ・モデル複製事業は2006年からDSCWMの経常予算項目に含まれている。
- ③ MoFALDは、DDCとVDCを通じた社会的包摂（SI）と地域開発のための地方行政システムの改善を図ることを目的とした国家事業（LGCDP）を実施しており、同LGCDPでは区（ワード）をプログラムの諸活動の最小単位とするアプローチを採用し、さらに透明性、説明責任を担保する参加型住民計画アプローチを基本とするなど、プロジェクトの実施構成の面においても、本プロジェクトとの整合性が保たれている（なおネパールにおける地方行政の概要は表6及び図1を参照）。

表6 ネパールの地方行政（概要）

ネパールの行政区分は、75郡、58市、3,915村から構成され、1999年に制定された地方自治法により、連邦・地方開発省（MoFALD：前・地方開発省）を含む地方自治の枠組みが規定されている。

しかし、2002年に実施された地方議会選挙を最後に地方選挙が実施されておらず⁷、地方議会が存在していない。よって、地方での開発事業も非効率のままで、地方自治体の人員・予算不足や各省出先機関との役割分担が不明確なこともあって、事業の実施、予算執行、透明性の確保、説明責任等において、地方行政が有効に機能していない。

一方、そのような状況においても分権化支援は継続され、1999年には住民の行政参加と地方自治発展のための地方自治体構築を目的とした地方自治法（Local Self Government Act：LSGA）が制定され（同法の改定が現在審議中）、同年、その細則として地方自治規則（Local Self Government Rules LSGR）が公布された。地方自治法の制定により、地方行政を主管するMoFALDの下に郡（District）が位置づけられ、国—郡—市／村—区（National/Central- District – Municipalities/ Village - Ward）という地方行政ラインの構造となった。ネパールの地方行政の組織構造は図1を参照のこと。

出所：「ネパール国地方行政情報収集・確認調査報告書2013年3月」及び終了時評価時の収集資料・インタビュー等により調査団作成

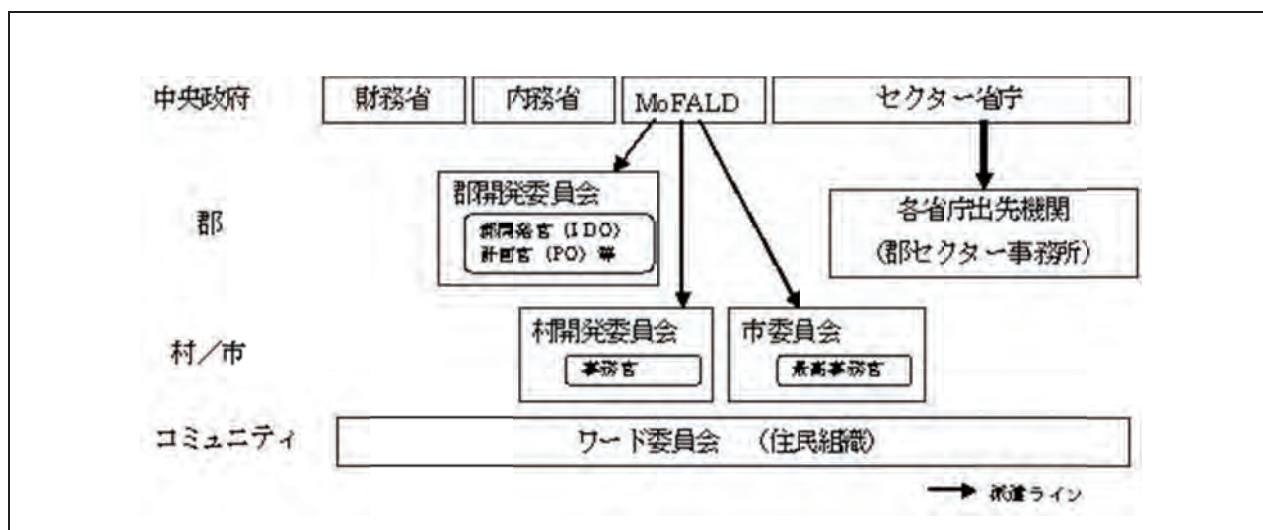


図1 ネパール地方行政の組織構造

（プロジェクトの支援によるサブ・プロジェクト活動との関連性について）




DSCOの通常業務として以下のような活動項目があり、それらはプロジェクト支援によるサブ・プロジェクトとして実施されている。ここでは、各活動がどのように「土壌保全」に結びついているか、その期待される効果や状況を概略する。

⁷ 地方選挙が開催されたものの、2002年からは、村議会議員を中心に構成される区（ワード）委員会も休止している。

表7 DSCWMの通常業務活動について

項目	活動内容	土壌保全上の効果
水源 保全	湧き水を集約して貯水する（タンク、 ため池など）	水資源の有効利用、損失防止、湧き水による侵食の 防止など。 
灌漑 改善	土壌崩壊等で破壊された（既設の）灌 漑施設の改修	土地生産力の維持/向上。 
のり 面保 護 /安定 化	道路開設に伴って、切土面への植栽（草 本、木本）や蛇籠（Gabion）による保 持など	のり面の崩壊、侵食の防止 

項目	活動内容	土壌保全上の効果
歩道整備	<p>土の歩道、特に斜面部分への石積み（補助的にコンクリート使用）による歩道の整備（崩壊した歩道↓）</p> 	<p>剥き出しの土の歩道のままであれば、降雨により、土が抉れて河川状となり、侵食が広く深くなっていく。石畳化して、排水路を設けることで、侵食の拡大を防ぐ。</p> 
土砂崩れ防止	<p>住居や農地の上下の土砂崩れの防止。主に蛇籠による保護</p>	<p>生活基盤（地盤）の保全</p> 

項目	活動内容	土壌保全上の効果
植 栽 工	水源周辺への植栽やのり面保護のための植栽。一部では家畜飼料のための植栽もある。	のり面への雨による侵食や表土流出の防止 
溪 流 保全	山間河川（溪流）の土砂流下の防止。 主に蛇籠によるチェックダム	下流への土砂流下の防止 
排 水 整備	山腹斜面下への排水を迂回させる。スムーズな排水を行う	山腹斜面下の集落や農地への土砂流出の防止 

出所：プロジェクトによる作成資料より抜粋

(2) ターゲットグループのニーズとの整合性

ネパールの地域住民は一般的に、自らの課題を抽出し、それを解決するための計画を策定し、地方組織を活用しつつ解決する能力がまだ不十分である、また社会的弱者はとりわけ高いリスクを負っている、とされている。本プロジェクトはサブ・プロジェクトの実施を通じて、関係者の能力向上を図っている点において、住民の真のニーズに応えたものである。また、WCCは区（ワード）レベルでの調整の役割を果たすため、本プロジェクトにて形成、組織されたものだが、

この区（ワード）は地方行政の最小限の単位⁸であり、ネパールの実情に合わせたものとして適切である。事実、これまで地方議会選挙は2002年に実施されて以降、行われておらず、選出された地方議員はこの12年間（ネパール年では“14年間”）、存在しないことから、WCCという委員会は、暫定的ながら、住民が参加し、自分たちの課題やニーズを協議し、その声を反映するものとして唯一の機会であり、住民にとっても、また行政側にとっても有益なものと言える。

また同じくプロジェクトで形成された「POWER グループ」（表8参照）活動が目指す社会包摂は、多くのドナーやネパール政府により適用されてきたアプローチであり、本プロジェクトも村落振興・森林保全プロジェクト第2 フェーズ（1999年～2004年）から取り入れられている。本プロジェクトでは、ジェンダー配慮及び女性の地位・能力向上に特に焦点を当てるため、POWER グループへの支援を最優先に行っている。

（3）わが国の援助政策・JICA との整合性

「対ネパール国経済協力の概要」（平成25年1月）に示された支援重点分野（地方・農村部の貧困削減、平和の定着と民主国家への着実な移行、持続的で均衡のとれた経済成長のための社会基盤・制度整備）の3つに変更はない。なお、本プロジェクトは、「平和の定着と民主国家への着実な移行」に含まれている。

同様に、JICA は対ネパール国別事業展開計画の重点分野一つとして「平和の定着と民主国家への着実な移行」を位置づけており、そのうち、行政分野の改善という課題への対応として、「行政能力の強化プログラム」を設定しており、本プロジェクトもそのプログラムに包括されていることから、日本側の政策、援助実施方針との整合性を保っている。なお本プロジェクトに関しては、JICA が同分野でこれまで長い協力の上に成り立っていることから整合性が保たれている（これまでの協力の経緯については図2参照）。

⁸ ワード（Ward: 区あるいは集落）は1999年地方自治法で再下位の行政単位として設置されたもので、ワード委員会（WCF）＝住民自治組織においては、開発事業の計画・実施が行えるようになった。

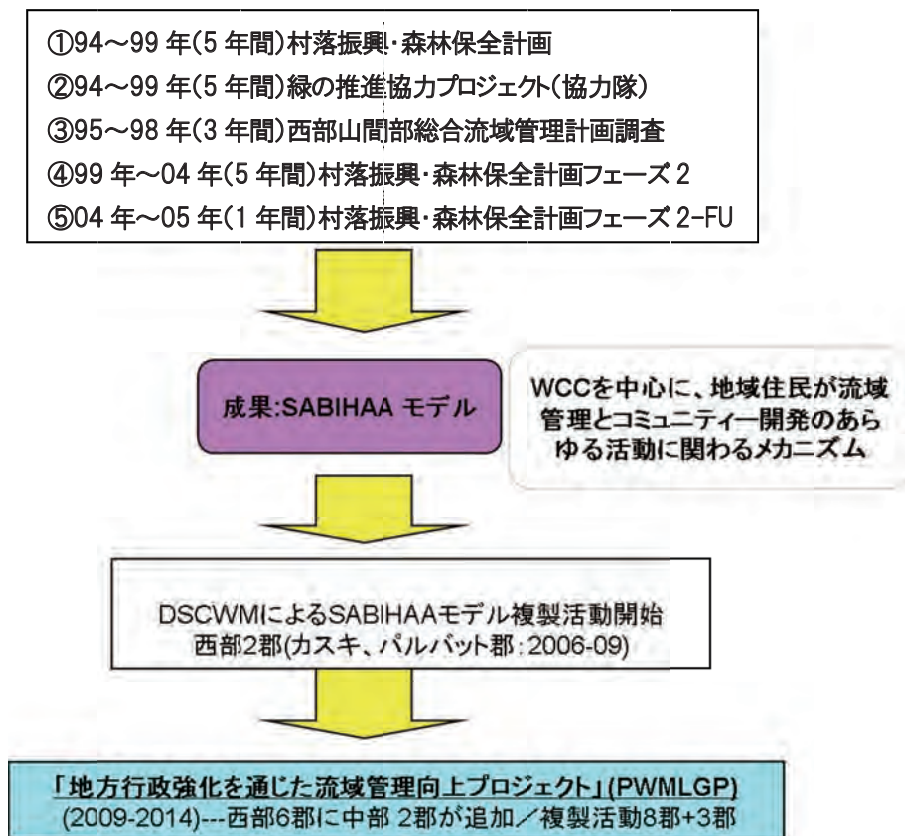


図2 本件実施に係る対ネパール協力の経緯

(4) プロジェクトのアプローチ・デザインの妥当性

本プロジェクトは、最終便益となる住民のニーズに応えられるよう、流域管理事業の計画策定から実施に至るまで、「住民参加型/合意形成」を基本にし、そのプロセスを確立・定着させたものと言える。また本プロジェクトでは、地域住民の多様な開発ニーズに応えられるよう地方行政の実施体制の強化も併せて目指し、そのための関係者の能力向上や有機的な連携、調整メカニズムを構築したアプローチとして妥当である。なお本件の特徴である「サビハ・モデル」については、その有効性、持続性など多くの利点を持っており、ネパール側による評価が非常に高いことから、アプローチとして妥当であると言える（同モデルの概要については、表7を参照）。また、社会的弱者である女性がプロジェクトから裨益するよう配慮されている（POWER グループ・プログラムについては表8を参照）。

さらに、本プロジェクトは、コミュニティレベルにおける地方行政/ローカル・ガバナンスの促進強化を目指すものであり（“地方行政”についての定義は表9を参照）、サビハ・モデルの構築・活用によって、透明性、説明責任、参加度、民主的意思決定プロセスを重視した事業展開を行ってきていることから、プロジェクトのコンセプトも適切なものと判断される。

表 8 サビハ・モデルの特徴と展開

① サビハ・モデルの特徴

本モデルの特徴は、区（ワード）レベルにおける住民参加型自然資源管理を実施することである。なお、ネパールにおける同分野における協力は長く、1987年の「コンタクト調査団」の派遣以降、「林業普及計画（プロジェクト方式技術協力）」（1991-1994）と、これに続く協力として提案された「土壌保全・流域管理」における「村落振興・森林保全計画（プロジェクト方式技術協力）」並びに「フォローアップ協力」（1994-2004 及び 2004-2005）、並びに青年海外協力隊（JOCV）の「緑の推進協力プロジェクト」（1994-1999）、さらに「西部山間部総合流域管理計画調査（開発調査）」（1995-1998）と続いてきており（表5参照）、本件も含め、「住民主体の村落振興事業を通じた自然環境の保全」という理念のもと、住民の生活向上にかかるニーズの充足をエントリーポイントとしつつ、最終的には森林・自然資源保全に貢献するという方向性を保ち、「住民主体」「包括的アプローチ」「エンパワーメント」「社会的公正」といった共通の理念の元に活動が実施されてきた経緯と歴史がある。

② サビハ・モデルの展開

サビハ・モデルは、「村落振興・森林保全計画プロジェクト」（1999-2004）の元で開発され、ネパール側のシステムとして定着してきたものであるが、本プロジェクトの“改良された”サビハ・モデルでは、以下の点でこれまでのモデルとの相違がある。

旧サビハ・モデル（これまでのプロジェクトで開発され、ネパール側のシステムとして定着した元々のモデルを指す）では、住民参加型の流域管理事業の計画策定から表6にあるようなサブ・プロジェクトの実施に至るプロセスを確立し、定着させたものと言える。本プロジェクトでは、従来のこの旧サビハ・モデルの利点を活かしつつ、さらにネパールの地方行政の動きを捉え、「WCC（MoFSC ライン）－DDC/VDC（MoFALD ライン）」の連携を図ることで、効率的な土壌保全・流域管理行政を実現しつつ、地域住民の多様な開発ニーズに応える地方行政の実施体制強化を目指したものである。言い換えると、旧サビハ活動は、WCC（住民参加）と DSCO（流域管理）の2元的な関係内に収まっていたが、本プロジェクトでは、DDC/VDC（地方行政）が加わることで、活動範囲が流域管理を包含しつつ拡大し、より住民のさまざまなニーズに合致することとなった。具体的には、各 WCC が策定した計画で挙げたサブ・プロジェクトのリストの中で、MoFSC に関連するものはプロジェクトから提供される年間 6 万 4 千ルピーの対象となり、その他のものは全体的な開発予算を担う MoFALD 傘下の DDC/VDC につながられた。プロジェクト終了後の持続性を担保できるよう関係者の人材育成、能力強化、組織間調整機能・体制の構築を図ったものと言える。さらに、何より住民をはじめ関係者が容易に理解でき、活用可能な参照資料の作成や研修（OJT を含む）、出口戦略の策定（JICA 支援終了後もネパール側で持続的に継続展開するための基本方針とその施策案の作成）と関係者合意に配慮したものとなっている。

出所：プロジェクト専門家及びプロジェクト雇用スタッフ、C/P をはじめプロジェクト関係者からのヒアリング並びにプロジェクト資料を基に、調査団の見解として整理（上記内容は、終了時評価調査団としての見解をまとめたもの）

表 9 POWER プログラムの位置づけ

<p><POWER プログラム (POWER グループ活動支援) の位置づけ></p>
<p>「POWER プログラム」は社会的弱者（職業カースト、女性）が主体的に村落資源管理に参加することを目指し、本プロジェクトで実施され能力向上・生計向上事業である。「POWER」の定義から、当初、女性だけを対象とせず、弱者に定義される一部の男性も対象とすることも討議されたが、ネパール側より、女性が支援を受けられる活動が少ないことと、女性の方が相対的貧困であることから「女性」のみを対象とするに至っている。具体的な内容としては、各 POWER グループに各種能力強化研修がプロジェクトから提供されるとともに、年間 1 万 4 千ルピーの予算を生計向上活動に使うべく、各 POWER グループの中で活動内容を協議し、また多くの POWER グループが任意で貯蓄活動を展開した。</p> <p>出所：プロジェクト専門家及びプロジェクト雇用スタッフ、C/P をはじめプロジェクト関係者からのヒアリング並びにプロジェクト資料を基に、調査団の見解として整理</p>

表 10 地方行政/ローカル・ガバナンスの定義

<p><地方行政/ローカル・ガバナンス(Local governance)の定義 (狭義) ></p>
<p>地方行政の定義として、一般的には、「地方にある政府の執行機関のあり方」を指し、つまり、中央政府とは独立した行政・立法機関を有し、行政サービスを提供する「地方政府」並びに、地方で行政サービスを提供する「中央政府の出先機関」の総体が「地方行政」と定義されている（「課題別指針<地方行政>、JICA, 2009 年 12 月より抜粋」）。なお「地方行政」を巡る背景として、昨今、地方分権化、特に「民主主義的分権化（地方自治）」や「新自由主義的分権化（民営化と規制緩和促進）」が欧米諸国を中心に台頭している。</p> <p>こうした状況の下、ネパールでの「地方行政」と言った場合、欧米ドナーは中央レベル（省庁・国会）を含め行政の制度体制までを包括するなど、その定義には異なる見解、解釈もあり得る。</p> <p>本プロジェクトは、「地方自治体との連携」部分を加味した事業を実施してきたが、その意図・方向性としては、特に郡・村・区（ワード）レベルにおける「コミュニティ・ガバナンス」に重きを置いたものである。</p> <p>出所：プロジェクト専門家及びプロジェクト雇用スタッフ、C/P をはじめプロジェクト関係者からのヒアリング並びにプロジェクト資料を基に、調査団の見解として整理。</p>

(5) 対象地域の選定

プロジェクト開始前まで、ネパール側（DSCWM）主導によって、西部 2 郡（カスキ、パルパット郡）にて、サビハ・モデル複製活動が開始（2006-2009 及び 2013～）されてきており、本プロジェクトでは、この西部 2 郡に加えて、類似の状況にあり、住民からのニーズが高いこと、さらに土壌保全上の緊急度（土砂崩れ等の危険度）が高く、対策の必要性がある「山間部」の 4 郡を加えた計 6 郡、さらにはネパール側の要望で、この西部 6 郡に加えて、中部 2 郡も追加され、合計 8 郡を対象に実施されている。この対象地域選定のプロセス、最終選定は、ネパール側政府や住民ニーズなど現地のニーズという点に照らして妥当であり、また本プロジェクトでは、DSCO の優先順位によって対象サブ流域を決定し、そのサブ流域に含まれる VDC を対象として選定されており、適切と判断される。なお、本プロジェクトの対象地域郡（及び村）の一例として、今回対象となっている中部の Sindhupalchok 郡の「地すべり影響度評価図」は図 3 の通りで、土砂崩れ等の危険度が高い地域を中心に対象地域が選定されている。

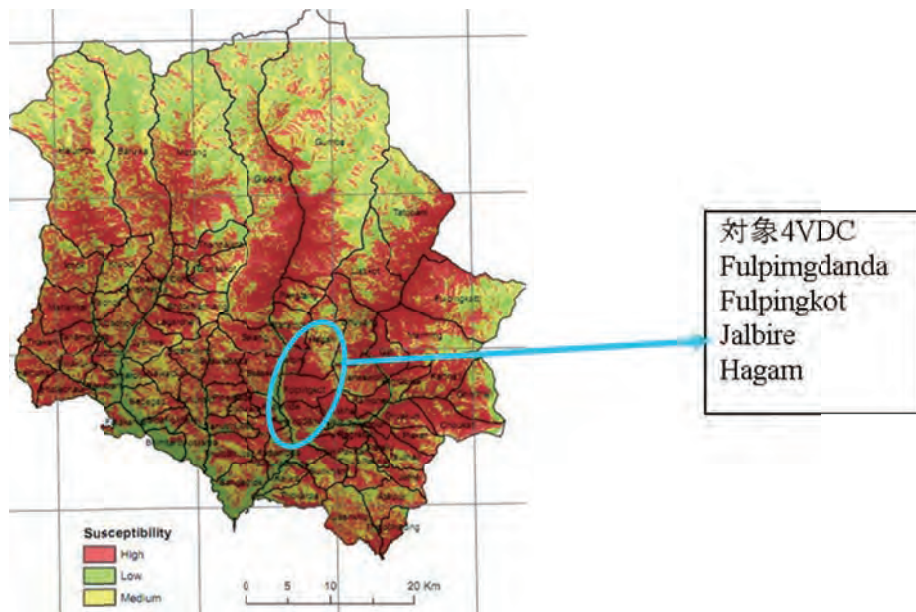


図3 地すべり影響度評価図の一例

4-2 有効性

(1) プロジェクト目標達成の見込み

本プロジェクトでは、4つの各成果（対象地域の DSCO 職員並びに対象郡の住民の能力強化、参加型流域管理における地方行政のコンセプト理解の浸透、サビハ・モデルの内在化の促進）が著しく高い結果を生み出しており、こうした成果の達成により、プロジェクト目標である「プロジェクト対象 8 郡において、DSCO と DDC/VDC の協働による参加型流域管理事業が実施される」は、プロジェクト終了時まで達成されると考えられ、有効性は高い。

とりわけ、本プロジェクト目標の達成指標である VDC との協調融資、協力の件数については、既にプロジェクト対象 8 郡においてプロジェクト予算での実施だけでなく、地方自治体と DSCO の協働をはじめ、住民参加型流域管理事業が数多く実施され、指標を大きく上回る数値を達成しており、DSCO からの支援を受け WCC が実践する形で、DDC/VDC が、参加型かつ民主的なプロセスによって村落開発事業を円滑に実施できていることが確認できた。以下、2つの連携の実績を整理分析してみる（図4、表10を参照）。

- ① 「サブ・プロジェクト」のうち、DDC/VDC をはじめ、他機関から資金や資材提供あるいは研修機会を受けての実施実績
- ② 「POWER グループ活動」のうち、DDC/VDC をはじめ、他機関から資金や資材提供あるいは研修機会を受けての実施実績

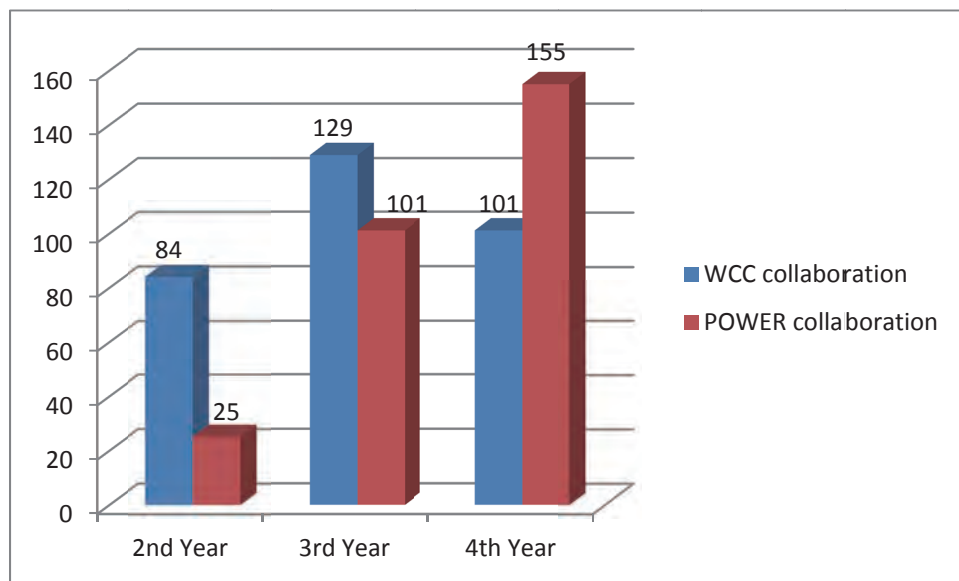


図4 WCC及びPOWERグループに対するDDC/VDC等からの協調融資、協力件数

表1-1 WCC及びPOWERグループに対するDDC/VDC等からの協調融資、協力件数

	2 nd Year (2010/2011)	3 rd Year (2011/2012)	4 th Year (2012/2013)
WCC collaboration case	84	129	101
POWER collaboration case	25	101	155

以上、これまでの実績から見て、連携は進んでおり、WCC や POWER グループの認知度がVDC で定着したことがわかる（なお、3年次と4年次を比較し、4年次の数値が低い理由は、LGCDP 予算の縮小によって、DDC/VDC の獲得予算自体⁹が前年に比べ縮小したことが大きな要因であり、全体予算の縮小の中、引き続き、事業が共同で連携して実施されていることに注目）。

また下記の通り、本件対象8郡34VDC/306区（ワード）のうち、3年間で、延べ30VDC（全体の88%）並びに、延べ146区（ワード）（48%）において、共同事業が実施されており、地方行政体との連携は進んできているといえる（図5参照）。

なお、他機関との連携では、特にVDC との連携数が多く、VDC ファンドからの取り付け予算額も一定のレベルを保っている（2010年27万、2011年22.3万、2012年18.9万ルピー）。

⁹ 本件対象8郡34中、データの取れた31VDC中、一つのVDC以外では、2012年度（4年度）のVDC予算は前年2011年より減額で、減額率の平均は約「34%」であった（一つのVDCでは2011年と2012年の予算は同額）（出典：業務完了報告書：第4年次、p.19-20）

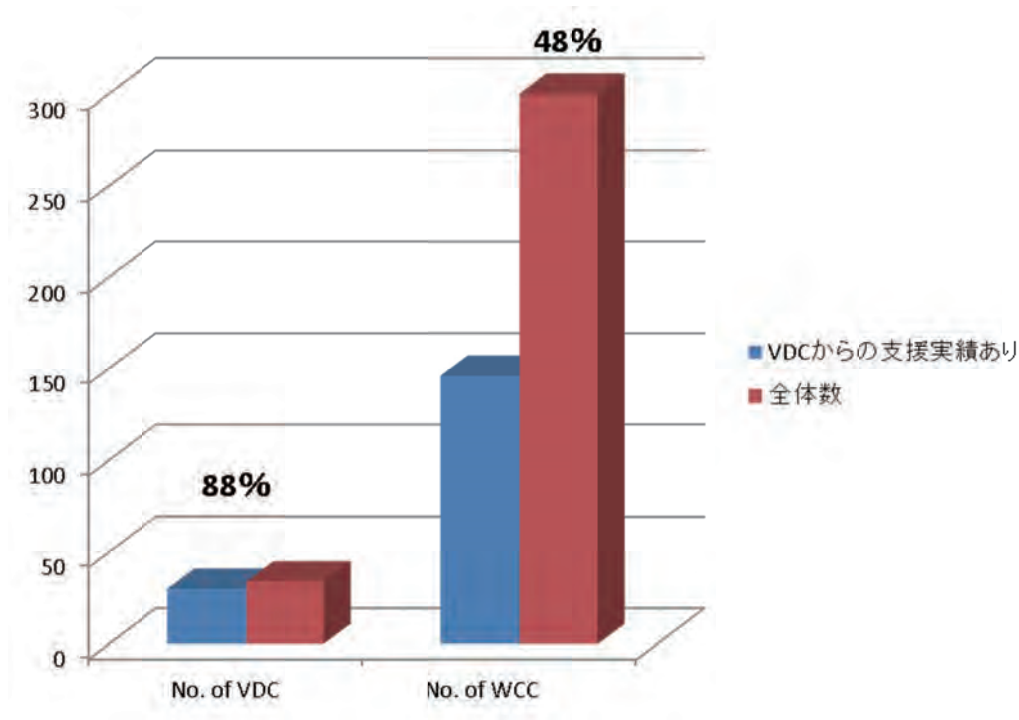


図5 VDCから資金支援を受けた実績

(2) 本プロジェクト実施にかかる促進及び阻害要因

終了時評価時に行った質問票回答、個人及びグループインタビューの結果などから、本プロジェクトの効果発現に貢献した要因（目標達成の促進・阻害要因）は次のようなものである。

1) 促進要因

a) DSCO 所長/技術者、VDC/WCC 代表、モチベーターの積極的な働き・役割

本プロジェクトにおいては、ネパール側の主導でこれまで現地での事業が実施されており、プロジェクトのプレーヤーとして、とりわけ以下の人たちが、推進、調整、仲介、指導を各自が担い、さまざまな役割・責任を果たしてきたことが本プロジェクトの成果や目標に向けて、大きく貢献したと考えられる。

現場の事業の推進を担ったのは、DSCO 所長/技術者、VDC/WCC 代表、モチベーターであり、事業の促進・成功の裏には、こうした人たちの積極的な働きがあり、かつ開発課題の解決に向け、相互理解し、連携を行ったことが要因である。彼らの働きなしには、現在見られる事業の進捗や成果を達成することはできなかったであろうと推測され、いかに彼らが、住民との調整、支援の面で中心的かつ重要な役割を担えたか、チームワークがよく、事業を支えてきたかが鍵と言える。

まず郡レベルでは、DSCO 所長/技術者が、CBRMP や CRMP などの中長期計画案の策定や、サブ・プロジェクトの実施にかかり、技術的な役割を果たすだけでなく、住民に関わるさまざまな関係構築や調整の役割も果たした。例えば、DSCO 所長/職員は、住民と VDC や DDC、さらには他の関係機関とのつながりを創設ないし強化する支援を行った。なお、DSCO 技術者

はフィールド技術者としてだけでなく、「コミュニティレベルの仲介(調整)者」としての働きも行った。

また、区(ワード)レベルでは、WCCの代表が、CBRMPやCRMPなどの中長期計画案の策定や、サブ・プロジェクトの実施を強力に支援し、かつ事業のモニターや自己評価で重要な役割を担った。さらに、モチベーター(1年次はプロジェクトが活動費用を払ったが、2年次以降はネパール政府による支出)がPOWERグループメンバーに対する調整や指導、さらにはサブ・プロジェクト事業の実施やモニターなどの点でも重要な役割を果たしたのをはじめ、住民間の関係強化や交流、VDCその他関係機関との連携強化にも貢献した。

以上のように、プロジェクトのうち、特に重要なプレーヤーとして大きな役割を果たした状況については、評価レポート〔付属資料4. 合同評価調査報告書(英文)本文では表5に掲載〕で表12のようにまとめている。

表12 プロジェクトで重要な役割を果たしたプレーヤーの役割

Player position	Pro-active Role & Function
DSCO chief	<ul style="list-style-type: none"> - DSCO chief played an active role of disseminating SABIHAA model and effective project implementation as well as overall coordination among various stakeholders. - DSCO chief is not only central role of the Project implementation, but also acted as promoter of SABIHAA model by explaining the advantages of the model and lessons learnt in various occasions including District Working Committee (DWC) and any other meetings in the district.
DSCO-techs	<ul style="list-style-type: none"> -DSCO-techs assisted to ensure the quality of the SP works and monitor the Project activity progress and the follow-up with DSCO chief. -DSCO-techs are trusted by community people because they are supportive and also friendly. -Through the Project, DSCO-techs gained not only technical knowledge, but also development knowledge and facilitation skills, so they could transfer appropriate technological knowledge and also assisted to mobilize community people smoothly. In most cases, DSCO-techs are eager to provide necessary technical supports to Motivator and also help for social mobilization, so that s/he was able to conduct her/his duty easily.
VDC Secretary/ WCC chairpersons	<ul style="list-style-type: none"> -VDC Secretary and staff have gradually recognized the Project concept and model approach, so they become supporters of the Project activities. -VDC recognizes WCC as an institution and invites WCC to take part in VDC Council and other important VDC meetings. -VDC has appreciated WCCs' activities, and VDC started to contribute some budget for WCCs in addition to SPs and POWER group activities, because CRMP/AAP are prepared in a participatory way to address the problem and needs of community comprehensively. -WCC practiced effectively even in absence of local bodies. -VDC is now considering the utilization of the new CRMP as consolidating/tangible plan and WCC/WCF (Ward Citizen Forum) joint plan as part of VDC plan. -WCC started initiatives to get outside budget (including VDC) for local development and

	communicates frequently with the stakeholders.
Motivator	<p>-Motivator attended POWER group meetings regularly, and she supported the recording of group activities and the management of their loan/credit fund. Also she advised any women activities within her capacity.</p> <p>-Motivator played important/crucial role of coordinating and supervising for POWER group as well as in SP implementation and M&E by WCC.</p> <p>-Motivator facilitated social interaction in their community, and linkage to VDC and other institutions.</p> <p>-DSCO-tech and Motivator as a team could work together with WCC/POWER group throughout the process of operation.</p>
Overall	<p>-DSCO, DSCO-tech and Motivator encouraged WCC to make CRMP, and approach to VDC and other local bodies for requesting budget.</p> <p>-As a good example, some WCCs made jointly proposal with neighboring WCC to implement large-scale SP, which is ideal case of collaboration of WCC network.</p>

上記記載のうち、いくつか特記すべき事項を抽出すると下記の通りである。

- DSCO 所長/職員と DSCO 技術者は郡レベルの会合（DWC 他）やワークショップで、積極的にプロジェクトについて情報伝達を行う役割も担ってきており、プロジェクト事業の実施だけでなく、サビハ・モデルの紹介及び促進も担ってきた。
- 担当の DSCO 技術者は WCC 代表/メンバーやモチベーターと密に連絡を取り、足繁く、サブ・プロジェクトサイトに出向いて、村落での事業や会合を監理した。（サブ・プロジェクトは簡易工事とはいえ、住民にとっては、図面、必要な資材の仕様等の説明を一度聞いただけでは、なかなか理解しにくいいため、DSCO 技術者が事業の質を保つためにも技術指導、支援を行った例も多くあった。また DSCO 技術者が、区（ワード）でのさまざまな会合にオブザーバー参加することで、事業の進捗・モニターや住民間の会話促進を側面支援が行われ、その結果、住民からの信頼を勝ち得たと言える）。
- WCC 代表をはじめメンバーは、より大規模な事業実施にかかる資金を申請するため、自ら VDC に出向き、懇願の結果、事業支援の支援を受けることができた。（住民が VDC に出向くこと、逆に VDC 代表が定期的に村落を訪れることは稀である）。
- DSCO 所長/職員、DSCO 技術者、モチベーターが WCC メンバーを励まし、地域資源管理計画の策定、VDC や他の地方組織への働きかけを促進した。また、区（ワード）それぞれでサブ・プロジェクトを策定・実施する以外にも、WCC の中には、隣接する WCC 間で、共通する課題解決のため、合同で要請書を作成し、サブ・プロジェクトを共同実施したケースもあり、WCC 間のネットワークによる協力の例としても特筆される。
- 一つの WCC 内で関係の深い複数のサブ・プロジェクトあるいは POWER グループ活動を実施した事例（水源保全と植林、水源保全と灌漑改善等）では、WCC 及び DSCO 技術者が中心となり、いかに裨益効果が高く、また効率的な事業を行うかをモチベーターや住民（ないし POWER グループメンバー）と話し合うなかで、決めた結果の事業であることも特筆される。

b) 事業実施プロセスの確立 (CRMP 及び AAP の策定/公聴会/WCC 自己評価/サブ・プロジェクト事業プロファイル/OG など)

プロジェクトで行った活動や成果品のうち、表 1 2 [付属資料 4. 合同評価調査報告書 (英文) 本文では表 6 に掲載] に挙げたものは、効果・持続性の観点からもよく機能し、活用されているものであり、情報共有、実行可能な策定－計画－実施－モニター評価を網羅したもので、ユーザーや受益者にとって使い勝手良く、プロジェクトの促進要因といえる。

何より、本プロジェクトはコミュニティレベルでの地方行政の促進、強化を核にした事業展開に大きな配慮を払ってきており、とりわけ意思決定のプロセスについては、透明性、説明責任、参加、そして民主的実行といったコンセプトを根底に置いた活動を担ってきたことが評価される。

表 1 3 業務実施上のさまざまな活動及び成果品について

プロジェクト活動や成果品名	プロジェクトの促進要因
CRMP (中期と長期計画の 2 つから成る) 及び AAP の策定	地元のリソースをいかに最大限利用するかを話し合い、住民の参加、合意形成を促したこと、さらに単に土壤保全・流域管理だけに限らず、さまざまな課題・問題まで包括して、村の優先順位をつけたものから、クリアで包括的な実行計画と言える。
WCC による「公聴会」	村のリソースの活用結果を示す上でも透明性を確保したものであり (例えば、事業にかかった領収書を参加者に見せて、事業の会計の状況を明らかにした)、地域住民間の信頼醸成につながった。
WCC による「自己評価」 (Spider-web 図表を用いる)	事業の主体性や責任主体を確保したものであり、広く地域住民に事業の公共性を理解させる、住民の参画を促すことにつながった。
サブ・プロジェクト事業の「活動プロファイル」	サブ・プロジェクト事業の具体的な事例を集約したもので、事業記録でもあり、また DSCWM 内で公式なフォーマットとして採用されている。
OG	作成者ないしユーザー、特に新規着任 DSCO 所長/職員、DSCO 技術者、DSCWM 本省職員にとっても、使い勝手の良い理解しやすいものである。サビハ・モデル活動の実施の基礎となる執務参考資料となっており、プロジェクト対象地域のみならず、ネパール政府主導での複製活動展開地域での実施に役立つものである。

以上のとおり、さまざまな活動ないし製本資料は、地方行政の観点からも大きな貢献を挙げたものとして高く評価できる。

2) 問題点及び問題を惹起した要因（阻害要因）

a) 地方議員の不在や政治的混乱・不安定

ネパールでは、政治の混乱もあり、本来、存在すべき村議会議員の選出が行われていない（村議会が存在しないため、代わって、各政党の村レベルの支部長が、代替的に村議会の役割を果たしている）。地方議員の不在という事態は、地域住民の総意や要望が集約され、活かされるプロセスが不在であること、特に住民代表者による代弁機能が働いていないことで、参加型住民計画アプローチを基本とする本プロジェクトの機能が円滑に進まないこともあった。また政治的混乱によるプロジェクト活動への影響は表14の通りである。

一方、地方選挙がまだ行われず、VDCは行政官組織であり、また円滑には機能していないなか、WCCは「暫定」的な委員会ながら、開発課題を住民で話し合い、かつサブ・プロジェクトをはじめ事業の実施のための予算要求を行うなどの機能を持つに至っていることは高く評価できるものである。

b) その他（ネパール政府予算の執行遅れやC/Pの異動交代）

ネパール政府は、2010年7月の首相の辞任表明後、後任首相が2011年2月まで選定されなかったため、本来なら2011年7月中旬から執行される政府予算（ネパール暦2067年度）が11月末になって初めて承認された。その後、12月になって各省庁出先に予算が配分されたが、残りの6カ月で1年分のDSCOの定常業務を完遂する必要があったことから、活動が短期間に集中し、DWC会合開催の延期も生じた。

なおC/Pの異動（プロジェクト対象8郡のうち、2年次、4名のDSCO所長が異動）の影響もあったが、これはマイナス面ばかりではなく、本プロジェクト及びこれまでサビハ・モデルを経験した所長が、新たな配属先でサビハ・モデルの一部を日常業務に適用している例もあるため、一概に阻害要因と判断はできない。ただし、現場で普及に携わるDSCO技術者の異動が多く、なかにはなかなか補充されないままのDSCO事務所もあり、現場にとって人材不足から過重な業務となる、異動でこれまでのノウハウや技術が蓄積されにくいなど、上記の予算遅配とも相まって、効率性の面や持続性の面で課題が残った。

表14 政治的混乱・不安定による悪影響

<政治的混乱・不安定によるプロジェクトへの悪影響>

2010年5月に始まったマオイストによる全国的なストライキ（“バンダ”）で、同期間中は政府機関と病院以外はほぼすべて閉鎖され、道路封鎖が行われ、車両通行も不可能となり、その間に予定していた業務関係の打合せや会合がすべて中止・延期となり、業務上に深刻な支障が生じた。またCRMP策定作業も専門家チームのネパール離任までに完了できず、306WCCの内、10カ所での作業が遅れた等の影響があった。さらに、当初予定されていた新憲法発布（2010年5月）の遅滞が明らかになった4月後半からは、各政党や市民団体によるバンダやデモ行進が頻発し、プロジェクトの日常活動がかなり制限された他、「JICA関係者の国内移動の禁止」通達などで、緊張感も高まった。幸いプロジェクト関係者について、騒乱による人身被害等はなく、活動の遅滞を生じたものの、計画通りの活動は終えることができた。

4-3 効率性

本プロジェクトに対する日本側、ネパール側の投入は、ネパール側の人材の異動の点を除けば、

サビハ活動のための予算含め、計画通りに執行されるなど、その量、質、タイミング的にもおおむね適正で、すべての投入は実施に係り十分に活用されている〔付属資料4. 合同評価調査報告書（英文）本文及びANNEX 6 参照〕。

また、これまでに投入された資源は、投入量に見合う成果を有していると思われる〔付属資料4. 合同評価調査報告書（英文）のANNEX 7の「PDM 指標達成状況」をはじめ、ANNEX 8～11を参照〕。

なおこれまでに蓄積された資産（DSCOをはじめ、サビハ・モデルに精通している人、JICA 専門家あるいはボランティアと以前働いた経験を持つ人、さらにこれまでの協力で作成された資料や成果品）が信頼関係構築や資料の有効活用などの点で、大きく貢献している。

4-4 インパクト

(1) 上位目標への貢献

本プロジェクトの実施を通じて、プロジェクトの上位目標（「MoFSC と MoFALD のイニシアティブにより、プロジェクト対象以外の郡において、暫定地方自治体と DSCO の協働による参加型流域管理事業が適用される」）の指標である「1) 地域資源管理計画で示されたサブ・プロジェクトのうち少なくとも 5%が地域組織や他機関との協調融資・連携で実施される」及び「2) 全 8 郡の DSCO と DDC により合同モニタリング評価が実施される」については、本来プロジェクト終了後 3 年を目処に達成が見込まれる目標であるが、既に第 3 章「プロジェクトの実績」でも示したとおり、DSCWM では、上位目標の達成に向けての活動が展開されている。

例えば、サビハ・モデル複製事業でも OG は活用されてきており、同改訂ガイドラインが DSCWM によって最終的に承認され、またサビハ・モデル推進の予算がこれまで通り確保されることで、プロジェクトの上位目標が達成されることが期待できる。

なお、DSCWM はサビハ・モデルの実践に係り、本プロジェクトの対象郡中、プロジェクトでカバーされていない郡、さらにはプロジェクト対象地域外の郡にも 2010 年以降、予算を配分し、サビハ・モデル複製事業を実施している。なお、サビハ・モデル複製事業でも、モチベーターを雇用しており、WCC を計画実施組織として捉え、また DSCWM 以外の組織からも資金面や技術面の支援獲得を推進している点などプロジェクトとの共通点が多い。

(2) 波及効果

プロジェクトでまとめられた「インパクト評価」シート〔付属資料4. 合同評価調査報告書（英文）ANNEX 12〕をはじめ、プロジェクト作成による関連資料、終了時評価調査中に実施した質問票調査、さらにオフィスあるいは現場インタビューの結果、下記の通り、さまざまな正のインパクトが生じていることが調査団によって確認された。

1) 地域住民のエンパワーメント

POWER グループメンバーをはじめ、地域住民の能力強化を通じて、WCC 並びに POWER グループは正式な組織として認められつつあり、メンバーがさまざまな会合で意見を言う、あるいは提案を述べる機会を与えられてきた。その結果、WCC 及び POWER グループメンバーは、リソースへのアクセスが可能となり、また計画策定時から最終決定まで参加できるようになった。例えば、メンバーの中には、これまで人前で話す機会や他人と一緒に協同作業を行う機会

がなかった者も多くおり、本件を通じて、他の住民や組織に働きかけを行い、自分たちの活動を支援してくれるよう予算を獲得できるようになり、また活動の継続のため、協同組合へ加盟したケースもある。

なお、本来地域開発のための機能である VDC や他の地方組織に地域住民がアクセスし、自らのニーズを行政に反映する方法を習得しつつある点も高く評価できる。

2) サブ・プロジェクト実施を通しての地域住民の生計向上や雇用機会

一例として、サブ・プロジェクトでは、灌漑事業やその他生計向上活動によって、地域住民が新たに、あるいは追加的に農作物や野菜の生産高ないし収量の増加、あるいは家畜からの収入といった機会を与えられた結果、食料不足の解消、収入あるいは所得の増加につながっているとのことであった。また別の事例では、いくつかのサブ・プロジェクト実施によって、貧困層などに労働雇用の機会を提供したとの関係者からの回答もあった。

3) 住民の生活の安全、安定化

歩道の整備や道路のり面保護/安定化によって、地域住民が時間の節約や安全歩行(通学、圃場や水源へのアクセスなど)が可能となった(具体的事例として下表 15 の通り)。さらに地滑りや崖の管理保全、のり面保護などの事業によって、地域住民の保有する土地や居住地が守れるようになったことも大きな貢献である。

表 15 住民の生活の安全、安定化に貢献したサブ・プロジェクト活動事例

<ミャグディ郡のなかの Jhin 村の事例>

Jhin 村でサブ・プロジェクトに選ばれた「歩道の整備」は、高齢者や子どもたちが暗くなってから歩く際、道から落ちてけがをすることもあったため、整備ニーズが高く、坂道が急なところであるが、プロジェクト支援の整備部分に加えて、地域住民の自助努力で、さらに 40m 延長して歩道が整備された。

出所：業務完了報告書第 4 年次、さらに管轄の DSCO 長/技術者からのヒアリング結果より

<カスキ郡のなかの Chapakot 村 区 No.1&2 での共同実施>

2 つの WCC の共同実施で行ったサブ・プロジェクト(歩道整備)は険しい坂道ではなく、田んぼの真ん中にある長い歩道を整備したものであり、こちらも 2 つの区(ワード)の人たちが頻繁に使う歩道ながら、人ひとりが、ぎりぎり通れる道幅で高さも低かったことから、雨季には水に埋まってしまい、特に学校に通う児童、農地を持つ住民が迂回して別の歩道を利用しなくてはならず、子ども、高齢者にとっては危険を伴っていた。サブ・プロジェクト実施には、JICA からの資金支援とほぼ同額の地域住民負担が行われており、また地域住民の自助努力で、さらに 100m 延長して歩道が整備された。工事自体も、他の WCC が履行期限ぎりぎりになるところもある中、同サブ・プロジェクトは開始当初から住民の積極的な参加により、工事が順調に進んだ。そのため、整備された歩道は、幸い雨季前から早速利用できた。出所：同上

4) 環境並びに土壌保全への貢献

飲料水不足の解消や、「水源保全」に関するサブ・プロジェクトの実施で、日常的に水を利

用できるようになったなどのインパクトがある。さらに、自然災害によって引き起こされる生命、貧困、貴重な自然資源への危険・被害減少にサブ・プロジェクトの実施による貢献が見られる。またトイレの設置や地滑りや崖コントロールなどによって、衛生、環境条件も改善したとの報告もあった。

5) さまざまなグループや組織間の連携強化

終了時評価時に実施した現地でのインタビューによれば、いくつかの WCC と WCF ではワードレベルにおける共同の開発計画 (CRMP) を策定しており、これは地域住民のニーズに沿った計画というだけでなく、翌年以降、VDC やその他財源から資金支援を得られるよう取りまとめられた、正式で、唯一の区 (ワード) 計画といえる。さまざまなグループや組織間の組織連携や協働事業の良い事例としては、以下の通りである。

- i) DSCO は、通常の活動を行う際にも、他の関連部署 (DDC、DADO、畜産局、女性開発局、家内工業局、その他) との連携が試みたが、他の関連部署との連携の実績数はまだ多くなく、さらに強化すべき課題でもある。
- ii) サビハ・モデルのモチベーターと LGCDP 雇用のソーシャル・モビライザーは、それぞれの支援状況につき意見交換を始め、その後、徐々に活動を共にするようになった。なお、周りの支援、調整を受けつつ、両者の一層の協力が求められる。
- iii) プロジェクトを通じ、より規模の大きな課題や、区 (ワード) をまたがる (複数の WCC) 問題の解決、また VDC との効果的な協力のため、WCC 間のネットワークが強化されていった。
- iv) 民間セクターとの協働事例 (地方行政組織以外での連携促進) としては、商業銀行 (ネパールで最初の外国合弁銀行である Nabil 銀行) から計 9 千冊の通帳を無償提供してもらい、プロジェクトを通じ、モチベーターから各 POWER グループに配布された。通帳は POWER グループの会計記録に利用され、またこれまで以上に定期的に貯蓄する意欲にもつながったとの声が聞かれた。

その他、プロジェクトでの活動、事業展開によって生じたインパクトについては、付属資料 4. 合同評価調査報告書 (英文) ANNEX 12 を参照いただくとともに、表 16 に現地調査中に聞いた「プロジェクト受益者、関係者の声」を抜粋整理したので、参照いただきたい。

一方、負のインパクトとみなされるものは、現在までのところ観察されていない。

表 16 プロジェクト受益者、関係者の声

<事例 1 : カスキ郡の Dhital VDC の中の区 No.3 の WCC 代表の回答 : 4 月 7 日>

「本プロジェクトに関わっての便益、インパクトあるいは変化は何か。」との問いに対して、WCC 代表は、「4 年間関わって初めて身に染みてわかったこととして、最初は本当に小さな資金のみしか支援してくれないと不満も大きかったが、自分たちで足して、あるいは考えて、大きくし、非常にいい収穫ができた」との答えがあった。

以上の回答を整理してみると、JICA からのサブ・プロジェクト資金支援のみ (年間 6 万 4 千ルピー) では、自分たちの欲する規模の事業を賄いきれない、達成できないことから、住民をはじめ、WCC メンバーでさえ、参加当初は納得できないとの不満があったことがわかる。

それでも、住民が皆で話し合った結果としての事業策定でもあり、かつ DSCO やモチベーターの支援も得ているため、何とか形にしようと、自分たちの資金ないし労力を出し合い、また隣の区（ワード）と共同し、さらに VDC へ働きかけて資金支援を仰ぐ等して、事業を完成させた。その結果、まさに自分たちの参加で、通常ではなかなかできない事業を完成でき、さらに住民同士、近隣の区（ワード）の住民と一緒に話し合うことの重要性を認識できた。さらに、事業完成で実際に自分たちの生活改善に結びつき、この事業をきっかけに、その後も VDC をはじめ、いろいろな支援機関に働きかけることが可能となったとの説明があった。

以上のことから、何より自分たちで種蒔から“収穫”までできたことによる自信や達成感を強く感じていることが伺われる（評価調査団所感）。

出所：終了時評価調査でのインタビュー結果より抜粋

<事例2: ミャグディ郡の Piple VDC の中の区 No.8 と No.9 の各 WCC 代表 2 人の回答、4 月 9 日>

「なぜ、サブ・プロジェクト支援で、この「給水タンク設置」（水源保全関連）を行ったのか。しかも、隣の区（ワード）と共同で行った理由は何か。」との問いに対して、両区（ワード）の代表は、サブ・プロジェクトを決定する過程で、区（ワード）の中の住民と話し合い、いろいろな意見・提案が出たと話した。話し合いの中で、一方の区（ワード）が水不足で困っているものの、水源がないことがわかった。水源がない区（ワード）に隣の区（ワード）から水源を引いてタンクを共同設置するには、全住民の協議合意形成に時間がかかるだけでなく、十分な水源を確保できる施設を作るにはかなりの規模となり、JICA からの支援資金だけではならず、VDC をはじめ他の組織にも働きかけねばならず、大仕事であった。事業規模が大きく、調整に時間もかかることもあり、一時、各自の区（ワード）でそれぞれ別に事業を決めてやろうという話も出た。しかし、この給水タンクのある場所から少し離れた丘の下方に、中学校がある。この中学校には、両方の区（ワード）から子どもたちが通っているが、普通の学生だけでなく、身障者、盲目などの学生も全寮で勉強している。この中学校は他の近隣住民同様、場所柄、水供給が不足し、先生をはじめ学生が水汲みに、かなりの時間や重労働を強いられていたことが大きな問題であった。そこで、やはりこの事業を完成させることがさまざまな意味で便益が大きい、だれもが反対しない事業であるとの結論に達した、との答えであった。

出所：同上



左：WCC 代表 2 名。写真の背景は完成した貯水タンク、右：タンク設置場所から下方位置する中学校

＜事例3：カスキ郡の Kahun VDC の中の区（ワード）No.1 の WCC 代表の回答、4月11日＞

ここはネパール政府が主導で行っている「複製事業活動」の地域である。視察したのは、そのうちの一つ、「道路斜道コントロール/地滑り防止事業」であった。同事業提案の、そもそものきっかけは、まず道路局の予算で同区内の道路の一部が舗装化された結果、道路を使う者にとっては運転がしやすく、また事故も減少するなど舗装化で大きな効果をもたらされた。

一方、工事のせいで、道路沿いの土砂が流され、急斜面の下方に位置する圃場や家屋に土砂が徐々に流れ込んだことで、被害が生じ始めた。このままであれば、どんどん土砂が流れ、近い将来、大きな被害をもたらす危険が高まっていったため、何とか対策を施してもらえよう、まず道路局に掛合ったものの、予算がないとのことで支援を断られた。そこで DSCO からの技術支援を受けて実施した CRMP のなかから、同事業計画を最優先に置き、DSCO からの資金及び技術支援、それに VDC からも予算をつけてもらい、蛇籠を作って、これ以上土砂が流れ込まないように対策を施した。

その結果、土砂が下方に流れ込むことを防ぐことができ、DSCO には非常に感謝しているとの回答であった。また来年の事業を行う際にも、引き続き DSCO の支援を受けつつ、VDC やその他関連部局、NGO などにも資金ないし資材、あるいは能力向上にかかる研修の支援を仰げるよう積極的に働きかけたいと回答があった。

出所：同上



複製活動によるサブプロジェクト（左：斜道横の地滑り対策：蛇籠（Gabion）、中：完成の事業看板、右：WCC 代表と DCSO 長）

4-5 持続性

(1) 財政・組織的持続性

1) DSCWM/ MoFSC

DSCWM では、土壤保全流域管理にかかる政策及び戦略を策定し、ネパール全域でそのサービスが拡大し、内包化されるよう推進してきている。こうした政策の下、DSCWM では、2011 年度以降、地域開発森林/流域保全プロジェクト（サビハ・モデル複製事業）の予算が計上され、事業が実施されてきている（これまでの実施予算額は図6の通り）。

2) その他の予算源

プロジェクトでは、WCC が自分たちで策定した中期計画及び AAP を基に VDC に働きかけ、事業実施への財政的支援を受けてきていることから、VDC や DDC からの協調財政支援の可能性は今後も期待される。なお村レベルでは、既に他の地方組織（DADO、WCO、NGO 等）による協調融資・連携の事例も継続して散見されており、こうした他の機関からの資金源は重要であり、引き続き継続、強化が期待される。

3) MoFALD ラインとの協調

中央レベルでもサビハ・モデルに対する理解は進んできてはいるものの、関係機関同士の情報共有やさらなる連携が必要と評価調査団は判断した。地方レベルでは、郡によって、その認識、連携協調の度合いはまちまちである。プロジェクトの関係した WCC は、VDC や LGCDP の WCF 及びソーシャル・モビライザーと連携を取り、協力がある程度進んできている。このような状況から、今後も引き続き、MoFALD ラインとの継続、強化が期待される。

4) サブ・プロジェクト事業や POWER グループ活動の財政面での持続性

一方、サブ・プロジェクト事業や POWER グループ活動の持続性については、あくまで地域住民あるいはグループの意思、継続的なモチベーションに左右され、住民ないしグループがどう事業や活動を継続ないし維持発展するかが重要である。プロジェクトを通して、多くの事業を達成し経験してきたことで、住民には地域のニーズに対し政府から予算を獲得し、課題解決につなげるための主体性や自信が生まれており、これらの成果・能力を引き続き活用することが期待される。一方、毎年のサブ・プロジェクト予算やモチベーターの支援を現在のように受けられなくなることで、関心や協力が薄れ、なくなる可能性もあるので、引き続き、モニタリングをはじめ、留意が必要である。

なお、POWER グループの中には事業の継続発展のため、自分たちで融資スキームを作り、低い金利でメンバーに貸し出すなどの協同活動を開始している事例もあるなど、持続性の可能性の一端は伺える。

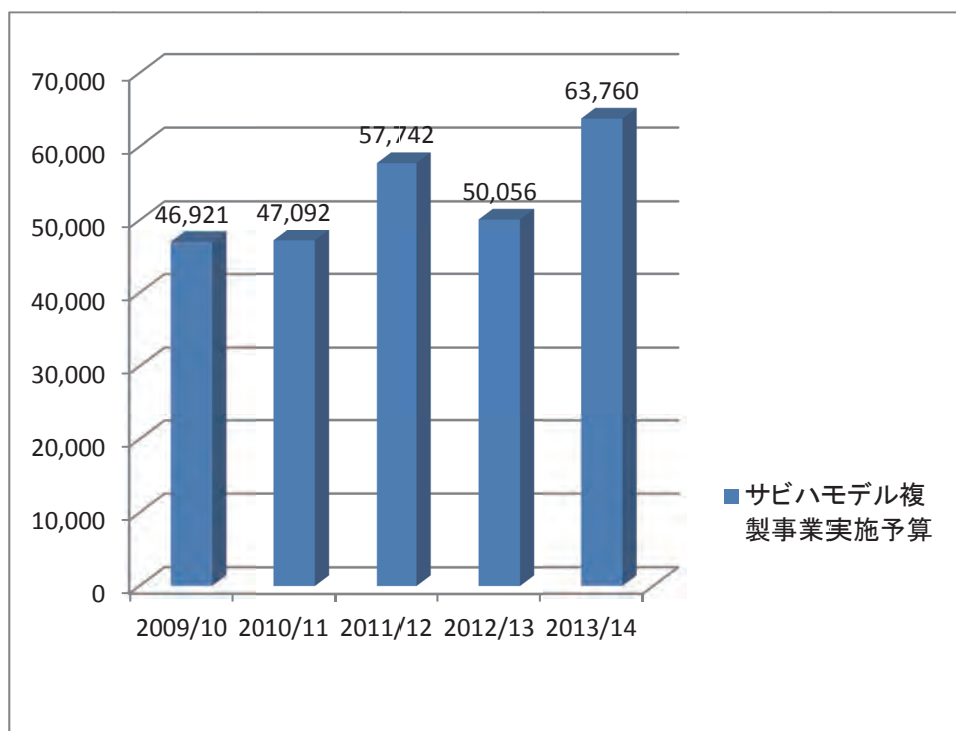


図6 サビハ・モデル複製事業実施予算〔単位：ネパールルピー（千）〕

(2) 政策及び制度的持続性

既に上記4-5(1)で記した通り、現在、DSCWMでは、11の郡で、サビハ・モデル複製事業を実施してきており、更に同モデルを活用し、他の地域でも拡大展開する意向を持っていることから、サビハ・モデルの浸透、波及がより期待される。こうした動きから、DSCWMが有効な流域管理ツールとしてサビハ・モデルを国家モデルと考えていることを確認した。同モデルは徐々にDSCWM局内で内包化され、更なる拡大、発展が期待される。

以上、DSCWM/MoFSCがサビハ・モデルの波及発展を行う主導的立場にあることから、さらに同モデル関連事業を継続させていくことが期待でき、政策・制度面での持続性は高いと判断される。

(3) 技術的・人的資源の持続性

これまでのJICA支援による長い協力を通じ、DSCWM/MoFSC職員をはじめ、DSCO長/職員/技術者、WCC/VDCメンバー、モチベーター、さらにPOWERグループ、地域住民などプロジェクト関係者は、それぞれが、土壌保全・流域管理に関する技術や知識のみならず、調整・マネジメント能力を研修や現場でのOJTを通じて習得していると判断される。

以上のことから、関係者の能力は向上し、持続性が保たれるであろうと判断される。

プロジェクト終了後も、こうした関係者がサビハ・モデルの中心人物として、各自の持ち場で人的資源開発に貢献するのみならず、コミュニティ開発や森林・流域保全の面でも貢献することが期待される。

4-6 結論

本プロジェクトは2009年の開始以降、これまでコミュニティ開発や森林・流域保全に係り、DSCWMとの協力事業実施の結果、期待された成果が生み出され、蓄積されつつある。上記で記した通り、現地調査及び関係者との協議の結果、本プロジェクトの妥当性、有効性の点では十分な結果が得られていると判断される。インパクトの点では、社会・環境面を含みさまざまな正の開発効果を生み出している。また効率性も概して適正であった。プロジェクトは円滑に実施され、その当初の目的を達成できたと判断される。

なお、引き続きサビハ・モデルの波及と広報、コミュニティ開発や森林・流域保全に係る資金・技術支援の継続、さらに今後も関係者がモチベーションを持ち続けられるかといった課題は残されているものの、本件を通じて、DSCWMや地域住民の能力や技能の強化が図られつつあると評価調査団は結論づけた。

本評価調査団は、プロジェクト活動が遅延なく実施され、期待された成果がおおむね得られたことを確認し、今後の継続的な努力によって、プロジェクト目標は協力期間内に成功裏に達成されるものと結論する。よって本プロジェクトはR/D記載の期間を以って当初の予定どおり終了するものとする。

第5章 提言と教訓

5-1 提言

(1) 中央から地方部の各行政レベルにおける MoFSC と MoFALD の協働促進

MoFSC と MoFALD は、DDC (郡)、VDC (村)、Ward (区 (ワード)) の各レベルにおいて両省の協働体制が持続するよう尽力する必要がある。協働体制の維持にあたっては、特に以下の点が保証されることが重要であるため、レター等によりこれらの点を関係機関に周知することが望ましい。

- ① VDC は、WCC と WCF¹⁰ の協働により作成された CRMP を VDC の計画策定に反映し、また VDC は CRMP で提示された住民ニーズに対し対応を行う。
- ② プロジェクト期間中に、DSCO は DDC と協力して VDC 事務所長、ソーシャル・モビライザー、モチベーターを対象とした引渡しにかかる会議を開催し、サビハ・モデル及び WCC・POWER グループに関する関係者の理解を深める。また、これまでの活動の内容や蓄積された知見も同会議で紹介し、本プロジェクト終了後 (プロジェクトによるモチベーターが活動を終了するとともに、DSCO の活動対象地も遷移した後の状態) も、VDC による WCC・POWER グループへの支援及びモニタリングが続く仕組みづくりを目指す。
- ③ DDC と DSCO は、郡レベルにおける情報共有体制を維持するため、本プロジェクトで構築された DWC を継続実施することを検討する。この情報共有体制を維持することにより、両機関の傘下にある VDC、WCF、WCC、ソーシャル・モビライザーの関係構築に資する。

(2) 区 (ワード) レベルの組織間の協働体制の維持／構築

本プロジェクトでは、区 (ワード) レベルの住民組織として WCC を構築した。一方、近年では MoFALD のドナー協調枠組みである LGCDP が設置した住民組織である WCF が区 (ワード) の代表組織及び VDC への直接のつなぎ役として存在感を増してきた状況にある。WCF の能力については地域毎に大きな差があることや、WCF が 2007 年から不在となっている地方議員の代替機関として設置された過渡的な組織であることから、WCF は本プロジェクトの活動を区 (ワード) で一手に引き受ける担い手としては適切ではない。よって、本プロジェクトが進めてきた、「各区 (ワード) で WCC を設置し、彼らを直接の支援対象とするも、WCF とも協働体制を築き、CRMP の策定及び VDC への働きかけを共に行う」という選択肢は適切であったと思われる。今後の DSCO によるサビハ・モデルの複製においても、この WCC と WCF の協働体制は確保されることが望ましい。また、政府の方針では今年中に地方選挙が行われる可能性もあることから、DSCO は地方選挙後の地方行政の動向も注視し、その時々最適な協力体制 (住民組織) の選択に努める必要がある。

¹⁰ Ward Citizen Forum。MoFALD が主導してドナーと共に行う地方開発プログラム LGCDP (Local Governance and Community Development Program) により国内の全ての区 (ward) に設置された住民組織

(3) サビハ・モデルの MoFSC への内包化

本プロジェクトでは出口戦略（内包化）文書が策定されており、同文書は現在、MoFSC 大臣による最終承認段階にある。同出口戦略文書では、サビハ・モデルの今後の複製活動について「2014 年以降、平均で 3 郡ずつ複製し、2020 年までに 25 郡への複製を目指す」と記載されており、およその複製規模に関し省内の合意（予定）が見られる。一方、確実な複製活動を保証する観点からは、同記述より一歩踏み込んだ複製計画の策定が望ましく、既に緩やかな合意が関係者間にあると言われている対象地、期間、予算額等の情報が文書でまとめられることが望ましい。

(4) サビハ・モデルの積極的広報

サビハ・モデルは長い協力の歴史により、ネパール側政府への浸透が進み、また継続的なモデルの改善努力により事業そのものが非常に効果的・効率的に実施できる構造が構築されている。サビハ・モデルは、住民発意の流域保全活動のモデルとして強みを持つのみならず、本フェーズにおける行政ラインの巻き込みにより、流域保全に限らない、地方開発モデルとしての潜在的な可能性も持ち合わせていると言える。これらの点につき、現状では関係者以外にサビハ・モデルが持つ価値の広報が進んでいないことから、今後はより積極的に MoFSC 及び MoFALD から関係行政機関や他の開発パートナーに対し広報されることが望ましい。また、JICA ネパール事務所は、プロジェクト専門家の協力も得つつ、LGCDP に対しサビハ・モデルの広報を進め、地方開発手法に関するインプットを行うことが望ましい。

(5) サブ・プロジェクトにより設置されたインフラ設備の維持管理

各区（ワード）で実施されたサブ・プロジェクトでは、複数のインフラ設備が設置されたが、これらの設備の維持管理に関しては方針が未検討のものがほとんどである。よって、残りのプロジェクト期間では、これらのインフラ設備の維持管理方法に関し各 WCC で協議するとともに、維持管理費用の徴収や関連省庁の出先機関との連携を開始することが望ましい。

(6) POWER グループの持続性確保

プロジェクトで各区（ワード）に設置された POWER グループは、プロジェクト終了後の形態として、一部、協同組合化が検討されている。協同組合の特徴やメリットに関しては既にプロジェクトから各 POWER グループの代表者に対し説明会を開催しているが、今後プロジェクト終了までに各 POWER グループで納得のいく判断が下されるよう、引き続き DSCO やモチベーターから協議の促進支援を行うとともに、必要に応じ協同組合関連の情報を再度周知することが望ましい。

5-2 教訓

本プロジェクトから得られる教訓の中でも、特に功績の側面に光を当てつつ、今後も JICA がこのような効果的な案件形成・実施を行うために参考・教訓となるような「プロジェクト成功のポイント」を以下にまとめることとしたい。

(1) 徹底された「モデルの理念」の追求

本プロジェクトは、「サビハ・モデル」を構築・完成させ、またプロジェクト期間中にネパール政府によるモデルの複製を促進した点で、非常に大きな功績を残した。

本プロジェクトが対象とするテーマは「土壌保全・流域管理」であり、ともすれば区（ワード）レベルでの開発計画では後回しにされがちな分野である。しかし、このような分野であるからこそ、プロジェクト形成の段階から実施にいたるまで、いかに「住民の関心と主体性を引き出すか」という点が一貫して重視されている。この主体性とは、彼らが望むことを、彼らが適切と思うタイミングで、彼らの意志に沿って行うことで、初めて確保されるものである。ここに押し付けではなく、住民の主体性を重視した、揺らがないサビハ・モデルの理念がある。

理念の反映にあたり、本プロジェクトに特徴的だった点がいくつかある。一つは、プロジェクト専門家が黒子のように政府関係者や住民の側に立ち、彼らに対し決して大げさではない、さりげないサポートを提供したことである。これによって、ネパール側関係者は早い段階から、自身が主体となってプロジェクトを進めている感覚を得ることができ、またその中で成功体験を得ることができた。専門家とは、カリスマのように先頭でプロジェクトを引っ張ることもできるが、本プロジェクトでは、このように「黒子型」の支え方に徹したことが非常に功を奏した。

二つ目は、主体性を維持するために重要となる、プロジェクトの透明性の確保である。本プロジェクトは、住民が策定した計画に基づきサブ・プロジェクトの資金が使用されるという点で既に透明性が高いが、それに加えて、各 WCC では、サブ・プロジェクト実施後に必ず公聴会を実施し、細かな資金用途の報告が行われた。また、WCC 要員の選定やモチベーターの採用にあたっては、ネパールに広く見られる政党の偏りが努めて排除され、WCC の協議の場においても、政治的主張や介入が一切禁止されたことにより、健全な事業実施に貢献した。

(2) 脱・セクター主義 —住民の多様なニーズを受け止め信頼を構築—

開発機関が実施するプロジェクトとは、ほとんどの場合、対象のセクターが決まっていて、そのセクターに当てはまるものが支援対象とされる。よって、住民が「少しこれも関心があるのだけど・・・」と持ち寄る多様なニーズは、プロジェクトの対象外という理由で跳ね返されることが多い。住民側にしてみれば、すべてのニーズはそれぞれに連結しており、セクター毎に切り分けられても違和感が残るところである。そして、次第にプロジェクトの関心と住民の関心が噛みあわなくなり、プロジェクト実施の要である住民の主体性がどこかに消えてしまう。本プロジェクトは、過去に長い協力の歴史を持つが、今次フェーズにおいて大きな変化を経験した。それは、プロジェクトの担当省庁に、既存の MoFSC に加えて MoFALD が加わった点である。最上流の本省レベルでの連携がどれほど実現したかは心もとない面も残るが、少なくとも現場レベルにおいては、「WCC (MoFSC ライン) - VDC/DDC (MoFALD ライン)」の連携が図られ、地域住民の多様な開発ニーズに応える「地方 (コミュニティ) 行政」の強化が行われた。具体的には、WCC が包括的な区 (ワード) の資源計画である CRMP と、優先プロジェクトのリストを策定し、その中で MoFSC 関連のものはプロジェクトが支援、MoFSC 以外のは VDC に持っていく、というマルチセクター (包括的) な枠組みが現場で構築された。プロジェクトの組み方によっては、CRMP の対象テーマを土壌保全と流域

管理に限ることもできたが、そうした場合にどれほどの住民が関心を示しただろうか。一見、マルチセクトラルになることで遠回りをしているように見えるプロジェクトの構造だが、結果的に本プロジェクトの WCC は、住民が日ごろのニーズを訴えていく場として、住民の信頼を得つつ、意見を集約することに成功している。

(3) 高度なプロジェクトは絵に描いた餅へ・・・「手頃感」の重要性

本プロジェクトは、その内容が WCC、POWER グループ、DSCO 等あらゆるステークホルダーにとって、理解しやすく、手の届く範囲の内容であったことが特徴的である。もちろん、各サブ・プロジェクトに関しては住民のニーズに沿ったものであったからこそ協力が得られた面もあるが、何より、「手頃」であるという点が重要であった。「手頃」とは、WCC に託されたサブ・プロジェクトの予算規模がそれ程大きくなく、何とか自分たちのリソース（資材・労力他）を使い、また自分たちで実施、運営可能であったことを意味する。また、もう一つの特徴は、各サブ・プロジェクトの資金が 6 万 4 千ルピー（日本円でもほぼ同値）と、高くはないが、無視するにはもったいないほどの絶妙な金額であった点である。サブ・プロジェクトを実施するには少ないので、WCC は自然と VDC 等の関係機関に追加予算の申請を行い、これが結果的に「WCC-VDC/DDC」の関係構築につながった。すなわち、各 WCC は、本プロジェクト終了後の持続性を担保するための特訓（VDC から予算を得るために、どう計画を作るか、どう交渉するか）に、プロジェクト開始早々から取り組んだのである。

(4) 技術系省庁の強みを生かす

協力対象の MoFSC、その中でも DSCWM は、ネパールの省庁の中で人数的にも、予算的にも比較的小規模な局である。加えて、DSCWM が扱う「土壌保全・流域管理」のテーマは、直接収入向上等のメリットにつながりにくいことから、上述の通り地域住民の関心を得られにくいテーマである。このような背景もあり、逆境を跳ね返すべく、DSCWM は日ごろから住民の声によく耳を傾けることをモットーとしており、フットワークが軽く、現場では理念的だけでなく技術的な助言も行える素質を備え、また政治色も薄いとの評価を住民から受けている。このような強みを既にもつ DSCWM 下の DSCO 及び DSCO 技術者らに対し、本プロジェクトでは更に社会的包摂等の概念を共有したことにより、調整能力、コミュニケーション技能の向上が図られ、彼らに技術+ α （社会的概念）の強みをもたらすことができた。サビハ・モデルの成功の裏には、この省庁の特徴・素質も影響していることに留意する必要がある。

以上

付 属 資 料

1. 面談者リスト
2. 中間レビュー提言事項
3. 終了時評価グリッド（和・英）
4. ミニッツ（M/M）〔合同評価調査報告書（英文）を含む〕
5. プロジェクト内部レビュー報告書

List of stakeholders met during the Terminal Evaluation of PWMLGP

Sn	Name	Designation	Organization
1	Mr. Mukundaraj Prakash Ghimire	Joint Secretary	MoFSC
2	Mr. Pem Narayan Kandel	Director General	DSCWM
3	Mr. Ramesh KC	Under Secretary	MoFALD
4	Dr. Prem Paudel	Under Secretary	DSCWM
5	Mr. Purusottam Nepal	National Program Manager	LGCDP II
6	Dr. Akhileswor Lal Karna	Regional Director	Western Regional Forest office
7	Mr. Eswor Raj Paudel	Local Development Officer (LDO)	DDC Kaski
8	Mr. Bishnu Raj Sharma	LDO	DDC Myagdi
9	Mr. Nishan Raj Gautam	Planning Officer	DDC Kaski
10	Mr. Arjun Neupane	Social I Development Officer (SDO)	DDC Kaski
11	Mr. Uddhav Bahadur Ghimire	DSC Officer	DSCO Kaski
12	Mr. Niranjana Shrestha	DSC Officer	DSCO Baglung
13	Mr. Diwakar Paudel	DSC Officer	DSCO Myagdi
14	Mr. Bishnu Prasad Pokharel	Assistant Soil Conservation (ASC) Officer	DSCO Kaski
15	Mr. Narayan Prasad Paudel	ASC Officer	DSCO Kaski
16	Mr. Gangaram Mahato	Crop Development Officer	DSCO Kaski
17	Mr. Prakash Thapa	Soil Conservation Assistant	DSCO Kaski
18	Mr. Shiv Shanker Sah	Sub-Engineer	DSCO Kaski
19	Ms. Milan Bhattarai	Sub-Engineer	DSCO Kaski
20	Mr. Kabir Bilas Pant	Junior Technician	DSCO Kaski

21	Ms Chandra kala Parajuli	Motivator	Bhadaure Tamagi VDC
22	Ms Dipa Adhikari	Motivator	Dhampus VDC
23	Ms Laxmi Gautam	Motivator	Lawangghalell
24	Ms Laxmi Adhikari	Motivator	Dhikurpokhari VDC
25	Ms Bimla Ghale	Motivator	Chapakot
26	Mr. Sanjay Kumar Mishra	ASC officer	DSCO Myagdi
27	Mr. Shree Prasad Yadav	Crop Development Officer	DSCO Myagdi
28	Mr. Birendra Kumar Mahato	Sub-Engineer	DSCO Myagdi
29	Mr. Iswor Kumar Shrestha	Soil Conservation Assistant	DSCO Myagdi
30	Mr. Tika Ram Panthi	Cluster Coordinator	LGCDP, Pokhara
31	Mr. Koji Terakawa	Chief technical Advisor	PWMLGP
32	Ms. Yuko Shibuya	Expert	PWMLGP
33	Ms.Tomoko Nishigaki	Expert	PWMLGP
34	Mr. Madan Bharati	Project Officer	PWMLGP
35	Mr. Rudra neupane	Project Officer	PWMLGP
36	Mr. Prakash Nepali	Assistant Project Officer	PWMLGP
37	Mr. Rishi Ram Pandey	Project officer	PWMLGP
38	Mr. Kiran Babu Kafle	Project Officer	PWMLGP
39	Mr. Yadav Basnet	Project Officer	PWMLGP

提言事項(中間レビュー基礎情報収集調査)及び対応状況

1.中間レビュー提言事項(2012年2月)	2.地方行政情報収集・確認調査提言事項(2013年3月)	3.提言に対する対応状況(2014年3月時点・プロジェクトからの報告に基づく)
メインメッセージ		
SABIHAA モデル複製事業を拡大しつつMoFSC とMoFALD 間の連携により地方行政と流域管理をいかに持続的に促進していくかが主要な課題となる。	SABIHAAモデルの複製活動支援や対LGCDP含む案件広報には今後も取り組むべきであるが、中央レベルでのMoFSCとMoFALD間の連携促進に関してはプロジェクト期間中に達成することが難しいと思われる。よって、残された期間においては、省庁間連携のための働きかけのウェイトを下げ、案件の主眼を「地方行政との連携」から「コミュニティ開発」に移行させる。	提言を踏まえ、現在プロジェクトは以下の活動に注力している： ・SABIHAAモデルの確立に向けたMoFSC/DSCWMの複製活動支援 ・DSCWM内のSABIHAAモデル主流化支援 ・コミュニティレベルでの地方行政・流域管理連携の持続性支援 ・ネパール政府及びLGCDP含むドナーへのSABIHAAモデル広報
MoFSC(森林土壌保全省)への提言		
(1) SABIHAA モデル複製事業の制度化 2つの省の共通ニーズに基づき、SABIHAA モデル複製事業とLGCDP の連携が地域資源管理計画と農村開発計画、WCC と集落住民委員会間、モチベーターとソーシャル・モビライザー間とそれぞれに図られるべく調整促進が期待される。その結果、プロジェクトを実施するうえで、両省がSABIHAA モデル複製事業と地方行政によるシナジー効果を促進する旨、記載された両省連名の合意書(joint understanding memorandum)が発出されることが望ましい。		(1) プロジェクトでは、4-5年次の活動を通じてVDCLレベルでのLGCDP連携促進を図ってきた。特にワードの計画造りをVDC事務長の同席を得て、WCF、WCCと協働で進めることで、VDCからの支援を得ているケースが多々見られる。また、MoFALDとMoFDC/DSCWMとの合意書は2012年12月26日に署名されている。この合意書の写しはサビハ活動を実施中の、プロジェクト対象外で複製活動を実施中の3郡を含む、11郡のLDOとDSCOに発出されている。
(2) SABIHAA モデル複製事業の拡大 SABIHAA モデル複製を他郡に拡大すべく人員と予算の確保を主導すること。		(2) DSCWMはプロジェクト対象8郡を含む合計11郡で複製活動を実施している。
(3) 持続性担保のための作業グループの形成 上述の事項を検討、実現するために関係機関/局から構成される作業部会を設置しプロジェクト終了後の持続性について考察していくこと。		(3) 出口(内部化)戦略WGを設置して、議論を重ね2014年2月に内容を最終化した。
(4) 更なる連携 ① MoFSC 内のDSCWM と森林局間をはじめ、省、局、プロジェクト間の更なる連携を促進し、例としてプロジェクトと郡森林事務所との連携を強化する。 ② MoFALD や、農業共同組合省、水資源省等関係機関との連携を促進する。		(4) プロジェクトでは、5地域森林局での会合などの機会に、サビハ活動の概要を周知するなどの機会促進を図った。しばらく空席であったプロジェクト・ダイレクターにムクンダ・ギムレ次官補が任命され、MoFSC内での注目度が高まった。同時に、5地域森林局での会議時での広報も行われている。また2013年10月のMoFSCのGESIセミナーでは、PWMLGPが成功事例として取り上げられた。
DSCWM への提言		
(1) SABIHAA モデルの広報 他の関連事業[例:LGCDP、マルチセクター森林プロジェクト(Multi-Stakeholder Forestry Project:MSFP)]、大統領チュリア保全プログラム等)に対しSABIHAA モデル複製事業を周知し経験を共有すること。上記以外の機会も捉え、SABIHAA モデル複製の経験を更に表に出し広く共有すること。		(1) 2012年5月の第1回全国セミナー、2013年12月の課題セミナー、5地域森林局での周知などを行っている。またチュリア保全関連のセミナーでもサビハの成果を共有している。
(2) 現場レベルの協働 WCC とPOWER グループの資金源を確保すべく、WCC、VDC、DDC 間の調整を図る。DDC 会合もそうした調整の機会として活用できるようにする。		(2) DWCC会合や日常的な情報共有により、DDC(LDO)との連携を進めている。また、VDCLレベルでは、WCCの活動実施に多くの支援実績が見られる。
(3) DSCO 職員の能力向上 プロジェクトとともに、プロジェクト期間中にSABIHAA モデルに関するDSCO 向け追加的研修の開催について主導すること。DSCO 職員向けの定常研修にSABIHAAモデルに関するコースを組み入れることで予算を確保するの一案である。かかる研修にはSABIHAA モデル複製事業の経験を積んだDSCO 所長/職員及びDSCO 技術者や、これまで開発した教材の活用も検討する。		(3) プロジェクトでは、複製3郡とチュリア地域の10郡DSCO対象にサビハモデルに関する研修を実施した。また2014年4月に、これまでサビハ活動に関わる機会の無かった30DSCO所長に研修を行う予定である。これらの研修は、DSCWM/DSCOの職員が中心となって講師を務めることで、プロジェクト終了後も研修内容とスキルが担保されることを期待している。

提言事項(中間レビュー基礎情報収集調査)及び対応状況

1.中間レビュー提言事項(2012年2月)	2.地方行政情報収集・確認調査提言事項(2013年3月)	3.提言に対する対応状況(2014年3月時点・プロジェクトからの報告に基づく)
MoFALD への提言		
(1) SABIHAA モデルの制度化 MoFSC とMoFALD の共通ニーズに基づき、SABIHAA モデル複製事業とLGCDP の連携が地域資源管理計画と農村開発計画、WCC と集落住民委員会間、モチベーターとソーシャル・モビライザー間とそれぞれに図られるべく調整促進がなされることが期待される。 その結果、プロジェクトを実施するうえで、両省がSABIHAA モデル複製と地方行政によるシナジー効果を促進する旨、記載された両省連名の合意書(joint understanding memorandum)が発出されることが望ましい。		(1)WCCがWCFと連携して、またモチベーターとソーシャル・モビライザーが協働して作成するCRMPはLGCDPのVDC計画造りとして採択されるケースが数多く見られる。また、上述のように、2012年12月にMoFALDとMoFSC/DSCWM間で合意書が取り交わされ、その写しは複製含む11郡のLDOおよびDSCOに発出されている。
(2) SABIHAA モデルの活用 MoFSC と協力し、LGCDP にどのようにSABIHAA モデルを活用できるかを検討すること。実践的なSABIHAA モデルは地方行政機関向けの一連のガイドラインに反映することが望ましい。		(2)2012年12月にDSCWM局長とLGCDP担当次官補が面談し、モチベーターとソーシャル・モビライザーの協働、およびWCCとWCFが連携してワード計画を作ることを促進する旨、合意し、上記の合意書として発出されている。
(3) 他省との連携 DDC が策定する地方開発計画において、全レベルのセクター-地方事務所間の連携を強化すること。		(3)DDCでの定例会議の場を通じて、また年2回のDWC会合の機会を通じて、郡レベルでの連携が強化されている。
(4) SABIHAA モデルによるWCC 計画の統合化 WCC 策定による計画をVDC の計画へ統合する適切な方策を模索すること。更に、WCC と集落住民委員会の調整を図り、これら組織の調和化を進めること。		(4)CRMP作成時にはVDC事務長、WCFメンバー、ソーシャル・モビライザーも参画し、合同でワード計画が立案され、VDC評議会に提出されている。
プロジェクトへの提言		
(1) SABIHAA モデル複製事業の広報 1) ネパール側関係者によるSABIHAA モデル複製事業の全国規模拡大へ向け、その経験や有効性を明確に広報していくことが重要である。以下の事項がプロジェクト活動に含まれることを提言する。 2) 地方組織を巻き込み成功しているWCC 活動の優良事例や教訓を収集分析する。 3) SABIHAA モデル複製事業広報用パッケージ(DVD、パンフレット、事例集等)を作成する。 4) SABIHAA モデル複製事業を広報すべくDSCWM がワークショップ、セミナー、シンポジウム等を実施する際、プロジェクトは同局を支援する。	(1) SABIHAA モデル複製事業の広報 現在、森林省土壌保全局内に留まっているSABIHAAへの十分な理解を、森林省内で更に促進・定着させる働きかけを行う。	(1)2012年5月の第一回全国セミナーの実施、2013年12月の課題セミナーを実施し、これらの場で優良事例を報告している。またホームページ開設、森林省内での会合等での広報等に努めた。また、2014年5月に予定している第2回全国セミナーで共有すべく、継続的に優良事例を収集している。加えて、広報用パッケージを第4年次でドラフトし、第5年次を通じて作成中である。森林省傘下の5地域森林局で実施された会合時にサビハモデルの広報をDSCWMと協働で行った。
(2) SABIHAA モデル複製事業への支援 1) SABIHAA モデル複製が全国に拡大するためには現在進行中の複製事業から得られる教訓を生かすことが肝要である。以下の活動はまた、本プロジェクトの上位目標を達成する上でも付加すべきものであると考える。 2) ネパール政府によるSABIHAA モデル複製の拡大に向け現実的な方策を模索、分析する。 3) SABIHAA モデル複製オペレーションガイドラインを本プロジェクトと複製事業の経験、教訓を基に改訂する。	(2) SABIHAA モデル複製事業への支援 現在、森林省土壌保全局の主導でSABIHAAの複製プロジェクトが実施されているが、WCCが上手く機能せず、また予算についてもセクター省庁からの交付金のみに依存してしまうなど、地方行政強化というコンポーネントの技術移転が上手く図られていない状況である。今後は特に複製地域において、WCC・VDC間の連携を側面的に支援する。	(2)DSCWMとMoFSC/MoFALDがメンバーとなる出口戦略策定作業を継続的に支援・指導して2014年2月に最終化された。改訂されたOGには、VDCとWCC、WCF相互間の連携の重要性を強調している。

提言事項(中間レビュー基礎情報収集調査)及び対応状況

1.中間レビュー提言事項(2012年2月)	2.地方行政情報収集・確認調査提言事項(2013年3月)	3.提言に対する対応状況(2014年3月時点・プロジェクトからの報告に基づく)
<p>(3) MoFALD との連携 MoFALD、DDC を本プロジェクトに更に巻き込むべく現場レベルにおける更なる経験の共有を図り、連携を促進する。LGCDP に関連が深い他のJICA プロジェクトとの情報共有も望まれる。</p>	<p>(3)MoFALD連携緩和 地方行政との連携から、コミュニティ開発分野のプロジェクトへと支援の軸足を移す(VDCレベルでの地方行政との連携促進は継続)。一方で、他の地方行政分野の3案件の専門家チームと協力しつつ、LGCDPへのプロジェクト成果の情報発信は継続して実施する(可能であれば環境分野のThematic Group等にも参加する)。</p> <p>(4)MoFALDとMoFSC間の法律齟齬是正 中央レベルでの働きかけとしては、MoFALD・MoFSC間に法律上の齟齬(例えば、村の森林利用について、森林省のForest LawではCommunity Forest Users Group(CFUG)が管理することになっているが、MoFALDのLocal Self-governance ActではVDCが管理することとなっている)が生じており、両省庁間の連携の阻害の一因となっていることから、法改正を含めた調整作業への提言・解決促進を図る。</p>	<p>(3)郡レベルのDWCではLDOが議長役を務めるなど、DDC事務所や他の関連機関を巻き込んだ活動を促進している。またDWCの場で現場訪問を実施するなど、VDCやWCC/WCFとの交流も効果を発揮している。また、各郡のLDOには全国セミナーや課題セミナーには、MoFALD関係者の出席を得ている。バンコクでのRECOFTC研修にもMoFALD関係者の参加を得ている。加えて、他のJICA地方行政系のプロジェクトとの情報交換を日常的に行っている。MoFSCとMoFALD間の法的矛盾についてはJCCの場で対話を提案した。</p>
<p>4) 現場レベルの協働 1) SABIHAA モデル複製の推進にとってWCC が資金源に適切にアクセスできることは極めて重要である。現状をかんがみて以下の取り組みが必要と考える。 2) 集落、VDC、DDC 間の連携を図り、郡やVDC レベルの計画策定プロセスにWCCやPOWER グループ支援のため適切な資金源の調整を取り入れること。DDC 会合は更に効果的な調整の場として有効活用が可能である。 3) 集落レベルの総合計画を策定する際にWCC による地域資源管理計画との調和化を図ること。そのために、地域の森林グループ等関連したグループとの連携が集落内で図られることが理想的である。 4) WCC の計画の質を向上し、より一層、外部からの資金源を確保させるべく、OGの改訂を行うこと。(例:地域資源管理計画の改善、潜在的な組織による資金提供サービス・リストの添付等)</p>		<p>(4) 上述のようにDDCレベルではLDOを巻き込んだ連携を促進しており、年2回のDWC会合の場だけでなく、他の会合時などにも情報を共有するようDSCOに指導している。LDOなど関係機関の郡所長が現場訪問することでVDCレベル関係者との交流が実現した。VDCレベルでは、ワードの開発計画であるCRMPの再策定時に、VDC事務長、WCFメンバー、ソーシャル・モビライザーが協働で作業することで、ワードを代表する計画造りが進んだ。改訂OGではVDC、WCF、他関連機関との連携の必要性を強調し、計画造りの段階から連携を始めるように改訂している。</p>
<p>JCC への提言</p>		
<p>(1) 上位目標の指標の見直し PDM1.8 の上位目標にはMoFSC とMoFALD の「イニシアティブ」の指標が明確に記載されていない。現在示されている指標に加え、新たな指標についてJCC の場で議論・承認するの一案である。本調査団は上位目標の指標として、「『SABIHAA 複製をより良い流域管理と地方行政のために制度化する』と記載されたMoFSC とMoFALD 合同の同意書を発出する」とすることも提案したい。</p>		<p>(1) 活動の実態に鑑みて成果4「サビハの内部化促進」を追加することが協議の結果、妥当と判断された(PDM2.0)。その中の指標として、MoFSCとMoFALD間での合意書を含めることにネ側、JICA側が合意した。</p>
<p>(2) 郡作業委員会との定期的な会合の実施 PDM でも予定されているとおり、郡作業委員会の会合/ワークショップは定期的にかつ定期的に開催される必要がある。</p>		<p>(2) DWC会合は、定期的実施されている。(第3年次からは年に2回の実施)</p>
<p>(3) MoFSC とMoFALD の具体的な連携に関する議論 JCC 会合の検討事項として、政策、現場レベル双方においてどのような具体的な連携が可能かに関し更なる議論を含めることが望ましい。</p>		<p>(3) JCCおよび出口(内部化)戦略策定の場で、MoFSCとMoFALDの連携について討議され、上述のように連携の合意文書が発出された。</p>

Evaluation Grid (Terminal Evaluation)

Participatory Watershed Management and Local Governance Project

(This Grid was prepared and finalized by Japanese Evaluation Team.)

Evaluation Criteria	Evaluation question		Basis of judgment	Data needed	Data source	Data collection method
	Main question	Sub question				
Achievement	Were the input made as planned?	Have the Japanese experts dispatched as planned?	Comparison with the planned figures	Records on Japanese experts	Project records and relevant documents, Self-Evaluation Sheet, opinions of experts& C/Ps	Document review, interviews
		Have the counterpart training conducted as planned?		Records on counterpart training		Document review, interviews
		Have the equipment and machinery provided as planned?		Records on equipment provision		Document review, interviews
		Have the counterpart personnel assigned as planned?		List of counterpart personnel		Document review, interviews
		Have the physical facilities provided as planned?		Information on the facilities		Interviews, field visit
		Have the budgets to cover operational costs allotted as planned?		Records on budgetary allocation		Document review, interviews
	Have the outputs been produced properly?	Does the capacity of DSCOs on participatory watershed management improved in the targeted area?	Degree of achievement	Information on the progress of the compilation	Project documents, Self-Evaluation Sheet, opinions of C/Ps, VDC, WCC, DSCO	Questionnaire/Interview, discussion with Project experts, C/Ps and DSCWM/MoFSC
		Does the capacity of community people in targeted districts on participatory watershed management and local governance is enhanced?	ditto	ditto	Project documents, Self-Evaluation Sheet, opinions of experts, C/Ps and DSCWM/MoFSC	Questionnaire/Interview, discussion with community people
		How about the promotion on the concept of local governance in participatory watershed management?	ditto	ditto	Project documents, Self-Evaluation Sheet, opinions of C/Ps	Questionnaire/Interview discussion with Project stakeholders
		How about the internalization of SABIHAA model promoted?	ditto	ditto	Project documents, JCC Meeting memo, opinions of C/Ps	Questionnaire/Interview, discussion with Project stakeholders
	Is the Project purpose likely to be achieved?	Is there any improvement of the improved participatory watershed management in better collaboration with DSCO and local bodies in the target districts or not?	Levels of improvement	Information related to the progress of compilation	Project documents and personnel, opinions of C/Ps and DSCWM/MoFSC	Questionnaire/Interview, discussion with Project stakeholders, field visit
		Indicators are below: 1. At least 5% of CRMP defined sub-project are co-funded/collaborated with local bodies or other institution. 2. Joint monitoring and evaluation is implemented by DSCO and DDC in all 8 districts.	Prospects of achievement, Levels of application	Information related to implementation of sub-project	Project records, Project documents, Joint Monitoring Report, Opinion of experts& C/Ps, Project stakeholders	Questionnaire/Interview, CRMP documents, discussion with Project stakeholders

Evaluation Criteria	Evaluation question		Basis of judgment	Data needed	Data source	Data collection method
	Main question	Sub question				
Implementation processes	Have the activities been implemented as scheduled?	Have the activities been timely implemented?	Comparison with the PO	Actual implementation schedule	Project stakeholders, Project records and relevant documents, Self-Evaluation Sheet, PDM, PO	Document review, interviews
		Has there been any change in the activities and schedule of implementation from the original PO?		Information on the changes that took place		Document review, interviews
	Have there been any problem related to the management of the Project?	Have the Project activities been properly monitored?	Frequency and contents of monitoring	Monitoring mechanism, monitoring results	Project stakeholders, Project records, JCC Meeting memo	Document review, interviews with Project experts, C/Ps
		Has the decision making mechanism of the Project been functional?	Existence of problems and countermeasures	Information on the JCC and other decision making mechanisms	Project stakeholders, Project documents, JCC Meeting memo	Interview, discussion with Project stakeholders
		Has the communication among JICA country Office, JICA HQ, the implementing agencies and the Project been smooth? It was appropriate way of technical transfer?	ditto	Ways and contents of the regular transactions	Officers in charge at JICA Nepal Office and JICA HQ, Staff of implementing agencies, Project stakeholders, Project documents	Interview, discussion with Project with JICA staff, Project experts, C/Ps
		Has the communication among the Project stakeholders been smooth?	ditto	Ways and contents of the daily and regular transactions among the Project stakeholders	Project stakeholders, Project documents	Interview, discussion with Project stakeholders
		Have there been any other problems encountered in the course of Project implementation so far?	ditto	Information on the managerial problems so far and countermeasures taken by the Project	ditto	Document review, interviews with Project experts, C/Ps
		What are special measures taken in terms of the managerial aspects of the Project?	ditto	Information on the managerial measures taken by the Project	ditto	Document review, interviews with Project experts, C/Ps
		Are the implementing agencies committed and well aware of the Project?	Do the implementing agencies understand the objectives and approaches of the Project?	Levels of understanding	Information on the understanding of the Project purpose, discussion & meeting records	Project stakeholders, Project documents, JCC Meeting memo
	Have appropriate counterpart personnel been assigned?		Suitability of their expertise	Information on the qualification / background / experiences of the assigned personnel	ditto	Document review, interviews with Project experts, C/Ps
	Have the counterpart personnel been committed and involved actively in the Project activities?		Degree of participation	Examples of the activities that were mainly conducted by the counterpart personnel	ditto	Document review, interviews with Project experts, C/Ps
	Are the target groups well aware of the Project?	Have the beneficiaries well recognize the Project activities?	Levels of understanding	Information on their understanding of the Project, records of explanatory efforts made by the Project	Project documents, officials of DSCWM/MoFSC, targeted beneficiaries	Interview, discussion with Project stakeholders
		Have the beneficiaries participated actively in the Project activities?	Degree of participation	Information on their participation in the Project activities		Interview, discussion with Project stakeholders
	Were there any special measures taken to ensure the smooth implementation of the Project?	Have there been any special measures taken in terms of implementation mechanism?	Existence of the consistent stipulation in the document	Information on the measures taken by the Project	Project stakeholders, Project documents	Document review, interviews with Project experts, C/Ps
		Have there been any special consideration given in terms of dealing with the target groups?		Information on the measures taken by the Project	Project stakeholders, Project documents	Document review, interviews with Project experts, C/Ps

Evaluation Criteria	Evaluation question		Basis of judgment	Data needed	Data source	Data collection method
	Main question	Sub question				
Relevance	Has the Project still been in line with the priorities in the development plans and program of the country and the sector ?	Is the Project still consistent with the development plans of Nepalese Government? (Meet the strategy of DSCWM/MoFSC)	Existence of the consistent stipulation in the document	Development plans and programmes of Nepalese government	National Policy Papers, Annual Plan & Documents of DSCWM/DSCO, Self-Evaluation Sheet	Document review, Questionnaire/Interview
		What are the progress and achievement of the sub project supported by the Project?		Record on the sub projects carried out	Project documents, Self-Evaluation Sheet, opinions of experts, C/Ps and beneficiaries	Document review, Questionnaire/Interview
		Does the Project address the needs of the target area and the target groups?	Is the Project still in line with the needs of the target area and society?	Confirmation on the current needs	Information related to the progress of compilation, opinion of Project stakeholders and target beneficiaries	Project documents, Self-Evaluation Sheet, opinions of experts, C/Ps and beneficiaries
	Is the Project still in the line with the needs of the target group(e.g., DSCWM/MoFSC, MoFALD, DSCO, DDC, LDO, VDC, WCC, Motivator)?		Positive response from the target group	Baseline information, Information on the willingness by the target beneficiaries	Project documents, opinion of Project stakeholders and target beneficiaries	Document review, interviews
	Is the Project priority in the Japan's foreign assistance policy and JICA's country programs?	Is the Project relevant to the Japan's Aid Policies ?	Existence of the consistent stipulation in the document	Priority directions in Japan's Aid Program	Japan's Foreign Assistance Policy, Self-Evaluation Sheet	Document review
		Is the Project relevant to the JICA's Program / Rolling Plan?	ditto	JICA's Program / Rolling plan	JICA's Country Assistance Program / Rolling Plan	Document review, discussion with JICA staff
	Has the Project been adequate means to address the development issues in the country and the sector?	Does the Project appropriately address the issues of participatory watershed management and local governance?	Existence of the consistent stipulation in the document	National policies & programs related to the local government and irrigation and agricultural sectors	Policy documents	Document review
		Does the Project properly address the needs and context of implementing agencies?	ditto	Plans and program of implementing agencies	Policy documents, Documents of DSCWM/MoFSC, staff of implementing agencies	Document review, interviews
		Has there been any synergy effects through cooperation with other programs and/or local governance programs by GoN/donors?	Positive response from the target group	Baseline information, opinion of stakeholders	Project documents, opinion of experts and C/Ps	Document review, Questionnaire/Interview
	Is the selection of target groups appropriate?	Have the size of the target group been appropriate? Whether it is relevant as WCC/POWER group as "Ultimate target"?	Existence of the size of the target group	Baseline information, No. and area of coverage, No. of beneficiaries	Project documents, Self-Evaluation Sheet	Document review, interviews
		Has the Project equitably brought about the benefit?	Distribution of the Project benefits	Project benefits enjoyed by different status of target groups	Project stakeholders, Project documents	Document review, interviews
		Has the cost been equally shared by the stakeholders?	Cost sharing ratio	Expenditure and source of funds	Project records and personnel	Document review, interviews
	Has the Project applied appropriate approach?	Is there any advantage of Japanese technologies / experiences?		Technologies transferred through the Project	Project documents, opinion of experts and C/Ps	Document review, interviews

Evaluation Criteria	Evaluation question		Basis of judgment	Data needed	Data source	Data collection method
	Main question	Sub question				
Effectiveness	Is the prospect of achieving the Project purpose considered to be high?	Has the Project purpose been specific enough?	Existence of commonly shared definitions of Project purpose	Definition, understanding on the Project purpose among the Project stakeholders	Project stakeholders, Project documents, Self-Evaluation Sheet	Interview, discussion with Project experts and C/Ps
		Will there be any potential obstacles that may hinder the achievement of the Project purpose?		Information on the potential risks and obstacles and possible countermeasures	Project stakeholders, Project documents	Questionnaire/Interview, discussion with Project experts and C/Ps
	Have the outputs been appropriate to achieve the Project purpose?	Has there been any factors contributing to the achievement of the Project purpose other than the outputs?		Information on the related events, programs/projects by other organizations in the target area	Project stakeholders, Project documents	Questionnaire/Interview, discussion with Project staff
		Is the logical sequences between outputs and Project purpose still secured?	Confirmation on the logical sequence	Information on the results of activities that indicate the cause-effect relationship	Project stakeholders, Project documents	Interview, discussion with Project experts and C/Ps
	Has there been any influence of important assumptions?	To implement the project smoothly, are there any big influences by external factors? (such as National calamities, Security situation, Donor programme, etc)	Existing condition in the environment of the Project	Information on any related events, problem surrounding to the Project	Project stakeholders, Project documents	Document review, Questionnaire/Interview
	Has there been any other hindering or contributing factors?	What are the positive factors that encouraged the achievement of the Project purpose? What are the negative factors that inhibited the achievement of the Project purpose?	Current assumptions & important factors	Information on any relevant events in the course of Project implementation	Project stakeholders, Project documents	Document review, Questionnaire/Interview
Efficiency	Have the Project activities been appropriate to produce the outputs?	Are the activities contributing to achieve the outputs?	Co-relation between the outcomes of the activities and outputs	Logical sequence between activities and outputs, progress of activities and levels of achievements	Project stakeholders, Project documents	Document review, interviews
		Has there been any obstacle for the achievement of the outputs?		Information on any relevant events in the course of Project implementation	ditto	Interview, discussion with Project staff
	Have the inputs been appropriate to produce the outputs?	Have the timing, number, duration, and fields of Japanese staff dispatched been appropriate?	Comparison with the planned figures	Records on Japanese staff	Project records and relevant documents, Self-Evaluation Sheet	Document review, Questionnaire/Interview
		Have the timing, duration, contents of counterpart training been appropriate?	ditto	Records on counterpart training	ditto	ditto
		Have the timing, volume, and specification of provision of equipment been appropriate?	ditto	Records on equipment provision	ditto	ditto
		Have the timing, number, fields and competency of the counterpart personnel been appropriate?	ditto	List of counterpart personnel	ditto	ditto
		Were the physical facilities sufficient to implement the Project activities?	ditto	Information on the facilities	Project records, opinions of experts and C/Ps, Self-Evaluation Sheet	Interviews, field visit
		Has the scale of Project output been appropriate for the planned inputs?	Comparison with the input costs	Budget and expenditure, local cost by Nepalese side	Project records, opinions of experts and C/Ps	Interview, discussion with Project stakeholders and JICA staff
		Is it expectable to obtain enough project achievements to compensate the input costs?	Comparison with the input costs	Budget and expenditure, local cost by Nepalese side	Project record and personnel, JICA staff	Interview, discussion with Project stakeholders and JICA staff
		Are there any outputs that were realized by cooperation with other JICA schemes or other donors?		Information from the Project	Project record and personnel, JICA staff, related donor personnel	Interview, discussion with Project stakeholders and JICA staff
		Have the project been managed and supported by the stakeholders?	Have the project management and support been well functioned? Were the monitoring activities carried out efficiently?		Information from the Project	Project record and personnel, JICA staff
	Have there been any factors hindering or contributing to the efficiency of the Project?		Has there been any influence from important assumptions?		Information on the climate and natural disasters, and other factors	Project stakeholders, Project records
		Have there been any other factors affecting the efficiency?		Information on any relevant events in the course of Project implementation	Project stakeholders, Project records	Interview, discussion with Project staff

Evaluation Criteria	Evaluation question		Basis of judgment	Data needed	Data source	Data collection method
	Main question	Sub question				
Impacts	Is the prospect of achieving the overall goal assumed to be high?	Do you prospect that "Improved participatory watershed management is adopted in Soil Conservation and Watershed Management Programme" (the indicator of Overall goal) after the end of the Project?	Comparison with the baseline	Information from the Project	Opinions of Project stakeholders, Annual Plan & Documents of DSCWM/DSCO, Self-Evaluation Sheet, Project documents	Document review, Questionnaire/Interview, discussion with stakeholders
		Will the achievement of the overall goal contribute to the bring positive impacts to the policies of Nepalese government?	Organizational commitment, existence of relevant programs	Current program, future plan of the government, opinion of the Nepalese sides	Staff of the implementing agencies, Self-Evaluation Sheet, Project documents	Document review, interviews, discussion with stakeholders
		Is there any possible factors that hinder or contribute to the achievement of the overall goal?		Information on any relevant events in the course of Project implementation	Project stakeholders, Project documents	Document review, Questionnaire/Interview, discussion with stakeholders
		Are any methods or mechanism suggested in order to achieve the overall goal?		Future plan of the government, opinion of the Project staff	Staff of the implementing agencies, Project stakeholders	Document review, interviews, discussion with stakeholders
	Is the project purpose still appropriated to achieve the overall goal?	Is the logical sequences between the Project purpose and the overall goal still secured?	Confirmation on the logical sequence	Information on the results of activities that indicate the cause-effect relationship	Project stakeholders, Self-Evaluation Sheet, Project documents	Document review, interviews, discussion with stakeholders
	Have there been any other ripple effects? (expectation/forecasting)	Has there been any effects beyond the intended target groups?	Direct/indirect Influences through the Project implementation	Information on the sample cases in target area and other areas	Project stakeholders, Project documents	Document review, Questionnaire/Interview, discussion with stakeholders
		Has there been any unexpected effect on the <u>policies and programs</u> of implementing agencies?		Information on the relevant policies	Relevant documents, Project stakeholders, Project documents	
		Has there been any change or formulation in terms of relevant <u>organization, rules and regulations</u> ?		Information on the changes and new setup	Project stakeholders, Relevant documents	
		Has there been any unexpected change in <u>technical and/or methodological aspects</u> through the Project?		Information on the changes that took place	Project stakeholders, Relevant documents	
		Has there been any unexpected effect in terms of social aspects on <u>gender, human rights, poverty gap, peace and conflicts</u> ?		Information on the cases of relevant events	Project stakeholders, Relevant documents	
		Has there been any unexpected effect on <u>environmental concerns</u> in the target areas?		Information on the cases of relevant events	Project stakeholders, Relevant documents	
	Are the impacts brought by the Project?	What are the factors that brought about the above mentioned positive and negative effects?	Project's attributes to the effects	Information on the other interventions and events in the target areas	Project stakeholders, Relevant documents	Document review, Questionnaire/Interview, discussion with stakeholders

Evaluation Criteria	Evaluation question		Basis of judgment	Data needed	Data source	Data collection method
	Main question	Sub question				
Sustainability	Will the policy of improving and expanding irrigated agriculture continue ?	Is the possibility of continuation of the policies by GoN? (Do you prospect that MoFSC will support DSCWM maintain the improved SABIHAA model for watershed management after the end of the Project?)	Policy commitment	Current program, future plan of the government, opinion of the Project staff	Policy documents, Project stakeholders	Document review, Questionnaire/Interview, discussion with stakeholders
		Is there any alternative programs that can integrate the outcomes of the Project? (relation with LGCDP II)	Existence of relevant programs	ditto	ditto	Document review, Questionnaire/Interview, discussion with stakeholders
		Are the implementing agencies committed to continue the activities?	Organizational commitment of the implementing agencies	Opinions and relevant documents of implementing agencies	Project stakeholders, staff of implementing agencies	Document review, Questionnaire/Interview, discussion with stakeholders
	Are the implementing agencies capable to continue or further expand relevant activities of the Project?	Are the counterpart personnel capable of carrying out the activities?	Comparison with the baseline	Levels of competence, confidence, experiences and performance	Policy documents, Project stakeholders	Questionnaire/Interview, discussion with stakeholders
		Do you prospect DSCWM will be secured necessity budget from MoFSC after the end of the Project?	Budget allocation, planned volume	Budget plan of implementing agencies	Relevant staff of implementing agencies, budget documents	Questionnaire/Interview, discussion with stakeholders
	Will the technologies and methodologies introduced by the Project continuously be utilized?	Regarding to the SABIHAA model on participatory watershed management, is it possible to continue and accept among the stakeholders or not?	Levels of understanding and acceptance of the model	Understanding on the model among stakeholders	Project stakeholders, officials of DSCWM/MoFSC	Interview, discussion with stakeholders
		Is there any mechanism within the implementing agency to continue / further disseminate / modify the SABIHAA model in the future?	Existence of relevant programs	Information on the organizational setup and programs for further continuation and dissemination	Project stakeholders, staff of implementing agencies, organization structure	Interview, discussion with stakeholders
	Will the technologies and methodologies introduced by the Project continuously be utilized?	What are the future direction of SABIHAA replication projects by DSCWM?	Existence of relevant programs	Information on the organizational setup and programs for further dissemination	Project stakeholders, staff of relevant institutions, organization structure	Interview, discussion with stakeholders
		Is the necessary equipment properly maintained?	Degree of maintenance and designation of the responsible entities	Budget allocation, history of maintenance of equipment	Project records, Project stakeholders	Document review, interviews, field visit
	Are there any factors that may affect the sustainability of the Project?	Is there any negative influence on the social and cultural aspects that may become obstacles in carrying out the activities?	External assumption & Influence	Information on the cases of relevant events	Project stakeholders, staff of relevant institutions, organization structure	Questionnaire/Interview, Document review, field visit
Is there any negative influence on the environment that may inhibit the continuation of the activities?		ditto		ditto	Questionnaire/Interview, Document review, field visit	
Identification of the Necessary measures to be taken	What are the possible measures to further facilitate the Project implementation?	Is there any necessary change in terms of activities and inputs of the Project for the reaming Project period?	Information related to the Project implementation	Project stakeholders, staff of the implementing agencies, Project records, PDM, PO	Discussion with stakeholders and among the evaluation team	
		What are the other possible measures to further facilitate the Project implementation?		Project stakeholders, Policy documents, JCC Meeting memo	Interview, discussion with stakeholders and among the evaluation team	

Abbreviation:

DSCWM/MoFSC (Department of Soil Conservation and Watershed Management, Ministry of Forests and Soil Conservation) , DSCO(District Soil Conservation Office) , DDC (District Development Committee), LDO (Local Development Office), VDC (Village Development Committee), WCC (Ward Coordination Committee), POWER (Poor people, Occupational caste and Women's Empowerment for Resource management)

Remarks:

Project documents= Documentation described which the Project made with paper written during the Project period

Project records= Records and memo especially on the graphs and tables indicating the figure and progress on the Project activities

評価項目	調査大項目	調査小項目	判断基準・方法	必要な情報・データ	情報源	データ収集・調査方法	
実績	投入実績(ここはあくまで実績のみ記載)	長期、短期専門家	各分野、人数、派遣期間、時期の投入内容(本件はシャトル型長期専門家のみ)	長期専門家派遣実績、	JGCTレポート、中間レビュー報告書、業務完了報告書、投入実績表、プロジェクト作成資料	資料調査、インタビュー	
		機材	投入機材の種類や数量、さらに目的、調達タイミング	資機材供与実績、供与機材の維持管理体制、			
		研修員受入れ(本邦及び第三国研修)	C/P研修受入人数と期間、研修内容、実施タイミング	研修員受入報告、研修報告書、専門家の観察			
		現地業務費	活動予算額と支出内容、拠出タイミング	現地業務費投入実績、専門家の観察			
		プロジェクトの管理、支援体制	実施・支援体制	プロジェクト構成と専門家の観察			
		ネパール側投入	C/P配置(人数、職位、交代の有無)、事務所等施設の提供、ローカルコスト負担	PO、PO、経費負担実績、事務所等施設視察、専門家の観察			
		投入や活動成果は計画通りだったか(進捗状況は?)		投入実績表参照	業務完了報告書、中間レビュー報告書、成果品一覧、投入実績表、プロジェクト作成資料		
実施プロセス	活動進捗状況	活動は計画通りに実施されたか?	プロジェクトの活動状況は計画通りか?元の計画と相違する活動はあるか?	PO、APOと進捗実績との比較、専門家の観察	PDM、PO、JCCレポート、中間レビュー報告書、業務完了報告書、専門家、C/P、自己評価表	資料調査、インタビュー	
	モニタリングの実施状況	モニタリングの仕組みは適切か?	プロジェクト内部の取組み意欲・努力は?PDM及びPOはどのように活用されているか?進捗が報告されているか?モニタリングの内容は適切だったか、役立ったか?	モニタリングの実績報告、JCCでの議題・内容	JCCレポート、中間レビュー報告書、専門家・C/P、本部		
	専門家とC/Pとの関係及び関係者間の関係	コミュニケーションの状況は良好か、共同して問題に対処したか?	事務所と専門家、JICA本部、C/Pとの間のコミュニケーションは円滑か?(意見交換や情報共有が関係者に十分になされたか)?定期会議が開催されたか?事業の計画、決定が共同で行われたか?技術移転の方法に問題はなかったか?	コミュニケーション機会の設定・開催実績 日常業務におけるコミュニケーション方法と実績	JCCレポート、中間レビュー報告書、専門家、C/P	資料調査、インタビュー	
		先方実施機関に自助努力が見られたか?	自助努力始め、C/Pの主体性や積極性(実施機関やカウンターパートのプロジェクトに対する認識は高いか?)住民のモデル及びプロジェクト活動への理解度並びに参画度合	専門家の観察	JCCレポート、中間レビュー報告書、業務完了報告書、専門家、C/P	資料調査、インタビュー	
		C/Pの責務と役割	全体計画・実施・モニタリング機能や各国間の調整機能	プロジェクトのなかでC/Pはどのような役割を担っているか?	モニタリングの実績報告、専門家の観察	JCCレポート、中間レビュー報告書、専門家、C/P	資料調査、インタビュー
		相手国実施機関のオーナーシップ	予算の当てはけは十分か?	ネパール側はどの程度負担しているか	相手方の投入実績	JCCレポート、中間レビュー報告書、業務完了報告書、専門家、C/P	資料調査
			C/Pの配置は適正か?	専門家はC/P配置に満足しているか		C/P配置一覧、中間レビュー報告書、業務完了報告書、専門家	資料調査、インタビュー
		他ドナーあるいは関連JICAプロジェクトとの連携	JICAの他案件との連携や他の援助機関の協力プログラムとの協力(連携あるいはデマタ)体制は適切であったか?	日本の他の事業(2KR、他技プロやDDC 配属のJOCV、気候変動ノンプロ無償等)やドナーとのシナジー効果、調整や連携はあったか?	専門家の観察	JCCレポート、中間レビュー報告書、業務完了報告書、専門家、C/P、JICA事務所/本部	資料調査、インタビュー
		その他	中間レビューで指摘された提言に対し適切な対応がなされたか?	中間レビューで指摘された提言に対して、どういった対応、措置がなされたか?	中間評価の提言に対する対応経過	中間レビュー報告書、業務完了報告書、専門家、C/P、自己評価表	資料調査、インタビュー
			実施プロセスにおける留意点・阻害要因	プロジェクトの実施プロセスで生じている問題や、効果発現に影響を与えた阻害要因は何か(要因があったとすれば、それに対する対応は適切であったか?)	専門家の観察	中間レビュー報告書、業務完了報告書、専門家、C/P	資料調査、インタビュー
妥当性	相手国開発政策との整合性	上位目標は終了時評価時点においてもネパールの開発政策に合致しているか?	上位目標(MoFSCとMoLDのインシアティブ)により、暫定地方自治体とDSCOの協働による参加型流域管理事業が適用されるとネパールの政府目標とは今も整合性を保っているか?	JCCレポート、PDM、PO、国家計画資料(DSCWMやDSCOの年間計画、MoFSCの優先計画他)	JCCレポート、C/P、詳細計画調査/中間レビュー報告書、自己評価表、専門家、C/P	資料調査、インタビュー、質問票	
		プロジェクトが目指す目標(対象郡で暫定地方自治体とDSCOの協働による参加型流域管理事業の実施)及び協力内容は、対象地域・社会のニーズに合致しているか?	プロジェクト対象地域における参加型流域管理事業(sub-project)の実施進捗状況は?	JCCレポート、PDM、APO、関係者の意見	JCCレポート、中間レビュー報告書、業務完了報告書、専門家、C/P	資料調査、インタビュー、質問票	
	ターゲットグループの選定は適切か	対象者(受益者)の選定は適正だったか?【ターゲットグループは、DSCWM/MoFSC、MoFALD、DSCO、DDC、LDO、VDC、WCC、Motivatorが主対象であるが、突極的な受益者は対象地域の住民やPOWERグループなどを指す】*	対象者のニーズあるいは技術レベルをどの程度、把握してきているか?対象地域の住民始め、貧困層・マイノリティ・女性グループへのプロジェクトからの関与、働きかけは?	JCCレポート、PDM、APO、関係者の意見	詳細計画調査/中間レビュー報告書、業務完了報告書、専門家、C/P	資料調査、インタビュー	
		対象地域の選定(対象S郡)は適切であったか?対象者の選定(能力強化の状況に鑑みて、事業の対象は適切かどうか、また受講生の対象、規模、男女比など)は適切であったか?	プロジェクトのキャパに比して、対象地域【対象S郡】の選定は妥当であったか?研修参加内容の確認	関係者の意見	JCCレポート、ベースライン調査結果、詳細計画調査/中間レビュー報告書、専門家、C/P	資料調査、インタビュー、質問票	
	日本側の政策との整合性	協力内容は現在我が国及びJICAの重点方針に合致しているか?	プロジェクト開始時及び最近の援助方針	我が国対ネパール援助支援資料	対ネパール援助方針、JICAネパール国別事業実施計画(ローリングプラン&ポジションペーパー)、詳細計画調査/中間レビュー報告書、JICA事務所/本部	資料調査	
	開発課題への対応	自然環境保全を始めとする地域開発、並びにガバナンス(地方行政)が直面する課題への対応は適切であったか?	ネパール国、とりわけ自然環境保全を始めとする地域開発、並びに地方行政における課題との整合性は?実施機関の役割やニーズに沿ったものか?	JCCでの議題・内容、関係者の意見	JCCレポート、専門家、C/P、自己評価表、詳細計画調査/中間レビュー報告書、専門家、C/P	資料調査、インタビュー、質問票	
	プロジェクト計画の妥当性	プロジェクト実施計画にアプローチは適切であったか?(PDMの論理性も含め)。また、突極的な受益者としてWCCとPOWERグループの2者を設定したことは、相乗効果発現等の観点から妥当(適切)であったか。	事実確認と適正度判断	R/D、PDM、PO、JCCでの議題・内容、関係者の意見	JCCレポート、専門家、C/P、自己評価表、詳細計画調査/中間レビュー報告書	資料調査、インタビュー	
	日本の技術・ノウハウの比較優位性	我が国が本案件に協力する上での有効性や技術ノウハウはあったか?	これまでの我が国の協力実績や本件協力開始の経緯・背景	我が国の本分野における過去の援助実績・経験、優位性	JICA実績表、JICAネパール国別事業実施計画、自己評価表、詳細計画調査/中間レビュー報告書	資料調査、インタビュー	
有効性(予測)	プロジェクト目標達成の見込み	【対象S郡において、暫定地方自治体とDSCOの協働による参加型流域管理事業の実施】というプロジェクト目標は、これまでの実績から判断して達成が可能かどうか?(実績の検証結果)	参加型流域管理事業の促進の状況は?	PDM、APO、関係者の意見	JCCレポート、中間レビュー報告書、自己評価表、専門家、C/P	資料調査、インタビュー、質問票	
	成果は目標を達成するのに十分だったか	活動内容やその成果を考察し、かつプロジェクト目標達成のための必要十分条件となっているかどうかを判断	成果の確認と、プロジェクト目標への筋道はどうか?	PDM、PO、APO、JCCでの議題・内容、関係者の意見	中間レビュー報告書、業務完了報告書、専門家、C/P	資料調査、インタビュー、質問票	
	目標達成の促進・阻害要因	目標達成にかかる促進・貢献要因にどんなものがあるか?	DSCO技術者を始めとする関係者(DSCO 所長、職員、モチベーター等)の尽力、積極的活動始め、プロジェクトを推進した要因を整理分析	JCCでの議題・内容、関係者の意見	JCCレポート、中間レビュー報告書、業務完了報告書、自己評価表、専門家、C/P	資料調査、インタビュー、質問票	
		目標達成にかかる阻害要因は何か?	「政治的混乱や政治状況の不安定」、「ネパール政府予算の執行の遅滞」、「C/Pの異動・交代、空席」、「電力事情」など、目標達成の阻害要因は何であったかを検証				
外部条件の変化や影響	外部条件が発生したか、またプロジェクトにどんな影響があったか?変化があったとすれば、それに対する対応は適切であったか?	「国家的な災難が集中的に発生しない」、「対象地域の治安が悪化しない」などの外部条件の影響やプロジェクト開始後の状況の変化や影響有無(中間レビュー以降のプロジェクトを取り巻く環境:政策、経済、社会、他ドナー等の変化はあったか?)		PDM、PO、JCCでの議題・内容、関係者の意見	JCCレポート、中間レビュー報告書、業務完了報告書、自己評価表、専門家、C/P	資料調査、インタビュー、質問票	

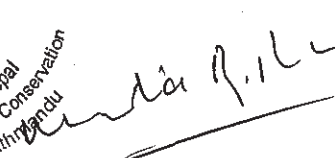

評価項目	調査大項目	調査小項目	判断基準・方法	必要な情報・データ	情報源	データ収集・調査方法	
効率性	投入に見合った成果が達成されているか	投入(専門家、施設、資機材、資金)の活用度は十分か?	事実確認による有無と適正度判断、実績と計画との比較(日本、ネパール双方の投入につき)	投入・派遣あるいは受入実績、専門家の観察、関係者の意見	専門家・C/P、中間レビュー報告書、業務完了報告書、自己評価表	資料調査、インタビュー、質問票	
		投入のタイミングは適正だったか(特に、短専派遣、ローカルコンサルタント備上費、工事費、機材調達)					
		C/P研修(日本、第三国)					
		投入量は適正か?					
プロジェクト・マネージメントは適切であったか	プロジェクト目標達成に向けて、インプットが適切に運営管理されたか?	研修・WSの実施及び評価内容、JCC会議の開催と決定事項は?	関係者の意見	JCCレポート、投入実績表、業務完了報告書、専門家、自己評価表	資料調査、インタビュー		
	合同調整委員会は、適切に機能したか?	合同調整委員会の位置づけと開催内容	JCC、関係者の意見	合同調整委員会(JCC)議事録、中間レビュー報告書、業務完了報告書、専門家、C/P	資料調査、インタビュー		
インパクト(予測)	プロジェクト実施による効果は何か、その他の波及効果はあるか	上位目標達成の見込み	森林土壌保全省(MoFSC)と地方開発省(MoLD)のイニシアティブにより、プロジェクト対象"外"の郡においても、暫定地方自治体とDSCOの協働による参加型流域管理事業が適用されつつあるか?(DSCWMによる複製事業の拡大)	PDM、PO、APO、関係者の意見	中間レビュー報告書、業務完了報告書、自己評価表、専門家、C/P	資料調査、インタビュー、質問票	
		政策・組織的なインパクトは何か?	参加型流域管理(SABIHAAモデル)の理解と浸透、「ネ」国政府によるLGCDPに基づく地方分権・権限委譲政策の推進状況、ネパールの地方分権政策への影響(地方行政は、住民のニーズを反映しているか?)	JCC、関係者の意見、広聴会、専門家の観察	合同調整委員会(JCC)議事録、改訂版OG、視聴覚DVD、JCCレポート、中間レビュー報告書、業務完了報告書、自己評価表、元研修員、専門家、C/P	資料調査、インタビュー、質問票	
		技術的なインパクトは何か?	研修(OJT含む)の効果は、参加型流域管理事業実施にどのように活かされているか? C/Pに変化はあるか? 研修教材・ツールの活用は?				
		経済的なインパクトは何か?	対象地域での住民の生計、インフラ状況等、経済環境の変化				
		文化・社会的なインパクトはあるか?	本件実施を通じて、住民のエンパワーメントや住民のニーズを反映した事業促進につながっているか?(住民の参画度、女性の資源管理向上(POWER)活動を通じた女性や社会的弱者の包摂、高い透明性は確保できたか、あるいは平和構築・紛争緩和への貢献)				
		予期されなかった正負の影響や波及効果はあったか?	予期されない好影響、悪影響があったか? その他、環境や経済・財政面への影響はあるか?				
実施機関の組織能力	実施機関の今後の動向、関係機関同士連携、調整機能	各機関の体制や実施能力は?(DDC・VDCは事業計画の取り纏めと調整機関として、DSCOは現場のニーズに密着しつつ流域管理にかかる技術的サービスをWCCに提供する専門機関として、WCCはWCFの一セクションとなり土壌保全にかかる活動を進める組織として、分権化の下で機能していく姿は着実に整っているか。又、POWERグループは他組織への吸収等を進めつつも能力強化の成果を引き続き吸収先で発揮することができるか。)その人員・予算体制の動向は?	JCCレポート、専門家の観察				合同調整委員会(JCC)議事録、JCCレポート、中間レビュー報告書、業務完了報告書、「出口戦略」ペーパー、自己評価表、C/P、専門家
持続性(見込み)	(1)制度・政策・組織の側面	当該分野の政策の今後	自然環境保全を始めとする地域開発、並びに地方行政に関する政策の見通し	自然環境保全を始めとする地域開発、並びに地方行政の促進にかかる政策及び計画が継続発展する見込みは?	JCCレポート、国家計画資料	資料調査、インタビュー、質問票	
		事業の持続性	プロジェクト成果をいかに活かせるか?	C/P始め関係者による事業の継続性と各関係機関の組織構造・機能	JCCレポート、関係者の意見		
		実施機関の組織能力	実施機関の今後の動向、関係機関同士連携、調整機能	各機関の体制や実施能力は?(DDC・VDCは事業計画の取り纏めと調整機関として、DSCOは現場のニーズに密着しつつ流域管理にかかる技術的サービスをWCCに提供する専門機関として、WCCはWCFの一セクションとなり土壌保全にかかる活動を進める組織として、分権化の下で機能していく姿は着実に整っているか。又、POWERグループは他組織への吸収等を進めつつも能力強化の成果を引き続き吸収先で発揮することができるか。)その人員・予算体制の動向は?	JCCレポート、専門家の観察		
	(2)技術的側面	技術の定着度・普及の仕組み	参加型流域管理(SABIHAAモデル)実施にかかる技術・ノウハウの向上、定着度	SABIHAAモデルの実施能力(本プロジェクト実施で得られた技術やノウハウを継続、発展できるか?)	JCC、関係者の意見	JCCレポート、中間レビュー報告書、改訂版OG、自己評価表、業務完了報告書、「出口戦略」ペーパー、元研修員、専門家、C/P	資料調査、インタビュー、質問票
		機材の維持管理、活用度	プロジェクト終了後の維持管理やフォローアップはVDCの本業業務であり、VDCはこれらをきちんと実施管理可能か? また供与機材の活用	関係者の意見	JCCレポート、関係者の意見	JCCレポート、中間レビュー報告書、業務完了報告書、自己評価表、専門家、C/P	
	(3)財政的側面	日常運営費始め必要予算の確保	参加型流域管理事業継続にかかる予算の確保の可能性	関係機関の予算内容や財政事情	予算報告書、専門家の観察、関係者の意見	中間レビュー報告書、DSCWM及びDSCOの年間計画、自己評価表、C/P、専門家	資料調査、インタビュー、質問票
		その他	プロジェクト終了までに行うべき活動は何か? また、残された課題や継続すべき活動をネパール側で実施できるか?		関係者の意見	専門家、C/P	JCC、インタビュー、質問票
	* 略語	DSCWM(MoFSC (Department of Soil Conservation and Watershed Management, Ministry of Forests and Soil Conservation)、DSCO (District Soil Conservation Office)、DDC (District Development Committee)、LDO (Local Development Office)、VDC (Village Development Committee)、WCC (Ward Coordination Committee)、POWER (Poor people, Occupational caste and Women's Empowerment for Resource managementグループ))					

MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY
AND
AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF NEPAL
ON JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR PARTICIPATORY WATERSHED MANAGEMENT AND
LOCAL GOVERNANCE PROJECT


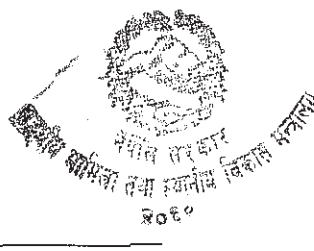
The JICA Terminal Evaluation Team (hereinafter referred to as “the Team”) organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) and headed by Mr. Satoshi FUJII conducted the Terminal Evaluation on the Technical Cooperation project “Participatory Watershed Management and Local Governance Project” from 3rd April to 21st April, 2014.

During this period, the Team had a series of discussions and exchanged views with related stakeholders to compile the Joint Terminal Evaluation Report (hereinafter referred to as “the Report”) in collaboration with authorities concerned of the Government of Nepal.

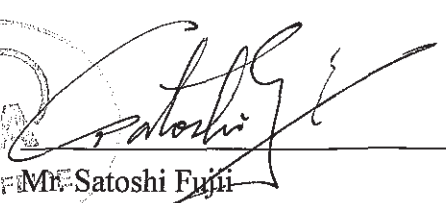

As a result of the discussion in the 7th Joint Coordination Committee dated 18th April, 2014, both sides agreed upon the Report attached hereto.


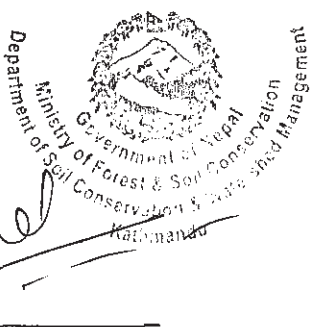
Mr. Mukundaraj Prakash Ghimire
Joint Secretary
MoFSC

Mr. Ramesh K.C.
Under Secretary
MoFALD

Mr. Satoshi Fujii
Leader, Terminal Evaluation Team
Senior Representative
JICA Nepal

Mr. Pem Narayan Kandel
Director General
DSCWM/MoFSC

Attached: Joint Terminal Evaluation Report on Technical Cooperation for Participatory Watershed Management and Local Governance Project (PWMLGP)

Joint Terminal Evaluation Report
On
Technical Cooperation for the
Participatory Watershed Management and
Local Governance Project
(PWMLGP)

Kathmandu

April 2014

Table of Contents

CHAPTER 1. OUTLINE OF THE PROJECT

- 1-1. Background of the Project
- 1-2. Summary of the project

CHAPTER 2. EVALUATION OF THE PROJECT

- 2-1. Objectives
- 2-2. Methods
- 2-3. Schedule of the Evaluation
- 2-4. Methodology of Evaluation
- 2.5. Utilization of latest PDM

CHAPTER 3. ACHIEVEMENT OF THE PROJECT

- 3-1. Inputs
- 3-2. Achievement of the Outputs
- 3-3. Achievement of the Project Purpose
- 3-4. Achievement of the Overall Goal

CHAPTER 4. IMPLEMENTATION PROCESS

- 4-1. Project Monitoring System
- 4-2. Revision of PDM
- 4-3. Methodology/Skill transfer

CHAPTER 5. EVALUATION OF FIVE EVALUATION CRITERIA

- 5-1. Relevance
- 5-2. Effectiveness
- 5-3. Efficiency
- 5-4. Impacts
- 5-5. Sustainability

CHAPTER 6. CONCLUSIONS

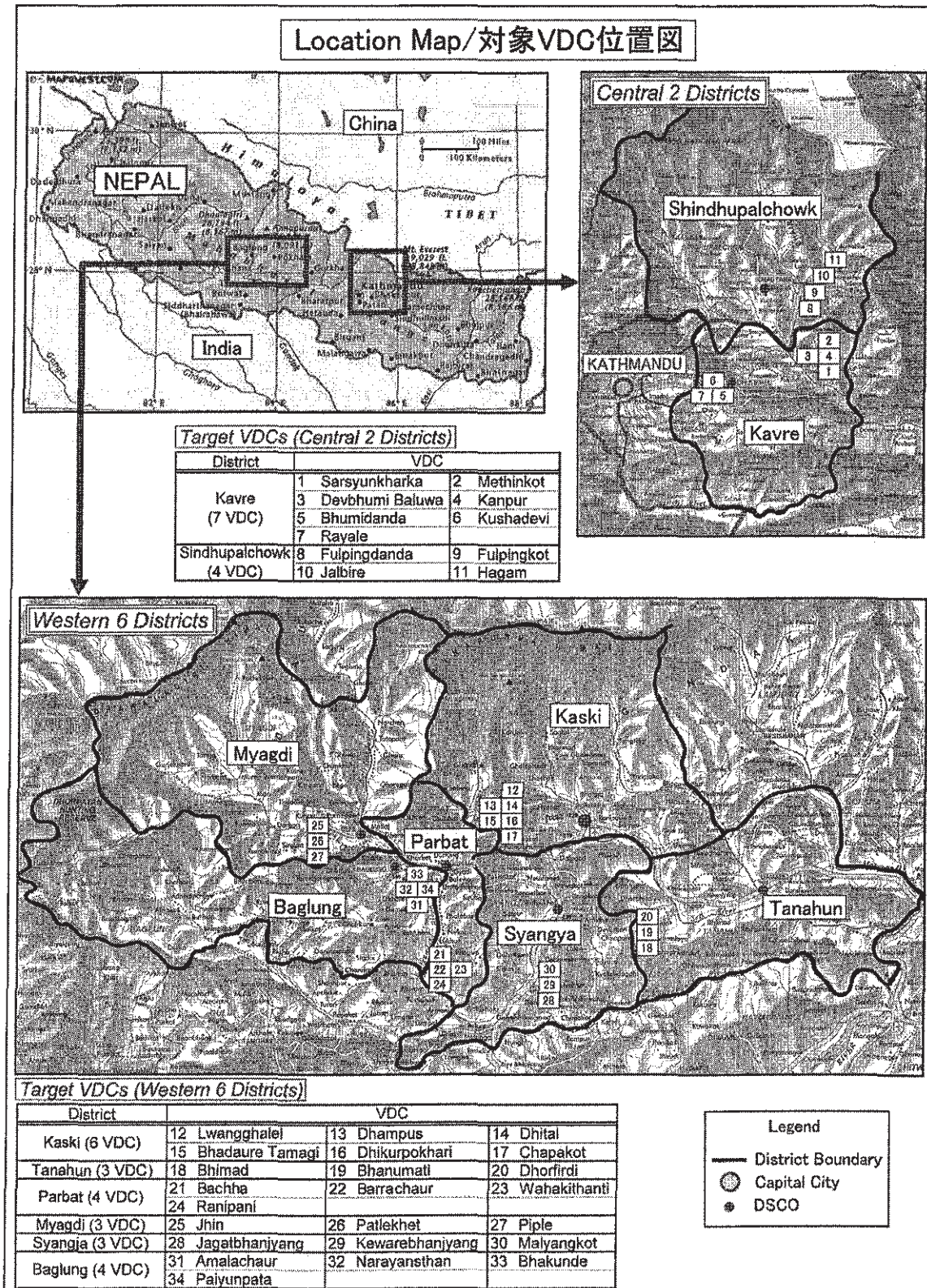
CHAPTER 7. RECOMMENDATIONS & LESSON LEARNT

- 7-1. Recommendations
- 7-2. Lessons Learnt

ANNEXES

1. Project Design Matrix (PDM) (Version 2.0)
2. Schedule of the Evaluation
3. Plan of Operations (PO)
4. Organization Structure for Project Implementation
5. Evaluation Grid
6. Inputs by the Japanese & Nepalese Side
 - 6-1. List of Equipment provided by JICA
 - 6-2. Record of training
7. Achievement of the Activities for Each Output
8. Results of test and Self-evaluation
 - 8-1. Number of DSCO & DSCO-techs participated in trainings and the results of pre/ post test
 - 8-2. Results of WCC Self-evaluation
9. Types and total number of Sub-projects
10. Type of POWER activities and numbers
11. List of collaboration
12. Impacts driven through the PWMLGP intervention

Location Map



1 NRs = 1.0918 JPY (April, 2014)

LIST OF ABBREVIATIONS

AAP	Annual Action Plan
ASCO	Assistant Soil Conservation Officer
CBRMP	Community Based Resource Management Prospect
CDFWCP	Community Development and Forest/Watershed Conservation Project
CFUG	Community Forest Users Group
C/P	Counterpart
CRMP	Community Resource Management Plan
DADO	District Agriculture Development Office
DDC	District Development Committee
DFO	District Forest Office/Officer
DoF	Department of Forestry
DSCO	District Soil Conservation Office/Officer
DSCO-tech	DSCO technical officer
DSCWM	Department of Soil Conservation and Watershed Management
DWC	District Working Committee
E/N	Exchange of Notes
ESWG	Exit Strategy Working Group
F/U	Follow Up
GIS	Geographic Information System
GoJ	Government of Japan
GoN	Government of Nepal
GPCP	Greenery Promotion Cooperation Project
IGA	Income Generation Activity
JCC	Joint Coordination Committee
JICA	Japan International Cooperation Agency
JOCV	Japan Overseas Cooperation Volunteers
JPY	Japanese Yen
LDO	Local Development Officer
LGCDP	Local Governance and Community Development Program
LSGA	Local Self Governance Act, 1999
LSGR	Local Self Governance Regulations, 1999
MoFALD	Ministry of Federal Affairs and Local Development
MoFSC	Ministry of Forests and Soil Conservation
MoLD	Ministry of Local Development
M/M	Minutes of Meeting
NGO	Non Governmental Organizations
NPC	National Planning Commission
NRS	Nepali Rupees
ODA	Official Development Assistance
OG	Operational Guideline
OJT	On the Job Training
PDM	Project Design Matrix
PO	Plan of Operations
POWER	Poor people, Occupational caste, Women's Empowerment for Resource management
PWMLGP	Participatory Watershed Management and Local Governance Project
R/D	Record of Discussion
RECOFTC	Regional Community Forestry Training Center for Asia
SABIHAA	<i>Samudaayik Bikaas tathaa Hariyaalii Aayojanaa</i>
SCWMP	Soil Conservation and Watershed Management Program
SI	Social Inclusion
SP	Sub-project
UG	Users Group
VDC	Village Development Committee
WCC	Ward Coordination Committee
WCF	Ward Citizen Forum of LGCDP
WCO	Women and Children Office

CHAPTER 1. OUTLINE OF THE PROJECT

1.1. Background of the Project

From 1994 to 2005, the Government of Nepal (GoN) and Japan International Cooperation Agency (JICA) jointly implemented a project “The Community Development and Forest/Watershed Conservation Project”---so called “SABIHAA (Samudayik Bikas Tatha Hariyali Ayojana)”. As an output of this project, “SABIHAA Model”: a mechanism to mobilize local people to participate at all stages of watershed management practice which begins with planning and ends with evaluation of the activities was developed. Even after the termination of the project, Department of Soil Conservation and Watershed Management (DSCWM) has been implementing replication of SABIHAA model on their own capacity expanding the coverage area from 2 districts to 8 districts.

In 2007, the GoN made an official request to the Japanese government to support them in improving SABIHAA model so that they could scale up their watershed management activities. JICA has responded to this request and has launched Participatory Watershed Management and Local Governance Project (The Project). R/D was signed among MoFSC, MoFALD and JICA in August 2009 for the duration of five years till July 2014. The Project is being implemented in eight (8) districts aiming at improved participatory watershed management having a better collaboration among local bodies within five years.

In April 2014, at the final stage of the Project period, JICA has decided to evaluate the performance, achievements and implementation process of the Project. The Nepalese and Japanese evaluation teams will conduct the terminal evaluation jointly to ascertain the outcomes of the Project in terms of five evaluation criteria and provide recommendations on the future course of the Project.

1.2. Summary of the Project

The narrative summary of the Project is given in PDM Version 2.0 (ANNEX 1) agreed and exchanged in the Memorandum in March 2014. Its summary is as follows:

Project Name: The Participatory Watershed Management and Local Governance Project

Cooperation Period: 2009.8 — 2014.7 (5 years)

1st year: August 2009 to July 2010

2nd year: August 2010 to July 2011

3rd year: August 2011 to July 2012

4th year: August 2012 to July 2013

5th year: August 2013 to July 2014

Target Area: National level and Eight (8) districts (Syangja, Myagdi, Baglung, Parbat, Kaski, Tanahun, Kavre, Sindhupalchowk)

Target Group: District Soil Conservation Office (DSCO) and District Development Committee (DDC), Village Development Committee (VDC) and community groups in the targeted areas

Overall Goal: Improved^{*1} participatory watershed management in better collaboration with^{*2} DSCO and local bodies^{*3} is applied in other districts by the initiative of MoFSC and MoLD^{*4}.

Remarks;

*1: “Improved” means “enhanced collaboration with local bodies”

*2: “better collaboration with” means “better collaboration between DSCO and local bodies”.

*3: “local bodies” means DDC/VDC.

*4: Changed its name to MoFALD (Ministry of Federal Affairs and Local Development).

Project Purpose: Improved participatory watershed management in better collaboration with DSCO and local bodies is implemented in the target districts.

Outputs

1. Capacity of DSCOs on participatory watershed management in the targeted area is improved.
2. Capacity of community people in targeted Districts on participatory watershed management and local governance is enhanced.
3. Concept of local governance in participatory watershed management is promoted.
4. Internalization of SABIHAA model is promoted.

Main Activities

- | | |
|-----|--|
| 1-1 | Review the SABIHAA model replication activities. |
| 1-2 | Conduct baseline survey to assess the current status of skills and experience of DSCWM and DSCOs on participatory watershed management and identify the training needs |
| 1-3 | Develop a training packages based on 1-1 and 1-2. |
| 1-4 | Conduct training for DSCOs based on 1-3. |
| 1-5 | Implement participatory watershed management activities in the targeted areas |
| 1-6 | Organize skill development training/technology transfer for DSCOs staff in abroad. |
| 1-7 | Organize Result Sharing Workshop. |
| 2-1 | Formulation of WCC and POWER groups. |
| 2-2 | Formulation of CBRMP, CRMP and AAP. |
| 2-3 | Implementation of CBRMP, CRMP and AAP. |
| 2-4 | Conduct training for community people based on 1-3. |
| 2-5 | Conduct Workshops/exposures/OJT for community people. |
| 2-6 | Organize self-evaluation of WCC activities. |
| 3-1 | Organize VDC level workshop in coordination with VDC. |
| 3-2 | Sharing of CBRMP, CRMP, AAP with VDC. |
| 3-3 | Organize interaction programme with WCC, POWER and VDC. |
| 3-4 | Organize District Working Committee Meeting/Workshop. |
| 3-5 | Conduct training to WCC/POWER/VDC on local governance based on 1-3. |
| 3-6 | Organize public auditing of WCC activities |
| 3-7 | Establish WCC network at VDC level. |

4-1	Establish the Exit Strategy Working Group (ESWG) and develop strategy to mainstream SABIHAA model into DSCWM.
4-2	Conduct fact finding survey.
4-3	Conduct In-depth survey.
4-4	Conduct training to replication sites and non-SABIHAA districts.
4-5	Revise Operational Guideline to hand over to DSCWM.

CHAPTER 2. EVALUATION OF THE PROJECT

2.1. Objectives

The objectives of the Evaluation are as follows:

- (1) To verify the accomplishments of the Project compared to those planned;
- (2) To identify obstacles and/or facilitating factors that has affected the implementation process;
- (3) To analyze the Project in terms of the five evaluation criteria (i.e. Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact and Sustainability) with special focus on Impact and Sustainability; and
- (4) To make recommendations on the Project regarding the measures to be taken.

2.2. Methods

2.2.1. Evaluation Method

The Japanese and Nepalese Evaluation Teams jointly evaluated the Project using the five evaluation criteria. The activities included in the evaluation are report analysis, field surveys, a series of discussions and interviews with relevant officials, the Project staff and the residents of the target areas.

2.2.2. Members of the Evaluation Team

The Japanese Evaluation Team

1. Mr. Satoshi FUJII (Team Leader), Senior Representative, Japan International Cooperation Agency (JICA) Nepal Office
2. Ms. Yuka KITAMATSU (Evaluation Analysis & Planning), Representative, JICA Nepal Office
3. Mr. Nama Raj ADHIKARI (Evaluation Analysis & Coordination), Senior Program Officer, JICA Nepal Office
4. Mr. Akira MATSUMOTO (Evaluation Analysis), President, A&M Consultant Co., Ltd.

The Nepalese Evaluation Team

1. Mr. Chhabiraman Bhattarai, Section Officer, Foreign Aid Coordination Division, Ministry of Federal Affairs and Local Development
2. Ms. Uma Paudel, Assistant Forest Officer, M&E Division, Ministry of Forestry and Soil Conservation

2.3. Schedule of the Evaluation

The Joint Evaluation Team worked for 19 days from 3 April to 21 April 2014 in the Project target areas for carrying out the evaluation. (See ANNEX 2)

2.4 Methodology of Evaluation

The Joint Evaluation Team (the Team) reviewed related documents and information collected through questionnaires and interviews with Japanese experts, Nepalese C/Ps and relevant stakeholders. The Team analyzed the Project from the viewpoints of 1) achievements of the Project, 2) implementation process, and 3) the five evaluation criteria.

2-4-1. Achievements of the Project

Achievements of the Project were measured in terms of Inputs, Outputs, Project Purpose, and Overall Goal in the light of the Objectively Verifiable Indicators of the PDM 2.0 and Plan of Operations (PO). (See ANNEX 3)

2-4-2. Implementation Process

Implementation process of the Project was reviewed to see if the activities have been implemented according to the schedule shown in the PO, and to see if the Project has been managed properly, identifying contributing/hindering factors that have affected the implementation process.

The organization structure for the Project implementation is attached. (See ANNEX 4)

2-4-3. Evaluation based on the Five Evaluation Criteria

The Project is evaluated with viewpoints of the Five Evaluation Criteria (see Table 1), which is the standard measurement used by JICA.

Table 1: Five Evaluation Criteria

1. Relevance	A criterion for considering the validity and necessity of a project regarding whether the expected effects of a project (or Project purpose and Overall goal) meet with the needs of target groups; whether the contents of a project is consistent with priorities and policies of recipient country and donor; whether project strategies and approaches are relevant.
2. Effectiveness	A criterion for considering the prospect of achievement of the Project Purpose with viewpoints of achievement of the Outputs
3. Efficiency	A criterion for considering the achievement of Outputs and how Inputs are converted to Outputs (quantitatively and qualitatively). In order to verify that the Project applies the most efficient approach, comparison with other approaches is often needed.
4. Impact	A criterion for considering the prospect of achievement of the Overall goal and effects of the project including direct or indirect, positive or negative, intended or unintended.
5. Sustainability	A criterion for considering whether produced effects continue after the termination of the assistance.

Source: Translated 'the JICA Guideline for Project Evaluation (2010)' with partial editions by the Team

Before commencing the field study in Nepal, the Team collected and analyzed existing documents related to the Project. The Team then prepared an Evaluation Grid which summarized evaluation questions for the evaluation. The Grid was shown in ANNEX 5.

2-5. Utilization of latest PDM

The PDM 1.8 was revised and PDM 2.0 attached was agreed by the MoFSC, DSCWM, MoFALD and JICA on 17th March 2014.

CHAPTER 3. ACHIEVEMENT OF THE PROJECT

3-1. Inputs

(1) Inputs by the Japanese side

- 1) Dispatch of the JICA experts: 7 Japanese experts are dispatched in total for the following 6 expertise. Number(s) of expert(s) assigned for each expertise are mentioned in the bracket.

Chief Advisor / Watershed Management (1)
 Local Governance / Replication Support (1)
 Social Mobilization / Co-chief (1)
 Institutional Development (3)
 In-depth Study (1)
 POWER Mainstream (1)

- 2) Provision of equipment: Both sides confirmed the record of provision of equipment by the Japanese side as shown in ANNEX 6-1. Total amount spent was about 4.62 million JPY.

- 3) Local Cost Expenditure: Total amount of cost expenditure by the Japanese side as shown in the Table 2 below (inclusive provided equipment).

Table 2: Local Cost Expenditure by Japanese side (Nrs.)

Year	2009/2010	2010/2011	2011/12	2012/13	2013/14:	Total
Amount	76,250,000	77,250,000	79,000,000	73,500,000	76,585,000	382,585,000

Source: PWMLGP

1st Year: Motivators, Project Staff, Sub-Project (SP) supports, Training, etc
 2nd Year: Project Staff, Sub-project supports, Training, etc
 3rd Year: Project Staff, Sub-project supports, Training, etc
 4th Year: Project Staff, Sub-project supports, Training, etc
 5th Year: Project Staff, Training, etc

4) The Third Country Training & Training/Conference in Japan

* The Third Country Training (RECOFTC Thailand)
 3rd Year: DSCO and DSCO-techs of DSCWM (31 numbers in total)
 4th Year: Officers of MoFSC and MoFALD (12 numbers in total)
 5th Year: Officers of DSCWM and MoFALD (15 numbers in total)

* Training/Conference in Japan
 1) SATOYAMA training: total 9 numbers
 2nd Year: DSCO of DSCWM (1 numbers in total)
 3rd Year: DSCO of DSCWM (2 numbers in total)
 4th Year: DSCO of DSCWM (2 numbers in total)

5th Year: DSCO of DSCWM and LDO of DDC (4 numbers in total)
 2) "International Conference on Forest and Water in Changing Environment"
 4th Year: Officers of DSCWM (2 numbers in total)

Regarding to the training in Nepal during the Project, both sides confirmed the record as shown in ANNEX 6-2.

(2) Inputs by the Nepalese side

1) Allocation of Counterpart (C/P) Personnel

MoFSC: 1 person (Project Director/Joint Secretary)
DSCWM: 3 persons (Project Manager/DG, Planning Officer, and Desk officer)
MoFALD: Focal person (One person)
DSCO counterparts
DSCO chiefs: 8 numbers in total
DSCO-techs: 39 numbers in total
Motivators: 34 (From second year) in total

2) Provision of Office Spaces and Facilities: Office space in Pokhara and Kathmandu, and basic expenses (such as electricity, water and telephone line) were provided by the Nepalese side.

3) Local Cost Expenditure: Both sides confirmed the cost expenditure by the Nepalese side as shown in the Table 3 below.

*Salary of DSCWM staff mentioned above
*Salary of Motivators (from 2nd year)
*The budget to implement the SABIHAA model as replication activities
Total budget amount from 2009/2010 to 2013/14 is Nrs.265,571,000

Table 3 : Local Cost Expenditure by Nepalese side (Nrs.)

Year	2009/2010	2010/2011	2011/12	2012/13	2013/14:	Total
Amount	46,921,000	47,092,000	57,742,000	50,056,000	63,760,000	265,571,000

Source: PWMLGP

3-2. Achievement of Outputs

During the Project, nearly all the activities have been implemented in accordance with the project plan. Both sides confirmed the Project achievement of each Project Activities as shown in ANNEX 7. The following are the achievements of the four (4) Outputs based on the Objectively Verifiable Indicators in the PDM2.0 at the time of the Terminal Evaluation.

<u>Output1.</u>	Indicators:
Capacity of DSCOs on participatory watershed management in the	1-1) Numbers of DSCOs and DSCO-techs participate in Participatory Watershed Management Training/workshops 1-2) 80% of targeted DSCO personnel participated in the training/workshops understand improved participatory watershed management.
	48 DSCOs and 256 DSCO-techs participated in 14 trainings/workshops in Nepal and 1 training in a third country. Title, number of participants is shown in ANNEX 6-2.

<p>targeted area is improved.</p>	<p>As for a third country training, the Project dispatched 58 in numbers with DSCO, DSCO-techs and officer of MoFSC, DSCWM and MoFALD to RECOFTC in Thailand in 3rd, 4th and 5th year.</p> <p>The Project conducted pre and post tests for most of the training as mentioned in ANNEX 8-1. The results shows that average score of test conducted for 6 training increased from 45.7% to 76.0% which verifies that the Project has almost achieved is goal set in the indicator 1-2.</p> <p>As the result, <i>the Team considers that the indicator 1-1 and 1-2 has been achieved.</i></p>
	<p>1-3) Improved participatory watershed management is practiced at 306 (100%) WCCs 3 cycles of Sub-project implementation have been completed within said duration.</p>

<p><u>Output2:</u> Capacity of community people in targeted districts on participatory watershed management and local governance is enhanced.</p>	<p>Indicators: 2-1) 50% of WCCs understand the concept of participatory watershed management and local governance.</p> <p>The Project adopted spider-web tool for periodical WCC self-evaluation on status of institutional development. In the WCC self-evaluation, they are 5 categories for assessment: 1) Group Management, 2) Community Resources Management, 3) Coordination and Collaboration, 4) Local Governance, and 5) Capacity Development & Empowerment. This method is significant in terms of that community people themselves assess their own situation based on set criteria of these 5 categories.</p> <p>It can interpret the results of self-evaluation of 3 years by looking at the percentage of WCC which marked higher than 40 point out of 60 full points in 3 years. They are the following:</p> <p>1st Year: 107 WCC (34.9%) 2nd Year: 251 WCC (82.0%) 3rd Year: 260 WCC (84.9%)</p> <p>In the 1st year, 34.9% out of 306 WCC marked higher than 40 points. In the 2nd year, 82.0% and 84.9% in the 3rd year marked higher than 40 points. Therefore, interpreting these results, it can say more than 50% of WCC understand the concept of participatory watershed management and local governance.</p> <p>Through this result, <i>the Team confirms that WCC reasonably understand the concept, and they have empowered through the Project period.</i></p> <p>2-2) 75% of WCC improve their institutional capacity</p> <p>Analyzing the data of spider-web WCC self-evaluation, the average score out of 12 points in each category of 1st, 2nd and 3rd year of self-evaluation of 306 WCC are as follows:</p> <p>In order to verify their "improvement of institutional capacity", the score of 1), 3) and 5) are the appropriate categories to assess. Looking at the scores of these three categories, the average marked more than 70%. In addition, those scores were improved some % if we compare the 1st year and the 3rd year. For example, the score of category 1) Group Management improved 18.3%, likely 18.3% improved in category 3), and 15.0% improved in category 5). (referred in ANNEX 8-2)</p> <p>According to the WCC self-evaluation, <i>the Team confirms that WCC has improved</i></p>
---	---

	<p><i>their institutional capacity and assured the 2-2 indicator was fulfilled.</i></p>
	<p>2-3) At least 1,500 sub-projects during 3 years (includes both project supports and VDC/DDC Collaboration)</p>
	<p>3 cycles of SP implementation per WCC have been completed within said duration. In total, 2,020 SPs including POWER activities were implemented (refer to Annex 9 and 10 for details).</p> <p>In case of SP, there have implemented their prioritized activities such as water source protection, irrigation scheme, foot trail improvement and land slide control, etc.</p> <p>Based on the number of actual activities, total numbers of SPs are 980, and the IGAs of POWER groups are 1,040.</p> <p>In case of POWER groups, there have implemented their income generating activities (IGAs) such as goat raising, ginger farming and potato farming which are popular activities among women.</p>

<p><u>Output 3:</u> Concept of local governance in participatory watershed management is promoted.</p>	<p>Indicators:</p>
	<p>3-1) 75% of training participants understand concept of local governance in participatory watershed management.</p>
	<p>Local governance was the subject taught in the training in which pre-test and post-test were conducted throughout project period. As it looks at the training table used in Output1 above, the result of these test improved in all the training. So it confirmed the training participants improved their understanding including the concept of local governance. Like it used spider-web WCC self-evaluation results in 2-1) and 2-2) in Output 2, it can also utilize the score of category 4) Local Governance here too. In the 1st year, the average score was 8.4 that were 70%. The score improved to 9.5 (79.2%) in the 2nd year and 9.9 (82.5%) in the third year.</p> <p>Therefore, <i>the Team judged that both training participants and WCC members have improved their understanding on general knowledge of local governance by training and experiencing 3 cycles of implementing SPs.</i></p>
	<p>3-2) 80% of WCC organize public auditing.</p>
	<p>All WCCs (100%) have organized public auditing.</p>
	<p>3-3) At least once a year District Working Committee (DWC) /workshop are held.</p> <p>DWC have been organized every year, and increased twice a year since 3rd year for further promotion of coordination and collaboration.</p>

<p><u>Output 4:</u> Internalization of SABIHAA model is promoted.</p>	<p>Indicators:</p>
	<p>4-1) Revised OG is officially approved by DSCWM</p>
	<p>Project has revised Operational Guideline (OG) by getting feedback from 8 DSCOs and it handed over to DSCWM and now the final OG is under approval process by DSCWM/MoFSC.</p>
	<p>4-2) Joint understanding memorandum on institutionalization of the SABIHAA model for better watershed management and local governance is exchanged.</p> <p>Joint understanding memorandum on institutionalization of the SABIHAA model was exchanged in 4th year.</p>
	<p>4-3) 75% of total DSCO Chiefs understand the concept of SABIHAA model.</p>

The Basic concept of SABIHAA model was repeatedly provided to DSCOs in various occasions during the 4th and 5th year of Project. DVD which contains project promotion video, OG, resource books, mid-term report, etc. is provided to all DSCOs in the regional meeting in February 2014. SABIHAA orientation which will be held at the end of April 2014 will be provided to the remaining 30 DSCOs who have not worked in SABIHAA related project before or have not received any orientation training on SABIHAA model. Then *the Team assumes majority of DSCO Chiefs will understand the basic concept of SABIHAA model.*

The total beneficiaries of the Project up to date are 115,611 indicated as Table 4 below. Around 75% of population of target VDCs is benefited from the Project. 15,782 HHs of Janajati and Dalit are included as beneficiaries in the Project.

Table 4 : Number of Beneficiaries Population and Household in District wise

District	No of Target VDC	Population (2008) or (2010/2011)	Beneficiaries /Population (%)	Beneficiaries Population			Beneficiaries Household			
				Male	Female	Total	Janajati	Dalit	Others	Total
Kavre	7	32,949	82.77	12,959	14,314	27,273	3,639	730	3,424	7,793
Sindhupalchowk	4	15,707	98.48	8,571	6,897	15,468	1,748	205	1,069	3,022
Kaski	6	26,460	63.58	8,504	8,319	16,823	1,075	1,365	2,680	5,120
Tanahun	3	36,433	23.33	4,121	4,377	8,498	1,958	718	1,555	4,231
Parbat	4	NA	NA	7,894	7,780	15,674	279	390	1,092	1,761
Myagdi	3	7,052	78.23	2,581	2,936	5,517	519	423	603	1,545
Syangja	3	14,067	59.66	4,071	4,321	8,392	965	312	998	2,275
Baglung	4	21,271	84.46	8,917	9,049	17,966	688	768	2,297	3,753
Total	34	153,939	75.10	57,618	57,993	115,611	10,871	4,911	13,718	29,500
								15,782		

Source: PWMLGP and VDC's Profile of Nepal, Intensive Study & Research Center, 2008, Profile of Nepal, 2010/2012, Mega Publication & Research Center

3-3. Achievement of the Project Purpose

The Project Purpose:

Improved participatory watershed management in better collaboration with DSCO and local bodies is implemented in the target districts.

The achievement level of Indicators under the Project Purpose at the time of the Terminal Evaluation is shown below.

Considering the current levels and prospects of achievement on the defined four (4) Outputs as well as the below-described indicators, it is evaluated that the improved participatory watershed management has been implemented in the target districts for the sake of close collaboration with DSCO and local bodies.

Indicator 1) At least 5% of CRMP defined sub-project is co-funded / collaborated with local bodies or other institution.	WCCs have been trying to have budget from VDC and other related line agencies and more than 100 WCCs (more than 30%) have received financial support from VDC until 4th year. Indicator for the Project purpose is "at least 5 %" and it has been already achieved. List of collaboration is attached in ANNEX 11.
Indicator 2) Joint monitoring and	Joint monitoring and evaluation was implemented by DSCO and DDC in all 8

evaluation is implemented by DSCO and DDC in all 8 districts.	districts in the occasion of DWC etc.
---	---------------------------------------

3-4. Achievement of Overall Goal

Overall goal:

Improved participatory watershed management in better collaboration with DSCO and local bodies is applied in other Districts by the initiative of MoFSC and MoFALD.

The prospect for the achievement of the Overall Goal is summarized below. Considering the situation and facts, it could be said that the Overall goal of the Project could be reached within 3-5 years.

Indicator: Improved participatory watershed management is adopted in Soil Conservation and Watershed Management Programme	The Project has been promoting DSWCM to adopt revised OG into Soil Conservation and Watershed Management Programme. As revised OG is to be approved, overall goal of the Project is expected to be achieved. Also, DSCWM has been disbursing budget to implement SABIHAA model in other districts.
---	--

CHAPTER 4. IMPLEMENTATION PROCESS

4-1. Project Monitoring system

The monitoring system of the Project has been systematically established from upper level of authority to the field level as follows.

4-1-1. Joint Coordination Committee (JCC) (once/year)

The 1st JCC as the highest decision making mechanism, held in December 2009 to discuss and approve the following subjects of; 1) Project background and outline, 2) Implementing procedures, 3) Collaboration with MoFALD, and 4) Contents of detail plan including future revision of PDM 0.

In the 2nd JCC meeting held in May 2011, the Committee members reviewed the progress of the Project, approved the revised PDM 1.8, and discussed the possibility of accessing to the Debt Relief Fund for SABIHAA model replication. In the 3rd JCC meeting held in February 2012, the Committee members reviewed the progress of the Project and also presented the results on the Mid-term Review and agreed by the committee members.

The 4th JCC meeting held in September 2012 as well as 5th JCC meeting (June 2013) and 6th JCC meeting (September 2013) to share the result of fact finding survey and simplification of operational guidelines, and discussed the Exit Strategy among the Committee members.

4-1-2. District Working Committee (DWC) (twice/year)

DWC chaired by Local Development Officer (LDO) was formed in each target District to review the progress of activities, and coordinate necessary activities with related organizations.

The Project promoted to hold the 1st DWC meeting in all Districts, but 7 DSCOs except Kavre District held DWC meeting from Jan. to May in 2010. DSCOs explained project objectives and

expectation to stakeholders. Through the DWC meeting, the Project established basic relationship with local bodies, and exchanged information on the Project activities. It was also an opportunity for local bodies to share information on their related programs in the field level and to provide detail suggestions for future collaboration.

Despite the fact that regular DWC meeting was not held until the 3rd year due to lack of budget, DSCO chiefs have actively shared the Project's information at DDC meeting, which often leads further collaboration with local bodies.

4-1-3. Monthly meeting (once/month)

DSCOs organize Monthly meeting, funded by DSCWM at each DSCO office, in which DSCO, DSCO-tech, and Motivator get together to share progress and issues of the target VDCs. The Project also attends the meeting regularly to get latest information from the field, and to deliver the information from the project side.

4-1-4. Monitoring and Evaluation of SPs

Implementation of SP is monitored by Motivator and DSCO-tech, who reports it to DSCO chief every month. The Project also conducted regular monitoring on WCC and POWER group activities, and at the same time conducted OJT and On-site Coaching to Motivators and DSCO-techs. WCC conducted self-evaluation and public auditing with support of DSCO-tech and Motivator to share their experience and information with community people and VDC representatives.

4-1-5. Self-Evaluation by Project members for Mid-term Review

DSCO and Japanese experts also conducted self-evaluation for reviewing progress as well as discussing measures to ensure sustainability of the Project. Self-evaluation report was submitted for the Mid-term review at the end of December 2011.

4-2. Revision of PDM

PDM2.0 was revised by the Project, and officially approved by the MoFSC, DSCWM, MoFALD and JICA on 17th March 2014.

Significant modified points of PDM2.0 are:

- ✓ Output 4 (“Internalization of SABIHAA model is promoted”) to the PDM1.8 was added with certain target figures in indicators and also the Activities 4 were described clearly.

4-3. Methodology/skill transfer

4-3-1. Process oriented approach

The Project recognizes all the activities as capacity development. Through a cascade system for training, DSCO, DSCO-tech and Motivator have transferred their new knowledge and skills learnt from the Project to WCC/POWER group as OJT. Then, WCC makes CRMP, implements SP, and reviews their work by self-evaluation.

4-3-2. Social Inclusion approach

Taking into consideration of diversification of Nepalese society, the Project has applied the Gender and Social Inclusion (SI) approach. As a result, women, Dalits, Janajatis and other ethnic groups are well involved in SPs and POWER activities (see Annex 10).

4-3-3. Skills delivered from Japanese Experts

The Japanese experts delivered technical skills through the project period. They also transferred the administrative skills in project management, regular budget monitoring, and facilitation at community meeting as and when needed.

CHAPTER 5. EVALUATION OF FIVE EVALUATION CRITERIA

5-1. Relevance

The relevance of the Project was regarded very high when the Project was formulated, and continues to be high even at this terminal evaluation stage for the following reasons (relevance to the policies and the needs of target groups, and is consistency with the cooperation policy of the Japanese Government).

(1) Relevance in terms of consistency with Nepalese policies and programs

The Project is consistent with the national policy and strategy of GoN as bellows.

First, under the national framework (Logframe Programme in MoFSC, 2007-2025¹), DSCWM has adopted the policies and strategies for Soil Conservation and Watershed Management (SCWM), such as operation of SCWM programs in line with integrated watershed management approach and enhancement of capacity of technical manpower of DSCWM as well as community people by providing knowledge, skills, and technologies related to various aspects of SCWM through institutional development.

Second, MoFSC set the Project as first priority group (P1) and supports even SABIHAA model replication. In fact, SABIHAA model replication has been budgeted regularly in DSCWM since 2006.

Third, MoFALD has been implementing national programme called LGCDP to improve local government system for Social Inclusion (SI) and community development through DDC and VDC. Ward unit approach has been applied in the LGDCP. Also, participatory local planning which focus on transparency and accountability approach is essential to build in both LGCDP and the Project. In that sense, the Project is consistent with implementation structure of national programme.

(2) Relevance to related organizations and target groups' needs

In general, community people are weak in making a community plan to identify and fulfill their needs, and in making consensus and starting discussion with local bodies, and in particular, marginalized people are vulnerable and own high risk.

Within this situation, the Project seems to meet their needs and willingness. The SPs are implemented according to priority determined by community people themselves which aim at empowering them in their capacities and also self-reliance minds.

WCC (Ward Coordination Committee) which was created and organized by the Project as coordinating body at ward level, is relevant since ward is a minimum unit of local governance and

¹ The goal of the program aims to contribute to the livelihood and well-being of the people through sustainable watershed management of the river basins.

appropriate unit for decentralized local development. In fact, it has been almost 14 years since the local election took place, therefore none of the elected representatives are at local level. In this context, the WCC is the key to bring local people together, discuss on their issues and needs at local (grass-root) level.

On the other hand, POWER created by the Project is recognized as SI since the 2nd phase of SABIHAA (1999 – 2004) which is subsequently applied by many development partners and GoN. Within the Project, POWER groups were given special consideration with women empowerment for gender balance in communities.

In additions, DSCWM and MoFALD are relevant to implement the Project as counterpart organization in order to empower community people and achieve soil conservation and watershed management.

(3) ODA policies of the Government of Japan (GOJ)

“Country Assistance Policy for Nepal (January 2013)” prepared by Ministry of Foreign Affairs (MoFA) of Japanese Government set areas on support for local governance (democracy process) as high priority in assistance program for Nepal that contributes to promoting the country’s social, equitable and economic development.

In the JICA Country Analytical Work (2012), public administration capacity building program is one of JICA cooperation programs in Nepal. This program also emphasizes poverty alleviation and rural development along with strengthening local administration to establish and disseminate participatory framework and models for SI and gender mainstreaming. The Project has been formulated in line with the ODA policies of GOJ.

5-2. Effectiveness

Effectiveness of this Project is high by the following factors.

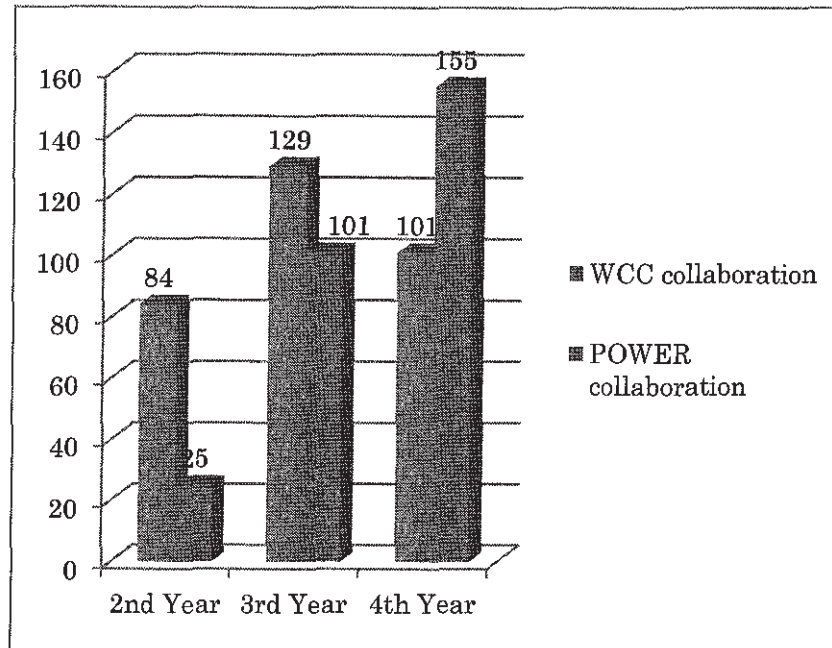
(1) Prospect of achievement of the Project purpose

The result of assessment on project outputs indicates that the degree of realization of outputs is relatively high. As mentioned in 3-2, through the successful achievement of four (4) outputs of the Project, participatory watershed management has been remarkably implemented in the target districts in terms of co-funding/ collaboration in VDC level.

Therefore, the prospect of achieving the Project Purpose based on the levels of achievement of the defined Indicators on the PDM is evaluated to be relatively high.

The number of SP cases which carried out not only funded by JICA but collaborated with other organization is summarized as Chart below.

Chart: Record on Number of collaboration cases for WCC and POWER group



(2) Contributing factors for achieving the Project Purpose

According to the individual/group interviews and questionnaire results conducted during the Evaluation, the following factors were observed as contributing factors for achieving the Project Outputs and the Project Purpose.

a. Pro-active/vital role of DSCO officers, & VDC Secretary/WCC chairpersons and Motivators

This Project has been undertaken by strong initiatives by Nepalese side, and as players of the Project, the following people are key persons for promoting, coordinating, facilitating and instructing in respective roles and multiple functions to attain the Project Purpose. All the field work has been carried out by DSCO officers, WCC/POWER group members & Motivators, with support from VDC.

The Team observed the main successful factor is pro-active role of each of them, and also good understanding between them for addressing the development issues.

Without them, the present progress and successful SP results could not have been achieved, and they played a central and crucial role to coordinate with each other throughout the process of operation as a “team”.

In district level, DSCOs paid the technical duties for design and implementation of CBRMP/CRMP and SPs, and also played a pro-active role in facilitation. For instance, DSCOs supported the community people to create connection and close linkage with VDC/DDC and other line agencies, and DSCO-techs have been contributing not only as field technician, but also as “community facilitator”.

In village level, WCCs were supportive to the design, implementation of CBRMP/CRMP and SP, and they also played important duties on the monitoring and evaluation.

Motivators played important/crucial roles of coordinating and supervising POWER group as well as

in SP implementation and M&E. In addition, Motivators acted as social interaction in their community, and linkage to VDC and other institutions.

Table 5 below shows the summary of pro-active role & function of key players within the Project.

Table 5 Role and Function of Key Players in Project

Player position	Pro-active Role & Function
DSCO chief	<ul style="list-style-type: none"> - DSCO chief played an active role of disseminating SABIHAA model and effective project implementation as well as overall coordination among various stakeholders. - DSCO chief is not only central role of the Project implementation, but also acted as promoter of SABIHAA model by explaining the advantages of the model and lessons learnt in various occasions including District Working Committee (DWC) and any other meeting in the district.
DSCO-techs	<ul style="list-style-type: none"> -DSCO-techs assisted to ensure the quality of the SP works and monitor the project activity progress and the follow-up with DSCO chief. -DSCO-techs are trusted by community people because they are supportive and also friendly. -Through the Project, DSCO-techs gained not only technical knowledge, but also development knowledge and facilitation skills, so they could transfer appropriate technological knowledge and also assisted to mobilize community people smoothly. In most cases, DSCO-techs are eager to provide necessary technical supports to Motivator and also help for social mobilization, so that s/he was able to conduct her/his duty easily.
VDC Secretary/ WCC chairpersons	<ul style="list-style-type: none"> -VDC Secretary and staff have gradually recognized the Project concept and model approach, so they become supporters of the Project activities. -VDC recognizes WCC as an institution and invites WCC to take part in VDC Council and other important VDC meeting. -VDC has appreciated WCCs' activities, and VDC started to contribute some budget for WCCs in addition to SPs and POWER group activities, because CRMP/AAP are prepared in a participatory way to address the problem and needs of community comprehensively. -WCC practiced effectively even in absence of local bodies. -VDC is now considering the utilization of the new CRMP as consolidating/tangible plan and WCC/WCF (Ward Citizen Forum) joint plan as part of VDC plan. -WCC started initiatives to get outside budget (including VDC) for local development and communicates frequently with the stakeholders.
Motivator	<ul style="list-style-type: none"> -Motivator attended POWER group meeting regularly, and she supported the recording of group activities and the management of their loan/credit fund. Also she advised any women activities within her capacity. -Motivator played important/crucial role of coordinating and supervising for POWER group as well as in SP implementation and M&E by WCC. -Motivator facilitated social interaction in their community, and linkage to VDC and other institutions. -DSCO-tech and Motivator as a team could work together with WCC/POWER group throughout the process of operation.
Overall	<ul style="list-style-type: none"> -DSCO, DSCO-tech and Motivator encouraged WCC to make CRMP, and approach to VDC and other local bodies for requesting budget.

	- As a good example, some WCCs made jointly proposal with neighboring WCC to implement large-scale SP, which is ideal case of collaboration of WCC network.
--	---

b. Establishment of operational process (in particular on AAP formulation, Public auditing/WCC Self-evaluation /Activity profile/Operational Guidelines)

Within the Project operation in the process, various activities were functioned and the Project documents were well utilized in terms of the effectiveness and sustainability, particularly like CRMP/AAP formulation, Public auditing/WCC Self-evaluation /Activity profile and Operational Guidelines (refer Table 6).

Those activities mentioned above covers at range from good information-sharing, tangible formulation, planning, implementation and M&E in the project operational cycle.

The Project paid high consideration to promote and strengthen the key component of local governance at community level, and the concept of transparency, accountability, participation and democratic practices in decision-making processes has been promoted through the Project operation.

Table 6 Means and Functions of Core Project Activities

Core Project Activities	Means and Function
“CRMP (consist of long-term & mid-term plan)/AAP formulation”	CRMP/AAP formulation are clear vision and holistic plan of each ward on how community resources shall be utilized optimally, and also indicates consensus results of problems with priority which is not only soil conservation and watershed management issues but also cover a wide range of community issues with broad perspectives.
“Public Auditing”	Public Auditing is contributing to ensure the transparency of community resources’ use and trust building among community people.
“WCC Self-Evaluation”	WCC Self-Evaluation with “Spider-Web Method” gave ownership and accountability toward wider public and active involvement of local people.
“Activity profile”	Activity profile is a good practice to keep records of the SPs, and it has become an official format in DSCWM.
“Operational Guideline”	Operational Guideline is a clear description to be understood by any users including new DSCO/DSCO-techs and DSCWM officials, and is a key document while implementing the SABIHAA model related activities in all concerned districts not only the Project supported areas but also the GoN’s initiated replication areas.

The Team observed that the above range of project implementation process and features have been contributed to good local (community) governance perspectives.

(2)Hindering factors to the achievement of the Project Purpose

The following aspects are evaluated to be hindering factors both in terms of the effectiveness and efficiency of the Project implementation although it is seen as that they have not put critical negative impact to the achievement of the Project Purpose.

a) Absence of elected local body

Due to lack of elected local body, there were no existing elected representatives in the VDC and ward level, and it made it difficult to express opinions of community people and show consensus

among people's desire/needs.

In spite of that, the WCC created by the Project, is said to have acted as a "temporary" committee to discuss about the development issues of each ward and is very active in budget request.

The Project has been successfully implemented in the target districts without any operational problem. Besides the expected outputs it has established a good working relationship among DSCO, local communities and local authorities like VDC and DDC. However, the Project model and mechanisms can be more relevant after the election of local bodies.

5-3. Efficiency

The efficiency of the Project is evaluated as high.

The inputs from the Japanese and Nepalese sides have been appropriate except assignment of counterpart personnel which had frequent staff changes.

The Team evaluated that inputs of the Project was appropriate in terms of quantity, quality, and timing at most levels. All inputs allocated have been fully utilized for project implementation. The Project is efficient in terms of input supply leading to good results.

5-3-1. Achievement of the Outputs

As stated above 3-3, indicators for Output 1, 2 and 3 have been achieved. The capacity of DSCOs and community people on participatory watershed management has been improved (Output 1 & 2), and the concept of local governance in participatory watershed management has been promoted (Output 3). As Output 4 (promotion of internalization of SABIHAA model), the final Operational Guideline is handed over to DSCWM, and SABIHAA orientation workshop is planned to hold within the Project period.

5-3-2. Inputs

1) Japanese side

The Japanese experts have been appropriately dispatched in terms of their expertise and number. Equipment and local cost have been provided as planned. Training has been implemented with maximum level.

2) Nepalese side

All DSCOs deeply understands the SABIHAA model, which is a vital power to management of the Project. DSCWM has assigned and well-trained DSCOs in 8 Districts and also posted required number of DSCO-techs and Motivators at each VDC. Local cost was also allocated as planned. DSCO/DSCWM staffs who were well acquainted with the original SABIHAA model and/or had working experiences with JICA experts/volunteers and also the past training documents, such accumulated past assets largely contribute to achievement of project outputs.

5-4. Impacts

There are significant impacts emerged as follows:

(1) Prospects of achieving the Overall Goal

Through the Project implementation, it is envisioned that the overall goal of this Project will be accomplished, namely "Improved participatory watershed management in better collaboration with

DSCO and local bodies is applied in other districts by the initiative of MoFSC and MoFALD.” And it could be reached within 3-5 years considering the above facts.

As stated above in 3-4 (indicators for Overall goal), the Project has been promoting DSCWM to adopt revised OG into SCWMP. As revised OG is to be approved by MoFSC, overall goal of the Project is expected to be achieved.

Also, with proved ownership of DSCWM and DSCOs, they have simultaneously started to implement the SABIHAA model replication in other districts outside project area since July 2010, DSCWM has been disbursed budget to implement SABIHAA model.

The replication activity is implemented by very similar means to the Project in terms of employment of motivator, having WCC as planning and implementing body and stipulation of budget earning not only from DSCWM budget but also financial and technical supports from other line agencies.

(2) Spillover effects

As indicated in the Evaluation sheet named “Impact driven through PWMLGP intervention”, project documents (such as Activity Profile in DSCOs), questionnaire, office/field interview and field observation, significant diversified impacts are visible through the Project intervention.

The Team observed that the Project brings several positive changes as below:

1) Empowerment of community people

Through the capacity building of community people including POWER group members, WCC and POWER group are recognized as official group and the members are invited to the meetings of other institutions to express their opinions and share their ideas. As a result, the group members are enabled to access to resources and participate in planning stage and decision making. For instance, some group members have become able to speak up their opinions in meeting and they are encouraged to work in group jointly. Even they become to start lobbying and get outside project budget for their activities, and join cooperatives to ensure their activities continuously.

In addition to that, it is highly evaluated that community people as a whole has learnt how to access to VDC and other local bodies which is an official procedure for community development by reflection of peoples’ needs.

2) Livelihood improvement & employment opportunity of community people through the Project SP intervention

For instance, irrigation SP and other income generating activities have enabled community people to get new/additional products and/or higher yield of crops/vegetables, and to earn some revenue from animal husbandry, resulting in solving food shortage and more sales/income. In some case, some SPs provided good opportunity of unskilled labor as employment. (Refer ANNEX 12 as example)

3) Safety and security for the people

Improvement of foot trail and /or road slope stabilization enabled community people to save time and secure safety for movements in the area (e.g. go to school/agricultural land, accessibility to water source). In addition, land and settlement of people has been secured by landslide and gully control SPs.

4) Contribution to environmental protection and soil conservation

Drinking water shortage was solved, and community people enabled to use water for their daily life by implementation of “Water Source Protection” SPs. In additions, SPs made contribution to reduce damage of life, property, and valuable natural resources caused by natural hazards. And sanitation and environment condition were also improved by such toilet construction, landslide and gully control, etc.

5) Institutional strengthening among different group and organization

According to the field interview carried out in the Evaluation study, WCC and WCF has jointly prepared the ward development plan (latest CRMP) recently, it means the plan was not only completed according to the needs of community people, but the plan is integrated in the formal /sole ward planning to receive budget support from VDC and other sources in the coming year.

Good example of better collaboration and joint works among different group and organization are described below;

- i) DSCOs have tried to collaborate with DDC as well as other line agencies (such as DADO, Livestock Office, WCO, Cottage Industry Office, etc) when implementing their regular activities. However, the number of collaboration with other line agencies is minimum level, so it can be further strengthened.
- ii) Project Motivator and Social Mobilizer began to exchange their activities and gradually started working together in interacting manner. However, they still require much collaboration with facilitation from higher level.
- iii) Through the Project’s supports, WCC networks have been strengthened after realizing the necessity of solving larger-scale problem and multiple-ward issues, with effective coordination with VDC.
- iv) In case of collaboration with private sector, grant supports from a commercial bank (the first foreign joint venture bank), prepared a total of 9,000 pass books to POWER group free of cost, which was fully utilized for recording and also brought incentives for the group members to regular saving money.

The other examples of impacts driven through the Project intervention are summarized by the Project as shown in ANNEX 12.

There has not been any seriously negative impact of the Project reported or observed at the time of the Terminal evaluation.

5-5. Sustainability

The sustainability of this Project is high as evidenced by the following factors;

5-5-1. Budget and institutional Aspect

(1) Budgetary support from DSCWM/MoFSC

DSCWM has adopted the tangible policies and strategies for SCWM with expansion and institutionalization of SCWM services in all districts of Nepal.

Within this policy context, DSCWM has been implementing the SABIHAA model replication not only in the target districts of the Project, but also to other districts where the DSCWM has a leading role and allocated their own budget for expand the model since 2011.

(2) Other budgetary resources

Through training/OJT, the Project has encouraged WCC to access VDC for their implementation of annual plan, and it is forecasted that possibility of co-finance from VDC and DDC for ward SPs will be continuously expected. Currently, there are already co-finance/collaborations with other local bodies (DADO, WCO, NGO, etc.) in VDC level. As they are important financial supporters, further collaboration should be strengthened continuously.

(3) Collaboration with MoFALD line

The Team observed that there is a certain understanding of SABIHAA model at central level, however, further information sharing and collaboration among MoFALD is expected. In DDC level, the level of recognition/collaboration varies in each DDC. In VDC level, WCC has succeeded in certain level of collaboration with VDC and Social Mobilizer of LGCDP.

(4) Financial sustainability of SPs and POWER group activities

On the other hand, the sustainability of the SPs and POWER group activities depend on the willingness and continuous motivation of the community people and POWER group members.

The team believes that the ownership and confidence of the community people achieved through the Project period will somehow continue with self-help and collaboration with surrounding stakeholders. Of course there is also possibility that they will reduce or lose their interests and cooperation without supports from Motivators.

In case of financial aspect, some POWER groups have invested money as loan to its members in lower interest rate, and some groups have developed themselves as cooperatives and are providing reports to DSCOs.

5-5-2. System and Policy Aspect

As stated above 5-5-1, DSCWM has been implementing the SABIHAA model replication in 11 Districts in total, expecting to expand the model into other districts.

Through such expansion, the Team observed that DSCWM/MoFSC recognized the SABIHAA as a national model for successful watershed management tool. And the model has been internalized in DSCWM. At this stage, DSCWM has formulated a soil conservation and watershed management strategy and utilizing their budget for further expansion.

The Team confirmed that DSCWM/MoFSC will ensure the dissemination of the SABIHAA model and the continuity of SABIHAA model related activities. Therefore, the sustainability of policy aspect will be high.

Assessing comprehensively the facts and findings above, it can be concluded that the sustainability of the Project could be achieved with strong initiatives of DSCWM in facilitating the continuity of the Project outcomes.

5-5-3. Technical and Human Resource Aspect

Through the long-term cooperation under JICA support, at individual/group level, it can be observed that the core stakeholders such as DSCWM/MoFSC, DSCO chief/staff/techs, WCC/VDC members, Motivators, and community people including POWER group members have accumulated the

technical knowledge and knowhow on SCWM, and also they have acquired facilitation and management skills through the training and on-site coaching.

Therefore, it is certain that the capacity of stakeholders has been enhanced and will be sustainable. Even after this Project, it is expected that stakeholders as core persons of SABIHAA model will not only contribute to human resources development in their own offices/village, but also to play important roles to facilitate community development and SCWM.

CHAPTER 6. CONCLUSIONS

As a result of Project work in the DSCWM on community development and SCWM in the target districts of the Project since 2009 until current stage, the expected outputs have been produced. The Project has high relevance and effectiveness. The Project has achieved considerably positive results in terms of development impacts including social and environmental dimension. Also, the Project was efficiently implemented in general. With these reasons, it is considered that the Project is well managed and has achieved its purpose.

Technical and community capacity has been gradually developed in the DSCWM and community people, while there are some issues that may need to be addressed such as further dissemination and publicity of the SABIHAA model, mutual interaction between DSCO, DDC, VDC, WCC and WCF for community development and forest/watershed conservation and continuous motivation of the stakeholders of the Project.

The Project has successfully been implemented without any major or critical problem and will mostly achieve its outputs by the end of the Project period. Prospect of achieving the Project purpose is evaluated as high, thus, it is concluded that the Project will be terminated as stipulated in the R/D.

CHAPTER 7. RECOMMENDATIONS

7-1 RECOMMENDATION

The Team has made the following recommendations based on the results of the Evaluation:

1. Ensure further collaboration between MoFSC and MoFALD for effective implementation at district / field level such as by dispatching letter to local related agencies

During project period, MoFSC and MoFALD will ensure further collaboration for sustainability of project outcome at district/field level such as by dispatching letters to local related agencies on the contents below:

- 1) VDCs will take CRMP into consideration of VDC periodic plan and give continuous support in response to community peoples' needs.
- 2) Within project period, DSCOs will organize handover meeting with VDC secretary, Social Mobilizers, and Motivators in consultation with DDC on SABIHAA model and WCC/POWER groups. This meeting shall include comprehensive information on

accumulated knowledge and project activities. The meeting is aimed to ensure the continuous support and monitoring to WCC/POWER activities from VDC even after termination of project.

- 3) In district level, DDC and DSCO should continue information sharing practices such as DWC to enable linkage between VDC, WCF, and WCC as well as Social Mobilizer and Motivator.

2. Ensure linkage and collaboration between local level institutions

Although there is no doubt that WCC was the appropriate institution to facilitate and implement development activities during Project period, the WCF has also emerged during the last few years as one of the key institutions at ward level. This gradual change in ward structure has influenced the Project in the sense that the linkage between WCC and WCF has become one of the most important factors for Project success. Thus, in future expansion of the SABIHAA model, this linkage (as well as with other institutions) should continue to be ensured at all times. Further, wards may also face structural changes in the future, and replication activity of SABIHAA is recommended to give close observation to these structural changes in the local level.

3. Internalization of SABIHAA model in MoFSC

Follow the contents specified in “Internalization Strategy for SABIHAA” once approved by MoFSC. Also consider expanding SABIHAA model as DSCWM regular program, and reflect the program on policy level with tangible plan in document including information such as time line and target area.

4. Active promotion of SABIHAA model

During and after project period, MoFSC, MoFALD and JICA should disseminate the SABIHAA model and good practices gained in the Project through seminars/workshop to related government offices and Development Partners as well as promoting to the public through TV and radio.

5. Maintenance of physical infrastructure in SPs

During project period, it should be discussed among stakeholders especially at community level on how SPs can be properly maintained, including fund collection and linkage with concerned line offices.

6. Sustainability of POWER group

During Project period, DSCO and Motivators will provide facilitation and information to POWER groups regarding the discussion and decision making for future POWER group activity. Information received by past POWER training and meeting (including information on cooperatives) should be once again shared with all POWER group members for their full understanding.

7-2 LESSON LEARNT

1. **POWER should strengthen linkage with WCC to participate in conservation work**

Since POWER is a group of marginalized and poor women, they are also the primary users of natural resources i.e. wood, fodder, leaves, soil, water resources etc. These primary users can contribute lots if they are aware on the conservation practices along with its benefits to their lives. Based on this learning, not only should the vulnerable be grouped, but also be linked to opportunities for discussion on environmental conservation works.

2. **Good coordination and collaboration among the stakeholders bring synergetic effects to the results**

This PWMLGP Project was implemented with strong initiative from Nepalese side. The Project is a combination of DSCO, DSCO technicians, Motivators, VDC, WCC and POWER. All these actors played very important roles to make CRMP and implement it in the collaborative way for the watershed management through community development practices.

In this project, MoFALD and MoFSC both contributed to good project implementation at field level. MoFALD introduced the idea of local (community) governance in this SCWM project. MoFSC was able to support field level with active DSCO and DSCO-tech who had both technical and facilitating skills to give comprehensive support to the people. At field level, the WCC and POWER received these combined support along with accountable and transparent resources with which they could implement self-prioritized SPs.

3. **People are willing to contribute more for their real needs**

Community people are welcome to develop their own community. Community people are ready to collect fund and even contribute their resources; cash and kind to implement the SP if it really address their needs. They also try to get fund from other institutions including VDC to fulfil their needs.

4. **Appropriate timing for project period**

Greenery promotion is an important component of the Project for SCWM. Plantation is the major activity to be carried out for the greenery promotion which is mainly carried out during the rainy season. The rainy season start after June; however, the contract with the JICA experts for the Project implementation terminated in mid-June and started again in September. Therefore, in order to address these issues, the project period should give consideration to seasonal aspects.

END

Project Design Matrix (PDM2.C)

ANNEX 1

Project Name : Participatory Watershed Management and Local Governance Project (PWMLGP)
 Target Area : National Level, Syangja, Myagdi, Baglung, Parbat, Kaski, Tanahun, Kavre and Sindhupalchok district
 Duration : From August 2009 to July 2014 (Five years)
 Counterpart Agencies : MoFSC, DSCWM, DSCO, and DDC in the target areas
 Target Group : DSCO, Community people¹ in the target areas and VDC

Version 2.0

Narrative Summary	Verifiable Indicators	Means of Verifications	Important Assumptions
<p>Overall Goal: Improved² participatory watershed management in better collaboration with³ DSCO and local bodies⁴ is applied in other districts by the initiative of MoFSC and MoFALD.</p>	<p>Improved participatory watershed management is adopted in Soil Conservation and Watershed Management Programme.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • DSCWM's Annual plan • DSCO's Annual plan 	
<p>Project Purpose: Improved participatory watershed management in better collaboration with DSCO and local bodies is implemented in the target districts.</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. At least 5% of CRMP defined sub-project are co-funded/collaborated with local bodies or other institution. 2. Joint monitoring and evaluation is implemented by DSCO and DDC in all 8 districts. 	<ul style="list-style-type: none"> • Project documents (Activity profile) • Documents of DSCO • Joint Monitoring Report 	<ul style="list-style-type: none"> • DSCWM's policy to promote participatory watershed management is not changed. • Decentralization and local governance policy of Nepal Government is not changed.
<p>Outputs:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Capacity of DSCOs on participatory watershed management in the targeted area is improved. 2. Capacity of community people in targeted districts on participatory watershed management and local governance is enhanced. 3. Concept of local governance in participatory watershed management is promoted. 4. Internalization of SABIHAA model is promoted. 	<ol style="list-style-type: none"> 1-1. Numbers of DSCOs and DSCO-techs participate in Participatory Watershed Management Training/workshops 1-2. 80% of targeted DSCO personnel participated in the training/workshops understand improved participatory watershed management. 1-3. Improved participatory watershed management is practiced at 306 (100%) WCCs. 2-1. 50% of WCCs understand the concept of participatory watershed management and local governance. 2-2. 75% of WCC improve their institutional capacity 2-3. At least 1,500 sub-projects during 3 years (includes both project supports and VDC/DDC Collaboration) 3-1. 75% of training participants understand concept of local governance in participatory watershed management. 3-2. 80% of WCC organize public auditing. 3-3. At least once a year District Working Committee/work shop are held. 4-1. Revised OG is officially approved by DSCWM 4-2. Joint understanding memorandum on institutionalization of the SABIHAA model for better watershed management and local governance is exchanged. 4-3. 75% of total DSCO Chiefs understand the concept of SABIHAA model. 	<ul style="list-style-type: none"> • Operational Guideline • Training Reports • Progress Report of PWMLGP • Project documents (CBRMP, CRMP, AAP) • DSCOs Annual Progress Report • Activity Profile • Self-evaluation result • Training reports • Activity Profile • DSCO reports • Training reports • Public auditing report • Project Report • Minutes of VDC • Monthly report of Motivators • Meeting Minutes of District Working Committee • Approval letter • Memorandum • Training reports 	<ul style="list-style-type: none"> • National calamities do not occur in an intensive scale • Security situation in target area is not deteriorated.
<p>Activities: Activities for Output 1:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1 Review the SABIHAA model replication activities. 1-2 Conduct baseline survey to assess the current status of skills and expertise of DSCWM and DSCOs on participatory watershed management and identify the training needs 	<p style="text-align: center;"><u>Japanese side</u></p> <p>Input:</p> <ul style="list-style-type: none"> *Experts Watershed management Local governance. Social mobilization. 	<p style="text-align: center;"><u>Nepalese side</u></p> <ul style="list-style-type: none"> *Counterparts Project Director. Project Manager. District Soil Conservation Officers (DSCOs) Motivators 	

<p>1-3 Develop a training packages based on 1-1 and 1-2.</p> <p>1-4 Conduct training for DSCOs based on 1-3.</p> <p>1-5 Implement participatory watershed management activities in the targeted areas.</p> <p>1-6 Organize skill development training/technology transfer for DSCOs staff in abroad.</p> <p>1-7 Organize Result Sharing Workshop.</p> <p>Activities for Output 2:</p> <p>2-1 Formation of WCC and POWER groups.</p> <p>2-2 Formulation of CBRMP, CRMP and AAP.</p> <p>2-3 Implementation of CBRMP, CRMP and AAP.</p> <p>2-4 Conduct training for community people based on 1-3.</p> <p>2-5 Conduct workshops/exposures/OJT for community people.</p> <p>2-6 Organize self-evaluation of WCC activities.</p> <p>Activities for Output 3:</p> <p>3-1 Organize VDC level workshop in coordination with VDC.</p> <p>3-2 Submission of CBRMP, CRMP, AAP to link with VDC plan.</p> <p>3-3 Organize interaction programme with WCC, POWER and VDC.</p> <p>3-4 Organize District Working Committee Meeting/workshop.</p> <p>3-5 Conduct training to WCC/POWER/VDC on local governance based on 1-3.</p> <p>3-6 Organize public auditing of WCC activities.</p> <p>3-7 Establish WCC network at VDC level.</p> <p>Activities for Output 4:</p> <p>4-1 Establish the Exit Strategy Working Group (ESWG) and develop strategy to mainstream SABIHAA model into DSCWM.</p> <p>4-2 Conduct fact finding survey.</p> <p>4-3 Conduct In-depth survey.</p> <p>4-4 Conduct training to replication sites and non-SABIHAA districts.</p> <p>4-5 Revise Operational Guideline to handed over to DSCWM.</p>	<p>*Chief Advisor and Coordinator may serve concurrently as one of the above-mentioned experts or another.</p> <p>*Equipment Facilities for training workshops. Vehicles. Facilities for soil conservation assessment</p> <p>*Local costs A portion of project implementation cost</p> <p>*Land, Buildings and facilities. Project Offices (Pokhara and Kathmandu). Meeting rooms for workshops.</p> <p>*Local Costs Salaries of counterparts A portion of SABIHAA implementation cost=A portion of project implementation cost</p> <p>*Training of Nepal Personnel in Japan/Third country</p>	<p style="text-align: center;">Pre-Conditions</p> <p>• Community people accepts the Project.</p>
---	--	---

*1: Community People- WCC, POWER, and User Groups in target areas

*2: "Improved" means "to enhance collaboration with local bodies

*3: "better collaboration with" means "better collaboration between DSCO and local bodies".

*4: Local bodies means DDC/VDC.

*5: The salary of motivators was paid by Japanese side only in the first year. Nepalese side has managed it from the 2nd year.

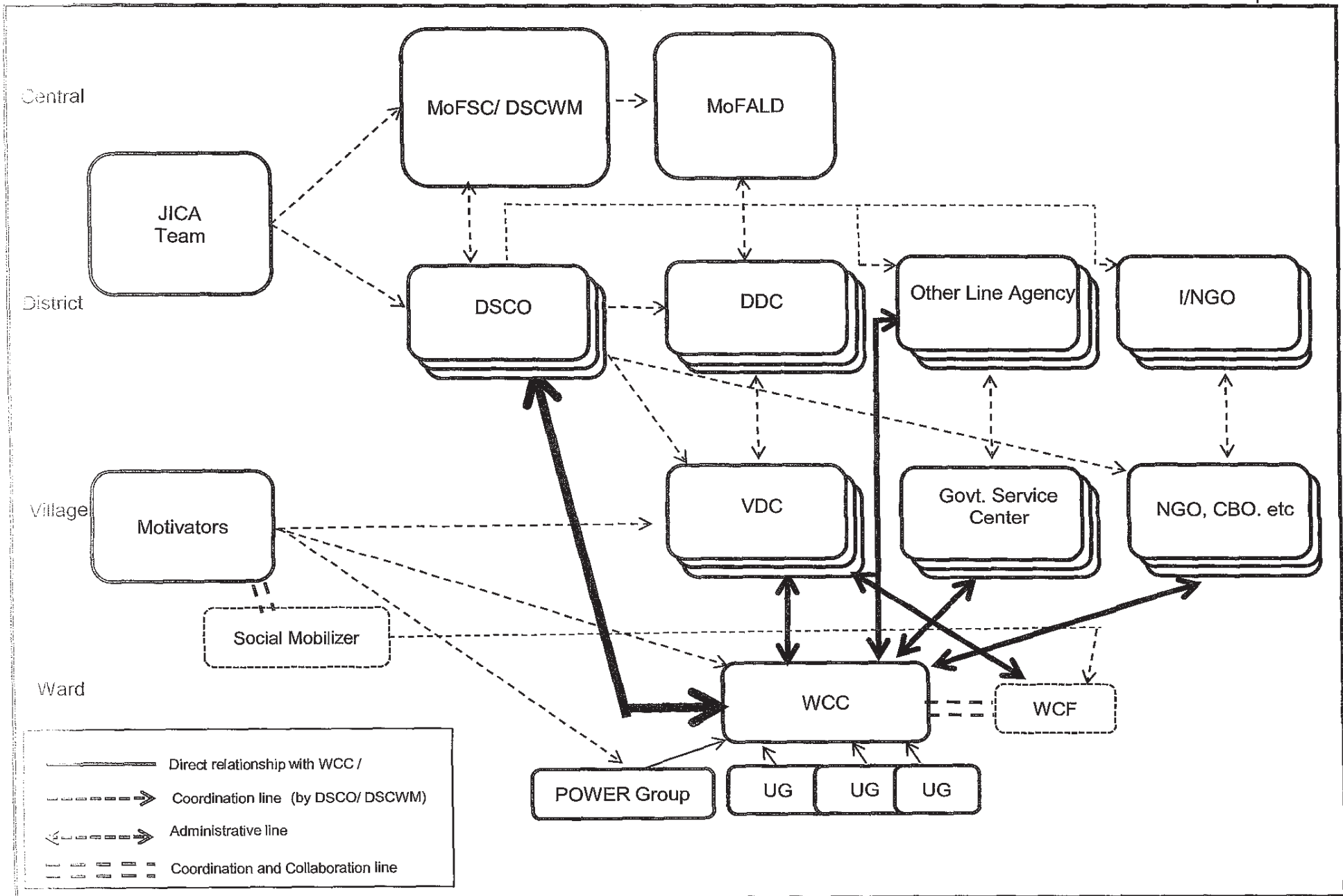
Note: Promotion of social facilitation to link with VDC facilitation activities for better collaborative action.

Name		Mr. Satoshi FUJII		Ms. Yuka KITAMATSU		Mr. Nama Raj ADHIKARI		Mr. Akira MATSUMOTO	
Job Title		Senior Representative, JICA Nepal		Representative, JICA Nepal		Senior Program Officer, JICA Nepal		President, A&M Consultant Co., Ltd	
Mobile				9851119265		9851107205		9851107059	
Task		Team Leader		Evaluation Analysis & Planning		Evaluation Analysis & Coordination		Evaluation Analysis	
4/13/2014	Sun	PM							
		AM		Documentation				Documentation	
4/14/2014	Mon	PM							
		AM						Documentation Drafting of M/M & Joint Terminal Evaluation Report	
4/15/2014	Tue	AM		08:00 Depart KTM for Sindhupalchowk 10:00 Rest at Balephi and meet with DSCO Sindhupalchowk staff 11:00 Observe Sub-project (landslide control) and meeting with WCC/POWER member at Fulpingdada-9		preparation of draft report in office		08:00 Depart KTM for Sindhupalchowk 10:00 Rest at Balephi and meet with DSCO Sindhupalchowk staff 11:00 Observe Sub-project (landslide control) and meeting with WCC/POWER member at Fulpingdada-9	
		PM		15:00 Return to KTM 17:00 arrival at KTM				15:00 Return to KTM 17:00 arrival at KTM	
4/16/2014	Wed	AM		09:00 intensive discussion on the draft of the evaluation		09:00 intensive discussion on the draft of the evaluation		09:00 intensive discussion on the draft of the evaluation	
		PM	14:00 Discussions on the final draft of M/M & Joint Terminal Evaluation Report	14:00 Discussions on the final draft of M/M & Joint Terminal Evaluation Report 16:00 Visit Mr. Purushottam Nepal, NPM LGCDP II		14:00 Discussions on the final draft of M/M & Joint Terminal Evaluation Report 16:00 Visit Mr. Purushottam Nepal, NPM LGCDP II		14:00 Discussions on the final draft of M/M & Joint Terminal Evaluation Report 16:00 Visit Mr. Purushottam Nepal, NPM LGCDP II	
4/17/2014	Thu	AM	Discussions on the final draft of M/M & Joint Terminal Evaluation Report	Discussions on the final draft of M/M & Joint Terminal Evaluation Report		Discussions on the final draft of M/M & Joint Terminal Evaluation Report		Discussions on the final draft of M/M & Joint Terminal Evaluation Report	
		PM							
4/18/2014	Fri	AM	Discussions on the final draft of M/M & Joint Terminal Evaluation Report	Discussions on the final draft of M/M & Joint Terminal Evaluation Report		Discussions on the final draft of M/M & Joint Terminal Evaluation Report		Discussions on the final draft of M/M & Joint Terminal Evaluation Report	
		PM	14:00 JCC 16:30 Report to JICA	14:00 JCC 16:30 Report to JICA		14:00 JCC 16:30 Report to JICA		14:00 JCC 16:30 Report to JICA	
4/19/2014	Sat	AM							
4/20/2014	Sun	PM							
		AM							
4/21/2014	Mon	AM							
		PM	12:30 Report to EOJ	12:30 Report to EOJ		12:30 Report to EOJ		12:30 Report to EOJ 23:00-07:30 Kathmandu-Hong Kong (KA191)	
4/22/2014	Wed	AM							
		PM						08:45-13:55 Hong Kong-Haneda (CX548)	

PWML GP: Participatory Watershed Management and Local Governance Project; MoFSC: Ministry of Forest and Soil Conservation; MoFALD: Ministry of Federal Affairs and Local Development; DSCWM: Department of Soil Conservation and Watershed Management; DSCO: District Soil Conservation Office; DDC: District Development Committee; VDC: Village Development Committee, US: Under Secretary; LDO: Local Development Officer;

Organization Structure for Project Implementation

ANNEX 4
As of April 2014



Evaluation Grid (Terminal Evaluation)

ANNEX 5

Participatory Watershed Management and Local Governance Project

(This Grid was prepared and finalized by Japanese Evaluation Team.)

Evaluation Criteria	Evaluation question		Basis of judgment	Data needed	Data source	Data collection method
	Main question	Sub question				
Achievement	Were the input made as planned?	Have the Japanese experts dispatched as planned?	Comparison with the planned figures	Records on Japanese experts	Project records and relevant documents, Self-Evaluation Sheet, opinions of experts & C/Ps	Document review, interviews
		Has the counterpart training conducted as planned?		Records on counterpart training		Document review, interviews
		Have the equipment and machinery provided as planned?		Records on equipment provision		Document review, interviews
		Have the counterpart personnel assigned as planned?		List of counterpart personnel		Document review, interviews
		Have the physical facilities provided as planned?		Information on the facilities		Interviews, field visit
		Have the budgets to cover operational costs allotted as planned?		Records on budgetary allocation		Document review, interviews
	Have the outputs been produced properly?	Does the capacity of DSCOs on participatory watershed management improved in the targeted area?	Degree of achievement	Information on the progress of the compilation	Project documents, Self-Evaluation Sheet, opinions of C/Ps, VDC, WCC, DSCO	Questionnaire/Interview, discussion with Project experts, C/Ps and DSCWM/MoFSC
		Does the capacity of community people in targeted districts on participatory watershed management and local governance is enhanced?	ditto	ditto	Project documents, Self-Evaluation Sheet, opinions of experts, C/Ps and DSCWM/MoFSC	Questionnaire/Interview, discussion with community people
		How about the promotion on the concept of local governance in participatory watershed management?	ditto	ditto	Project documents, Self-Evaluation Sheet, opinions of C/Ps	Questionnaire/Interview discussion with Project stakeholders
		How about the internalization of SABIHAA model promoted?	ditto	ditto	Project documents, JCC Meeting memo, opinions of C/Ps	Questionnaire/Interview, discussion with Project stakeholders
	Is the Project purpose likely to be achieved?	Is there any improvement of the improved participatory watershed management in better collaboration with DSCO and local bodies in the target districts or not?	Levels of improvement	Information related to the progress of compilation	Project documents and personnel, opinions of C/Ps and DSCWM/MoFSC	Questionnaire/Interview, discussion with Project stakeholders, field visit
		Indicators are below: 1. At least 5% of CRMP defined sub-project are co-funded/collaborated with local bodies or other institution. 2. Joint monitoring and evaluation is implemented by DSCO and DDC in all 8 districts.	Prospects of achievement, Levels of application	Information related to implementation of sub-project	Project records, Project documents, Joint Monitoring Report, Opinion of experts & C/Ps, Project stakeholders	Questionnaire/Interview, CRMP documents, discussion with Project stakeholders

Evaluation Criteria	Evaluation question		Basis of judgment	Data needed	Data source	Data collection method
	Main question	Sub question				
Implementation processes	Have the activities been implemented as scheduled?	Have the activities been timely implemented?	Comparison with the PO	Actual implementation schedule	Project stakeholders, Project records and relevant documents, Self-Evaluation Sheet, PDM, PO	Document review, interviews
		Has there been any change in the activities and schedule of implementation from the original PO?		Information on the changes that took place		Document review, interviews
	Have there been any problem related to the management of the Project?	Have the Project activities been properly monitored?	Frequency and contents of monitoring	Monitoring mechanism, monitoring results	Project stakeholders, Project records, JCC Meeting memo	Document review, interviews with Project experts, C/Ps
		Has the decision making mechanism of the Project been functional?	Existence of problems and countermeasures	Information on the JCC and other decision making mechanisms	Project stakeholders, Project documents, JCC Meeting memo	Interview, discussion with Project stakeholders
		Has the communication among JICA country Office, JICA HQ, the implementing agencies and the Project been smooth? It was appropriate way of technical transfer?	ditto	Ways and contents of the regular transactions	Officers in charge at JICA Nepal Office and JICA HQ, Staff of implementing agencies, Project stakeholders, Project documents	Interview, discussion with Project with JICA staff, Project experts, C/Ps
		Has the communication among the Project stakeholders been smooth?	ditto	Ways and contents of the daily and regular transactions among the Project stakeholders	Project stakeholders, Project documents	Interview, discussion with Project stakeholders
		Have there been any other problems encountered in the course of Project implementation so far?	ditto	Information on the managerial problems so far and countermeasures taken by the Project	ditto	Document review, interviews with Project experts, C/Ps
		What are special measures taken in terms of the managerial aspects of the Project?	ditto	Information on the managerial measures taken by the Project	ditto	Document review, interviews with Project experts, C/Ps
		Do the implementing agencies understand the objectives and approaches of the Project?	Levels of understanding	Information on the understanding of the Project purpose, discussion & meeting records	Project stakeholders, Project documents, JCC Meeting memo	Interview, discussion with Project stakeholders
	Are the implementing agencies committed and well aware of the Project?	Have appropriate counterpart personnel been assigned?	Suitability of their expertise	Information on the qualification / background / experiences of the assigned personnel	ditto	Document review, interviews with Project experts, C/Ps
		Have the counterpart personnel been committed and involved actively in the Project activities?	Degree of participation	Examples of the activities that were mainly conducted by the counterpart personnel	ditto	Document review, interviews with Project experts, C/Ps
	Are the target groups well aware of the Project?	Have the beneficiaries well recognize the Project activities?	Levels of understanding	Information on their understanding of the Project, records of explanatory efforts made by the Project	Project documents, officials of DSCWM/MoFSC, targeted beneficiaries	Interview, discussion with Project stakeholders
		Have the beneficiaries participated actively in the Project activities?	Degree of participation	Information on their participation in the Project activities		Interview, discussion with Project stakeholders
	Were there any special measures taken to ensure the smooth implementation of the Project?	Have there been any special measures taken in terms of implementation mechanism?	Existence of the consistent stipulation in the document	Information on the measures taken by the Project	Project stakeholders, Project documents	Document review, interviews with Project experts, C/Ps
		Have there been any special consideration given in terms of dealing with the target groups?		Information on the measures taken by the Project	Project stakeholders, Project documents	Document review, interviews with Project experts, C/Ps

Evaluation Criteria	Evaluation question		Basis of judgment	Data needed	Data source	Data collection method
	Main question	Sub question				
Reference	Has the Project still been in line with the priorities in the development plans and program of the country and the sector?	Is the Project still consistent with the development plans of Nepalese Government? (Meet the strategy of DSCWM/MoFSC)	Existence of the consistent stipulation in the document	Development plans and programmes of Nepalese government	National Policy Papers, Annual Plan & Documents of DSCWM/DSCO, Self-Evaluation Sheet	Document review, Questionnaire/Interview
		What are the progress and achievement of the sub project supported by the Project?		Record on the sub projects carried out	Project documents, Self-Evaluation Sheet, opinions of experts, C/Ps and beneficiaries	Document review, Questionnaire/Interview
		Is the Project still in line with the needs of the target area and society?	Confirmation on the current needs	Information related to the progress of compilation, opinion of Project stakeholders and target beneficiaries	Project documents, Self-Evaluation Sheet, opinions of experts, C/Ps and beneficiaries	Document review, interviews, Questionnaire, field visit
	Does the Project address the needs of the target area and the target groups?	Is the Project still in the line with the needs of the target group(e.g., DSCWM/MoFSC, MoFALD, DSCO, DDC, LDO, VDC, WCC, Motivator)?	Positive response from the target group	Baseline information, Information on the willingness by the target beneficiaries	Project documents, opinion of Project stakeholders and target beneficiaries	Document review, interviews
		Is the Project priority in the Japan's foreign assistance policy and JICA's country programs?	Is the Project relevant to the Japan's Aid Policies ?	Existence of the consistent stipulation in the document	Priority directions in Japan's Aid Program	Japan's Foreign Assistance Policy, Self-Evaluation Sheet
	Has the Project been adequate means to address the development issues in the country and the sector?	Is the Project relevant to the JICA's Program / Rolling Plan?	ditto	JICA's Program / Rolling plan	JICA's Country Assistance Program / Rolling Plan	Document review, discussion with JICA staff
		Does the Project appropriately address the issues of participatory watershed management and local governance?	Existence of the consistent stipulation in the document	National policies & programs related to the local government and irrigation and agricultural sectors	Policy documents	Document review
		Does the Project properly address the needs and context of implementing agencies?	ditto	Plans and program of implementing agencies	Policy documents, Documents of DSCWM/MoFSC, staff of implementing agencies	Document review, interviews
	Is the selection of target groups appropriate?	Has there been any synergy effects through cooperation with other programs and/or local governance programs by GoN/donors?	Positive response from the target group	Baseline information, opinion of stakeholders	Project documents, opinion of experts and C/Ps	Document review, Questionnaire/Interview
		Have the size of the target group been appropriate? Whether it is relevant as WCC/POWER group as "Ultimate target"?	Existence of the size of the target group	Baseline information, No. and area of coverage, No. of beneficiaries	Project documents, Self-Evaluation Sheet	Document review, interviews
		Has the Project equitably brought about the benefit?	Distribution of the Project benefits	Project benefits enjoyed by different status of target groups	Project stakeholders, Project documents	Document review, interviews
		Has the cost been equally shared by the stakeholders?	Cost sharing ratio	Expenditure and source of funds	Project records and personnel	Document review, interviews
	Has the Project applied appropriate approach?	Is there any advantage of Japanese technologies / experiences?		Technologies transferred through the Project	Project documents, opinion of experts and C/Ps	Document review, interviews

Evaluation Criteria	Evaluation question		Basis of judgment	Data needed	Data source	Data collection method
	Main question	Sub question				
Effectiveness	Is the prospect of achieving the Project purpose considered to be high?	Has the Project purpose been specific enough?	Existence of commonly shared definitions of Project purpose	Definition, understanding on the Project purpose among the Project stakeholders	Project stakeholders, Project documents, Self-Evaluation Sheet	Interview, discussion with Project experts and C/Ps
		Will there be any potential obstacles that may hinder the achievement of the Project purpose?		Information on the potential risks and obstacles and possible countermeasures	Project stakeholders, Project documents	Questionnaire/Interview, discussion with Project experts and C/Ps
	Have the outputs been appropriate to achieve the Project purpose?	Has there been any factors contributing to the achievement of the Project purpose other than the outputs?		Information on the related events, programs/projects by other organizations in the target area	Project stakeholders, Project documents	Questionnaire/Interview, discussion with Project staff
		Is the logical sequences between outputs and Project purpose still secured?	Confirmation on the logical sequence	Information on the results of activities that indicate the cause-effect relationship	Project stakeholders, Project documents	Interview, discussion with Project experts and C/Ps
	Has there been any influence of important assumptions?	To implement the project smoothly, are there any big influences by external factors? (such as National calamities, Security situation, Donor programme, etc)	Existing condition in the environment of the Project	Information on any related events, problem surrounding to the Project	Project stakeholders, Project documents	Document review, Questionnaire/Interview
Has there been any other hindering or contributing factors?	What are the positive factors that encouraged the achievement of the Project purpose? What are the negative factors that inhibited the achievement of the Project purpose?	Current assumptions & important factors	Information on any relevant events in the course of Project implementation	Project stakeholders, Project documents	Document review, Questionnaire/Interview	
Efficiency	Have the Project activities been appropriate to produce the outputs?	Are the activities contributing to achieve the outputs?	Co-relation between the outcomes of the activities and outputs	Logical sequence between activities and outputs, progress of activities and levels of achievements	Project stakeholders, Project documents	Document review, interviews
		Has there been any obstacle for the achievement of the outputs?		Information on any relevant events in the course of Project implementation	ditto	Interview, discussion with Project staff
	Have the inputs been appropriate to produce the outputs?	Have the timing, number, duration, and fields of Japanese staff dispatched been appropriate?	Comparison with the planned figures	Records on Japanese staff	Project records and relevant documents, Self-Evaluation Sheet	Document review, Questionnaire/Interview
		Have the timing, duration, contents of counterpart training been appropriate?	ditto	Records on counterpart training	ditto	ditto
		Have the timing, volume, and specification of provision of equipment been appropriate?	ditto	Records on equipment provision	ditto	ditto
		Have the timing, number, fields and competency of the counterpart personnel been appropriate?	ditto	List of counterpart personnel	ditto	ditto
		Were the physical facilities sufficient to implement the Project activities?	ditto	Information on the facilities	Project records, opinions of experts and C/Ps, Self-Evaluation Sheet	Interviews, field visit
		Has the scale of Project output been appropriate for the planned inputs?	Comparison with the input costs	Budget and expenditure, local cost by Nepalese side	Project records, opinions of experts and C/Ps	Interview, discussion with Project stakeholders and JICA staff
		Is it expectable to obtain enough project achievements to compensate the input costs?	Comparison with the input costs	Budget and expenditure, local cost by Nepalese side	Project record and personnel, JICA staff	Interview, discussion with Project stakeholders and JICA staff
	Have the project been managed and supported by the stakeholders?	Are there any outputs that were realized by cooperation with other JICA schemes or other donors?		Information from the Project	Project record and personnel, JICA staff, related donor personnel	Interview, discussion with Project stakeholders and JICA staff
		Have the project management and support been well functioned? Were the monitoring activities carried out efficiently?		Information from the Project	Project record and personnel, JICA staff	Interview, discussion with Project stakeholders and JICA staff
Have there been any factors hindering or contributing to the efficiency of the Project?		Has there been any influence from important assumptions?		Information on the climate and natural disasters, and other factors	Project stakeholders, Project records	Interview, discussion with Project staff
	Have there been any other factors affecting the efficiency?		Information on any relevant events in the course of Project implementation	Project stakeholders, Project records	Interview, discussion with Project staff	

Evaluation Criteria	Evaluation question		Basis of judgment	Data needed	Data source	Data collection method	
	Main question	Sub question					
Is the prospect of achieving the overall goal assumed to be high?	Is the prospect of achieving the overall goal assumed to be high?	Do you prospect that "Improved participatory watershed management is adopted in Soil Conservation and Watershed Management Programme" (the indicator of Overall goal) after the end of the Project?	Comparison with the baseline	Information from the Project	Opinions of Project stakeholders, Annual Plan & Documents of DSCWM/DSCO, Self-Evaluation Sheet, Project documents	Document review, Questionnaire/Interview, discussion with stakeholders	
		Will the achievement of the overall goal contribute to the bring positive impacts to the policies of Nepalese government?	Organizational commitment, existence of relevant programs	Current program, future plan of the government, opinion of the Nepalese sides	Staff of the implementing agencies, Self-Evaluation Sheet, Project documents	Document review, interviews, discussion with stakeholders	
		Is there any possible factors that hinder or contribute to the achievement of the overall goal?		Information on any relevant events in the course of Project implementation	Project stakeholders, Project documents	Document review, Questionnaire/Interview, discussion with stakeholders	
		Are any methods or mechanism suggested in order to achieve the overall goal?		Future plan of the government, opinion of the Project staff	Staff of the implementing agencies, Project stakeholders	Document review, interviews, discussion with stakeholders	
	Is the project purpose still appropriated to achieve the overall goal?	Is the logical sequences between the Project purpose and the overall goal still secured?		Confirmation on the logical sequence	Information on the results of activities that indicate the cause-effect relationship	Project stakeholders, Self-Evaluation Sheet, Project documents	Document review, interviews, discussion with stakeholders
		Has there been any effects beyond the intended target groups?		Direct/indirect influences through the Project implementation	Information on the sample cases in target area and other areas	Project stakeholders, Project documents	Document review, Questionnaire/Interview, discussion with stakeholders
	Has there been any unexpected effect on the <u>policies and programs</u> of implementing agencies?		Information on the relevant policies		Relevant documents, Project stakeholders, Project documents		
	Has there been any change or formulation in terms of relevant <u>organization, rules and regulations</u> ?		Information on the changes and new setup		Project stakeholders, Relevant documents		
	Has there been any unexpected change in <u>technical and/or methodological aspects</u> through the Project?		Information on the changes that took place		Project stakeholders, Relevant documents		
	Has there been any unexpected effect in terms of social aspects on <u>gender, human rights, poverty gap, peace and conflicts</u> ?		Information on the cases of relevant events		Project stakeholders, Relevant documents		
	Has there been any unexpected effect on <u>environmental concerns</u> in the target areas?		Information on the cases of relevant events		Project stakeholders, Relevant documents		
	Are the impacts brought by the Project?	What are the factors that brought about the above mentioned positive and negative effects?		Project's attributes to the effects	Information on the other interventions and events in the target areas	Project stakeholders, Relevant documents	Document review, Questionnaire/Interview, discussion with stakeholders

Evaluation Criteria	Evaluation question		Basis of judgment	Data needed	Data source	Data collection method
	Main question	Sub question				
Sustainability	Will the policy of improving and expanding irrigated agriculture continue ?	Is the possibility of continuation of the policies by GoN? (Do you prospect that MoFSC will support DSCWM maintain the improved SABIHAA model for watershed management after the end of the Project?)	Policy commitment	Current program, future plan of the government, opinion of the Project staff	Policy documents, Project stakeholders	Document review, Questionnaire/Interview, discussion with stakeholders
		Is there any alternative programs that can integrate the outcomes of the Project? (relation with LGCDP II)	Existence of relevant programs	ditto	ditto	Document review, Questionnaire/Interview, discussion with stakeholders
		Are the implementing agencies committed to continue the activities?	Organizational commitment of the implementing agencies	Opinions and relevant documents of implementing agencies	Project stakeholders, staff of implementing agencies	Document review, Questionnaire/Interview, discussion with stakeholders
	Are the implementing agencies capable to continue or further expand relevant activities of the Project?	Are the counterpart personnel capable of carrying out the activities?	Comparison with the baseline	Levels of competence, confidence, experiences and performance	Policy documents, Project stakeholders	Questionnaire/Interview, discussion with stakeholders
		Do you prospect DSCWM will be secured necessity budget from MoFSC after the end of the Project?	Budget allocation, planned volume	Budget plan of implementing agencies	Relevant staff of implementing agencies, budget documents	Questionnaire/Interview, discussion with stakeholders
	Will the technologies and methodologies introduced by the Project continuously be utilized?	Regarding to the SABIHAA model on participatory watershed management, is it possible to continue and accept among the stakeholders or not?	Levels of understanding and acceptance of the model	Understanding on the model among stakeholders	Project stakeholders, officials of officials of DSCWM/MoFSC	Interview, discussion with stakeholders
		Is there any mechanism within the implementing agency to continue / further disseminate / modify the SABIHAA model in the future?	Existence of relevant programs	Information on the organizational setup and programs for further continuation and dissemination	Project stakeholders, staff of implementing agencies, organization structure	Interview, discussion with stakeholders
	Will the technologies and methodologies introduced by the Project continuously be utilized?	What are the future direction of SABIHAA replication projects by DSCWM?	Existence of relevant programs	Information on the organizational setup and programs for further dissemination	Project stakeholders, staff of relevant institutions, organization structure	Interview, discussion with stakeholders
		Is the necessary equipment properly maintained?	Degree of maintenance and designation of the responsible entities	Budget allocation, history of maintenance of equipment	Project records, Project stakeholders	Document review, interviews, field visit
	Are there any factors that may affect the sustainability of the Project?	Is there any negative influence on the social and cultural aspects that may become obstacles in carrying out the activities?	External assumption & influence	Information on the cases of relevant events	Project stakeholders, staff of relevant institutions, organization structure	Questionnaire/Interview, Document review, field visit
		Is there any negative influence on the environment that may inhibit the continuation of the activities?		ditto	ditto	Questionnaire/Interview, Document review, field visit
	What are the possible measures to further facilitate the Project implementation?	Is there any necessary change in terms of activities and inputs of the Project for the reaming Project period?		Information related to the Project implementation	Project stakeholders, staff of the implementing agencies, Project records, PDM, PO	Discussion with stakeholders and among the evaluation team
What are the other possible measures to further facilitate the Project implementation?		Project stakeholders, Policy documents, JCC Meeting memo			Interview, discussion with stakeholders and among the evaluation team	

Abbreviation:

DSCWM/MoFSC (Department of Soil Conservation and Watershed Management, Ministry of Forests and Soil Conservation) , DSCO (District Soil Conservation Office) , DDC (District Development Committee), LDO (Local Development Office), VDC (Village Development Committee), WCC (Ward Coordination Committee), POWER (Poor people, Occupational caste and Women's Empowerment for Resource management)

Remarks:

Project documents= Documentation described which the Project made with paper written during the Project period
 Project records= Records and memo especially on the graphs and tables indicating the figure and process on the Project activities

List of equipment purchased

ANNEX 6-1

No.	Procured Date	Item	Specification	Managed by
1	9-Nov-2009	Notebook PC	NEC versa S3501-F2003DRC	Project Office(KTM)
2	9-Nov-2009	Notebook PC *1)	NEC versa S971-F2102DRC	Project Office(KTM)
3	9-Nov-2009	Desktop PC	NEC NW900 Wide LCD 19"	Project Office(KTM)
4	9-Nov-2009	Network photocopy	Image Runner IR 3225	Project Office(KTM)
5	9-Nov-2009	Scanner/printer	Image Class MF4320D	Project Office(KTM)
6	9-Nov-2009	Printer	Image Class MF8180C	Project Office(KTM)
7	9-Nov-2009	Fax machine	Canon L140	Project Office(KTM)
8	9-Nov-2009	Inverters*2)	3 KVA On-line Sine wave inverter	Project Office(KTM)
9	25-May-2010	Digital Camera	Canon PowerShot A480	Project Office(KTM)
10	25-May-2010	Digital Camera	Canon PowerShot A480	Project Office(KTM)
Western Region-PKR Office				
11	22-Jan-2013	Honda Generator	EP1800 CX	Project Office (PKR)
12	9-Nov-2009	Notebook PC	NEC versa S3501-F2003DRC	Project Office(PKR)
13	9-Nov-2009	Notebook PC	NEC versa S971-F2102DRC	Project Office(PKR)
14	9-Nov-2009	Desktop PC	NEC NW900 Wide LCD 19"	Project Office(PKR)
15	9-Nov-2009	Scanner	Image Class MF4320D	Project Office(PKR)
16	9-Nov-2009	Printer	LBP 3500 CANON	Project Office(PKR)
17	9-Nov-2009	Fax machine	Canon L140	Project Office(PKR)
18	9-Nov-2009	UPS Backup	2KVA online UPS Backup Fenton	Project Office(PKR)
19	25-May-2010	Network photocopy	Image Runner IR 3225	Project Office(PKR)
20	25-May-2010	Digital Camera*3)	Canon PowerShot A480	Project Office(PKR)
21	25-May-2010	Digital Camera	Canon PowerShot A480	Project Office(PKR)
Handed over to DSCO				
22	25-May-2010	Digital Camera	Canon PowerShot A480	DSCWM, Desk Officer
23	25-May-2010	Notebook PC	HP Compaq 510 Notebook PC	DSCWM, Desk Officer
24	25-May-2010	Digital Camera	Canon PowerShot A480	DSCO Sindupalchowk
25	25-May-2010	Digital Camera	Canon PowerShot A480	DSCO Kavrepalnchok
26	25-May-2010	Digital Camera	Canon PowerShot A480	DSCO Kaski
27	25-May-2010	Digital Camera	Canon PowerShot A480	DSCO Myagdi
28	25-May-2010	Digital Camera	Canon PowerShot A480	DSCO Baglung
29	25-May-2010	Digital Camera	Canon PowerShot A480	DSCO Parbat
30	25-May-2010	Digital Camera	Canon PowerShot A480	DSCO Tanahun
31	25-May-2010	Digital Camera	Canon PowerShot A480	DSCO Syangja
32	25-May-2010	Notebook PC	HP Compaq 510 Notebook PC	DSCO Sindupalchowk
33	25-May-2010	Notebook PC	HP Compaq 510 Notebook PC	DSCO Kavrepalnchok
34	25-May-2010	Notebook PC	HP Compaq 510 Notebook PC	DSCO Kaski
35	25-May-2010	Notebook PC	HP Compaq 510 Notebook PC	DSCO Myagdi
36	25-May-2010	Notebook PC	HP Compaq 510 Notebook PC	DSCO Baglung
37	25-May-2010	Notebook PC	HP Compaq 510 Notebook PC	DSCO Parbat
38	25-May-2010	Notebook PC	HP Compaq 510 Notebook PC	DSCO Tanahun
39	25-May-2010	Notebook PC	HP Compaq 510 Notebook PC	DSCO Syangja
Total Amount in JPY: Approx 4.62 Million				

*1) Monitor broken, *2) Disposed and present Power back up system of KTM office is on rental contract, *3) out of order

Project Office (KTM): Project Office at Kathmandu, Project Office (PKR) : Project Office at Pokhara

DSCWM : Department of Soil Conservation and Watershed Management

DSCO: District Soil Conservation Office

Record of training

ANNEX 6-2
as of 25th March 2014

(1) Training in Nepal

S.N	Name of the Training	District/VDC	Date	Participants											Total	Male	Female	Total	Remarks
				DSCWM	DSCO	ASCO	DSCO tech	Motivators	MoLD	DDC	VDC secretaries	Others	WCC and POWER						
Year I																			
		Sindhupalchok	1 Feb, 2010		1	3	-								4	4	-	4	1 day orientation
		Kavre	31 Jan, 2010		1	1	2							1	5	5	-	5	1 day orientation
		Baglung	22-23 Jan, 2009				2								2	2	-	2	2 days training
		Syangja	22-23 Jan, 2009			2	1								3	3	-	3	2 days training
		Kaski	22-23 Jan, 2009			1	5								6	6	-	6	2 days training
		Parbat	22-23 Jan, 2009			1	2								3	3	-	3	2 days training
		Myagdi	22-23 Jan, 2009			1	1								2	2	-	2	2 days training
		Tanahun	22-23 Jan, 2009			3	1								4	4	-	4	2 days training
	Subtotal				2	12	14								29	29	-	29	
		Sindhupalchok	20-21 Feb 2010					5							5	1	4	5	2 days training
		Kavre	22-23 Feb 2010					10							10	-	10	10	2 days training
		Baglung	11-12 Feb 2010					7							7	-	7	7	2 days training
		Syangja	14-15 Feb 2010					9							9	-	9	9	2 days training
		Kaski	16-17 Feb 2010					12							12	-	12	12	2 days training
		Parbat	21-22 Feb 2010					10							10	-	10	10	2 days training
		Myagdi	19-20 Feb 2010					7							7	-	7	7	2 days training
		Tanahun	24-25 Feb 2010					7							7	-	7	7	2 days training
	Subtotal							62							67	1	66	67	
	Gender and Social Inclusion, Conflict Sensitive Dev. for officers	DSCWM & MoLD	24-26 Feb 2010		10					2					12	6	6	12	3 days training
	Subtotal				10					2					12	6	6	12	
		Sindhupalchok	4-6 April, 2010			1	3		5				5		14	10	4	14	3 days training
		Kavre	7-9 April, 2010			1	4		10		1		8		24	14	10	24	3 days training
		Baglung	3-5 Mar, 2010			1	2		7				7		17	10	7	17	3 days training
		Syangja	18-20 Mar, 2010			2	-		9				8	3	22	12	10	22	3 days training
		Kaski	14-16 Mar, 2010				2		12		1		10	2	27	14	13	27	3 days training
		Parbat	18-20 Mar, 2010			2	2		11				9	1	25	16	9	25	3 days training
		Myagdi	23-25 April, 2010			1	3		7				9		21	14	7	21	3 days training
		Tanahun	14-16 Mar, 2010			1	3		7		1		6		19	12	7	19	3 days training
	Subtotal				3	15	12		68		3		62	6	169	102	67	169	
Year II																			
	Community Development and Local Governance for DSCO tech	8 districts	27-29 Aug, 2010				16	13							29	29	-	29	3 days training
	Subtotal						16	13							29	29	-	29	
	Project Management training	8 districts	31 Aug, 2010		7	1									8	8	-	8	1 day training
	Subtotal				7	1									8	8	-	8	
	Training for DSCO Chief	8 districts	15 Dec., 2010		8										8	8	-	8	1 day training
	Subtotal				8										8	8	-	8	
		Shindhupalchok	20-22 Sept 2010						5						5	1	4	5	3 days training
		Kavre	1-3 Oct 2010						10						10	-	10	10	"
		Baglung	3-5 Oct 2010						6						6	-	6	6	"
		Syangja	3-5 Oct 2010						9						9	-	9	9	"
		Kaski	27-29 Sept 2010						12						12	-	12	12	"
		Parbat	24-26 Sept 2010						8						8	-	8	8	"
		Myagdi	14-16 Sept 2010						7						7	-	7	7	"
		Tanahun	4-6 Oct 2010						7						7	-	7	7	"
	Subtotal								64						64	1	63	64	

5.2

Name of the Training	District/VDC	Date	Participants										Total	Male	Female	Total	Remarks				
			DSCWM	DSCO	ASCO	DSCO tech	Motivators	MoLD	DDC	VDC secretaries	Others	WCC and POWER									
	Syangja/ Jagatbhanjyang	23-24 Jan 2011										1			18	19	12	7	19	2 days training	
	Syangja/ Kewarebhanjyang	24-25 Jan 2011										1			18	19	8	11	19	"	
	Syangja/ Maiyankot	28-29 Jan 2011										1			18	19	11	8	19	"	
	Myagdi/ Jhin	28-29 Nov 2010										1			19	20	7	13	20	"	
	Myagdi/ Patleket	30Nov -1Dec 2010										1			18	19	15	4	19	"	
	Myagdi/ Pipele	6-7 Dec 2010													19	19	11	8	19	"	
	Baglung/ Amalachaur	19-20 Jan 2011													20	20	9	11	20	"	
	Baglung/ Bhakunde	23-24 Jan 2011													18	18	7	11	18	"	
	Baglung/ Palyunpala	11-12 Jan 2011											1		18	19	10	9	19	"	
	Baglung/ Narayansthan	7-8 Jan 2011													20	20	9	11	20	"	
	Parbat/ Bachha	28-29 Dec 2010													18	18	10	8	18	"	
	Parbat/ Ranjani	28-29 Dec 2010													20	20	8	12	20	"	
	Parbat/ Barrachaur	28-29 Dec 2010													19	19	10	9	19	"	
	Parbat/ Wahakithanti	6-7 Feb 2011													19	19	10	9	19	"	
	Kaski/ Chapakot	8-9 Jan 2011													19	19	10	9	19	"	
	Kaski/ Bhadauretamagi	6-7 Jan 2011													19	19	8	11	19	"	
	Kaski/ Dhital	9-10 Jan 2011													19	19	8	11	19	"	
	Kaski/ Dhampus	11-12 Jan 2011													19	19	10	9	19	"	
	Kaski/ Dhikupokhari	12-13 Jan 2011													19	19	13	6	19	"	
	Kaski/ Lwangghalel	19-20 Jan 2011													19	19	10	9	19	"	
	Tanahun/ Bhimad	3-4 Jan 2011													18	19	12	7	19	"	
	Tanahun/ Dhorfirdi	3-4 Jan 2011											1		17	18	11	7	18	"	
	Tanahun/ Bhanumati	3-4 Jan 2011											1		18	19	10	9	19	"	
	Kavre/Bhumidanda	2-3 Jan 2011													18	19	10	9	19	"	
	Kavrepalanchok/ Kushadevi	3-4 Jan 2011													18	19	11	8	19	"	
	Kavrepalanchok/ Rayale	3-4 Jan 2011													18	19	13	6	19	"	
	Kavrepalanchok/ Devbhumi Baluwa	6-7 Jan 2011													18	19	9	10	19	"	
	Kavrepalanchok/ Methinkot	7-8 Jan 2011													18	20	11	9	20	"	
	Kavrepalanchok/ Kanpur	7-8 Jan 2011													20	21	11	10	21	"	
	Kavrepalanchok/ Sarsyukharka	10-11 Jan 2011													19	20	13	7	20	"	
	Sindhupalchowk/ Jalbire	28-29 Nov 2010													19	19	9	10	19	"	
	Sindhupalchowk/ Hagam	1-2 Dec 2010													18	19	12	7	19	"	
	Sindhupalchowk/ Fulpinkot	26-27 Nov 2010													19	19	9	10	19	"	
	Sindhupalchowk/ Fulpingdanda	23-24 Nov 2010													19	19	10	9	19	"	
	Subtotal											18			633	651	347	304	651		
10	Project Management training	8 districts				16		8								24	24	-	24	3 days training	
	Subtotal					16		8								24	24	-	24		
11	Disaster, Climate Change, Landslide and Basin Approach Mgt training	8 districts		2	5	15		7								29	28	1	29	3 days training	
	Subtotal			2	5	15		7								29	28	1	29		
Year III																					
12	Participatory Planning and Local Governance training	Kavre, Sindhupalchok			5		2	13								29		17	12	29	3 days training
		Kaski, Tanahun, Syangja			9		5	12								38	26	12	38	"	
		Parbat, Myagdi, Baglung			2	6		3	11							30	18	12	30	"	
	Subtotal				2	20		10	36							97	61	36	97		
13	Participatory Planning and Local Governance training (Replication MoT only)	6 districts from western												24		24		24			
	Subtotal													24		24		24			
14	WCC training (basic)	Kavre, Sindhupalchok, Tanahun, Syangja		1	1	8		5								15	15	-	15	2 days training	
		Baglung, Kaski, Myagdi, Parbat			2	7		8								17	15	2	17	2 days training	
	Subtotal			1	3	15		13								32	30	2	32		
15	Training after Mid term Review	8 districts				2		8								10	10		10	7 days	
	Subtotal					2		8								10	10		10		
Year IV																					

S.N	Name of the Training	District/VDC	Date	Participants											Total	Male	Female	Total	Remarks		
				DSCWM	DSCO	ASCO	DSCO tech	Motivators	MoLD	DDC	VDC secretaries	Others	WCC and POWER								
16	Training on "Development and Governance"	Kavrepalanchok	5-6 Oct. 2012			1	2		10				3	7		24	8	16	24	2 days	
		Sindhupalchok	7-8 Oct. 2012		1	2	1		5		1		3	7	1	21	12	9	21		
		Myagdi	11-12 Oct. 2012		1	1	2		6				2	7		19	7	12	19		
		Parbat	1-2 Nov. 2012		1	2	1		7		1		4	8		24	11	13	24		
		Baglung	4-5 Nov. 2012				2		8		1		3	6		20	5	15	20		
		Syangja	2-3 Nov. 2012			2	2		6		1		5	6		22	12	10	22		
		Kaski	4-5 Nov. 2012			2	4		2				4	12		22	12	12	24		
		Tanahun	6-7 Nov. 2012			1	2		7				1	6		17	5	12	17		
	Subtotal			3	11	16		54		5		25	59	1	171	72	99	171			
17	Training on 'GIS Advance Course 1'	8 districts	20-24 Dec. 2012		5	2	4								11	11		11			
	Subtotal				5	2	4								11	11		11			
18	SABIHA-CHURIA Orientation Training	DSCO from selected SABIHA/CHURIA district	12-14 Jan. 2013		13										13	13		13			
	Subtotal				13										13	13		13			
19	Training on 'GIS Advance Course 2'	8 districts	8-13 March. 2013		4	3	4								11	11		11			
	Subtotal				4	3	4								11	11		11			
20	VDC Level interaction meeting	Sindhupalchowk/ Fulpingkot	10 Oct. 2012		1		1		2				1	5	65	75	25	50	75		
		Sindhupalchowk/ Jalbire	30 Sep. 2012				1		2				1	2	29	35	24	11	35		
		Sindhupalchowk/ Fulpingdanda	29 Sep. 2012				1		1				1	2	28	33	18	15	33		
		Sindhupalchowk/ Hagam	29 Sep. 2012				1		2				2	4	41	50	37	13	50		
		Kavrepalanchok/ Kanpur	30 Sep. 2012		1		1		1				1	3	31	38	21	17	38		
		Kavrepalanchok/ Kushadevi	24 Sep. 2012				2		1			1	1	2	34	42	31	11	42		
		Kavrepalanchok/ Sarsyukharka	1 Oct. 2012		1		2		1				1	3	42	50	32	18	50		
		Kavrepalanchok/ Devbhumi Baluwa	2 Oct. 2012				1		1					4	54	60	28	32	60		
		Kavrepalanchok/ Kalati Bhumidanda	25 Sep. 2012				2		1				1	2	44	50	26	24	50		
		Kavrepalanchok/ Rayale	3 Oct. 2012				2		1		2		1	4	32	42	27	15	42		
		Kavrepalanchok/ Methinkot	28 Sep. 2012		1		2		1				1	4	23	32	22	10	32		
		Parbat/ Wahakithanti	9 Oct. 2012				2		1				1	28	15	47	47	28	19	47	
		Parbat/ Ranipani	10 Oct. 2012				2		1				1	11	25	40	18	22	40		
		Parbat/ Bachha	12 Oct. 2012				2		1				1	25	22	51	35	16	51		
		Parbat/ Barrachaur	11 Oct. 2012				2		1				1	12	27	43	27	16	43		
		Baglung/ Bhakunde	13 Oct. 2012				1		1				1	6	14	23	10	13	23		
		Baglung/ Amalachaur	13 Oct. 2012				1		1				1	8	27	38	23	15	38		
		Baglung/ Narayansthan	27 Sep. 2012			1		2		1			1	13	22	40	22	18	40		
		Baglung/ Palyunpata	29 Sep. 2012				2		1				1	16	20	40	25	15	40		
		Myagdi/ Piple	27 Sep. 2012			1		2		1			1	14	14	33	21	12	33		
		Myagdi/ Patleket	28 Sep. 2012			1		3		1			2	17	31	55	32	23	55		
		Myagdi/ Jhin	28 Sep. 2012			1		3		1			1	13	15	34	19	15	34		
		Syangja/ Malyankot	1 Oct. 2012				1		1				1	16	26	45	28	17	45		
		Syangja/ Jagatbhanjyang	30 Sep. 2012				2		1				1	5	24	33	22	11	33		
		Syangja/ Kewarebhanjyang	30 Sep. 2012				1		1				1	13	24	40	27	13	40		
		Tanahun/ Bhanumati	28 Sep. 2012				2		1				1	19	26	50	31	19	50		
		Tanahun/ Dhorfirdi	29 Sep. 2012			1		2		1			1	24	19	48	34	14	48		
		Tanahun/ Bhimad	27 Sep. 2012			1		2		1			1	13	22	40	25	15	40		
		Kaski/ Dhital	28 Sep. 2012				1		1				1	20	23	46	25	21	46		
		Kaski/ Lwangghalel	27 Sep. 2012				1		1				1	20	23	46	28	18	46		
		Kaski/ Bhadauretamagi	3 Oct. 2012				1		1				1	18	24	45	27	18	45		
		Kaski/ Dhampus	2 Oct. 2012				1		1				1	18	25	46	25	21	46		
		Kaski/ Chapakot	30 Sep. 2012				1		1				1	17	25	45	28	17	45		
		Kaski/ Dhikurpokhari	25 Sep. 2012				1		1				1	17	26	46	22	24	46		
			Subtotal				12		54		37	2	1	35	398	942	1481	873	608	1481	
		21	WCC Exposure visit	Parbat/ Wahakithanti	6-10 Oct. 2012				1		1						26	28	8	20	28
				Parbat/ Ranipani	6-10 Oct. 2012			1		1					1		27	31	10	21	31
				Parbat/ Bachha	30 Nov- 4 Dec. 2012				1		1						27	29	7	22	29
				Parbat/ Barrachaur	30 Nov- 4 Dec. 2012				1		1				1		24	27	12	15	27
				Baglung/ Bhakunde	30 Nov- 4 Dec. 2012				1		1				1	2	27	32	8	24	32
				Baglung/ Amalachaur	30 Nov- 4 Dec. 2012				1		1				2		20	24	13	11	24
			Subtotal				1		6		6			2	5	151	171	58	113	171	

S.N

Name of the Training	District/VDC	Date	Participants											Total	Male	Female	Total	Remarks		
			DSCWM	DSCO	ASCO	DSCO tech	Motivators	MoLD	DDC	VDC secretaries	Others	WCC and POWER								
Year V																				
	Sindhupalchowk/ Fulpingkot	17-21 Sep. 2013				1		2					1	1	27	32	15	17	32	
	Sindhupalchowk/ Jalbire	25-29 Oct. 2013				1		1					1	2	27	32	12	20	32	
	Sindhupalchowk/ Fulpingdanda	28 Oct-1 Nov. 2013				1		2					1	2	27	31	17	14	31	
	Sindhupalchowk/ Hagam	28 Nov-2 Dec. 2013				1		2					1	1	27	32	17	15	32	
	Kavrepalanchok/ Kanpur	25-30 Sep. 2013				1		1					1	2	27	32	16	16	32	
	Kavrepalanchok/ Kushadevi	26 Sep-1 Oct. 2013				1		1					1	2	27	32	20	12	32	
	Kavrepalanchok/ Sarsyukharka	24-29 Oct. 2013				1		1					1	1	27	31	18	13	31	
	Kavrepalanchok/ Devbhumi Baluwa	26-31 Oct. 2013				1		1					1	2	27	32	15	17	32	
	Kavrepalanchok/ Kalati Bhumidanda	27 Oct-1 Nov. 2013				1		1					1	2	27	32	15	17	32	
	Kavrepalanchok/ Rayale	29 Nov-4 Dec. 2013				1		1					1	2	27	32	19	13	32	
	Kavrepalanchok/ Methinkot	8-13 Dec. 2013				1		1					2	2	27	31	18	13	31	
	Baglung/ Narayansthan	20-24 Sept. 2013				2		1					4		27	34	10	24	34	
	Baglung/ Palyunpata	20-24 Sept. 2013				1		1					1	2	27	32	17	15	32	
WCC Exposure visit	Myagdi/ Piple	15-20 Sept. 2013				1		1					1	1	27	31	11	20	31	
	Myagdi/ Patleket	17-22 Sept. 2013				2		1					1	2	25	31	10	21	31	
	Myagdi/ Jhin	20-25 Sept. 2013				1		1					1	4	27	34	15	19	34	
	Syangja/ Malyankot	26-30 Sept. 2013				1		1					2	2	27	31	15	16	31	
	Syangja/ Jagatbhanjyang	27 Sept.- 1 Oct. 2013				1		1					3	2	27	32	6	26	32	
	Syangja/ Kwarebhanjyang	27 Sept.- 1 Oct. 2013				1		1					1	2	27	32	15	17	32	
	Tanahun/ Bhanumati	22-26 Sept. 2013				1		1					1	2	27	32	20	12	32	
	Tanahun/ Dhorfirdi	20-24 Sept. 2013				1		1					1	2	27	32	12	20	32	
	Tanahun/ Bhimad	20-24 Sept. 2013				1		1					1	2	27	32	13	19	32	
	Kaski/ Dhital	26-30 Sept. 2013				1		1					2	2	27	31	15	16	31	
	Kaski/ Lwangghalet	27 Sept.- 1 Oct. 2013				1		1					1	4	27	34	20	14	34	
	Kaski/ Bhadauretamagi	27 Sept.- 1 Oct. 2013				1		1					1	2	27	32	10	22	32	
	Kaski/ Dhampus	29 Sept.- 3 Oct. 2013				1		1					1	3	27	33	11	22	33	
	Kaski/ Chapakot	5 Oct. - 9 Oct. 2013				1		1					3	2	27	32	10	22	32	
	Kaski/ Dhikarpokhari	27 Oct. - 31 Oct. 2013				1		1					5	2	27	34	15	19	34	
	Subtotal							30		31			20	63	754	898	407	491	898	
Exposure Susceptibility Mapping using GIS techniques	8 districts	22-31 Oct. 2013			5	2	4									11	11		11	
	Subtotal				5	2	4									11	11		11	
Thematic Seminar on 'Participatory approach, Local Governance and Gender/Social Inclusion'	DSCO, Community People and Concern Stakeholder	3 Dec. 2013		11	3		1	2	1	2		2	72	4	98	78	20	98		
	Subtotal			11	3		1	2	1	2		2	72	4	98	78	20	98		
	Kavrepalanchok/ Kushadevi	11-12 Dec. 2013			1	1		1					1		26	30	2	28	30	
	Kavrepalanchok/ Rayale	19-20 Dec. 2013			1	1		1					1		26	31	10	21	31	
	Kavrepalanchok/ Devbhumi Baluwa	15-16 Dec. 2013					1						9	18	30	2	28	30		
	Kavrepalanchok/ Sarsyukharka	11-12 Dec. 2013			1		1						12	18	33	4	29	33		
	Kavrepalanchok/Kolati Bhumidanda	26-27 March 2014						1					5	23	29		29	29		
	Kavrepalanchok/Kanpur	25-26 March 2014						1					8	21	30	4	26	30		
	Kavrepalanchok/Methinkot	14-15 March 2014						1					1	9	17		28	28		
	Sindhupalchowk/Jalbire	26-27 Dec. 2013													27	28	6	22	28	
	Sindhupalchowk/Fulpingkot	24-25 Dec. 2013													27	28	6	22	28	
	Sindhupalchowk/Fulpingdanda	27-28 Jan. 2014			1	3		2					2	27	35	12	23	35		
	Sindhupalchowk/Hagam	11-12 Feb. 2014			1	2		2					1	1	25	32	14	18	32	
	Parbat/ Wahakithanti	18-19 Jan. 2014			1		2	1					6	27	37	12	26	37		
	Parbat/ Rahipani	23-24 Dec. 2013					2	1					5	27	35	8	27	35		
	Parbat/ Bachha	20-21 Jan. 2014					2	1					2	30	35	12	23	35		
	Parbat/ Barrachaur	25-26 Dec. 2013					2	1					10	27	40	15	25	40		
	Baglung/ Bhakunde	6-7 Feb. 2014			1		2	1					3	27	34	8	26	34		
Land Management Training/Mainstreaming Workshop for POWER Group	Baglung/ Amalachaur	2-3 Feb. 2014			1		1	1					1	26	30	6	24	30		
	Baglung/ Narayansthan	4-5 Feb. 2014			1		1	1					1	24	28	9	19	28		
	Baglung/ Palyunpata	31 Jan. - 1 Feb. 2014			1		1	1					1	27	31	11	20	31		
	Myagdi/ Piple	5-6 Dec. 2013			1		2	1					5	27	36	10	26	36		
	Myagdi/ Patleket	10-11 Dec. 2013			1		2	1					1	27	32	8	24	32		
	Myagdi/ Jhin	9-10 Dec. 2013													31			31		
	Syangja/ Malyankot	23-24 Jan. 2014					1	1					4	26	32	15	17	32		

S.N.	Name of the Training	District/VDC	Date	Participants										Total	Male	Female	Total	Remarks		
				DSCWM	DSCO	ASCO	DSCO tech	Motivators	MoLD	DDC	VDC secretaries	Others	WCC and POWER							
	Syangja/ Jagatbhanjyang		24-25 Jan. 2014				1	1					1	3	27	33	13	20	33	
	Syangja/ Kewarebhanjyang		26-27 Jan. 2014		1		1	1					1	5	27	36	17	19	36	
	Tanahun/ Bhanumali		23-24 Dec. 2013		1		2	1					3	27	34	6	28	34		
	Tanahun/ Dhorfirdi		28-29 Dec. 2013		1		2	1					5	27	36	8	28	36		
	Tanahun/ Bhimad		26-27 Dec. 2013		1		1	1					4	27	34	6	28	34		
	Kaski/ Dhital		22-23 Jan. 2014												31			31		
	Kaski/ Lwangghalel		23-24 Jan. 2014												30			30		
	Kaski/ Bhadauretamagi		23-24 Jan. 2014												30			30		
	Kaski/ Dhampus		26-27 Jan. 2014												31			31		
	Kaski/ Chapakot		16-17 Jan. 2014												32			32		
	Kaski/ Dhikurpokhari		18-19 Jan. 2014												30			30		
	Subtotal				17	7	27	29					6	106	685	1,092	224	653	1,092	
26	SABIHAA Orientation Training for Replication Plotwators		10-13 Mar. 2014					28								28	2	26	28	
	Subtotal							28								28	2	26	28	
27	SABIHAA Orientation Training to Non SABIHAA DDCO Officers		Will be held in end of April 2014																	
	Subtotal																			
	Total			26	93	135	231	414	5	11		223	710	3,170	5,298	2,444	2,579	5,298		

(2) Training in Third Country

S.N.	Name of the Training	District/VDC	Date	Participants										Total	Male	Female	Total	Remarks		
				DSCWM	DSCO	ASCO	DSCO tech	Motivators	MoLD	DDC	VDC secretaries	Others	WCC and POWER							
	Year III Training after Mid term Review																			
	Preparatory Watershed Management Training in Thailand	8 districts	6-17 Feb. 2012		1	18	12									31	30	1	31	12 days
	Subtotal				1	18	12									31	30	1	31	
	Year IV Training on "Forestry and Watershed Management" in Thailand		13-21 Oct. 2012	10					2							12	12		12	9 days
	"International Conference on Forest and water in a changing environment", Fukuoka, Japan	DG and Desk Officer	18-20 Sep. 2012	2												2	2		2	
	Subtotal			12					2							14	14		14	
	Year V Regional Seminar on Nepal-Thailand Watershed Management Experience Meeting RECOFTC BKK		6-11 Oct. 2013	11					4							15	14	1	15	
	Subtotal			11					4							15	14	1	15	
	Total			23	1	18	12		6							60	58	2	60	
	Total of 5-1 and 5-2			49	94	153	243	414	11	11		223	710	3,170	5,298	2,502	2,581	5,298		

ANNEX 7

ANNEX 7 Achievement of the Activities for Each Output

Nearly all the Project activities have been implemented in accordance with the Inception Report (a detail plan of the Project).

Activities for Output 1: Capacity of DSCOs on participatory watershed management in the targeted area is improved.	
Activities at the commencement of the Project	In order to facilitate understanding on gender and social inclusion and minimizing the additional conflict due to community development, the Project conducted training on Gender & Social Inclusion, Conflict Sensitive Development for DSCO chiefs, DSCO-techs, Motivators, and VDC secretaries.
1-1. Review the SABIHAA model replication activities.	-Right after its commencement, The Project started to visit 8 districts to identify present situation of the Replication projects, held W/S to discuss project plan with DSCWM DG and DSCO chiefs. The Project also explained draft of Inception Report (IR) (Aug – Sept. 2009). -The Project had a W/S with DG of DSCWM (Project Director), JICA representative, and DSCO chiefs, to discuss present situation especially on sub-watershed and VDC selection, as well as condition for recruiting Motivator (Sept.2009). -The Project reviewed Kaski DSCO model replication OG and reflected lessons learned into the project OG.
1-2. Conduct baseline survey to assess the current status of skills and expertise of DSCWM and DSCOs on participatory watershed management and identify the training needs	The Project conducted a baseline data survey by outsourcing to local consultant (Feb. 2010), in which resulted that DSCO and DSCO-tech have still rooms to improve in watershed approach and latest technology such as GIS. The Project also shared the results with DSCWM and 8DSCO chiefs, and explained contents and received their comments.
1-3. Develop training packages based on 1-1 and 1-2.	Based on the result of the baseline survey, the Project developed 6 kinds of training packages: 4 for DSCO and 2 for WCC. Package 1: Social Inclusion and Conflict Management in Development (for DSCO) Package 2: Social Inclusion and Conflict Management in Development (for WCC/POWER) Package 3: Community Development and Local Governance (for DSCO) Package 4: Group Management and Institutional Development (for WCC/POWER) Package 5: Project Management (for DSCO) Package 6: Resource Book for Soil Conservation -Basic Guide (for DSCO) *Package 1-5 is in Nepalese language and Package 6 is in English.
1-4. Conduct training for DSCOs based on 1-3.	The Project conducted various trainings for DSCO chief, DSCO-tech applying cascade method. Training Record is attached in ANNEX 8-1.
1-5. Implement participatory watershed management activities in the targeted areas.	306 WCCs and 306 POWER groups in 34 VDCs in 8 districts implemented participatory watershed management activities. Types and total no. of sub-projects / POWER activities are summarized in ANNEX 9 & 10. Beneficiary number is also summarized in the Terminal Evaluation report.
1-6. Organize skill development training/technology transfer for DSCOs staff in abroad	The Project dispatched DSCO staff and related officers to the training organized in abroad. Details are mentioned in the Terminal Evaluation report.

ANNEX 7

1-7. Organize Result Sharing Workshop	First national level seminar was held on 12 May 2012 to share the progress on project activities and to disseminate SABIHAA model to wider development community. In Dec 2013, Thematic Seminar was held to disseminate SABIHAA model and tools the project has been promoting. The final national level seminar will be held in around May 2014.
Activities for Output 2: Capacity of community people in targeted districts on participatory watershed management and local governance is enhanced.	
2-1. Formation of WCC and POWER groups	DSCO-tech and motivator held W/S to select WCC and POWER group by mass meeting, and 306 WCCs and POWER groups were formed in the 1 st year.
2-2. Formulation of CBRMP, CRMP and AAP	WCC formulated CBRMP, CRMP and AAP. Re-planning of CRMP and compiling new AAP has been conducted on the 2 nd , 3 rd , 4 th and 5 th year.
2-3. Implementation of CBRMP, CRMP and AAP.	WCC, with community people implemented sub-projects and POWER programmes.
2-4. Conduct training for community people based on 1-3.	The Project conducted training for motivators as well as for WCCs, and POWER groups. Detail can be referred in ANNEX 6-2.
2-5. Conduct workshops/exposures/OJT for community people	The Project held exposure visit in the 4 th year and 5 th year. In total, 1,069 people were benefitted by this activity. OJT has been conducted throughout the implementation of sub-projects.
2-6. Organize self-evaluation of WCC activities	The Project facilitated self-evaluation for at least 3 times for each WCC.
Activities for Output3: Concept of local governance in participatory watershed management is promoted.	
3-1. Organize VDC level workshop in coordination with VDC	In 1 st year, the Project conducted W/S for VDC to explain its objectives and to reach consensus on Project activities. In the W/S, collaboration of DDC and VDC was highlighted, and the participants expressed comments on selection criteria of VDC and budget allocation procedures. During the 4 th year, VDC level interaction meeting was organized in all WCCs in order to promote better coordination and collaboration within VDC. In the 5 th year, the Project will also organize VDC level workshop to recall 5 years of project intervention in all the WCC.
3-2. Submission of CBRMP, CRMP, AAP to link with VDC plan.	After formulating AAP (2-2), WCC submitted proposals on soil conservation and watershed management activities to VDC, while POWER group focused on activities for livelihood improvement. This process was repeated four cycles including the fifth year.
3-3. Organize interaction programme with WCC, POWER and VDC	Project organized VDC level interaction workshop in the 1 st year, 4 th year and 5 th year.
3-4. Organize District Working Committee Meeting/workshop	Project conducted DWC regularly (twice a year since 3 rd year) for further promotion of coordination among stakeholders.
3-5. Conduct training to WCC/POWER/VDC on local governance based on 1-3.	Though details is in ANNEX 6-2: "Record of Training", the following trainings were provided to motivators, VDC secretaries and WCC/POWER members: -1 st year: Gender and Social Inclusion, Conflict Sensitive Development Training -2 nd year: Community Development and Local Governance Training for Motivators, Group Management and Institutional Development for WCC &

ANNEX 7

	<p>POWER</p> <p>-3rd year: Participatory Planning and Local Governance Training for Motivators and VDC Secretary</p> <p>-4th year: Development and Governance</p> <p>-5th year: Fund Management Training/Mainstreaming Workshop</p>
3-6. Organize public auditing of WCC activities	All the WCCs implemented their public auditing for at least 3 times.
3-7. Establish WCC network at VDC level	WCC networks, consists of WCC chairpersons and VDC secretary, have been formed at 26 VDCs.
Activities for Output 4: Internalization of SABIHAA model is promoted.	
4-1. Establish the Exit Strategy Working Group (ESWG) and develop strategy to mainstream SABIHAA model into DSCWM.	The Project has established the Exit (Internalized) Strategy Working Group (ESWG) and has been developing strategy to mainstream SABIHAA model into DSCWM.
4-2. Conduct fact finding survey.	The Project has conducted fact finding survey to get further information on replication activities to come up with lessons.
4-3. Conduct In-depth survey.	The Project has conducted In-depth study to assess the history of SABIHAA model and also analyse the level of understanding of SABIHAA model in the field level. Both surveys results were utilized by Exit Strategy Working Group.
4-4. Conduct training to replication sites and non-SABIHAA districts.	<p>-1st year: Training on social inclusion (replication motivator and VDC secretaries also attended)</p> <p>-2nd year: Community development and local governance training (replication motivators also attended)</p> <p>-3rd year: Training on participatory planning and local governance (separately organized for replication motivators)</p> <p>-4th year: Replication area motivators also took part in local governance training/workshop. 13 DSCOs from 3 replication districts (Palpa, Gulmi and Arghakhanchi) and 10 Churia districts were provided SABIHAA orientation training in the 4th year too.</p> <p>-5th year: SABIHAA orientation training (for newly appointed motivators of replication area)</p>
4-5. Revise Operational Guideline to handed over to DSCWM.	The Project has revised Operational Guideline by getting feedback from 8 DSCOs and it was handed over to DSCWM.

ANNEX 8-1

ANNEX 8-1: Number of DSCO & DSCO-techs participated in trainings and the results of pre/ post test

Output 1: capacity of DSCOs on participatory watershed management in the target area is improved	Indicator 1-1		Indicator 1-2	
	Number of DSCO and DSCO-techs participate in Participatory Watershed Management Training/Workshops		80% of targeted DSCO personnel participated in the Training/Workshops understand improved participatory watershed management	
	DSCO Officer	DSCO-tech	Pre test (%)*	Post test (%)*
1) OG orientation for DSCO-tech	2	27		
2) Gender & Social inclusion, Conflict Sensitive Dev. for Motivators	3	27	41.4	84.7
3) Community Dev. and Local Governance for DSCO-tech	0	13	50.2	66.2
4) Project Management training	7	1	53.3	74.4
5) OJT training for DSCO Chief	8	0		
6) Project Management training	0	24		
7) New trends of Watershed Mgt Principles training (GIS, Climate change) **	5	22	NA	80.0
8) Participatory Planning & Local Governance training	2	30	35.4	78.9
9) GIS training (Basic)	3	28	NA	Practiced
10) Participatory Watershed Management Training in Thailand	1	30		
11) GIS Advance course training	0	8	NA	Practiced
12) Development & Governance training	3	27	48.4	72
13) Training on 'GIS Advance Course 1'	5	6	NA	Practiced
14) Training on 'GIS Advance Course 2'	4	7	NA	Practiced
15) Erosion Susceptibility Mapping using GIS Techniques	5	6	NA	Practiced
Sub total	48	256		
Total (persons)/ average (%)		304	45.74	76.03

* Both results are averages of the entire 8 district including other participants like motivators and VDC secretaries

** Referred the GIS training report

ANNEX 8-2

ANNEX 8-2: Results of WCC Self-evaluation

S.N.	Item	1 st Year	%	2 nd Year	%	3 rd Year	%	Difference between 1 st Year & 3 rd Year
1)	Group Management	7.4	61.7	9.4	78.3	9.6	80.0	18.3
2)	Community Resource Management	8.9	74.2	9.5	79.2	9.7	80.8	6.7
3)	Coordination and Collaboration	5.1	42.5	6.9	57.5	7.3	60.8	18.3
4)	Local Governance	8.4	70.0	9.5	79.2	9.9	82.5	12.5
5)	Capacity Development and Empowerment	7.4	61.7	8.9	74.2	9.2	76.7	15.0

Types and total number of Sub-projects

ANNEX 9

S.N	Type of SP	Total No				4 Years accumulated
		2010	2011	2012	2013	
1	Water Source Protection	9	133	138	108	388
2	Irrigation Scheme	9	38	37	36	120
3	Road Slope Stabilization	-	22	32	30	84
4	Foot Trail Improvement	13	30	26	29	98
5	Land Slide Control	3	34	25	26	88
6	Greenery Promotion	-	5	27	18	50
7	Stream Bank Protection/ Riverbank Protection	-	9	9	16	34
8	Gully Control	3	25	22	10	60
9	Drainage Channel Construction	-	-	8	9	17
10	Fencing	-	-	3	9	12
11	Conservation Pond	5	10	5	6	26
12	Trail Bridge	-	1	1	1	3
Total		42	307	333	298	980

Note: Total number of Sub-project is based on the number of actual activities.

Source: PWMLGP

Types of POWER activities and numbers

ANNEX 10

S.N	Type of Power Activities	Total No.			4 Years accumulated
		2011	2012	2013	
1	Goat Raising	149	155	123	427
2	Poultry Farming	27	27	23	77
3	Pig Raising	21	14	10	45
4	Buffalo Raising	3	1	3	7
5	Rabbit Raising	1	-	1	2
6	Duck Raising	1	-	-	1
7	Vegetable Farming	20	18	51	89
8	Ginger Farming	87	56	7	150
9	Potato Farming	6	45	81	132
10	Turmeric Farming	12	13	16	41
11	Cardamom Farming	2	11	2	15
12	Garlic Farming	-	1	7	8
13	Tomato Farming	-	2	-	2
14	Fruit Plantation	31	1	3	35
15	Fodder Tree	-	1	-	1
16	Coffee Plantation	-	-	1	1
17	Candle Making	3	-	1	4
18	Making Incense Sticks	-	-	1	1
19	Soap Making	-	-	1	1
20	Plastic Pond Construction	1	-	-	1
Total		364	345	331	1,040

Source: PWMLGP

Note; Total number of Power Activities is based on the number of actual activities.

List of Collaboration for WCC in the 2nd year (2010/2011)

ANNEX 11
1 Sep., 2011

District	VDC	WCC	Name of Activity	SP/ CRMP	No of collaboration	Support Received From	Amount	Type of collaboration	Remarks								
							NRs.										
Baglung	Amalachaur	2	Irrigation pond construction	SP	1	LFP	51,400	cash									
						DADO	20,000	cash									
						VDC	10,000	cash									
	Narayansthan	3	Galechaur landslide control	SP	2	VDC	10,000	cash									
						8	Water source protection	SP	3	LFP	20,000						
		DWSSC		in kind	Pipe Support												
Paiyunpata	6	Water source protection	SP	4	VDC	20,000	cash										
Naski	Dhikurpokhari	1	Activities in CRMP	CRMP	5	VDC	80,000	cash	VDC provided Nrs.80,000 to each WCC (total:720000)								
										2	Activities in CRMP	CRMP	6	VDC	80,000	cash	
										3	Activities in CRMP	CRMP	7	VDC	80,000	cash	
										4	Activities in CRMP	CRMP	8	VDC	80,000	cash	
										5	Activities in CRMP	CRMP	9	VDC	80,000	cash	
										6	Activities in CRMP	CRMP	10	VDC	80,000	cash	
										7	Activities in CRMP	CRMP	11	VDC	80,000	cash	
										8	Activities in CRMP	CRMP	12	VDC	80,000	cash	
										9	Activities in CRMP	CRMP	13	VDC	80,000	cash	
	Dampus	9	Water source protection	SP	14	VDC	25,000	cash									
	Bhadaure Tamagi	5	Bridge improvement	SP	15	VDC	66,000	cash									
						DDC	282,500	cash									

		7	Gully control	SP	16	VDC	25,000	cash	
	Dhital	2	Water source protection	SP	17	VDC	90,000	cash	
	Lwangghalel	1	Idi Khola Sota Bagar Stream Bank Protection	SP	18	VDC	20,000	cash	
		2	Irrigation Canal Improvement (joint with W#3)	SP	19	VDC	25,000	cash	
		3	Irrigation Canal Improvement (joint with W#2)	SP	20	VDC	25,000	cash	
		4	Stream Bank Protection	SP	21	VDC	25,000	cash	
Miyagdi	Jhin	3	Drainage Channel Improvement	SP	22	Mothers' Group	15,000	cash	
		7	Foot Trail Improvement	SP	23	VDC	80,000	cash	
		8	Water Source Protection	SP	24	DSCO	92,900	cash	
	Patlekheth	8	Water Source Protection	SP	24	VDC	40,000	cash	
		1	Landslide Protection	SP	25	DSCO	76,500	cash	
		7	Gully Control	SP	26	School	17,000	cash	
	Piple	8	Landslide Protection	SP	27	WCC	30,000	cash	
		9	Water Source Protection	SP	28	School	26,000	cash	
Parbat	Barrachaur	9	Water Source Protection	SP	28	VDC	15,000	cash	
		1	Activities in CRMP	CRMP	29	VDC	25,000	cash	
		2	Activities in CRMP	CRMP	30	VDC	25,000	cash	
		3	Activities in CRMP	CRMP	31	VDC	25,000	cash	
		4	Activities in CRMP	CRMP	32	VDC	25,000	cash	
		5	Activities in CRMP	CRMP	33	VDC	25,000	cash	
		6	Activities in CRMP	CRMP	34	VDC	25,000	cash	
		7	Activities in CRMP	CRMP	35	VDC	25,000	cash	
		8	Activities in CRMP	CRMP	36	VDC	25,000	cash	
	9	Each Sub project	CRMP	37	VDC	25,000	cash		

Ranipani	1	Jalkune Birbari Irrigation Pond & Channel Improvement	SP	38	VDC	25,000	cash	
	4	Irrigation Channel Improvement	SP	39	DADO	60,000	cash	
Syangja	1	Landslide Control Around School	SP	40	VDC	10,000	cash	
					DADO	400,000	cash	
	2	Water Source Protection	SP	41	VDC	300,000	cash	
					DADO	400,000	cash	
					VDC	130,000	cash	
	3	Simple Water Source Protection	SP	42	DDC	200,000	cash	
					ID Nepal	70,000	cash	
	4	Bhote Khoriya Water Source Protection	SP	43	VDC	15,000	cash	
8	Water Source Protection	SP	44	VDC	100,000	cash		
				DDC	1,095,000	cash		
				NEA		in kind	Electricity Poles	
Bhanumati	1	Landslide Control	SP	45	VDC	15,000	cash	
	2	Water Source Protection	SP	46	Jaupari Barati Aama Samuha (Mother group)	10,000	cash	
					Gurung Samaj (Caste group)	9,000	cash	
	3	Conservation Pond Construction	SP	47	VDC	135,000	cash	
	4	Irrigation Canal Improvement	SP	48	VDC	20,000	cash	
	6	Water Source Protection	SP	49	VDC	20,000	cash	
	7	Water Source Protection	SP	50	VDC	20,000	cash	
	8	Landslide Control	SP	51	VDC	20,000	cash	
9	Water Source Protection	SP	52	VDC	5,000	cash		
Dhorphirdi	1	Each Sub project	CRMP	53	VDC	10,000	cash	
	2	Activities in CRMP	CRMP	54	VDC	10,000	cash	
	3	Activities in CRMP	CRMP	55	VDC	10,000	cash	

	4	Activities in CRMP	CRMP	56	VDC	10,000	cash	
	5	Activities in CRMP	CRMP	57	VDC	10,000	cash	
	6	Activities in CRMP	CRMP	58	VDC	10,000	cash	
	7	Activities in CRMP	CRMP	59	VDC	10,000	cash	
	8	Activities in CRMP	CRMP	60	VDC	10,000	cash	
	9	Activities in CRMP	CRMP	61	VDC	10,000	cash	
Bhimad	5	Water Source Protection	SP	62	DWSO	600,000	cash	
	9	Water Source Protection	SP	63	VDC	20,000	cash	
Kavay	Bhumidanda	1	Chindu Pangra Dhobikhola Irrigation	SP	64	DDC	100,000	Cash
		7	Mulkhola Drinking Water Source Conservation	SP	65	VDC	50,000	Cash
	Devbhumi Baluwa	3	Hansekhola Drinking water source Protection	SP	66	Federation of Indigenous Ethnic Groups	30,000	Cash
		8	Kharbesi Irrigation Scheme	SP	67	DDC	55,000	Cash
						LGCDP	540,000	Cash
						DADO	37,000	Cash
					VDC	15,000	Cash	
	Kanpur	7	Conservation Pond Improvement	SP	68	CEPREAD	80,000	Cash
	Methinkot	1	Land Slide Control	SP	69	School	46,500	kinds
		3	Another CRMP activity	CRMP	70	VDC	40,000	Cash
7		Inar-Magargaun trail Improvement	SP	71	VDC	30,000	Cash	
Rayale	7	Road Slope Protection	SP	72	CFUG	15,000	Cash	
Sindhur	Fulpingdanda	1	Ambote landslide Control	SP	73	VDC	8,694	cash
		2	Pandhero chour DWS Tank	SP	74	VDC	8,694	cash
		3	Bisteswara kerawari Water Source	SP	75	VDC	8,694	cash
		4	Gahat Khoria Water Source	SP	76	VDC	8,694	cash

	5	Ghattre pandhera Water source	SP	77	VDC	8,694	cash	
	6	Kavre DWS Protection	SP	78	VDC	8,694	cash	
	7	Pallo Pandhero Water source	SP	79	VDC	8,694	cash	
	8	Archale Landslide Control	SP	80	VDC	8,694	cash	
	9	Kapileshor Landslide Control	SP	81	VDC	8,694	cash	
Hagam	5	Land slide water resource conservation	SP	82	VDC	43,000	cash	
Jalbire	1	Khamarichilaune water resource conservation	SP	83	VDC	20,800	cash	
	5	Bhal katne Drain Construction	SP	84	VDC	31,965	Cash and kind	

List of Collaboration for POWER in the 2nd year (2010/2011)

ANNEX 11 (2)

1 Sep., 2011

District	VDC	WCC	Name of Activity	SP/ CRMP	No of collabo	Support Received From	Amount	Type of collaboratio n	Remarks
							NRs.		
Baglung	Amalachaur	1			1	VDC	20,000	cash	VDC Provided Nrs. 180,000 in total and the use of this amount will be decided by POWER Group (either in various activities or in Saving and Credit)
		2			2	VDC	20,000	cash	
		3			3	VDC	20,000	cash	
		4			4	VDC	20,000	cash	
		5			5	VDC	20,000	cash	
		6			6	VDC	20,000	cash	
		7			7	VDC	20,000	Cash	
		8			8	VDC	20,000	Cash	
		9			9	VDC	20,000	Cash	
Syangja	Kewarebhanjyang	4	Candle making		10	District Office of Small and Cottage Industries	-	Training	Resource Person for training
Manahun	Dhorphirdi	3	Vegetable farming		11	DADO	3,800	Cash	VDC Provided Nrs. 90,000 in total and the use of this amount will be decided by POWER Group (either in various activities or in Saving and Credit)
		1			12		10,000	Cash	
		2			13		10,000	Cash	
		3			14		10,000	Cash	
		4			15		10,000	Cash	
		5			16		10,000	Cash	
		6			17		10,000	Cash	
		7			18		10,000	Cash	
		8			19		10,000	Cash	
	9			20		10,000	Cash		
		Bhimad	5			21	WDO	10,000	Cash
		9			22	WDO	10,000	Cash	
Raute	Rayale	1	Candle making		23	GEFONT		Training	Resource Person for training
Sudupalchowk	Fulpingkot	9	outside Sub-Project activity, bee keeping		24	District Office of Small/Cottage Industries	Training	Training	

District	VDC	WCC	Name of Activity	SP/ CRMP	No of collabo	Support Received From	Amount	Type of collaboratio n	Remarks
							NRs.		
	Fulpingdanda	9	One member of POWER Group		25	Tuki Association		Training	1-month "Administrative and Assistant Training"

List of Collaboration for WCC in the 3rd year (2011/2012)

ANNEX 11 (3)

1 Sep., 2012

District	VDC	WCC	Name of Activity	SP/ CRMP	No of collaboration	Support Received From	Amount	Type of collabora tion	Remarks	
							NRs.			
Bajura	Narayansthan	3	Drain Construction	SP	1	VDC	50,000	Cash		
		4	Drain Construction	SP	2	VDC	50,000	Cash		
		8				VDC	30,000	Cash		
						DSCO		in kind	Boxes	
	Bhakunde	5	Water Source Protection	SP	5	CFUG	40000	Cash		
Kaski	Dhikurpokhar	4	Water Source Protection	SP	6	VDC	100,000	Cash		
		7	Road Slope Stabilization	SP	7	VDC	25,650	Cash		
		8	Irrigation canal Improvement	SP	8	DSCO	99,956	Cash		
	CFUG					105,000	Cash			
	Chapakot	6	Drain Construction	SP	9	VDC	25,000	Cash		
						CFUG	117,277	Cash		
		9					Janachetana Youth Club	20,000	Cash	
							Ghatchhina Mothers Group	5,000	Cash	
							Pragatishil Youth Club	10,000	Cash	
							Bramhin Samaj	5,000	Cash	
							Bhujel Samaj	5,000	Cash	
	10	Foot Trail Improvement	SP	10	Water User Group	15,000	Cash			
	Bhadaure Tamagi	1	Gully Control	SP	11	VDC	10,000	Cash		
		3	Gully Control	SP	12	VDC	10,000	Cash		
		4	Water Source Protection	SP	13	VDC	5,000	Cash		
5					VDC	50,000	Cash			
					DDC		in kind	6 No. of Gabion Boxes		
		Bridge Improvement	SP	14						
	Water Source Protection	CRMP	15	VDC	75,000	Cash				
6	Gully Control	SP	16	VDC	25,000	Cash				

	7	Irrigation canal Improvement	SP	17	VDC	29,193	Cash					
	8	Forest Conservation	SP	18	VDC	30,000	Cash					
	9	Gully Control	SP	19	VDC	15,000	Cash					
Dhital	4	Water Source Protection	SP	20	VDC	25,000	Cash					
					Bhumeshor Sec. School	9,660	Cash					
	9	Water Source Protection	SP	21	VDC	50,000	Cash					
Dhampus	4	Drain Construction	SP	22	VDC	8,673	Cash					
	9	Gully Control	SP	23	Road User Group	18,000	Cash					
Lwangghalel	1	Stream Bank Protection	SP	24	VDC	50,000	Cash					
	2&3	Irrigation canal Improvement	CRMP	25	ACAP	51,000	Cash	Joint SP				
	4	Stream Bank Protection	SP	26	VDC	20,892	Cash					
	7	Diversion Channel Construction	SP	27	VDC	50,016	Cash					
Mangli	Jhin				VDC	50,000	Cash					
					4	Water Source Protection	CRMP	28	DSCO	100,000	Cash	
					6	Gully Control	CRMP	29	VDC	275,000	Cash	
									DSCO	100,000	Cash	
						Gully Control	SP	30	VDC	50,082	Cash	
	8	Gully Control	SP	31	VDC	50,053	Cash					
	Patlekhet	3	Landslide Control	SP	32	VDC	150,000	Cash				
						DSCO	100,000	Cash				
						DSCO	10,000	Cash				
		4	Water Source Protection	CRMP	33	VDC	100,000	Cash				
		8	Drain Construction	CRMP	34	VDC	50,000	Cash				
		9	Drain Construction	SP	35	VDC	50,000	Cash				
	Water Source Protection		CRMP	36	DSCO	80,000	Cash					
Piple	1	Landslide Control	SP	37	CFUG	20,000	Cash					
					DSCO	61,810	Cash					
	6	Water Source Protection	SP	38	VDC	130,000	Cash					
	7	Landslide Control	SP	39	CFUG	15,000	Cash					
DSCO					100,000	Cash						

Parbat	Barrachaur	1	Improvement	CRMP	40	VDC	150,000	Cash		
			Irrigation canal Improvement			VDC	20,000			
		3 & 4	9	Irrigation canal Improvement	SP	41			Cash	
				Irrigation canal Improvement	SP	42	VDC	50,000	Cash	Joint SP
		Ranipani	3	Support wall Construction	SP	43	VDC	25,000	Cash	
	Landslide Control			SP	44	VDC	20,230	Cash		
	4		5	Irrigation canal Improvement	CRMP	45	VDC	30,000	Cash	
				Irrigation canal Improvement	SP	46	VDC	30,000	Cash	
	6		5	Irrigation canal Improvement	SP	47	VDC	30,000	Cash	
				Irrigation canal Improvement	CRMP	48	VDC	15,000	Cash	
			7	Water Source Protection	CRMP	49	VDC	15,000	Cash	
	Wahakithanti	6	Irrigation canal Improvement	CRMP	50	VDC	15,000	Cash		
			Irrigation Tank Construction	SP	51	VDC	30,000	Cash		
					52	VDC	10,000	Cash	For WCC Network	
	Syangja	Malyankot	2	Landslide Control	SP	53	Khadkakali Sec. School	30,320	Cash	
Kewarebhanjyang		1	Road Slope Stabilization	SP	54	VDC	15,000	Cash		
		9	Water Source Protection	CRMP	55	VDC	50,000	Cash		
Jagatbhanjyang		1	Water Source Protection	SP	56	LDF	60,000	Cash		
						Women's Group	5,000	Cash		
		3	Water Source Protection	SP	57	Youth Club	2,000	Cash		
		4	Water Source Protection	SP	58	Women's Group	40,000	Cash		
		7	Road Slope Stabilization	SP	59	VDC	10,000	Cash		
		9	Water Source Protection	SP	60	VDC	40,000	Cash		

Bhanumati	Bhanumati	1	Water Source Protection	SP	61	VDC	49,999	Cash		
		2	Water Source Protection	SP	62	VDC	20,000	Cash		
		3	Water Source Protection	SP	63	Road User Group	53,000	Cash		
		7	Landslide Control	SP	64	VDC	65,000	Cash		
	Bhimad	3	Water Source Protection	SP	65	VDC	20,000	Cash		
		5	Water Source Protection	SP	66	VDC	70,000	Cash		
		8	Water Source Protection	SP	67	VDC	10,000	Cash		
	Dhorphirdi	1	Water Source Protection	SP	68	VDC	10,000	Cash		
		2	Water Source Protection	SP	69	VDC	10,000	Cash		
		3	Water Source Protection	SP	70	VDC	10,000	Cash		
		4	Water Source Protection	SP	71	VDC	10,000	Cash		
		5	Water Source Protection	SP	72	VDC	10,000	Cash		
		6	Stream Bank Protection	SP	73	VDC	10,000	Cash		
		7	Water Source Protection	CRMP	74	VDC	10,000	Cash		
		8	Water Source Protection	SP	75	VDC	10,000	Cash		
		9	Water Source Protection	SP	76	VDC	10,000	Cash		
	Kampur	Kampur	5	Water Source Protection	SP	77	Cash Contribution by UG	20,000	Cash	
			7	Conservation Pond	SP	78	CEAPRED (NGO)****	15,500	Kinds	20 bag Cement with transportation
		Baluwa	3	Water Source Protection	SP	79	Cash Contribution By UG	35,600	Cash	
6			Water Well Construction	SP	80	Cash Contribution By UG	40,800	Cash		
8			Rain Water Harvesting	SP	81	NGO (Health and Education for All) Cooperative	62,000 62,000	Kinds Cash	14000 (Grant)+48000 (Loan)	
Bhumidanda		8	Water Source Protection	SP	81	Cash Contribution By UG	4,529	Cash		
Kushadevi		6	Landslide Control	SP	83	VDC	150,000	Cash		
		7	Water Source Protection	SP	84	VDC	50,000	Cash		
Rayale		9	Road Slope Stabilization	SP	85	CBO	1,646	Cash		
		2	Water Source Protection	SP	86	VDC	40,000	Cash		
		4	Road Slope Stabilization	SP	87	DDC	150,000	Cash		
Methinkot		8	Water Source Protection	SP	88	VDC	100,000	Cash		
		4	Road Slope Stabilization	SP	89	NCELL	100,000	Cash		
Sarsyunkharka	8	Irrigation Scheme	SP	90	DDC	125,000	Cash			
Jalbire	1	Low Cost Training for IG/		91	DSCO		training	1		

		VDC Network Formulation		92	DSCO		training	1
2		VDC Network Formulation		93	DSCO		training	1
3		VDC Network Formulation		94	DSCO		training	1
4		VDC Network Formulation		95	DSCO		training	1
5		Water Source Protection	SP	96	VDC	7,000	Cash	
		Low Cost Training for IGA		97	DSCO		training	2
		VDC Network Formulation		98	DSCO		training	1
6		VDC Network Formulation		99	DSCO		training	1
7		Water Source Protection	SP	100	VDC	15,000	Cash	
		VDC Network Formulation		101	DSCO		training	1
8		VDC Network Formulation		102	DSCO		training	1
		Water Source protection	SP	103	VDC	15,000	Cash	
9		VDC Network Formulation		104	DSCO		training	1
Hagam	1	VDC Network Formulation		105	DSCO		training	1
	2	VDC Network Formulation		106	DSCO		training	1
	3	VDC Network Formulation		107	DSCO		training	1
	4	VDC Network Formulation		108	DSCO		training	1
	5	VDC Network Formulation		109	DSCO		training	1
	6	VDC Network Formulation		110	DSCO		training	1
	7	VDC Network Formulation		111	DSCO		training	1
	8	VDC Network Formulation		112	DSCO		training	1
	9	VDC Network Formulation		113	DSCO		training	1
Fulpingkot	1	Family IGA progrm (2 days)		114	Paurakhi Nepal (NGO)		training	2
	2	Family IGA progrm (2 days)		115	Paurakhi Nepal (NGO)		training	1
	4	Irrigation Improvement	CRMP	116	VDC	50,000	Cash	
	6	Ngylung Irrigation Scheme	SP	117	VDC	50,000	Cash	
		Family IGA progrm (2 days)		118	Paurakhi Nepal (NGO)		training	1
	8	Family IGA progrm (2 days)		119	Paurakhi Nepal (NGO)		training	1
	9	Family IGA progrm (2 days)		120	Paurakhi Nepal (NGO)		training	1

Fulpingdanda	1	Dhamigaun Landslide Control	SP	121	VDC	3,000	Cash
	2	Gahatepuchhar Gully Control	SP	122	VDC	3,000	Cash
	3	Irrigation canal Improvement	SP	123	VDC	3,000	Cash
	4	Water Source Protection-Devisth	SP	124	VDC	3,000	Cash
	5	Landslide Control-Dhodenikhola	SP	125	VDC	3,000	Cash
	6	Water Source Protection	SP	126	VDC	3,000	Cash
	7				VDC	3,000	Cash
					Festival Celeb.	2,000	Cash
					Tikadutta Nepal	6,000	Cash
		Water Source Protection	SP	127	Bhakta Thakuri	2,000	Cash
	8	Landslide Control	SP	128	VDC	3,000	Cash
	9				VDC	3,000	Cash
	Landslide Control	SP	129	Youth Club	20,000	Cash	

List of Collaboration for POWER in the 3rd year (2011/2012)

ANNEX 11 (4)

1 Sep., 2012

District	VDC	WCC	Name of Activity	SP/ CRMP	No of collaboration	Support Received From	Amount	Type of collaboration	Remarks
							NRs.		
Panchthar	Barrechaun	1	POWER Fund		1	VDC	6,800	Cash	VDC provided Nrs.61,200 in total and the use of this amount will be decided by POWER Group (either in various IG activities or in Saving/Credit)
		2	POWER Fund		2	VDC	6,800	Cash	
		3	POWER Fund		3	VDC	6,800	Cash	
		4	POWER Fund		4	VDC	6,800	Cash	
		5	POWER Fund		5	VDC	6,800	Cash	
		6	POWER Fund		6	VDC	6,800	Cash	
		7	POWER Fund		7	VDC	6,800	Cash	
		8	POWER Fund		8	VDC	6,800	Cash	
		9	POWER Fund		9	VDC	6,800	Cash	
Dhankota	Dobribhoj	1	POWER Fund		10	VDC	10,000	Cash	VDC provided Nrs.90,000 in total and the use of this amount will be decided by POWER Group (either in various IG activities or in Saving/Credit)
		2	POWER Fund		11	VDC	10,000	Cash	
		3	POWER Fund		12	VDC	10,000	Cash	
		4	POWER Fund		13	VDC	10,000	Cash	
		5	POWER Fund		14	VDC	10,000	Cash	
		6	POWER Fund		15	VDC	10,000	Cash	
		7	POWER Fund		16	VDC	10,000	Cash	
		8	POWER Fund		17	VDC	10,000	Cash	
		9	POWER Fund		18	VDC	10,000	Cash	
Sikkim	Malyankot	1	POWER Fund		19	VDC	8,000	Cash	VDC provided Nrs.72,000 in total and the use of this amount will be decided by POWER Group (either in various IG activities or in Saving/Credit)
		2	POWER Fund		20	VDC	8,000	Cash	
		3	POWER Fund		21	VDC	8,000	Cash	
		4	POWER Fund		22	VDC	8,000	Cash	
		5	POWER Fund		23	VDC	8,000	Cash	
		6	POWER Fund		24	VDC	8,000	Cash	
		7	POWER Fund		25	VDC	8,000	Cash	
		8	POWER Fund		26	VDC	8,000	Cash	

Jalbire	9	POWER Fund		27	VDC	8,000	Cash	
	1				CSIDB+VDC		training	1 (total 12 participants were participated in Sewing training and VDC provided Nrs. 133,800 and CSIDP Provided 30,000 (total: 166,800) for the training0
		Sewing training (3 month)		28				
		VDC Network Formulation		29	DSCO		training	1
		Low cost technology for IG		30	DSCO		training	1
	2	Low cost technology for IG		31	DSCO		training	1
		VDC Network Formulation		32	DSCO		training	1
	3	Sewing training (3 month)		33	CSIDB+VDC		training	1
		VDC Network Formulation		34	DSCO		training	1
		Low cost technology for IG		35	DSCO		training	1
	4	VDC Network Formulation		36	DSCO		training	1
		Low cost technology for IG		37	DSCO		training	1
	5	Low cost technology for IG		38	DSCO		training	1
		VDC Network Formulation		39	DSCO		training	1
	6	Sewing training (3 month)		40	CSIDB+VDC		training	1
		Low cost technology for IG		41	DSCO		training	1
		VDC Network Formulation		42	DSCO		training	1
	7	Sewing training (3 month)		43	CSIDB+VDC		training	5
		VDC Network Formulation		44	DSCO		training	1
		Low cost technology for IG		45	DSCO		training	1
8	VDC Network Formulation		46	DSCO		training	2	
	Low cost technology for IG		47	DSCO		training	1	
9	Sewing training (3 month)		48	CSIDB+VDC		training	4	
	Low cost technology for IG		49	DSCO		training	1	
	VDC Network Formulation		50	DSCO		training	1	
Hagan	1						training	14-PHASE Nepal provided training on vegetable cultivation to the POWER members of all the wards of <u>Hagan</u> and <u>Fulpingkot</u> VDCs. In an average 14 participants from each POWER group from those VDCs participated 7 training events locally organized. Total expenditure made for the training was NRs. 51,330.00.
		Vegetable Cultivation training		51	Phase Nepal	2842		

Fulpingkot

	Low cost technology for IG		52	DSCO		training	1
	VDC Network Formulation		53	DSCO		training	1
2	Vegetable Cultivation training		54	Phase Nepal	2842	training	14
	VDC Network Formulation		55	DSCO		training	1
3	Vegetable Cultivation training		56	Phase Nepal	2842	training	14
	VDC Network Formulation		57	DSCO		training	1
4	VDC Network Formulation		58	DSCO		training	1
	Vegetable Cultivation training		59	Phase Nepal	2842	training	14
5	Vegetable Cultivation training		60	Phase Nepal	2842	training	14
	VDC Network Formulation		61	DSCO		training	1
	Low cost technology for IG		62	DSCO		training	1
6	Vegetable Cultivation training		63	Phase Nepal	2842	training	14
	VDC Network Formulation		64	DSCO		training	1
	Low cost technology for IG		65	DSCO		training	1
7	Vegetable Cultivation training		66	Phase Nepal	2842	training	14
	VDC Network Formulation		67	DSCO		training	1
	Low cost technology for IG		68	DSCO		training	1
8	Vegetable Cultivation training		69	Phase Nepal	2842	kind	14
	VDC Network Formulation		70	DSCO		training	1
	Low cost technology for IG		71	DSCO		training	1
9	Vegetable Cultivation training		72	Phase Nepal	2842	kind	14
	VDC Network Formulation		73	DSCO		training	1
	Low cost technology for IG		74	DSCO		training	1
1	Ginger/Turmeric Farming		75	Phase Nepal	1827	training	9
2	Ginger/Turmeric Farming		76	Phase Nepal	1827	training	9
	Vegetable Farming		77	Phase Nepal	1827	training	9
3	Ginger/Turmeric Farming		78	Phase Nepal	1827	training	9
	Vegetable Farming		79	Phase Nepal	1827	training	9
	Family IGA Program (2 days)		80	Pauraakhi Nepal		training	1
4	Ginger/Turmeric Farming		81	Phase Nepal	1827	training	9
	Vegetable Farming		82	Phase Nepal	1827	training	9
5	Ginger/Turmeric Farming		83	Phase Nepal	1827	training	9
	Vegetable Farming		84	Phase Nepal	1827	training	9

Fulpingdanda

6	Ginger/Turmeric Farming		85	Phase Nepal	1827	training	9
	Vegetable Farming		86	Phase Nepal	1827	training	9
7	Ginger/Turmeric Farming		87	Phase Nepal	1827	training	9
8	Ginger/Turmeric Farming		88	Phase Nepal	1827	training	9
9	Ginger/Turmeric Farming		89	Phase Nepal	1827	training	9
1	Reproductive Health (5 days)		90	District Health Office		training	2
	Reproductive Health (5 days)		91	MDM(German)		training	2
2	Veterinary/Vegetable Farming		92	DLSO		training	2
	Reproductive Health (5 days)		93	DHO		training	2
6	Nursery Management (4 days)		94	DFO/Range Post		training	1
	Nursery Management (2 days)		95	DADO		training	1
	Income Generation for women (2 days)		96	NEFIN		training	3
7	Cooperative promotion/Visit (5 days)		97	District Cooperative Office		training	1
	Promotion of Agro-Cooperative (4 days)		98	District Cooperative Office		training	1
8	Hardened Cheese making (7 days)		99	DLSO		training	1
9	Vegetable Farming (5 days)		100	Tuki Sangh, Sunkoshi		training	2
	Income Generation for women (15 days)		101	POWER Member 30x Tuki Sangh, Sunkoshi	60000 60000	Cash collection Cash+training	30 (training+seed money)

61 wards total

CSIDB= Cottage & Small Industry Development Board
CSIDB= Cottage & Small Industry Development Board

No. of WCC 61
No. of VDC 7
No. of cases 101

PWMLGP - List of Collaboration for WCC in the 4th year (2012/2013)

ANNEX 11 (5)

1 Sep., 2013

District	VDC	WCC	Name of Activity	SP/ CRMP	No of collaboration	Support Received From	Amount	Type of collaboration	Remarks	
							NRs.			
Saski	Chapakot	5	Foot Trail Improvement	SP	1	VDC	9,500.00	Cash		
		9	Water Source Protection	SP	2	VDC	15,000.00	Cash	Joint Contract	
	Dhikurpokhari		5	Water Source Protection	SP	3	DDC	45,000.00	Cash	
			6	Road Slope Stabilization	SP	4	Mother's Group	30,000.00	Cash	
			7	Drainage Channel Construction	SP	5	VDC	38,000.00	Cash	Joint Contract
			8	Road Slope Stabilization	SP	6	VDC	40,000.00	Cash	Joint Contract
	Lwangghalel		1	Foot Trail Improvement	SP	7	VDC	25,000.00	Cash	
			2 & 3	Irrigation Canal Improvement	SP	8	DDC		In kind	5 no. of gabion boxes/ Joint SP
			4	Water Source Protection	SP	9	VDC	25,000.00	Cash	
			5	Foot Trail Improvement	SP	10	VDC	24,000.00	Cash	
	Dhital		7	Landslide Control	SP	11	Mother's Group	46,000.00	Cash	
			2	Pond Conservation	SP	12	IDE Nepal	50,000.00	Cash	IDE=International Development Enterprises, Nepal
	Bhadaure Tamag		3	Water Source Protection	SP	13	DDC	10,000.00	Cash	
			1	Road Slope Stabilization	SP	14	DDC		In kind	25 no. of gabion boxes
			5	Stream Bank Protection	SP	15	DSCO	143,579.94	Cash	Joint Contract
			9	Irrigation Scheme	CRMP	16	DDC		In kind	5 no. of gabion boxes
			9	Irrigation Scheme	CRMP	17	VDC	42,000.00	Cash	
Dyangdi	Patlekheth		9	Irrigation Scheme	CRMP	17	IUCN/MDO	20,000.00	Cash	International Union for Conservation of Nature/ Machhapuchhre Development Organization
			2	Water Source Protection	CRMP	18	DSCO	29,628.00	Cash	
	Jhin		4	Landslide Control	SP	19	VDC/DSCO/COFUG	300,030.00	Cash	VDC=100,030, DSCO=100,000, COFUG=100,000/Joint Contract
			1	Plantation	SP	20	VDC	30,000.00	Cash	Joint Contract
			5	Plantation	SP	21	VDC	70,000.00	Cash	Joint Contract
			6	Plantation	SP	22	VDC	25,000.00	Cash	Joint Contract
			7	Plantation	SP	23	VDC	20,000.00	Cash	Joint Contract
			8	Plantation	SP	24	VDC	70,000.00	Cash	Joint Contract
			9	Foot Trail Improvement	SP	25	VDC	50,000.00	Cash	Joint Contract
			9	Landslide Control	CRMP	26	DSCO		In kind	10 no of gabion boxes
			9	Water Source Protection	CRMP	29	DADO		In kind	800 m HDPE pipe of 6 kg/cm2
							DSCO		In kind	500 m HDPE pipe of 6 kg/cm2
			2	Foot Trail Improvement	CRMP	30	VDC	50,000.00	Cash	
							DSCO		In kind	22 no. of gabion boxes
			2	Landslide Control	CRMP	31	VDC	25,000.00	Cash	
			3	Foot Trail Improvement	CRMP	32	VDC	50,000.00	Cash	
			4	Foot Trail Improvement	CRMP	33	VDC	50,000.00	Cash	
Piple		1& 2	Landslide Control	SP	34	VDC	30,000.00	Cash	Joint Contract/ Joint SP	
		5	Water Source Protection	SP	35	VDC	79,000.00	Cash	Joint Contract	
		6	Landslide Control	SP	36	VDC	40,000.00	Cash	Joint Contract	
		3	Foot Trail Improvement	CRMP	37	VDC	30,000.00	Cash		
		8	Water Source Protection	CRMP	38	VDC	30,000.00	Cash		

Parbut	Barrachaur	4	Irrigation Canal Improvement	SP	39	VDC	10,000.00	Cash	Joint Contract	
		1	Irrigation Canal Improvement	SP	40	VDC	39,903.00	Cash	Joint Contract	
	Bachha	2	Water Source Protection	CRMP	41	VDC	20,000.00	Cash		
		3	Water Source Protection	CRMP	42	VDC	20,000.00	Cash		
		5	Water Source Protection	CRMP	43	VDC	10,000.00	Cash		
Svanga	Jagatbhanjyang	5	Irrigation Tank Construction	CRMP	44	DADO	19,000.00	cash		
		1	Water Source Protection	SP	45	VDC	15,000.00	Cash		
		2	Water Source Protection	SP	46	VDC	15,000.00	Cash		
	Lewarebhanjyang	3	Water Source Protection	SP	47	VDC	49,150.00	Cash		
		6	Water Source Protection	SP	48	VDC	40,000.00	Cash	Joint Contract	
		9	Foot Trail Improvement	SP	49	VDC	20,000.00	Cash	Joint Contract	
	Malyankot	1	Water Source Protection	SP	50	RW/IDE Nepal	650,000.00	Cash	RW=Renewable world/ IDE=International Development Enterprises, Nepal	
						ICCA	400,000.00	Cash	Initiative for Climate Change Adaptation	
	Baglung	Narayansthan	2	Gully Control	SP	51	VDC	20,000.00	Cash	
4			Drainage Channel Construction	SP	52	COFUG	10,000.00	Cash	Community Forest User Group	
5			Drainage Channel Construction	SP	53	VDC	30,000.00	Cash		
6			Drainage Channel Construction	SP	54	VDC	15,000.00	Cash		
9			Irrigation Canal Improvement	SP	55	VDC	30,000.00	Cash		
Paiyupata		2	Water Source Protection	SP	56	VDC	15,000.00	Cash		
		6	Water Source Protection	SP	57	VDC	35,000.00	Cash		
Dudhau		Dhorfirdi	1	Irrigation Canal Improvement	SP	58	VDC	10,000.00	Cash	Joint Contract
	1		Irrigation Canal Improvement	CRMP	59	DSCO	75,889.00	cash		
	2		Irrigation Canal Improvement	SP	60	VDC	10,000.00	Cash	Joint Contract	
	3		Irrigation Canal Improvement	SP	61	VDC	10,000.00	Cash	Joint Contract	
	3		Water Source Protection	CRMP	62	DSCO	40,910.00	Cash		
	4		Water Source Protection	SP	63	VDC	10,000.00	Cash	Joint Contract	
	4		Water Source Protection	CRMP	64	DSCO	89,945.00	Cash		
	5		Water Source Protection	SP	65	VDC	10,026.15	Cash	Joint Contract	
	6		Water Source Protection	SP	66	VDC	10,000.00	Cash	Joint Contract	
	Bhimad	5	Water Source Protection	SP	70	VDC	50,000.00	Cash		
						DWSO	1,700,000.00	Kind	GI Pipe, Pumping equipment & Fitting materials (Estimated cost = 1700000)	
						NEA	2,000,000.00	Kind	Electricity Poles, Wires & Transformer (Estimated cost = 2000000)	
	Bhanumati	1	Stream Bank Protection	SP	71	VDC	10,000.00	Cash		
		3	Irrigation Canal Protection	SP	72	VDC	10,000.00	Cash		
		6	Water Source Protection	SP	73	VDC	10,000.00	Cash		
	Kavre	Baluwa	8	Rainwater collection	SP	74	Local cooperative	68,462	Cash	
			2	River Bank Protection	SP	75	VDC	25000	cash	
		Kushadevi	9	Landslide Control	SP	76	Agriculture Group	10000	cash	
			3	Water source protection	SP	77	VDC	50000	cash	
5			Conservation Pond	SP	78	VDC	100000	cash		
Methinkot		3	Conservation Pond Construction	SP	79	CEPREAD	16000	Cement 20 bags		
		7	Conservation Pond Construction	SP	80	CEPREAD	16000	Cement 20 bags		
Sarsyunkharka		3	Drinking Water Source Protection	SP	81	CFUG	24000	Cash		
	1	Drinking Water Source Protection	SP	82	DWUG	50000	Cash			
		1	Drinking Water Source Protection	SP	82	VDC	3000	cash		

Fulpingdanda	2	Landslide Control	SP	83	VDC	3000	cash	
	3	Drinking Water Source Protection	SP	84	VDC	3000	cash	
	4	Drinking Water Source Protection	SP	85	VDC	3000	cash	
	5	Landslide Control	SP	86	VDC	3000	cash	
	6	Landslide Control	SP	87	VDC	3000	cash	
	7	Drinking Water Source Protection	SP	88	VDC	3000	cash	
	8	Landslide Control	SP	89	VDC	3000	cash	
	9	Drinking Water Source Protection	SP	90	VDC	3000	cash	
	Hagam	3	Trail Briede Construction	SP	91	VDC	10000	cash
4		Drinking Water Source Protection	SP	92	PHASE Nepal		In kind	20 mm dai. HDP pipe 150 m.
6		Diversion Canal	SP	93	PHASE Nepal		In kind	10 Bag Cement
7		Diversion Canal	SP	94	PHASE Nepal		In kind	4 Bag Cement
Jalbire				96				Cash will be disbursed after the monitoring by the VDC level monitoring committee.
	2	Drinking Water Source Protection	SP		VDC	10000	cash	
	3	Drinking Water Source Protection	SP	97	VDC	3000	cash	Cash will be disbursed after the monitoring by the VDC level monitoring committee.
	5	Irrigation Scheme	SP	98	VDC	9900	cash	Cash will be disbursed after the monitoring by the VDC level monitoring committee.
	5	Small irrigation scheme	CRMP	99	Small holder irrigation	57900	cash	
	8	Drinking Water Source Protection	SP	100	VDC	10000	cash	Cash will be disbursed after the monitoring by the VDC level monitoring committee.
9	Drinking Water Source Protection	SP	101	VDC	14000	Cash	Cash will be disbursed after the monitoring by the VDC level monitoring committee.	

7,707,871.36

VDC support 71 cases

List of Collaboration for POWER in the 4th year (2012/2013)

ANNEX 11 (6)

1 Sep., 2013

District	VDC	WCC/ POWER	Name of Activity	SP/ CRMP	No of collaboration	Support Received From	Amount	Type of collaboration	Remarks	
							NRs.			
Sindhupalchok	Dhorfirdi	1	IG activity	CRMP	1	VDC	5000.00	Cash	VDC provided Nrs. 45,000 in total and the use of this amount will be decided by POWER group (either in various IG activities or in Saving and Credit)	
		2	IG activity	CRMP	2	VDC	5000.00	Cash		
		3	IG activity	CRMP	3	VDC	5000.00	Cash		
		4	IG activity	CRMP	4	VDC	5000.00	Cash		
		5	IG activity	CRMP	5	VDC	5000.00	Cash		
		6	IG activity	CRMP	6	VDC	5000.00	Cash		
		7	IG activity	CRMP	7	VDC	5000.00	Cash		
		8	IG activity	CRMP	8	VDC	5000.00	Cash		
		9	IG activity	CRMP	9	VDC	5000.00	Cash		
	Bhanumati	1	IG activity	CRMP	10	VDC	2000.00	Cash	VDC provided Nrs. 18,000 in total and the use of this amount will be decided by POWER group (either in various IG activities or in Saving and Credit)	
		2	IG activity	CRMP	11	VDC	2000.00	Cash		
		3	IG activity	CRMP	12	VDC	2000.00	Cash		
		4	IG activity	CRMP	13	VDC	2000.00	Cash		
		5	IG activity	CRMP	14	VDC	2000.00	Cash		
		6	IG activity	CRMP	15	VDC	2000.00	Cash		
		7	IG activity	CRMP	16	VDC	2000.00	Cash		
		8	IG activity	CRMP	17	VDC	2000.00	Cash		
		9	IG activity	CRMP	18	VDC	2000.00	Cash		
Bajura	Baluwa	1	Health and sanitation training	Other SP	19	ENPHO		training	# of participants 30	
	Baluwa	2	Health and sanitation training	Other SP	20	ENPHO		Training	30	
	Baluwa	3	Health and sanitation training	Other SP	21	ENPHO		training	30	
	Baluwa	4	Health and sanitation training	Other SP	22	ENPHO		training	30	
	Baluwa	5	Health and sanitation training	Other SP	23	ENPHO		training	5	
	Baluwa	6	Health and sanitation training	Other SP	24	ENPHO		training	5	
	Baluwa	7	Health and sanitation training	Other SP	25	ENPHO		training	3	
	Baluwa	7	Tours	Other SP	26	Local Cooperative		Tours	3	
	Baluwa	8	Vegetable farming,	Other SP	27	Atmanirbhar Cooperative		Cash	Provide Rs.3000.00	
	Baluwa	9	Health and sanitation training	Other SP	28	ENPHO		training	30	
	Kapurthala	Kanpur	1	Women Empowerment Training	Other SP	29	Nepal Tamang Ghedung		training	
			Gender training	Other SP	30	Paraligal		training		
		Kanpur	4	Gender training	Other SP	31	WDO		training	
			Capacity Development Training	Other SP	32	CEPREAD		training		
Kanpur		5	Agriculture Training	Other SP	33	Green Wealth Pvt. Ltd.		training		
Kanpur	9	Gothe mal sudhar Training	Other SP	34	CEPREAD		training			

		Vegetable Farming training	Other SP	35	CEPREAD		training	
Kushadevi	1	Goat raising	SP		VDC	14000	Cash support to PG and plan of regular	
Kushadevi	2	Goat raising	SP	37	VDC	14000	"	
Kushadevi	3	Goat raising	SP	38	VDC	14000	"	
Kushadevi	4	Goat raising	SP	39	VDC	14000	"	
Kushadevi	5	Goat raising	SP	40	VDC	14000	"	
Kushadevi	6	Goat raising	SP	41	VDC	14000	"	
Kushadevi	7	Goat raising	SP	42	VDC	14000	"	
Kushadevi	8	Goat raising	SP	43	VDC	14000	"	
		Leasehol forestry Development training	CRMP	44	DFO		training	
Kushadevi	9	Goat raising	SP	45	VDC	14000	"	
Sarsyukharka	1	Candle Making Training	CRMP	46	Sath Sathai Organization		training	
		Vegetable Farming training	CRMP	47	Sath Sathai Organization		training	
		Animal Farming Training	CRMP	48	Sath Sathai Organization		training	
Sarsyukharka	2	Candle Making Training	CRMP	49	Sath Sathai Organization		training	
		Sewing training	CRMP	50	Sath Sathai Organization		training	
		Vegetable Seed Production Training	CRMP	51	CEPREAD		training	
Sarsyukharka	3	Vegetable Seed Production Training	CRMP	52	CEPREAD		training	
Sarsyukharka	4	Candle Making Training	CRMP	53	Sath Sathai Organization		training	
		Vegetable Farming training	CRMP	54	Sath Sathai Organization		training	
Sarsyukharka	5	Candle Making Training	CRMP	55	Sath Sathai Organization		training	
		Vegetable Seed Production Training	CRMP	56	CEPREAD		training	
Sarsyukharka	6	Vegetable Seed Production Training	CRMP	57	CEPREAD		training	
Sarsyukharka	7	Candle Making Training	CRMP	58	Sath Sathai Organization		training	
		Vegetable Seed Production Training	CRMP	59	CEPREAD		training	
Sarsyukharka	8	Candle Making Training	CRMP	60	Sath Sathai Organization		training	
		Sewing training	CRMP	61	Sath Sathai Organization		training	
Sarsyukharka	9	Vegetable Seed Production Training	CRMP	62	CEPREAD		training	
Flpinkkot	1	Bee Keeping training, 2 days	CRMP	63	PHASE Nepal		Training	3
Flpinkkot	1	Goat raising training, 3 days	CRMP	64	PHASE Nepal		Training	9
Flpinkkot	1	Vegetable farming, 2 days	CRMP	65	PHASE Nepal		Training	15
Flpinkkot	1	Livestock training (Disease prevention), 2 days	CRMP	66	PHASE Nepal		Training	2
Flpinkkot	1	Livestock training (Parasites control), 2 days	CRMP	67	PHASE Nepal		Training	5
Flpinkkot	2	Bee Keeping training, 2 days	CRMP	68	PHASE Nepal		Training	3
Flpinkkot	2	Goat raising training, 3 days	CRMP	69	PHASE Nepal		Training	9
Flpinkkot	2	Vegetable farming, 2 days	CRMP	70	PHASE Nepal		Training	15
Flpinkkot	2	Livestock training (Disease prevention), 2 days	CRMP	71	PHASE Nepal		Training	2
Flpinkkot	2	Livestock training (Parasites control), 2 days	CRMP	72	PHASE Nepal		Training	5
Flpinkkot	3	Bee Keeping training, 2 days	CRMP	73	PHASE Nepal		Training	3
Flpinkkot	3	Vegetable farming, 2 days	CRMP	74	PHASE Nepal		Training	15
Flpinkkot	3	Livestock training (Disease prevention), 2 days	CRMP	75	PHASE Nepal		Training	2
Flpinkkot	3	Livestock training (Parasites control), 2 days	CRMP	76	PHASE Nepal		Training	5
Flpinkkot	4	Goat raising training, 3 days	CRMP	77	PHASE Nepal		Training	9
Flpinkkot	4	Vegetable farming, 2 days	CRMP	78	PHASE Nepal		Training	15
Flpinkkot	4	Livestock training (Disease prevention), 2 days	CRMP	79	PHASE Nepal		Training	2
Flpinkkot	4	Livestock training (Parasites control), 2 days	CRMP	80	PHASE Nepal		Training	5
Flpinkkot	5	Bee Keeping training, 2 days	CRMP	81	PHASE Nepal		Training	3
Flpinkkot	5	Vegetable farming, 2 days	CRMP	82	PHASE Nepal		Training	15
Flpinkkot	5	Livestock training (Disease prevention), 2 days	CRMP	83	PHASE Nepal		Training	2
Flpinkkot	5	Livestock training (Parasites control), 2 days	CRMP	84	PHASE Nepal		Training	5
Flpinkkot	5	Goat raising training, 3 days	CRMP	85	PHASE Nepal		Training	9
Flpinkkot	6	Bee Keeping training, 2 days	CRMP	86	PHASE Nepal		Training	3
Flpinkkot	6	Vegetable farming, 2 days	CRMP	87	PHASE Nepal		Training	15
Flpinkkot	6	Livestock training (Disease prevention), 2 days	CRMP	88	PHASE Nepal		Training	2

Fpingkot	6	Livestock training (Parasites control), 2 days	CRMP	89	PHASE Nepal	Training	5
Fpingkot	7	Goat raising training, 3 days	CRMP	90	PHASE Nepal	Training	9
Fpingkot	7	Vegetable farming, 2 days	CRMP	91	PHASE Nepal	Training	15
Fpingkot	7	Livestock training (Disease prevention), 2 days	CRMP	92	PHASE Nepal	Training	2
Fpingkot	7	Livestock training (Parasites control), 2 days	CRMP	93	PHASE Nepal	Training	5
Fpingkot	8	Goat raising training, 3 days	CRMP	94	PHASE Nepal	Training	9
Fpingkot	8	Vegetable farming, 2 days	CRMP	95	PHASE Nepal	Training	15
Fpingkot	8	Livestock training (Disease prevention), 2 days	CRMP	96	PHASE Nepal	Training	2
Fpingkot	8	Livestock training (Parasites control), 2 days	CRMP	97	PHASE Nepal	Training	5
Fpingkot	9	Goat raising training, 3 days	CRMP	98	PHASE Nepal	Training	9
Fpingkot	9	Vegetable farming, 2 days	CRMP	99	PHASE Nepal	Training	15
Fpingkot	9	Livestock training (Disease prevention), 2 days	CRMP	100	PHASE Nepal	Training	2
Fpingkot	9	Livestock training (Parasites control), 2 days	CRMP	101	PHASE Nepal	Training	5
Hagam	1	Goat raising training, 3 days	CRMP	102	PHASE Nepal	Training	10
Hagam	1	Vegetable farming, 2 days	CRMP	103	PHASE Nepal	Training	15
Hagam	1	Livestock training (Disease prevention), 2 days	CRMP	104	PHASE Nepal	Training	2
Hagam	1	Livestock training (Parasites control), 2 days	CRMP	105	PHASE Nepal	Training	5
Hagam	1	Sewing training	CRMP	106	VDC	training	2
Hagam	2	Goat raising training, 3 days	CRMP	107	PHASE Nepal	Training	10
Hagam	2	Vegetable farming, 2 days	CRMP	108	PHASE Nepal	Training	15
Hagam	2	Livestock training (Disease prevention), 2 days	CRMP	109	PHASE Nepal	Training	2
Hagam	2	Livestock training (Parasites control), 2 days	CRMP	110	PHASE Nepal	Training	5
Hagam	2	Sewing training	CRMP	111	VDC	training	2
Hagam	3	Goat raising training, 3 days	CRMP	112	PHASE Nepal	Training	10
Hagam	3	Vegetable farming, 2 days	CRMP	113	PHASE Nepal	Training	15
Hagam	3	Livestock training (Disease prevention), 2 days	CRMP	114	PHASE Nepal	Training	2
Hagam	3	Livestock training (Parasites control), 2 days	CRMP	115	PHASE Nepal	Training	5
Hagam	3	Sewing training	CRMP	116	VDC	training	2
Hagam	4	Goat raising training, 3 days	CRMP	117	PHASE Nepal	Training	10
Hagam	4	Vegetable farming, 2 days	CRMP	118	PHASE Nepal	Training	15
Hagam	4	Livestock training (Disease prevention), 2 days	CRMP	119	PHASE Nepal	Training	2
Hagam	4	Livestock training (Parasites control), 2 days	CRMP	120	PHASE Nepal	Training	5
Hagam	4	Sewing training	CRMP	121	VDC	training	2
Hagam	5	Goat raising training, 3 days	CRMP	122	PHASE Nepal	Training	10
Hagam	5	Vegetable farming, 2 days	CRMP	123	PHASE Nepal	Training	15
Hagam	5	Livestock training (Disease prevention), 2 days	CRMP	124	PHASE Nepal	Training	2
Hagam	5	Livestock training (Parasites control), 2 days	CRMP	125	PHASE Nepal	Training	5
Hagam	5	Sewing training	CRMP	126	VDC	training	2
Hagam	6	Goat raising training, 3 days	CRMP	127	PHASE Nepal	Training	10
Hagam	6	Vegetable farming, 2 days	CRMP	128	PHASE Nepal	Training	15
Hagam	6	Livestock training (Disease prevention), 2 days	CRMP	129	PHASE Nepal	Training	2
Hagam	6	Livestock training (Parasites control), 2 days	CRMP	130	PHASE Nepal	Training	5
Hagam	6	Sewing training	CRMP	131	VDC	training	2
Hagam	6	Goat raising training, 3 days	CRMP	132	PHASE Nepal	Training	10
Hagam	7	Vegetable farming, 2 days	CRMP	133	PHASE Nepal	Training	15
Hagam	7	Livestock training (Disease prevention), 2 days	CRMP	134	PHASE Nepal	Training	2
Hagam	7	Livestock training (Parasites control), 2 days	CRMP	135	PHASE Nepal	Training	5
Hagam	7	Sewing training	CRMP	136	VDC	training	2
Hagam	8	Goat raising training, 3 days	CRMP	137	PHASE Nepal	Training	10
Hagam	8	Vegetable farming, 2 days	CRMP	138	PHASE Nepal	Training	15
Hagam	8	Livestock training (Disease prevention), 2 days	CRMP	139	PHASE Nepal	Training	2
Hagam	8	Livestock training (Parasites control), 2 days	CRMP	140	PHASE Nepal	Training	5
Hagam	8	Sewing training	CRMP	141	VDC	training	2
Hagam	9	Goat raising training, 3 days	CRMP	142	PHASE Nepal	Training	10
Hagam	9	Vegetable farming, 2 days	CRMP	143	PHASE Nepal	Training	15
Hagam	9	Livestock training (Disease prevention), 2 days	CRMP	144	PHASE Nepal	Training	2
Hagam	9	Livestock training (Parasites control), 2 days	CRMP	145	PHASE Nepal	Training	5
Hagam	9	Sewing training	CRMP	146	VDC	Training	2

Santopalchowk

Jalbire	1	Sewing Advance Training	CRMP	147	VDC		Training	2
Jalbire	2	Sewing Advance Training	CRMP	148	VDC		Training	2
Jalbire	3	Sewing Advance Training	CRMP	149	VDC		Training	2
Jalbire	4	Sewing Advance Training	CRMP	150	VDC		Training	2
Jalbire	5	Sewing Advance Training	CRMP	151	VDC		Training	2
Jalbire	6	Sewing Advance Training	CRMP	152	VDC		Training	2
Jalbire	7	Sewing Advance Training	CRMP	153	VDC		Training	2
Jalbire	8	Sewing Advance Training	CRMP	154	VDC		Training	2
Jalbire	9	Sewing Advance Training	CRMP	155	VDC		Training	2

Ward 76 189,000

NGO 83 cases

VDC 45 cases

In addition:

Jalbire 1: DDC has allocated Nrs. 51,000 for goat raising for the POWER Group members. Contract is in process.

Jalbire 1-9: 3 months advance training on sewing and cutting for 20 women from POWER group from 1-9 wards of Jalbire VDC for which Nrs 101,000 from Small Cottage and Industries

Hagam: VDC level women group consisting of 35 women selected from each of the 9 POEWR group, has been formed in Hagam. VDC has allocated NRS. 40,000 and the group is in process of selecting programme to utilize the fund.

Hagam and Fulpingkot: Improved male goat, one for each VDC (Fulpingkot and Hagam) provided by PHASE Nepal for the POWER group members.

Impacts driven through the PWMLGP intervention (Summary Paper as typical example)
(Observation results by the Project experts/staff & C/Ps of the Project as well as the Evaluation Mission members)

(+)=Favourable or Positive impact, (-)=Unfavourable or Negative impact, D=DSCO/DSCO-tech, C= Community People, V/W=VDC/WCC

ANNEX 12

Aspect/ Issues	Deriving Impacts through the PWMLGP
Participatory	<p>(+D) DSCO-tech has been contributing not only as field technician, but also as “community facilitator” to mobilize people to participate.</p> <p>(+D) From management work to regular field activities, concept of good governance has been incorporated into DSCOs.</p> <p>(+C) SP (Sub-Project) selected by everybody’s participation and SP facility has been completed and fully utilized until now.</p> <p>(+C) Community’s active participation enabled them to work jointly with neighbour’s wards and also to bring other resources for the implementation of larger scale SP beyond the Project supports.</p> <p>(+C) Community people have realized the needs of participation. More people participated in CRMP re-planning to ensure their needs reflected in the plan.</p> <p>(+V/W) All party mechanism legend has been replaced by participatory planning as see VDC invites WCC and WCF for VDC council.</p> <p>(+V/W) WCC have participated and prepared their own CRMPs by the facilitation on of DSCO staff and motivator. Moreover, they felt the plan is their own plan which is periodic and joint plan between WCC and WCF, and will be part of Village Development Plan in most cases.</p> <p>(+V/W) WCC tried to find the support from other agencies and sometimes their own pocket money in order to expand / extend SPs.</p>
Gender & SI	<p>(+D) District level line agencies recognized POWER groups were active through DWC and joint monitoring organized by DSCO. Line agencies also utilize POWER in implementing their own program.</p> <p>(+C) POWER groups are “recognized” as official group and are invited to meetings of other institutions to share their ideas.</p> <p>(+C) POWER group members’ access to resources and decision making has been increased.</p> <p>(+C) POWER group members have become able to speak up their opinions in the meeting.</p> <p>(+C) POWER groups were able to lobby and get budget outside project for their activities.</p> <p>(+C) Some POWER groups attempt to register the group and establish “cooperative” formally, and other groups consider to participating other cooperative for continuous group activities.</p> <p>(+C) POWER group member are consist with various people such as poor, widow and occupational caste (Janjati, Dalit, etc), then, various people enabled to work together with social inclusive manner, and they have been gradually empowered through their participation into the Project activities.</p> <p>(+C) Project activities have promoted community people’s interaction. (They used to care only their neighbourhood and peoples and Dalit used to be excluded for decision making etc.)</p> <p>(+C) Motivators have been greatly contributing as coordinators and mental/technical supports of POWER group, and also work together with the Social mobilizer.</p> <p>(-C) In some cases, POWER group members tend to implement only single or imitated activity (for example: goat raising), and also their dependence to motivator and/or DSCO-tech remains.</p>

Impacts driven through the PWMLGP intervention (Summary Paper as typical example)
(Observation results by the Project experts/staff & C/Ps of the Project as well as the Evaluation Mission members)

(+)=Favourable or Positive impact, (-)=Unfavourable or Negative impact, D=DSCO/DSCO-tech, C= Community People, V/W=VDC/WCC

ANNEX 12

	<p>(+V/W) Existence of female WCC members contributed smooth SP implementation by both female and male community people's participation</p> <p>(+V/W) VDC had a channel its earmarked budget for women through POWER groups.</p> <p>(-V/W) Some VDCs have never selected POWER's demanded activities since they believe POWER Group is well benefited by the Project support in compared to other women's group.</p> <p>(-V/W) When some members of POWER group were absent from their own meeting, the attended group members did not yet share the results of meeting to the remaining members.</p>
<p>Soil Conservation and Watershed Management (SCWM)</p>	<p>(+D) DSCOs are motivated to continue linkage with POWER and WCC to promote soil and watershed conservation activities even after the Project termination.</p> <p>(+D) DSCO staffs have been utilizing what they have learned from trainings into their regular SCWM activities, and quality of the works has been improved.</p> <p>(+C) Community people have realized importance of SCWM and tried to get outside budget to implement not only SP but also for other SCWM activities mentioned in CRMP.</p> <p>(-C) Not all the user groups prepare and implement the maintenance activities after the completion of SPs.</p> <p>(+V/W) WCC took actions to get outside budget to realize community people's SCWM need and VDCs contributed for this.</p> <p>(-V/W) Some of VDCs did not disburse their budget for SCWM related S/Ps of WCCs, because those can be taken care by DSCOs and VDCs need to support other activities.</p>
<p>Collaboration Governance</p>	<p>(+D)DSCOs have been practicing public auditing in their regular activities too.</p> <p>(+D) DSCOs also allocated budgets to SP and CRMP activities.</p> <p>(+D) DSCOs have established closed linkage with VDC / DDC and other line agencies and reputation of DSCO has been increased, resulting in creating higher moral of DSCO staff.</p> <p>(+D) DSCOs have tried to collaborate with other line agencies when implementing their regular activities. For example, Kavre DSCO is initiating collaboration of 5 line agencies among DSCO, DDC, DADO, Livestock & Women Development. Sindupalchowk DSCO made linkage between POWER, VDC and District Cottage Industry Office for women empowerment program. In other districts, there are different/various cases of collaboration like DFO (District Forest Office), water office and INGO such as Institute of Himalayan Conservation (IHC) Japan in Myagdi district.</p> <p>(+D) DSCO's awareness on importance of collaboration has been raised, resulting in realization of collaboration cases.</p> <p>(+C) Community people have realized importance of mid-term plan (CRMP).</p> <p>(+C) Public Auditing have helped community people to secure the transparency of use of community resources.</p> <p>(+C) Decision making has become more participatory in every step.</p> <p>(+C) WCC member demanded VDC, DDC and other line agencies to disclose how their budget were spent in public as DSCO taught them to do in public auditing in mass meeting (Fulpingdanda, Sindupalchowk & DDC gathering at Panchikhal, Kavre).</p> <p>(+C) POWER groups received VDC budget after VDC recognized POWER groups functional.</p>

Impacts driven through the PWMLGP intervention (Summary Paper as typical example)
(Observation results by the Project experts/staff & C/Ps of the Project as well as the Evaluation Mission members)

(+)= Tangible or Positive impact, (-)=Unfavourable or Negative impact, D=DSCO/DSCO-tech, C= Community People, V/W=VDC/WCC

ANNEX 12

	<p>(+V/W) WCCs are “recognized” as official group and are invited to meetings of other institutions to share their ideas.</p> <p>(+V/W) WCCs were able to lobby and get outside project money for their activities.</p> <p>(+V/W) WCCs were able to implement additional / larger scale S/P by outside project money.</p> <p>(+V/W) VDCs have become placed importance not only plan making but also M&E for WCC activities.</p> <p>(+V/W) VDCs have appreciated WCCs' activities and allocated their budget for WCCs.</p> <p>(+V/W) Implementation of joint SP contributed to solve larger scale, inter- ward problems.</p> <p>(+V/W) WCC-networks have been established after realization of necessity of solving larger scale problem and effective coordination with VDC.</p> <p>(+V/W) VDCs have realized the effectiveness of Public Auditing and started to think about practicing it in their other activities too.</p> <p>(+V/W) WCC and WCF jointly prepared joint ward development plan (CRMP) and submitted it to VDC.</p>
Livelihood	<p>(+C) Rehabilitation of irrigation on SP has enabled community people to get higher yield of crops and vegetables, resulting in solving food shortage and less expenditure / more income.</p> <p>(+C) Time for movement of community people (for going to school, to the agricultural land, water source) has become shortened and safe by foot trail improvement.</p> <p>(+C) Time for fetching water has become shortened because of water source protection SP.</p> <p>(+C) Community people have been utilizing above mentioned saved time for other activities, such as cultivation, reading a book etc.</p> <p>(+C) Agricultural land and settlement has been secured by landslide and gully control SP.</p> <p>(+C) POWER members are motivated to increase / start new IGA activities in addition to POWER's through group activities.</p> <p>(+C) POWER group members' access to resources and decision making has been increased.</p> <p>(+C) Through the IGA, POWER group members get profits and save their money into bank accounts and also credit for the group. Their status in family has been increased.</p> <p>(+C) Drinking water shortage was solved by SP implementation. In addition, sanitation and environment condition were improved by such as toilet construction.</p> <p>(+C) POWER groups play good role in the community, so that the community people decreased male alcohol drinking habits.</p> <p>(+C) POWER realized successful income generation will be materialized by their effort and dedication. Once they are aware of it, they try to maximize profit by putting more efforts. They also take further actions such as approaching to DADO for technical assistant on successful vegetable cultivation.</p>
Others	<p>(+D) Because of national and international exposure DSCWM/DSCO officers have started to think about new approaches of soil and watershed conservation. Proposal is under way. (SATOYAMA concept -Kavre).</p> <p>(+D) DSCWM has started to organize GIS training under the regular program and has established GIS laboratory in the department after taking GIS training.</p> <p>(-C) In a few villages, young people went to work outside the village including working overseas, so only elderly people remain in village, therefore, they are contributing to the Project. However, this may be heavy burden to the elderly people financially and physically.</p>

SELF-EVALUATION
On
PWMLGP
For
Final Evaluation
9th Apr. 2014 by PWMLGP

Contents

1. Background of the Project
2. Summary of the PDM
3. Achievements of the Project
4. Summary of Self-evaluation of Achievement of Overall Goal, Project Purpose, and Outputs
- Annex:
 1. Target Area Map
 2. Letter of Agreement
 3. PDM version 2.0
 4. List of Equipment
 5. Record of Training
 - 5-1 Training in Nepal
 - 5-2 Training in 3rd country
 - 5-3 Training in Japan
 6. Types and total no. of sub-project
 7. Type of POWER activities and number
 8. Number of Beneficiaries Population and Household in District wise
 9. List of Collaboration

1. Background of the Project

JICA has been assisting Department of Soil Conservation and Watershed Management (DSCWM) in past 20 years with various schemes and different projects. A glance of those is referred in the following table.

Table 1: History of SABIHAA

Year	Project/Important Events
1991-1994	Forestry Extension Project
1994-1999	Community Development and Forest/Watershed Conservation Project (CDFWCP) Phase I Greenery Promotion Cooperation Project (GPCP) Phase I
1995-1998	
1999-2004	CDFWCP Phase 2 and GPCP Phase 2
<i>2000 March</i>	<i>Project site of Phase 1 attacked by Maoist</i>
<i>2000 August</i>	<i>Phase out of GPCP Phase 2</i>
<i>2002</i>	<i>Term of VDC, Ward representative expires</i>
2004-2005	CDFWCP Phase 2 and GPCP Phase 2
<i>2004-</i>	<i>Expansion of SABIHAA model by DSCWM</i>
2009-2014	Participatory Watershed Management and Local Governance Project (PWMLGP)

From 1994 to 2005, Government of Nepal (GoN) and JICA had jointly implemented a project named “The Community Development and Forest/Watershed Conservation Project,” commonly referred to as “SABIHAA (Samudayik Bikas Tatha Hariyali Ayojana)” in Nepali. SABIHAA model is a mechanism to mobilize local people to participate at all stages of watershed management practice that begins with planning and ends with evaluation of the activities. The model also includes a targeted program, especially to backward and disadvantaged group to enhance their capacity to participate in the development practice. Since the invention of SABIHAA Model, GoN has been replicating the Model in other parts of the country.

In 2007, (GoN) made an official request to Government of Japan (GoJ) to improve SABIHAA model to scale up watershed management activities.

The Record of Discussion (R/D) was signed between the GoN and JICA on 8th June 2009, aiming at improved participatory watershed management having a better collaboration among local bodies within five years. The Project covered eight districts, namely Syangja, Myagdi, Baglung, Parbat, Kaski, Tanahu, Kavre, and Sindhupalchowk. Ministry of Federal Affairs and Local Development (MoFALD) was also involved in the activity for the first time during the long history of JICA's intervention on participatory watershed management

<Target area map is attached as ANNEX 1>

2. Summary of the PDM

The design of the project is drawn in the Project Design Matrix (hereinafter referred to as “PDM”). The latest PDM version 2.0 was agreed by the CPs in March, 2014 (refer to ANNEX 3). Output 4 which is “internalization of SABIHAA models is improved” was added. Its summary is as follows:

Table 2: Summary of the PDM

Overall Goal	Improved*2 participatory watershed management in better collaboration with*3 DSCO and local bodies*4 is applied in other districts by the initiative of MoFSC and MoLD*5
Project Purpose	Improved participatory watershed management in better collaboration with DSCO and local bodies is implemented in the target districts
Outputs	<ol style="list-style-type: none"> 1. Capacity of DSCOs on participatory watershed management in the targeted area is improved. 2. Capacity of community people in targeted districts on participatory watershed management and local governance is enhanced. 3. Concept of local governance in participatory watershed management is promoted. 4. Internalization of SABIHAA model is promoted.

Remarks;

*2: “Improved” means “enhanced collaboration with local bodies”

*3: “better collaboration with” means “better collaboration between DSCO and local bodies”.

*4: “local bodies” means DDC/VDC.

*5: Changed its name to MoFALD (Ministry of Federal Affairs and Local Development).

3. Achievements of the Project

3-1. Inputs

Japanese Side

(i) Dispatch of Experts

7 Japanese experts are dispatched in total for the following 5 expertise. Number(s) of expert(s) assigned for each expertise are mentioned in the bracket.

Chief Advisor / Watershed Management (1)

Local Governance / Replication Support (1)

Social Mobilization / Co-chief (1)

Institutional Development (3)

In-depth Study / Gender Mainstream (1)

(ii) Provision of Equipment

As referred in ANNEX 4. Total amount spent was about 4.62 ~~56~~ million JPY.

(iii) Local Cost Expenditure

1st Year: Motivators, Project Staff, Sub-project supports, Training etc

2nd Year: Project Staff, Sub-project supports, Training etc

3rd Year: Project Staff, Sub-project supports, Training etc

4th Year: Project Staff, Sub-project supports, Training etc

5th Year: Project Staff, Training etc

Total amount of cost spent (to be spent as for 5th year) was about 207.3 million JPY

(This amount includes cost for iv) and v) below)

(iv) The Third Country Training (RECOFTC Thailand)

3rd Year: DSCSO and DSCO-techs of DSCWM (31 numbers in total)

4th Year: Officers of MoFSC and MoFALD (12 numbers in total)

5th Year: Officers of DSWCM and MoFALD (15 numbers in total)

(iv) Training, Conference in Japan

- | |
|---|
| 1) SATOYAMA training
2 nd Year: DSCO of DSCWM (1 number in total)
3 rd Year: DSCO of DSCWM (2 numbers in total)
4 th Year: DSCO of DSCWM (2 numbers in total)
5 th Year: DSCO of DSCWM and LDO of DDC (4 numbers in total)
2) “International Conference on Forest and Water in Changing Environment”
4 th Year: Officers of DSCWM (2 numbers in total) |
|---|

Nepalese Side

(i) Allocation of Counterpart (C/P) Personnel

<u>Counterpart personnel</u> <u>MoFSC: 1 person (Project Director/Joint Secretary)</u> DSCWM: 3 persons (Project Manager/DG, Planning Officer, and Desk officer) MoFALD: Focal person (One person) DSCO counterparts DSCO chiefs: 8 numbers in total DSCO-techs: 39 numbers in total Motivators: 34 (From second year) in total
--

(ii) Provision of Office Spaces and Facilities

Office space in Pokhara and Kathmandu, Electricity, water and telephone line.
--

(iii) Local Cost Expenditure

Salary of DSCWM staff mentioned above Salary of Motivators (from 2 nd year) The budget to implement the SABIHAA model as replication activities Total budget amount from 2009/2010 to 2013/14 is Nrs.265,571,000 (2009/2010: Nrs. 46,921,000, 2010/2011:Nrs. 47,092,000, 2011/12: Nrs.57,742,000, 2012/13: Nrs.50,056,000, 2013/14: Nrs.63,760,000)

3.2 Achievement of the Activities for Each Output

Nearly all the activities have been implemented in accordance with the Inception Report (a detail plan of the Project).

Table 3: Achievement of the Activities for Each Output

Activities for Output 1: Capacity of DSCOs on participatory watershed management in the targeted area is improved.	
Activities at the commencement of the Project	In order to facilitate understanding on gender and social inclusion and minimizing the additional conflict due to community development, the Project conducted training on Gender & Social Inclusion, Conflict Sensitive Development for DSCO chiefs, DSCO-techs, Motivators, and VDC secretaries.
1-1. Review the SABIHAA model replication activities.	<ul style="list-style-type: none"> -Right after its commencement, The Project started to visit 8 districts to identify present situation of the Replication projects, held W/S to discuss project plan with DSCWM DG and DSCO chiefs. The Project also explained draft of Inception Report (IR) (Aug – Sept. 2009). -The Project had a W/S with DG of DSCWM (Project Director), JICA representative, and DSCO chiefs, to discuss present situation especially on sub-watershed and VDC selection, as well as condition for recruiting Motivator (Sept.2009). -The Project reviewed Kaski DSCO model replication OG and reflected lessons learned into the project OG.
1-2. Conduct baseline survey to assess the current status of skills	The Project conducted a baseline data survey by outsourcing to local consultant (Feb. 2010), in which resulted that DSCO and DSCO-tech have still rooms to improve in watershed approach and latest technology such as GIS. The Project

and expertise of DSCWM and DSCOs on participatory watershed management and identify the training needs	also shared the results with DSCWM and 8DSCO chiefs, and explained contents and received their comments.
1-3. Develop training packages based on 1-1 and 1-2.	Based on the result of the baseline survey, the Project developed 6 kinds of training packages: 4 for DSCO and 2 for WCC. Package 1: Social Inclusion and Conflict Management in Development (for DSCO) Package 2: Social Inclusion and Conflict Management in Development (for WCC/POWER) Package 3: Community Development and Local Governance (for DSCO) Package 4: Group Management and Institutional Development (for WCC/POWER) Package 5: Project Management (for DSCO) Package 6: Resource Book for Soil Conservation -Basic Guide (for DSCO) *Package 1-5 are in Nepalese language and Package 6 is in English.
1-4. Conduct training for DSCOs based on 1-3.	The Project conducted various trainings for DSCO chief, DSCO-tech applying cascade method. Training Record is attached in ANNEX 5.
1-5. Implement participatory watershed management activities in the targeted areas.	306 WCCs and 306 POWER groups in 34 VDCs in 8 districts implemented participatory watershed management activities. Types and total no. of sub-project / POWER activities are summarized in ANNEX 6 & 7. Beneficiary number is also summarized in ANNEX 8.
1-6. Organize skill development training/technology transfer for DSCOs staff in abroad	The Project dispatched DSCO staff and related officers to the training organized in abroad. Details are mentioned in ANNEX 5-2 & 5-3.
1-7. Organize Result Sharing Workshop	First national level seminar was held on 12 May 2012 to share the progress on project activities and to disseminate SABIHAA model to wider development community. In Dec 2013, Thematic Seminar was held to disseminate SABIHAA model and tools the project has been promoting. The final national level seminar will be held in around May 2014.
Activities for Output 2: Capacity of community people in targeted districts on participatory watershed management and local governance is enhanced.	
2-1. Formation of WCC and POWER groups	DSCO-tech and motivator held W/S to select WCC and POWER group by mass meeting, and 306 WCCs and POWER groups were formed in the 1 st year.
2-2. Formulation of CBRMP, CRMP and AAP	WCC formulated CBRMP, CRMP and AAP. Replanning of CRMP and compiling new AAP has been conducted on the 2 nd , 3 rd , 4 th and 5 th year.
2-3. Implementation of CBRMP, CRMP and AAP.	WCC, with community people implemented sub-projects and POWER programs.
2-4. Conduct training for community people based on 1-3.	The Project conducted training for motivators as well as for WCCs, and POWER groups. Detail can be referred in ANNEX 5.
2-5. Conduct workshops/exposures/OJT for community people	The Project held exposure visit in the 4 th year and 5 th year. In total, 1,069 people were benefitted by this activity. OJT has been conducted throughout the implementation of sub-projects.
2-6. Organize self-evaluation of WCC activities	The Project facilitated self-evaluation for at least 3 times for each WCC.
Activities for Output3: Concept of local governance in participatory watershed management is promoted.	
3-1. Organize VDC level workshop in	In 1 st year, the Project conducted W/S for VDC to explain its objectives and to reach consensus on Project activities. In the W/S, collaboration of DDC and

coordination with VDC	VDC was highlighted, and the participants expressed comments on selection criteria of VDC and budget allocation procedures. During the 4 th year, VDC level interaction meeting was organized in all WCCs in order to promote better coordination and collaboration within VDC. In the 5 th year, the Project will also organize VDC level workshop to recall 5 years of project intervention in all the WCC.
3-2. Submission of CBRMP, CRMP, AAP to link with VDC plan.	After formulating AAP(2-2), WCC submitted proposals on soil conservation and watershed management activities to VDC, while POWER group focused on activities for livelihood improvement. This process was repeated four cycles including the fifth year.
3-3. Organize interaction programme with WCC, POWER and VDC	Project organized VDC level interaction workshop in the 1 st year, 4 th year and 5 th year.
3-4. Organize District Working Committee Meeting/workshop	Project conducted DWC regularly (twice a year since 3 rd year) for further promotion of coordination among stakeholders.
3-5. Conduct training to WCC/POWER/VDC on local governance based on 1-3.	Though details is in ANNEX 5 Record of Training, the following trainings were provided to motivators, VDC secretaries and WCC/POWER members: 1 st year: Gender and Social Inclusion, Conflict Sensitive Development Training 2 nd year: Community Development and Local Governance Training for Motivators, Group Management and Institutional Development for WCC & POWER 3 rd year: Participatory Planning and Local Governance Training for Motivators and VDC Secretary 4 th year: Development and Governance 5 th year: Fund Management Training/Mainstreaming Workshop
3-6. Organize public auditing of WCC activities	All the WCCs implemented their public auditing for at least 3 times.
3-7. Establish WCC network at VDC level	WCC networks, consists of WCC chairpersons and VDC secretary, have been formed at 26 VDCs.
Activities for Output 4: Internalization of SABIHAA model is promoted.	
4-1. Establish the Exit Strategy Working Group (ESWG) and develop strategy to mainstream SABIHAA model into DSCWM.	The Project has established the Exit (Internalized) Strategy Working Group (ESWG) and has been developing strategy to mainstream SABIHAA model into DSCWM.
4-2. Conduct fact finding survey.	The Project has conducted fact finding survey to get further information on replication activities to come up with lessons.
4-3. Conduct In-depth survey.	The Project has conducted In-depth study to assess the history of SABIHAA model and also analyze the level of understanding of SABIHAA model in the field level. Both surveys results were utilized by Exit Strategy Working Group.
4-4. Conduct training to replication sites and non-SABIHAA districts.	1 st year: Training on social inclusion (replication motivator and VDC secretaries also attended) 2 nd year: Community development and local governance training (replication motivators also attended) 3 rd year: Training on participatory planning and local governance (separately organized for replication motivators) 4 th year: Replication area motivators also took part in local governance training/workshop. 13 DSCOs from 3 replication districts (Palpa, Gulmi and Arghakhanchi) and 10 Churia districts were provided SABIHAA orientation training in the 4 th year too. 5 th year: SABIHAA orientation training (for newly appointed motivators of

	replication area)
4-5. Revise Operational Guideline to handed over to DSCWM.	The Project has revised Operational Guideline by getting feedback from 8 DSCOs and it was handed over to DSCWM.

4. Summary of Self-evaluation of Achievement of Overall Goal, Project Purpose, and Outputs

Table 4: Current Situation of Overall Goal and Status of the Achievement

Overall Goal:		
Indicator of Overall Goal	Current Situation	Status of Achievement
Improved participatory watershed management is adopted in Soil Conservation and Watershed Management Programme.	Project has been promoting DSWCM to adopt revised OG into Soil Conservation and Watershed Management Programme. As revised OG is to be approved, overall goal of the Project is expected to be achieved. Also, DSCWM has been disbursing budget to implement SABIHAA model in other districts.	Will be achieved.

Table 5: Current Situation of Each Indicator of Project Purpose and Status of the Achievement

Project Purpose:		
Indicator of Project Purpose	Current Situation	Status of Achievement
1. At least 5% of CRMP defined sub-project are co-funded/collaborated with local bodies or other institution.	WCCs have been trying to have budget from VDC and other related line agencies and more than 100 WCCs (more than 30%) have received financial support from VDC until 4 th year. Indicator for the Project purpose is “at least 5 %” and it has been already achieved. List of collaboration is attached in ANNEX 9.	Achieved.
2. Joint monitoring and evaluation is implemented by DSCO and DDC in all 8 districts.	Joint monitoring and evaluation was implemented by DSCO and DDC in all 8 districts in the occasion of DWC etc.	Achieved.

Table 6: Current Situation of Each Indicator of Outputs and Status of the Achievement

Output	Indicator	Current Situation	Status of Achievement
1	1-1. Numbers of DSCOs and DSCO-techs participate in Participatory Watershed Management Training/workshops	48 DSCOs and 256 DSCO-techs participated in 14 trainings/workshops in Nepal and 1 training in a third country. (referred in Table 7)	Achieved
	1-2. 80% of targeted DSCO personnel participated in the training/workshops understand improved participatory watershed management.	The Project conducted pre and post tests for most of the training as mentioned in the table below. The results shows that average score of test conducted for 6 training increased from 45.7% to 76.0% which verifies that the Project has almost achieved is goal set in the indicator 1-2. (referred in Table 7)	Will be achieved.
	1-3. Improved participatory watershed management is practiced at 306 (100%) WCCs.	3 cycles of Sub-project implementation have been completed within said duration	Achieved.
2.	2-1. 50% of WCCs understand the concept of participatory watershed management and local	The Project adopted spider-web tool for periodical WCC	Achieved

	governance.	<p>self-evaluation on status of institutional development. In the WCC self-evaluation, they are 5 categories for assessment:</p> <p>1) Group Management, 2) Community Resources Management, 3) Coordination and Collaboration, 4) Local Governance, and 5) Capacity Development & Empowerment. This method is significant in terms of that community people themselves assess their own situation based on set criteria of these 5 categories.</p> <p>We can interpret the results of self-evaluation of 3 years by looking at the percentage of WCC which marked higher than 40 point out of 60 full point in 3 years. They are the following:</p> <p>1st Year 107 WCC (34.9%) 2nd Year 251 WCC (82.0%) 3rd Year 260 WCC (84.9%)</p> <p>In the 1st year, 34.9% out of 306 WCC marked higher than 40 points. In the 2nd year, 82.0% and 84.9% in the 3rd year marked higher than 40 points. Therefore, interpreting these results, we can say more than 50% of WCC understand the concept of participatory watershed management and local governance.</p>	
	2-2. 75% of WCC improve their institutional capacity	<p>Analyzing the data of spider-web WCC self-evaluation, the average score out of 12 points in each category of 1st, 2nd and 3rd year of self-evaluation of 306 WCC are as follows:</p> <p>When we look at “improvement of institutional capacity”, we especially look at the score of 1), 3) and 5). Looking at the scores of these three categories, the average marked more than 70%. In addition, those scores were improved some % if we compare the 1st year and the 3rd year. For example, the score of category 1) Group Management improved 18.3%, likely 18.3% improved in category 3), and 15.0% improved in category 3). Thus, we can assess this indicator was fulfilled. (referred in Table 8)</p>	Achieved
	2-3. At least 1,500 sub-projects during 3 years (includes both project supports and VDC/DDC Collaboration)	3 cycles of Sub-project implementation per WCC have been completed within said duration. In total, 2,020 Sub-projects were implemented (refer to Annex 6 and 7 for details).	Achieved.
3.	3-1. 75% of training participants understand	Local governance was the subject	Achieved.

	concept of local governance in participatory watershed management.	<p>taught in the training in which pre-test and post-test were conducted throughout project period. As we look at the training table used in Output1 above, the result of these test improved in all the training. So we can assume training participants improved their understanding including the concept of local governance.</p> <p>Like we used spider-web WCC self-evaluation results in 2-1 and 2-2, we can also utilize the score of category 4) Local Governance here too. In the 1st year, the average score was 8.4 that was 70%. The score improved to 9.5 (79.2%) in the 2nd year and 9.9 (82.5%) in the third year.</p> <p>Therefore, we can say that both training participants and WCC member improved their understanding on general knowledge of local governance by training and experiencing 3 cycles of implementing SPs.</p>	
	3-2. 80% of WCC organize public auditing.	All WCCs (100%) have organized public auditing.	Achieved.
	3-3. At least once a year District Working Committee/work shop are held.	DWC have been organized every year, and increased twice a year since 3 rd year for further promotion of coordination and collaboration.	Achieved.
4.	4-1. Revised OG is officially approved by DSCWM	Project has revised Operational Guideline by getting feedback from 8 DSCOs and it will be handed over to DSCWM.	Achieved.
	4-2. Joint understanding memorandum on institutionalization of the SABIHAA model for better watershed management and local governance is exchanged.	Joint understanding memorandum on institutionalization of the SABIHAA model was exchanged in 4 th year.	Achieved.
	4-3. 75% of total DSCO Chiefs understand the concept of SABIHAA model.	The BASIC concept of SABIHAA model was repeatedly provided to DSCOs in various occasions during the 4 th and 5 th year of Project. DVD which contains project promotion video, OG, resource books, mid-term report, etc. is provided to all DSCO in the regional meeting in February 2014. SABIHAA orientation which will be held at the end of April 2014 will be provided to the remaining 30 DSCOs who have not worked in SABIHAA related project before or have not received any orientation training on SABIHAA model. Then we assume 75% of total DSCO Chiefs will understand the basic concept of SABIHAA model.	Will be achieved.

Table 7: Number of DSCO and DSCO-techs participated in trainings and the result of pre and post test

Output 1: capacity of DSCOs on participatory watershed management in the target area is improved	Indicator 1-1		Indicator 1-2	
	Number of DSCO and DSCO-techs participate in Participatory Watershed Management Training/Workshops		80% of targeted DSCO personel participated in the Training/Workshops understand improved participatory watershed management	
	DSCO Officer	DSCO-tech	Pre test (%)*	Post test (%)*
1) OG orientation for DSCO-tech	2	27		
2) Gender & Social inclusion, Conflict Sensitive Dev. for Motivators	3	27	41.4	84.7
3) Community Dev. and Local Governance for DSCO-tech	0	13	50.2	66.2
4) Project Management training	7	1	53.3	74.4
5) OJT training for DSCO Chief	8	0		
6) Project Management training	0	24		
7) New trends of Watershed Mgt Principles training (GIS, Climate change) **	5	22	NA	80.0
8) Participatory Planning & Local Governance training	2	30	35.4	78.9
9) GIS training(Basic)	3	28	NA	Practiced
10) Participatory Watershed Management Training in Thailand	1	30		
11) GIS Advance course training	0	8	NA	Practiced
12) Development & Governance training	3	27	48.4	72
13) Training on 'GIS Advance Course1'	5	6	NA	Practiced
14) Training on 'GIS Advance Course2'	4	7	NA	Practiced
15) Erosion Susceptibility Mapping using GIS Techniques	5	6	NA	Practiced
Sub total	48	256		
Total (persons)/average(%)		304	45.74	76.03

* Both results are averages of all the 8 district including other participants like motivators and VDC secretaries

** Referred the GIS training report

Table 8: Result of WCC Self-evaluation

S.N.	Item	1 st Year	%	2 nd Year	%	3 rd Year	%	Difference between 1 st Year & 3 rd Year
1)	Group Management	7.4	61.7	9.4	78.3	9.6	80.0	18.3
2)	Community Resource Management	8.9	74.2	9.5	79.2	9.7	80.8	6.7
3)	Coordination and Collaboration	5.1	42.5	6.9	57.5	7.3	60.8	18.3
4)	Local Governance	8.4	70.0	9.5	79.2	9.9	82.5	12.5
5)	Capacity Development and Empowerment	7.4	61.7	8.9	74.2	9.2	76.7	15.0

